

くりや がわ や ち い せき
厨 川 谷 地 遺 跡

— 県営ほ場整備事業(土崎・小荒川地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I —

2 0 0 5 ・ 3

秋田県教育委員会



厨川谷地遺跡と払田柵跡（東上空から）



厨川谷地遺跡と払田柵跡（西上空から）



厨川谷地遺跡中心部（上方が北）



厨川谷地遺跡核心部

序

本県には、これまでに発見された約4,600か所の遺跡のほか、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、農業地域においては、用排水路網の整備と水田の大区画化により、農業の大規模化と担い手の育成を目的とするほ場整備事業が行われております。本教育委員会では、これら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、県営ほ場整備事業に先立って、平成13年度に美郷町土崎・小荒川地区において実施した厨川谷地遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。調査では、平安時代の祭祀跡が見つかり、様々な儀式に用いられたと考えられる多量の土器や木製品が出土しました。これら祭祀に係る遺構は、複数の湧水点や河川流路に囲まれて形成されており、遺跡の立地や出土遺物から、払田柵における祭祀の場として機能していたことが明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました秋田県仙北地域振興局仙北平野農村整備事務所、美郷町教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺 清










例 言

- 1 本書は秋田県仙北郡美郷町（旧千畑町）土崎字厨川谷地4-1外に所在する厨川谷地遺跡の発掘調査報告書である。すでに平成13年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料、秋田県埋蔵文化財センター年報20（平成13年度）、厨川谷地遺跡発掘調査資料、その外において調査成果の一部が公表されているが、本報告書の記載内容がすべて優先する。
- 2 附編「厨川谷地遺跡出土木簡」は、山形大学人文学部 三上喜孝助教授より玉稿を賜った。また文字資料全般の積文に関しても多大な御教示を頂いた。
- 3 出土遺物のうち、灰釉陶器および緑釉陶器については、愛知県陶磁資料館 井上喜久男氏に鑑定・御教示を頂いた。
- 4 第5章 自然科学分析には、(株)吉田生物研究所および株式会社パレオ・ラボに業務委託した分析報告書の一部を収載した。
- 5 遺構実測図の一部は、(有)三航光測および株式会社ハイマーテックに業務委託した図面を使用した。
- 6 遺跡航空写真は、株式会社シン技術コンサルに業務委託した空中写真を使用した。
- 7 出土木製品の一部は、株式会社吉田生物研究所に保存処理業務を委託した。
- 8 本報告書挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1989年版』を使用した。
- 9 本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行25,000分の1「六郷」・50,000分の1「六郷」、秋田県仙北平野土地改良事務所（当時）作製工事計画図である。
- 10 平成16年11月に仙北郡千畑町・六郷町・仙南村の3町村が合併し、「美郷町」が発足した。本遺跡の所在する旧千畑町については、「千畑町」の表記を「美郷町」と読み替える住所表示の変更となったため、本報告書において「千畑町」と表記した行政名称については、「美郷町」と読み替えて頂きたい。なお、抄録中の市町村コードについては合併前の旧コードを記載した。
- 11 本遺跡の調査ならびに報告書刊行にあたり、次の方々よりご指導、ご教示をいただいた。記して謝意を表す(敬称略、所属は当時)。

新野直吉（秋田大学名誉教授）、岡田茂弘（東北歴史博物館）、三上喜孝（山形大学）、
井上喜久男（愛知県陶磁資料館）、永澤則明（永澤弓具店；故人）、村木志伸（東北芸術工科大学）、
吾妻俊典・古川一朗（宮城県多賀城跡調査研究所）、村田晃一・吉野武（宮城県教育委員会文化財保護課）、
千葉孝弥・鈴木孝行（多賀城市埋蔵文化財調査センター）、百瀬正恒（京都市埋蔵文化財研究所）
- 11 本書は第1章から第3章までの草稿を赤上秀人が、その他を五十嵐一治が執筆した。また全体を通じた編集は五十嵐一治が行った。

凡 例

- 1 本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は国家座標第X系による座標北を示す。グリッド杭座標原点MA50 (X=-59,500.000 Y=-23,600.000) とした位置における座標北と磁北との偏角は西偏7°30′である。
- 2 基本層位の土層註記にはローマ数字を用いた。なお基本層位について、遺構群が分布する微高地上の「Ⅲ層」と、旧河道内の「盛土層」は同意として扱っている。またⅣ層上部～Ⅲ層下部で確認したSKP538柱穴を始めとする遺構については、平面配置を記録したのちに砂で埋め戻し、保護されている。
- 3 遺構実測図の中で複数の断面図を記載した場合があるが、基準高が同じ場合には1箇所にしき明示していない。
- 4 基本的に遺構実測図は1/40、遺物実測図は1/3の縮尺で掲載した。しかし挿図割付の関係上、別途の縮尺を用いた挿図がある。各頁に付したスケールを参照されたい。
- 5 発掘調査において検出した遺構のうち、一部の柱穴様ピットについては図面および遺構一覧表を省略し、平面配置のみを掲載した。
- 6 出土した土器類について、酸化炎焼成ののちに内面黒色処理を施した土器を内黒土師器、内外面黒色処理を施した土器を黒色土器と呼称する。また酸化炎焼成のみの土器を土師器、還元炎焼成の土器を須恵器と呼称する。
- 7 掲載した遺物実測図に付した遺物No.は各ページ内での通し番号とした。また内黒土師器には「①・②・③…」、須恵器には「[1]・[2]・[3]…」、土師器その他には「1・2・3…」の体裁で遺物No.を附し、土器種別を判別できるようにした。
- 8 展開させた坏実測図の伏図に矢印を書き入れたものがある。断面実測図で正面とした位置を展開させた伏図に示したものである。
- 9 木製祭祀具の斎串実測図脇に矢印を書き入れたものがある。図示可能なものを除き、斎串の側面に切欠きが入る場合は実測図の右側、正面に切欠きが入る場合は左側に矢印を書き入れ、切欠きの長さを示している。
- 10 附図5に例示したように、須恵器壺甕類は意図的に破碎された後に、特定の破片内面に墨を塗布して広域に散布されたものを多数確認した。このような分布状況を示すものについて、本文中では「広域接合須恵器壺甕類」と記載した。またそれらの破片を意図的に特定の場所に納置し、物送りをした行為については「容れる」と表現している。
- 11 挿図中に使用したスクリーントーンは以下のとおりであり、それ以外については個々に凡例を示してある。

	地山		内面黒色処理		タール・炭化物 付着部分
	くすみ部分		欠損部		漆付着部分 施釉陶器
	その他 付着物		墨付着部分		磨り

目次

巻頭図版

序

例言

凡例

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経過	1
第2節	調査要項	1
第2章	遺跡の環境	3
第1節	遺跡の位置と立地	3
第2節	歴史的環境	4
第3章	発掘調査の概要	9
第1節	遺跡の概観	9
第2節	調査と整理の方法	9
第3節	発掘調査の経過	10
第4章	調査の記録	14
第1節	検出遺構と出土遺物	14
1	平安時代の遺構と遺物	15
2	中世以降の遺構と遺物	20
第2節	遺構外出土遺物	119
1	平安時代以前の遺物	119
2	平安時代の遺物	119
3	中世以降の遺物	134
第5章	自然科学的分析	199
第1節	樹種同定	199
	秋田県厨川谷地遺跡出土木製品の樹種調査結果(1)	199
	秋田県厨川谷地遺跡出土木製品の樹種調査結果(2)	201
	秋田県厨川谷地遺跡出土木製品の樹種調査結果(3)	203
第2節	放射性炭素年代測定	218
第3節	火山灰分析	220
第4節	厨川谷地遺跡出土木材の樹種同定	223
第6章	まとめ	226
図版		
附編	厨川谷地遺跡出土木簡	

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

秋田県農政部（現農林水産部）は、農業の生産条件が不利な地域において地形条件に応じたほ場の整備を実施するために、県営ほ場整備事業を仙北郡千畑町土崎・小荒川地区において計画した。これは担い手への農地の利用集積を促進し、収益性の高い畑作物等を導入可能なほ場にするにより、高付加価値型農業への転換を図ることを目的としたものである。また、農地の大区画化と併せ、農道・用排水路網の整備を進め、担い手農家による大規模経営を目的とした土地利用型農業の確立を図るものである。

本地区の工事区域内には、周知の遺跡である厨川谷地遺跡、中屋敷Ⅰ・Ⅱ遺跡などがあり、埋蔵文化財を包蔵している可能性が高いことから、秋田県仙北平野土地改良事務所（現秋田県仙北地域振興局仙北平野農村整備事務所）は文化財保護法に基づき、この事実確認と今後の対応について秋田県教育委員会に照会した。これを受けて秋田県教育委員会は工事区域内に係る埋蔵文化財包蔵地及び包蔵地と推測される地区においては今後確認調査が必要であることと、確認調査の結果、記録保存の必要なものについては、発掘調査を実施すべき事を回答した。

平成12年12月に千畑町教育委員会および秋田県埋蔵文化財センターが厨川谷地遺跡周辺の確認調査を実施して事業計画区域内における遺跡の広がりを確認し、厨川谷地遺跡の工事区域内における面積は14,000㎡であることを確認した。

秋田県教育委員会は、この遺跡について秋田県仙北平野土地改良事務所と協議した結果、削平（切土）が免れない9,100㎡について記録保存の措置をとることで合意し、平成13年5月に秋田県埋蔵文化財センターが厨川谷地遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査要項

遺跡名称	厨川谷地遺跡	※遺跡略号	7KGYT
所在地	秋田県仙北郡千畑町土崎字厨川谷地4-1外 (北緯39° 27' 48" , 東経140° 33' 40")		
調査期間	平成13年5月14日～11月26日		
調査対象面積	9,100㎡		
調査面積	9,100㎡		
調査主体者	秋田県教育委員会		
調査担当者	秋田県埋蔵文化財センター		

発掘担当者

五十嵐一治

南調査課調査班学芸主事

第1章 はじめに

赤上 秀人 南調査課調査班学芸主事
(現 大曲市立花館小学校教諭)

山形 博康 南調査課調査班文化財主事
(千畑町教育委員会派遣)

高安 直美 南調査課調査班非常勤職員

小林あすか 南調査課調査班非常勤職員
(現 県立六郷高等学校臨時講師)

整理担当者

五十嵐一治 南調査課調査班学芸主事

赤上 秀人 南調査課調査班学芸主事

総務担当者

佐藤 悟 総務課長 (現 県立湯沢商工高等学校事務長)

金 義男 総務課長 (現 企画振興部国体・障害者スポーツ大会
局施設調整課副主幹)

渡辺 憲 総務課長

高橋 修 主任

佐々木敬隆 主事 (現 教育庁義務教育課主事)

成田 誠 主事 (現 県立増田高等学校主事)

田口 旭 主事

調査協力機関

秋田県仙北平野土地改良事務所
(現 秋田県仙北地域振興局仙北平野農村整備事務所)

千畑町教育委員会

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地

仙北郡千畑町は秋田県の内陸東部、仙北郡の南東部に位置する。奥羽山脈の西麓に位置する同町は、およそ2/3が山地、1/3は東方の山地より流れる河川によって形成された扇状地に開けた平地となっている。

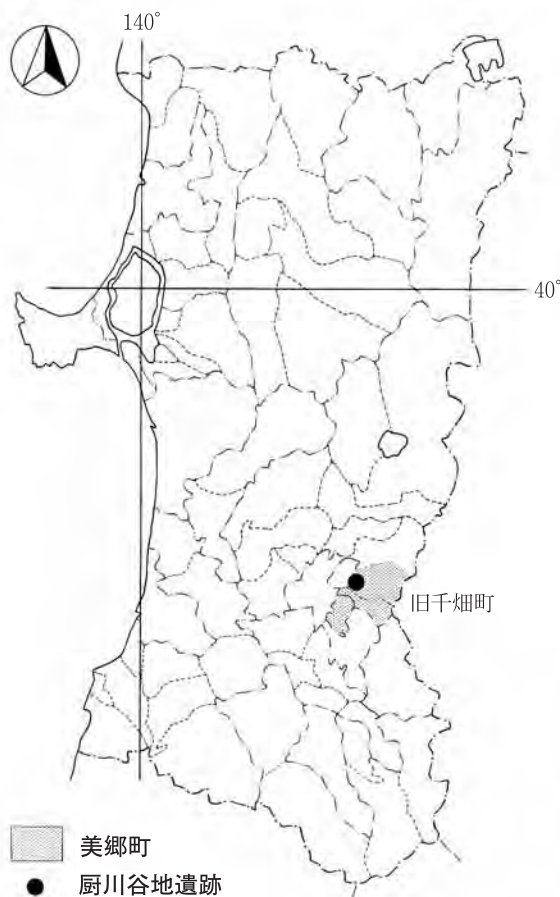
東部の山岳地帯は、真昼山地と称され、北より黒沢大台山（832.9m）、真昼岳（1,059.9m）、女神山（955.8m）など非火山性山地が連なっている。中央部は天狗山丘陵と呼ばれ、北は運上野から南は南外川原に至る、およそ15km²の広さを有し、西側は断層の活動により隆起して高くなっている。この断層は千屋断層と呼ばれ、明治29年に起きた陸羽大地震もこの活動によるものである。西部は扇状地が広がり、西方には沖積地が広がっている。

山地から流れ出る川により形成された大小さまざまな扇状地は、砂礫・粘土・泥岩などで構成される。また粘土層や岩盤などの不透水層を挟み、この層に達した地下水は低い方に流れ、扇端部で、泉となって地表に湧き出るところもある。本堂城回・土崎・小荒川・安城寺・上畑屋などに湧水が多いのはそのためである。払田柵跡の所在する真山・長森は広大な沖積地に位置する分離丘陵である。

厨川谷地遺跡はJ R奥羽本線大曲駅から東に約6.5kmの距離にあり、遺跡は払田柵跡の外側を囲む

外柵と呼ばれる角材列から、南東約200mの距離に位置する。南側は雄物川の支流である丸子川に、北側は丸子川に合流する川口川に挟まれた低地に立地する。遺跡全体が河川の氾濫原に立地しており、そのために調査区内には幾筋もの埋没した旧河道が存在する。

気候は横手盆地の北東部に位置するため、裏日本型の内陸盆地的な気候で、気温の寒暖の差が大きく、夏は30℃を越す日もあるが、冬には氷点下10℃以下になる日もある。年平均気温は10℃程度であるが、山間部は平野部より常に低い。冬は北西の季節風が強く、時には猛吹雪となる。積雪量も多く、平野部で150cm、山間部で300cmほどになり、根雪の期間は平年で4か月に及ぶ。年間の降水量は2,000mm程度であるが、雨量は6～8月の暖候期に多い。春から秋にかけて、山間部や山麓地に強い東風の吹く日がある。



第2節 歴史的環境

秋田県教育委員会発行の『秋田県遺跡地図（県南版）』には、千畑町の周知の遺跡として26か所が掲載されている。また、千畑町埋蔵文化財調査報告書第6集『中屋敷Ⅱ遺跡』によると、新発見の遺跡が8か所掲載されている。ここでは千畑町内の遺跡を中心に、周辺地区の遺跡を概観する。

旧石器時代の遺跡は、千畑町内で確認されていない。

縄文時代の遺跡は、払田柵跡（54-1、53-1）・中屋敷Ⅱ（54-5）・上坂（54-6）・運上野（54-7）・一丈木（54-9）・内村（54-14）・川端山館（54-16）・川端山Ⅰ（54-17）・外川原Ⅰ（54-20）・外川原Ⅱ（54-21）の10カ所で確認されており、中期以降で著名な遺跡が確認されている。運上野遺跡は昭和27年5月に武藤鉄城を中心に発掘調査が行われ、組石遺構14基と土坑4基が確認された。一丈木遺跡は運上野の南西1kmに位置し、延べ7次にわたって発掘調査が行われた。昭和47年からは千畑村教育委員会により3次にわたる発掘調査が行われ、2度にわたって縮小し建て替えられた竪穴住居が確認された。内村遺跡は秋田県教育委員会によって昭和55年に発掘調査が行われ、複式炉を有する竪穴住居跡15軒・炉跡16基、および土坑4基が検出された。

弥生時代の遺跡は周知されていないが、『千畑町郷土誌』には小森山という弥生時代の遺跡があり、弥生時代の住居跡と思われる箇所から炭化米と大豆を発見したという記述がある。

古墳時代及び奈良時代の遺跡は現在のところ確認されていないが、払田柵跡外郭南門東部の盛土整地層出土須恵器短頸壺の年代は奈良時代とされ、木簡でも「□（竇カ）字四年六月廿六日」（第15号木簡）と墨書されたものが出土している。

平安時代の遺跡は、払田柵跡（54-1）・厨川谷地（54-3）・中屋敷Ⅱ（54-5）・内村（54-14）・厨川谷地Ⅲ（54-28）・下中村（54-29）・飛沢尻（54-30）・下飛沢（54-31）・上飛沢（54-32）が確認されている。

払田柵跡は、外柵材木列で801・802年という年輪年代が明らかになっている。払田柵跡が古代城柵官衙遺跡であることはいうまでもないが、それが何であるのかは未だ定説を見ない。払田柵跡については、河辺府説、無名不文の城柵説、雄勝城説、山本郡衙説などあるが、最近では、熊田亮介氏によって第2次雄勝城説が提唱された。この第2次雄勝城説を補強するものとして鈴木拓也氏が次のようにまとめている。

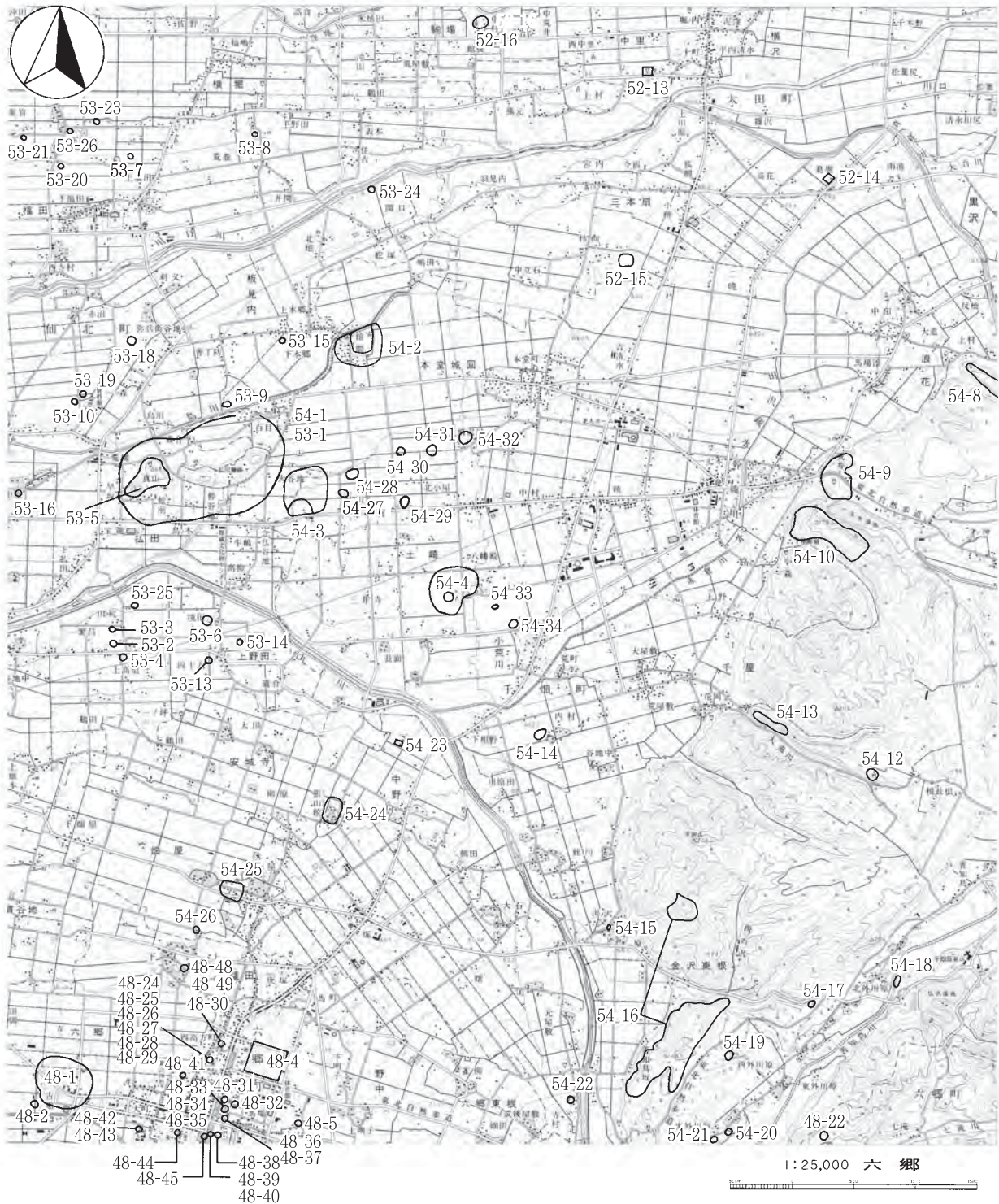
- A 払田柵跡を雄勝城に比定する際に障害となる払田柵跡が雄勝郡にないという位置問題と払田柵跡の創建年代が天平寶字年間にさかのぼらないという時期の問題は、雄勝城の移転（北進）を想定すれば解決できること。
- B 払田柵跡が国府型の政庁を持ち、全体を外郭施設で区画するのは、払田柵跡に国司が在駐し、兵士または鎮兵が配備されていることに対応する事。
- C 払田柵跡から出土した木簡には、国司及び兵士・鎮兵に関わるものが有り、払田柵跡に国司と兵士・鎮兵が存在したことは木簡からも確認できること。
- D 9世紀の出羽国は、国府・秋田城・雄勝城（一府二城）以外に国司と鎮兵を配置しておらず、それが配置されている払田柵跡は雄勝城とみるべきということ。
- E 『和名類聚抄』における別名「答合」と山本郡の郷名「塔甲」との一致は9世紀の雄勝

周辺遺跡一覽表(1)

遺跡No.	遺跡名	時代	種別	所在地
48-1	六郷城	中近世	館跡	仙北郡六郷町六郷字古館
48-2	六郷町一里塚	中近世	一里塚	仙北郡六郷町六郷字道尻
48-4	安楽寺	縄文・中世	遺物包含地	仙北郡六郷町六郷字安楽寺
48-5	馬場	古代	遺物包含地	仙北郡六郷町野中字下村
48-22	薊沢	縄文	遺物包含地	仙北郡六郷町六郷東根字薊沢
48-24	真乗寺応安碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字西高方町
48-25	真乗寺康曆碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字西高方町
48-26	真乗寺下総型板碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字西高方町
48-27	真乗寺降三世明王碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字西高方町
48-28	真乗寺地藏碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字西高方町
48-29	真乗寺大日碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字西高方町
48-30	馬町地藏堂文殊碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字西高方町
48-31	長明寺永和碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字西高方町
48-32	本覚寺釈迦碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字東高方町
48-33	本覚寺聖観音碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字東高方町
48-34	本覚寺勢至碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字東高方町
48-35	本覚寺永和碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字東高方町
48-36	広円寺永享碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字東高方町
48-37	広円寺阿弥陀碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字東高方町
48-38	修行院跡阿弥陀碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字米町
48-39	山王稻荷社衷庚申阿弥陀碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字米町
48-40	山王稻荷社阿弥陀碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字米町
48-41	太佳寺勢至碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字宝門清水
48-42	台蓮寺応永碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字小安門
48-43	台蓮寺大日碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字小安門
48-44	広照寺勢至碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字米町
48-45	薬師堂不動碑	中世	板碑	仙北郡六郷町六郷字米町
48-48	八坂神社永和碑	中世	板碑	仙北郡六郷町鎚田字下二ツ石
48-49	八坂神社永和千時碑	中世	板碑	仙北郡六郷町鎚田字下二ツ石
52-13	鏡田	中世	遺物包含地	仙北郡太田町中里字鏡田
52-14	葛堀	縄文	遺物包含地	仙北郡太田町三本扇字葛堀
52-15	野沢	縄文	遺物包含地	仙北郡太田町三本扇字野沢
52-16	駒場城	中世	館跡	仙北郡太田町駒場字中村
53-1	弘田柵	古代	古代城柵	仙北郡仙北町弘田
53-2	繁昌Ⅰ	平安	遺物包含地	仙北郡仙北町高梨字繁昌
53-3	繁昌Ⅱ	平安	遺物包含地	仙北郡仙北町高梨字繁昌
53-4	上高梨	平安	遺物包含地	仙北郡仙北町高梨字上高梨
53-5	弘田城	中世	館跡	仙北郡仙北町弘田字真山
53-6	境田城	中世	遺物包含地	仙北郡仙北町弘田字境田
53-7	杉ノ下Ⅰ	平安	遺物包含地	仙北郡仙北町横堀字杉ノ下
53-8	荒巻	縄文	遺物包含地	仙北郡仙北町板見内字荒巻
53-9	鍛冶屋敷	平安	遺物包含地	仙北郡仙北町板見内字鍛冶屋敷
53-10	西一ツ森	縄文	遺物包含地	仙北郡仙北町堀見内字一ツ森
53-13	四十八	平安	遺物包含地	仙北郡仙北町上野田字四十八
53-14	中村	平安	遺物包含地	仙北郡仙北町上野田字中村
53-15	百目木	中世	遺物包含地	仙北郡仙北町板見内字百目木
53-16	穂田原	不明	遺物包含地	仙北郡仙北町高梨字穂田原
53-18	弥兵谷地	平安	遺物包含地	仙北郡仙北町板見内字弥兵谷地
53-19	一ツ森	中世	遺物包含地	仙北郡仙北町板見内字一ツ森
53-20	杉ノ下Ⅱ	縄文	遺物包含地	仙北郡仙北町横堀字杉ノ下
53-21	星宮Ⅱ	縄文	遺物包含地	仙北郡仙北町横堀字星宮
53-23	星宮Ⅲ	縄文	遺物包含地	仙北郡仙北町横堀字星宮
53-24	堰口	中世	遺物包含地	仙北郡仙北町板見内字堰口
53-25	田ノ尻	平安	遺物包含地	仙北郡仙北町弘田字田ノ尻
53-26	杉ノ下Ⅲ	縄文	遺物包含地	仙北郡仙北町横堀字杉ノ下
54-1	弘田柵	平安	古代城柵	仙北郡千畑町本堂城回
54-2	本堂城	中世	城跡	仙北郡千畑町本堂城回字館間
54-3	厨川谷地	平安・中世	祭祀遺跡	仙北郡千畑町土崎字厨川谷地
54-4	中屋敷Ⅰ	中世	寺跡	仙北郡千畑町土崎字中屋敷
54-5	中屋敷Ⅱ	縄文・弥生・平安・中世	集落跡	仙北郡千畑町土崎字中屋敷
54-8	元本堂城	中世	城跡	仙北郡千畑町浪花字館ノ沢
54-9	一丈木	縄文	集落跡	仙北郡千畑町浪花字南荒井
54-10	一丈木(籠森城)	中世	城跡	仙北郡千畑町千屋字釜淵
54-12	相長根	平安	遺物包含地	仙北郡千畑町千屋字相長根
54-13	猪の鼻館	中世	館跡	仙北郡千畑町千屋字猪の鼻
54-14	内村	縄文・平安	集落跡	仙北郡千畑町千屋字内村
54-15	御堰跡	近世	堰跡	仙北郡千畑町金沢東根字湯ノ沢
54-16	川端山館	中世	館跡	仙北郡千畑町金沢東根字川端山
54-17	川端山Ⅰ	縄文	遺物包含地	仙北郡千畑町金沢東根字川端山
54-18	仏沢	平安	遺物包含地	仙北郡千畑町金沢東根字仏沢
54-19	川端山Ⅱ		窯跡	仙北郡千畑町金沢東根字西外川原
54-22	寺村		寺跡	仙北郡千畑町金沢東根字寺村
54-23	砂館	中世	館跡	仙北郡千畑町中野字砂館
54-24	張山館	中世	館跡	仙北郡千畑町安城寺字張山館

第2章 遺跡の環境

遺跡No.	遺跡名	時代	種別	所在地
54-25	幡江館	中世	館跡	仙北郡千畑町畑屋字外館
54-26	神尾町館	中世	館跡	仙北郡千畑町畑屋字神尾町
54-27	厨川谷地Ⅱ	古代	散布地	仙北郡千畑町土崎字厨川谷地
54-28	厨川谷地Ⅲ	古代	散布地	仙北郡千畑町土崎字厨川谷地
54-29	下中村	古代	散布地	仙北郡千畑町土崎字下中村
54-30	飛沢尻	古代	散布地	仙北郡千畑町土崎字飛沢尻
54-31	下飛沢	古代	散布地	仙北郡千畑町土崎字下飛沢
54-32	上飛沢	縄文・古代	散布地	仙北郡千畑町土崎字上飛沢
54-33	上館	中世・近世	散布地	仙北郡千畑町土崎字上館
54-34	十二	縄文	散布地	仙北郡千畑町小荒川字十二



周辺遺跡位置図

城が山本郡塔甲郷に所在したことを示すこと。

F 『日本紀略』延暦二十一年正月庚午条における雄勝城への鎮兵の集中は、第二次雄勝城たる払田柵跡造営の開始を意味することと考えられること。

払田柵跡は長森・真山を囲む外柵と長森を囲む外郭からなり、長森丘陵中央部に政庁がある。政庁は板塀で区画され、正殿・東脇殿・西脇殿および附属建物群が配置されている。これらの政庁の建物にはⅠ～Ⅴ期の変遷があり、創建は9世紀初頭、終末は10世紀後半としている。政庁の調査成果および区画施設の調査成果は秋田県教育委員会・払田柵跡調査事務所により刊行されている。

出土品には、須恵器・土師器・瓦・緑釉陶器・灰釉陶器・青磁などの外、斎串・曲物・挽物・鋤などの木製品、漆紙文書・木簡・墨書土器・篋書土器などの文字資料がある。木簡は2002年度までで88点確認しており、「飽海郡少隊長解申請」「十火大糧二石二斗八升」「嘉祥二年正月十日」などと記された文書・貢進用木簡があり、「別當子弟」「狄藻」などの文字もある。墨書・篋書土器は480点以上出土・採集されており、「大津郷」「鷹空上」「懺悔」「小勝」「出羽」「音丸」「厨家」「厨」「官」「舎」「館」「千」「主」「長」「主」などが出土している。篋書土器で注目されるのは、「出羽□□□/郡□男賀/凡酒坏」である。

厨川谷地遺跡は、周知の遺跡として須恵器破片と宋銭が出土していたものであるが、今回の調査で9世紀後半から10世紀前半の祭祀遺構群により構成される平安時代の祭祀遺跡であることが確認された。これから厨川谷地遺跡が払田柵という城柵官衙に附設された律令祭祀の場として機能したことが考えられ、秋田城と鶴ノ木地区、五城目町の石崎遺跡と中谷地遺跡も同様の立地をとっていることが想定できる。

払田柵跡及び厨川谷地遺跡は山本郡に位置している。山本郡の初見は『日本三代実録』貞観十二年十二月八月条「出羽国山本郡安隆寺預之定額」である。『日本文徳天皇実録』嘉祥三（850）年六月甲戌条では、「出羽国奏言。境接夷落。動為風塵。至有嫌疑。必資占驗。請省史生一員。置陰陽師一員。許之。」という記載があり、また払田柵跡出土の第4号木簡において「嘉祥二年正月十日下午稲日紀 □年料」とあることから、厨川谷地遺跡の性格を考える上でも興味深い。

内村遺跡は、土師器・須恵器の外に緑釉陶器や「端鼻鳳凰八稜鏡」が出土している。出土遺物から10世紀前半期の遺跡と考えられている。

中世の遺跡は、本堂城（54-2）、厨川谷地（54-3）、中屋敷Ⅰ（54-4）、元本堂城（54-8）、籠森城（54-10）、猪ノ鼻館（54-13）、川端山館（54-16）、砂館（54-23）、張山館（54-24）、幡江館（54-25）、神尾町館（54-26）などがある。最近の分布調査で上館遺跡（54-33）が追加されている。また、中屋敷Ⅱ遺跡でも12～13世紀代の白磁・青磁の出土が確認された。

当地区は本堂氏の地盤である。本堂氏の始祖忠朝が館ノ沢（元本堂）に山城を構築して居城したが、1220（承久二）年、本堂城回字館間に平城を移築したのが1535（天文四）年と云われており、常陸国志筑（現在の茨城県千代田町）に国替えになったのは慶長六（1601）年である。本堂城回字館間の平城は秋田県指定史跡であり、1614（慶長十九）年に描かれた城絵図が現存しており、当時の様子を知ることができる。また、現存する平城はめずらしく、本堂氏の平城は南向きで二重に堀がめぐらされていて、内堀のすぐ内側は土塁となっており、現在も北側にその一部が残っている。本堂城が内堀と本丸城郭ともに現存するのは非常に稀なケースである。

第2章 遺跡の環境

引用・参考文献

- 秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図（県南版）』 1987（昭和62）年
- 秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第324集 2001（平成13）年
- 千畑村『千畑村郷土誌』 1986（昭和61）年
- 秋田県教育委員会『払田柵跡Ⅰ－政庁跡－』秋田県文化財調査報告書第122集 1985（昭和60）年
- 秋田県教育委員会『払田柵跡第121次調査概要』秋田県文化財調査報告書第364集 2003（平成15）年
- 千畑町教育委員会『中屋敷Ⅱ遺跡』千畑町埋蔵文化財調査報告書第6集 2004（平成16）年
- 武藤鉄城『雲穰野組石群発掘調査報告』 1952（昭和27）年
- 千畑村教育委員会『一丈木遺跡第2次発掘調査概報』 1973（昭和48）年
- 千畑村教育委員会『一丈木遺跡第3次発掘調査概報』 1974（昭和49）年
- 千畑村教育委員会『一丈木遺跡第4次発掘調査概報』 1975（昭和50）年
- 秋田県教育委員会『内村遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第82集 1981（昭和56）年
- 新野直吉・船木義勝『払田柵の研究』文献出版 1990（平成2）年
- 熊田亮介「秋田城と秋田郡」『秋田市史研究4』秋田市教育委員会 1995（平成7）年
- 「蝦狄と北の城柵」『越と古代の北陸』名著出版 1996（平成8）年
- 鈴木拓也『古代東北の支配構造』吉川弘文館 1998（平成10）年
- 秋田県教育委員会『払田柵跡Ⅱ－区画施設－』秋田県文化財調査報告書第289集 1999（平成11）年
- 高橋学「城柵官衙遺跡と墨書土器－出羽国北半の事例を中心に－」『古代官衙・集落と墨書土器』奈良文化財研究所 2003（平成15）年
- 五十嵐一治「秋田県千畑町厨川谷地遺跡の発掘調査概要」『第28回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
古代城柵官衙遺跡検討会第28回大会実行委員会事務局 2002（平成14）年
- 『国史大系 類聚国史』吉川弘文館 1994（平成6）年/『国史大系 日本三代實録』吉川弘文館 1994（平成6）年

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

厨川谷地遺跡は秋田県内陸部、横手盆地の北東部の沖積地上に位置する。大正4年に壺に入った宋銭が発見されたことから中世遺跡として周知されていたが、確認調査時には中世遺物はほとんど出土せず、今回の発掘調査では平安時代に属する祭祀土坑を多数検出し、該期の城柵官衙遺跡である払田柵跡の祭祀域であることが明らかとなった。

厨川谷地遺跡は9世紀後半から10世紀前半の祭祀遺構群により構成され、竪穴住居跡などの生活に関連する遺構は皆無である。北西200mには払田柵跡の外柵が隣接し、遺跡東方の丘陵上には内村遺跡が立地する。払田柵跡の外柵は9世紀中頃には廃絶し、その南辺部は幾条もの河川流路が存在する氾濫原であったことが知られている。本遺跡も調査区全体が氾濫原に収まり、複数の流路とそれにはさまれた微高地上に立地している。

検出した遺構は祭祀土坑が中心で、氾濫原に点在する比較的大型の窪地をそのまま利用したものと、人為的に掘り込んだ土坑とがある。また河川堆積物により連続的に遺跡文化面が覆われているため、埋没した祭祀土坑も多数存在する。河川堆積物中にも多量の祭祀関連遺物を包含しており、それを除いた最下面の青灰色粘土の地山面で、掘形116×90cmに径30cmの柱材を遺す柱穴を検出した。この地山面で検出した柱穴群は掘立柱建物跡を構成し、初期における祭祀屋（祭祀関連の掘立柱建物跡）と考えられる。これらの祭祀関連遺構は湧水点および流路による水辺に囲まれる。

遺物は中コンテナで229箱の土師器・須恵器の土器類、および191箱の木製品が出土した。土器類は須恵器・土師器のほか、装飾を施した蓋や小型の壺・黒色土器・墨書土器・二面硯・瓦などが出土した。木製品は人形・呪符木簡・木簡・漆器・木製容器・竪杵・箸状木製品・串状木製品などで、漆紙も複数点出土した。いずれも祭祀行為との関連が想起されるものである。

調査区は厨川谷地遺跡のごく一部分であり、本来の遺跡範囲はさらに広がることが予想される。

第2節 調査と整理の方法

調査方法はグリッド法を採用した。調査区の設定方法は調査区内の任意の1点（国家座標第X系X=59,500.000 Y=-23,600.000）を選定し、原点MA50とした。この原点から座標北方向に基準線を設定し、この基準線に直交する4m×4mのグリッドを設定した。また数カ所の杭を水準測量して水準原点とした。グリッド杭には東から西に向かって東西方向を示す・・・LS・LT・MA・MB・MC・・・というアルファベットと、南から北に向かって南北方向を示す・・・48・49・50・51・52・・・の2桁の数字を組み合わせた記号を記入し、4m×4mの方眼杭の南東端をグリッドの名称とした。

遺構には、確認した順に番号を割り当て、精査の結果、遺構では無いと判断された場合には、その番号を欠番扱いとした。遺構プランは埋土堆積状態観察・実測用ベルトを設定して掘り下げ、土層断面の分層時に野帳に堆積状態をスケッチして土色・土性を記入した。

第3章 発掘調査の概要

柱穴様の小ピットの多くについては、他の遺構とは別にピット番号を附し、精査の結果遺構では無いと判断した場合にはその番号を欠番扱いとした。小ピットはプラン確認面での土色と土性を柱穴台帳に記載し、半截あるいは完掘した。小径の遺構・柱穴と小ピットについては整理作業を進めながら一括して再検討した。

遺物は、グリッド・出土層位・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。遺物の記載は、メジャーおよび自動レベルを使用して人手で行った。

調査の記録は平面図・断面図および写真によった。平面図・断面図は縮尺1/20を原則としたが、詳細な遺構図面を必要とする場合には1/10で記録した。

写真撮影は35mmのモノクロ・カラーおよびリバーサルフィルムを使用した。

室内における整理では、遺構は現場図面を検討して第2原図を作成し、トレースして挿図を作成した。遺物は洗浄・註記の後に接合および実測図の作成、写真撮影を行った。

第3節 発掘調査の経過

- 4月25日 秋田県埋蔵文化財センター（以下、「センター」と略記）において、芳賀所長も出席して作業員説明会を開催。
- 5月14日～18日 機材の搬入、駐車場・事務所棟等の整備を行う。作業員を入れ、調査開始。排水路及び範囲「B」の一部、表土除去及び遺構確認。排水路より精査開始。田植え準備により水位高く、遺構確認困難。グリッド杭打設作業開始。15日、センター栗澤文化財主査他非常勤職員、研修のため見学。17日、払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。
- 5月21日～25日 排水路部分精査。希薄ながら遺構を確認。すべて遺物は伴っておらず、性格不明の遺構が、現時点では多い。範囲「B」、表土除去及び遺構確認。25日払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。
- 5月28日～6月1日 排水路部分精査終了。排水路部分遺構確認。排水路及び範囲部分遺構確認。29・30日、払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。千畑町教育委員会煙山光成氏、掘削する仮用水路立会。
- 6月4日～8日 排水路表土除去。排水路及び範囲「B」遺構確認及び精査。5日、センター櫻田南調査課長現場視察、払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。7日、教育庁生涯学習課文化財保護室（以下「保護室」と略記）藤澤昌・武藤祐浩両学芸主事現場視察。
- 6月11日～14日 排水路及び範囲「B」遺構確認及び精査。排水路遺構確認及び精査。12日、センター芳賀所長・櫻田南調査課長現場視察。千畑町農業委員会事務局長・町教育委員会煙山氏来跡。
- 6月18日～22日 排水路及び範囲「B」精査。排水路遺構確認。排水路精査終了。範囲「C」表土除去開始。21日センター総務課長来跡。21・22日払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。

- 6月25日～29日 排水路及び範囲「B」遺構確認及び精査。排水路精査終了。排水路遺構確認。
- 7月2日～6日 排水路精査終了。範囲「B」西側一部精査終了。排水路遺構確認作業終了。4日、払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。
- 7月9日～13日 範囲「B」精査。盛り土下面の旧表土まで下げる。旧表土の段階で、遺構、遺物ともほとんど無しの状態。範囲「C」の表土除去及び遺構確認、一部精査作業。排水路精査開始。10日、仙北南小社会科フィールドワークで遺跡見学。（払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長引率。）センター櫻田南調査課長の引率の元、臨時職員現場視察。11日、払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。
- 7月16日～19日 範囲「B」精査終了。中央部凹地から遺物出土無く、トレンチを入れても遺構は確認できず。範囲「C」遺構確認作業。19日、センター芳賀所長、センター委託の社会保険労務士来跡。
- 7月23日～27日 範囲「C」遺構確認作業。SK160など白色火山灰が含まれている遺構を数箇所確認。
- 7月30日～8月3日 範囲「C」の遺構確認作業。30日、センター櫻田南調査課長現場視察。31日、現場にて、行政研修・チャレンジ研修を実施。2日、センター佐藤総務課長・藤原技師現場視察。3日、払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。
- 8月6日～9日 範囲「C」の遺構確認作業。6日、シン技術コンサルタント遺跡空中写真撮影打ち合わせのため、来跡。払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。7日、市町村埋蔵文化財職員研修・社会貢献活動体験研修実施。8日、シン技術コンサルタント遺跡空中写真撮影。空撮によって範囲「C」の旧河川と微高地の関係を確認。
- 8月20日～24日 排水路部分精査。範囲「C」の遺構確認及び精査。範囲「C」の北西部に約2m間隔で並行する溝跡確認。内部に火山灰混入。SK107より二面硯が出土。範囲「C」西半部には、地山粘土と灰、そして白色火山灰という見分けにくい埋土を有する遺構が非常に多い。丁寧に遺構を精査する必要がある。
- 8月27日～31日 排水路部分精査。範囲「C」北西・西辺部の精査。範囲「C」西側に集中する径1～2mの円形、楕円形の土坑から、多量の土器片とともに斎串が複数出土した。SK113、SK240より20cm以上の大型の斎串が出土。土器（杯）および、十和田a火山灰より、10世紀前半期のものと考えられる。29、30の2日間、発掘研修のため中国交流員来跡。
- 9月3日～7日 排水路部分精査。範囲「C」西部の精査。範囲「C」西部の旧河道以北で祭祀遺構が複数検出。これらの祭祀土坑には、土坑として掘り込んでいるタイプと、旧河道付近の凹地を祭祀土坑として転用するタイプがあることが判明。両者から、斎串をはじめとする木製品が多数出土。4日、社会教育主事研修会及び文化財保護室大野憲司副主幹来跡。5日、センター芳賀所長、佐々木管理指導員現場視察。
- 9月10日～14日 排水路部分精査。範囲「C」西部の精査。基本土層のⅢ層（河成堆積層）は範囲「C」の西側に分布して堆積していることが判明。本来は全域に分布していた

が、水田造成時に削平された可能性が大きい。先週報告した祭祀土坑の2形態のうち、掘り込みを有する土坑タイプは概ね十和田a火山灰の降灰前で、自然凹地を利用するタイプは降灰後という類例が可能。

- 9月17日～20日 排水路部分精査。範囲「C」西部の精査。墨書土器「戌」複数出土。SK403より漆紙が出土。9月17日、払田柵跡調査指導委員岡田茂弘氏、秋田県立博物館庄内昭男氏来跡指導。9月19日秋田県立博物館船木義勝氏来跡。
- 9月25日～28日 排水路部分精査。範囲「C」西部の精査。排水路表土除去。SK180より切り欠きを持つ大型斎串が出土。
- 10月1日～5日 排水路部分精査。範囲「C」西部のⅢ層堆積土に多量の遺物（木製品、土器）を確認。花卉様の模様を施した土師器蓋が出土。4日、星形の魔よけ文様「五芒星」が墨で描かれた土器が出土。
- 10月9日～12日 範囲「C」全域が氾濫原内に立地しているため、河成堆積層であるⅢ層（地山粘土に多量の炭が混じる）に覆われている。そこで、試掘して確認したところ、平均層25～30cmあることが判明。旧河道の一部に湧水点があり、十和田a火山灰の降灰前から律令祭祀が執り行われていることが判明。遺物数も膨大で、完形杯も多数出土。遺構調査終了の後にⅢ層を掘り下げて補足調査を実施する場合の調査工程を打ち合わせ。排水路精査。
- 10月15日～20日 範囲「C」西部の精査。排水路精査。また、SK403より漆紙出土。河川跡湧水点より呪符木簡が出土。上半分が刺さった状態で、下半分がすぐ下から出土し、意図的に真ん中を折ったような状態で出土した。10月25日以降、Ⅲ層の追加調査を開始することが決定。20日、現地見学会、払田柵跡と合同で行う。10時から外柵南門前で開会式の後、払田柵跡と厨川谷地遺跡の遺構説明を、2グループに分けて行い、午後からはセンターで遺物展示・説明を行った。好天のもと見学者数は約210名にのぼり、盛会であった。
- 10月22日～26日 河川跡湧水点の調査。火起こし具やつけ木が多量に出土。土師器灯明皿杯の内部に植物繊維が残されている例を多数確認。22日、盛岡市教育委員会八木光則氏来跡。23日、東北芸術工科大学村木志伸氏来跡。26日、岩見誠夫元埋蔵文化財センター副所長来跡。
- 10月29日～11月2日 排水路Ⅲ層精査。東側調査区微高地部（旧河道以外の部分）のⅢ層は層20cm程度で、遺物少量。旧河道内では、層100～120cmに達し、特に、十和田a火山灰の下部より、祭祀遺物が多量に出土。29日より、センター臨時職員による発掘調査研修。職員による応援あり。31日、河川跡湧水点付近より人形が出土。
- 11月5日～9日 旧河道部のトレンチ調査（Ⅲ層）。墨書土器が多量に出土。Ⅲ層下の土坑からは、底部回転ヘラ切りの杯もあり、古い要素がある遺物が多量出土。調査区内の排水路部分、すべて引き渡し完了。9日、センター所長、柴田班長現場視察。
- 11月12日～16日 旧河道部のトレンチ調査（Ⅲ層）。地山（Ⅳ層）面にて、掘形114×90cm、残存柱材、径27cmの大型の柱穴、確認。現在、調査中のⅢ層より下面にも遺構群があ

る可能性が高まる。柱穴による掘立柱建物跡が予想される区域では、10数点の墨書土器および漆紙出土。16日、大型の柱穴を発見後、千畑町教育委員会、仙北町教育委員会、仙北平野土地改良事務所、文化財保護室が来跡し、現地協議後、センターで今後の対応を協議。払田柵跡調査事務所高橋学芸主事兼班長現地指導。千畑町文化財保護協会来跡。

- 11月19日～22日 調査区「B」西側Ⅳ層上面～Ⅲ層下部の掘立柱建物跡関連遺構調査。径30cm弱の柱あたりを持つものと、20cm弱の柱あたりがあるものとの2群を検出した。掘立柱建物跡のうち柱を遺す大型のものは手斧で側面を仕上げしており、地上部は円柱を呈するものではないかと考えられる。22日、リース機械の返却終了。
- 11月26日～30日 Ⅲ層調査の終盤に検出した掘立柱建物跡（検出面はⅣ層上面～Ⅲ層下部）を、施工業者側が砂により埋め戻す。10月25日以降に掘り下げた面について、全て砂による埋め戻しを実施。旧河道中に10数本入れたトレンチについても全て砂による埋め戻しを実施。旧河道中の湧水点については、下半を土砂利で埋め、上半を砂で埋め戻し。この作業の結果、調査区内の凹地は全て砂で埋め戻され、発掘調査の全工程を終了した。
- 12月4日 午前10時30分から、秋田県仙北平野土地改良事務所の立ち会いのもと、ハウス・駐車場ヤードの完成検査と現場引き渡しをおこなった。

第4章 調査の記録

第1節 検出遺構と出土遺物

調査の結果、蛇行する旧河道に囲まれた微高地上から、旧河道に由来する大小の凹地、および土坑から構成される遺構群を検出した。確認面であるⅢ層は河川堆積物であることが判明し、その下位から埋没した遺構を多く検出した。遺構の多くからは、「呪い記号」と呼ばれる祭祀記号が墨書された土器や木製祭祀具を始めとする祭祀関連遺物が出土し、この遺跡が祭祀の場であったことを示している。調査区内には竪穴住居跡など生活に係る遺構は皆無であり、これらの遺物はこの地で執り行われた祭祀のために、払田柵官衙ブロックを始めとする遺跡外から持ち込まれたものと考えられる。本遺跡の基本土層は次のとおりである。

- | | | | |
|------|----------|-----------|--------------------------------|
| I層 | 10YR3/1 | 黒褐色シルト～粘土 | 水田耕作土、表土 |
| II層 | 10YR2/2 | 黒褐色シルト | 部分的に酸化鉄粒子を含む 遺物包含層 |
| III層 | 10YR4/6 | 褐色粘土 | 地山小粒多量含む、2 cm程度の炭多量含む、締まり強、粘性強 |
| IV層 | 7.5GY6/1 | 緑灰色粘土 | 地山粘土層 |

本調査区内の基本層序Ⅲ層（河川堆積物）は微高地上で厚さ30cmにおよび、その上部に十和田a火山灰を包含するため、Ⅲ層上面で検出した遺構の時期は概ね10世紀前葉、Ⅲ層中に埋没した遺構は9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。微高地を囲う旧河道内では前記堆積物が1 m以上もの厚さとなっており、河川の運搬・堆積作用により大型の炭化物を多量に含む粘土鉱物が集中的に運ばれたことを確認した。これは払田柵東～北東方の丘陵域（奥羽山脈西麓）において森林の伐採を伴う大規模な開発が進むとともに、大量の木材が焼かれたことを物語っている。つまり払田柵周辺を西流する河川上流部の丘陵が裸地化して表土が急速に失われ、地山がむき出しとなった部分から多くの炭化物とともに粘土鉱物が河川により大量に運ばれて本遺跡周辺に厚く堆積したものと考えられる。同様の河川堆積物は払田柵外柵南門周辺でも確認されている。さらにIV層（地山）上面～Ⅲ層下部でも大型の柱穴で構成される遺構群を検出し、本調査区内において祭祀行為が執り行われた初期の段階の遺構群を検出した。

出土遺物の多くは9世紀第4四半期～10世紀第1四半期のものと考えられ、前記したⅢ層の堆積期間は50年に満たない短期間であることが明らかである。雄物川町八卦遺跡においても同時期・同様の堆積物が検出されており、同様の結果を生じさせる大規模な開発行為が横手盆地の奥羽山脈西麓一円で行われていた可能性が高いと考えられる。

また北東に隣接する水田工事区域では、低湿な沖積地には自生しない直径1 m程のコナラ節樹木の幹が出土した。これは氾濫原内の河川流路が、上流の丘陵域から伐り出された同程度の樹木を運搬できる程度の幅と水量を有していたことを示唆している。

各遺構の確認位置・規模・出土遺物その他の事項については附表1に記載した。また出土遺物については次節に詳述する。

1 平安時代の遺構と遺物

遺構確認面は大別して3段階に分けられる。古→新の順で概ね、古段階（Ⅳ層上面～Ⅲ層下部；9世紀第3四半期～第4四半期）・中段階（Ⅲ層中；9世紀第4四半期～10世紀第1四半期）・新段階（Ⅲ層上面；10世紀第1四半期）の3段階であるが、調査区が常時河川による堆積を受ける、起伏のある氾濫原に立地するため、各段階は単一の面として平面確認ができず、漸移的である。

祭祀遺構が集中するのは調査区を中心をなす「範囲B」地区の西半である（附図1・2）。ここは複数の河川流路で微高地が囲い込まれており、いわば周囲を水辺に囲まれた部分といえる。遺構内外から多種多様な遺物が出土したが、遺物の出土分布状況に一定の傾向が確認できることから、「甲A地区」「甲B地区」「乙A地区」「乙B地区」「S B地区」「S L地区」と祭祀域を区画して説明することとした。上記地区に該当しないグリッドについては「その他」としたが、それぞれの地区に隣接する部分については同様の傾向が把握できる。それぞれの地区の範囲については、附図2を参照されたい。

（1）祭祀土坑 150基（Ⅲ層中21基・Ⅲ層上面129基）

土坑からは墨書土器を始め、灯明皿や木製祭祀具など一定の組成を持った特徴的な遺物が出土した。これらの多くは祭祀を執り行った場所と考えられ、

- A 氾濫原に広がる凹地（水溜り）をそのまま利用した比較的大型のもの
- B Aと同様の形態であるが、小型またはごく浅いもの
- C 人為的に掘削して掘り込んだ土坑

と大きく3分類することができる。

①形態と規模

A類型の凹地を利用したものは直径1～2m、深さ20～50cm程度で平面形が不整形のものが大部分である。しかし深さ数cm程度の浅い凹地からも一定量の土器破片が出土し、A類型と比しても出土した遺物の内容に大きな違いは見られないためB類型とした。両者とも氾濫原内の凹地（水溜り）として認識され、祭祀を執り行う際の「場」として利用されたと考えられる。

またC類型とした人為的に掘り込んだ土坑は、平面形が直径1～2m程度の比較的整った略円形で、深さも30～50cmの鍋底形を呈する。

河川堆積物であるⅢ層中に埋没した土坑は21基、主たる遺構確認面であるⅢ層上面で確認した土坑は129基である。地山上でも98基の遺構を検出したが、未調査のため別項を設けて説明する。

遺構No.が400番台(S K P 472～474を除く)以下および700番台以降はⅢ層上面で確認した遺構であるが、S K P 472～474およびS K 502～540（S K P 538を除く）は、河川堆積物であるⅢ層中に埋没していた遺構群である。これらの土坑の平面プランははっきりせず、面的に遺構確認していく途中で明確なプランとして確認できたものは皆無であり、氾濫原に広がる自然凹地を利用したAまたはB類型の祭祀土坑と思われる。

②出土遺物と詳細

祭祀土坑は生成要因および形態規模により3分類することが可能である。しかしそれぞれの類型とも同様に使用されているため、別表を設けて詳細を掲載し（附表1）、ここでは出土遺物の概要を説明する。

Ⅲ層中に埋没していたS K 513土坑からは、「調酒／大田部／三□□□」と複数の手による墨書がさ

れた土師器が出土した。「調酒」は酒坏という意味で、体部正位に墨書されている。「大田部」は「夙」と同じく「かぜかんむり」の中に人名「大田部」が書き入れられたもので、この人名は秋田城跡出土の埴に墨書された類例がある。この「大田部」と「三□□□」は倒位・斜位に墨書されており、「調酒」の後から書き入れられたと考えられる。

Ⅲ層中には多種多様の遺物が包含されており、「成」墨書須恵器坏・蓋や広域接合須恵器壺甕類、灯明皿や意図的に口縁を打ち欠いた坏などが多く出土した。またⅣ層上面～Ⅲ層下部で確認した柱穴の多くで構成される掘立柱建物跡および柵列跡の存在、前掲遺物の掘立柱建物周辺からの出土状況から、初期から本遺跡が払田柵の祭祀域として機能したことが明らかとなった。このS B地区からは「成」墨書須恵器の出土が目立ち、これは払田柵官衙ブロックで管理・使用されていたものがここに持ち込まれていると考えられる。

Ⅲ層上面では、前掲した各類型に属する土坑を検出した。A類型では、S K 154土坑から陽物と考えられる杭状材が床面に突き立った状態で出土した。また焼け歪みによりひびが入った焼成不良の須恵器小壺も出土した。これはひび割れにより器としての機能が失われたものであることから、祭祀に供する器として生産されて遺跡に持ち込まれたと考えられる。この点では土師器類についても、火だすきを持つ硬質で焼き締りのよい坏が一定量存在し、同様の意図で生産された一群と考えられる。この点については後述する。

S K 157 A・157 B・160土坑は重複する祭祀土坑群である。自然の凹地であるS K 157 B土坑と重複する157 A・160が新しい。157 Aは人為的に掘り込まれているが、157 Bは明確な掘形を持たず、調査時に凹地に縞状に確認した堆積土を平面的に捉えらてしまった可能性が高い。160は157 Aと重複して新しく、覆土にも十和田 a 火山灰を含み、この土坑の下限が十和田 a 火山灰降灰直後に限定されることを示している。第19図1は「井」[九字(ドーマン)]を墨書したと考えられる。また第21図1・2のように意図的に破碎した土師器長胴甕の特定破片に、油煙を付着させたものもある。

S K 177土坑から出土した第26図6の土師器坏灯明皿は、見込み部分のみ油煙の付着が無く、灯明油を容れたのちに灯芯では無く植物繊維などを芯にして火を灯したものと考えられる。また口縁部周囲を意図的に打ち欠いているようにも見える。

S K 403土坑からは漆紙および内面に漆を塗布した土師器坏が複数点出土した。漆容器と蓋紙がセットで納置されていた可能性が高い。また「卅」とみられる墨書土師器坏が出土したが、後述するように「卍」[九字(ドーマン)]の可能性が高い。

第2図1はB類型としたS K 102・103・107・108土坑および乙A地区湧水点から出土したものが接合した例である。このように複数の遺構内出土、および2グリッド以上離れた遺構外出土の遺物など、離れた場所の遺物が接合することの多いのがこの遺跡の特徴のひとつである。このような遺物について分布図を作成し、附図5-1~9として出土分布を示した。

S K 107土坑は旧河道際の自然凹地を利用した祭祀土坑で、内黒土師器や土師器坏のほか、灯明皿・土師器鍋・砂底土師器鍋、広域接合須恵器壺甕類・須恵器二面碗・異形つまみを有するへう書須恵器蓋、陽物・斎串・漆篋などが出土した。同様にS K 108土坑でも土師器坏のほか広域接合須恵器壺甕類が出土した。

S K 265 B土坑から鉄滓が出土したが堆積はごく浅く不明瞭であり、Ⅲ層中の出土遺物の可能性もある。

S K 386からは第63図1のような広域接合須恵器壺が出土した。この須恵器壺には体部下半部を外側から刀子様の金属製品で全周にわたって傷をつけ、下半部を切り離して鍋の様に使用した痕跡があり、内面には全面墨痕が残る。上半部も特定の破片に墨が塗布されるが、欠落した部分が多く、本遺跡に持ち込まれた段階で完全な形は失われていたようである。このように破損した須恵器壺甕類が払田柵官衙ブロックから持ち込まれ、意図的に破碎した後に一部の破片内面に墨を塗布し、広範囲にわたって土坑や水辺に撒かれたものと考えられる。

C類型の、人為的に掘り込まれた祭祀土坑であるS K 179A土坑は、A類型（凹地）であるS K 179B土坑に堆積した一次堆積の十和田a火山灰を切って構築されており、その覆土上位には二次堆積の火山灰ブロックが堆積する。この堆積状況は、払田柵周辺への降灰後に凹地（S K 179B土坑）に重複して新しいS K 179A土坑が構築されて祭祀が執り行われ、ごく短期間のうちに再び河川により運ばれた火山灰ブロックが二次堆積として覆土中に埋積したことを示している。つまりこのS K 179土坑は降灰直後に人為的に構築され、瞬く間に河川流水により埋められてしまったことが明らかである。ここでも口縁部周囲を意図的に打ち欠いている土師器坏が複数点出土し、また「☆」[五芒星（セーマン）]を墨書した土師器坏も出土し、広域接合須恵器壺甕類・転用硯なども出土した。

S K 181土坑からは「兪」に類似する墨書を有する土器が集中して出土した。ここでは鳥形も出土したことから、この土坑は特定の意図を持った祭祀に供された祭祀土坑であったと考えられる。

S K 234土坑では「成」墨書須恵器坏のほか異形つまみを有するヘラ書須恵器蓋、土師器高台付鉢の高台部を転用した灯明皿を始め、多くの祭祀遺物が出土した。この土坑はA類型の可能性もある。

S K 263土坑からは意図的に口縁を打ち欠いた土師器坏や灯明皿が複数点出土し、また土師器甕の出土数も比較的多く、土師器甕も出土した。この土坑は土師器が集中的に納置されており、覆土下位からトチが多量出土したことも特徴的である。

S K 373土坑から出土した灰釉陶器碗は、割れ口に墨を塗布されていた。

S K 350土坑は覆土に十和田a火山灰の二次堆積ブロックを含み、灯明皿が比較的多く出土した。

S K 404土坑からは硯（パレット）に転用された「成」墨書須恵器蓋が出土した。

S K 438土坑からは内面に漆を塗布したのちに、掻き取った痕跡を持つ土師器坏が出土した。

S K 201土坑では、確認面で転用硯（パレット）として使用された土師器坏が、倒立して出土した。後述する土器埋設遺構の範疇に入れるべきものかも知れない。

（2）柱穴

375基（IV層上面～III層下部の未調査分94基・III層中15基・III層上面266基、詳細は附表1を参照されたい）

掘立柱建物跡もしくは柵列跡などを構成する柱穴群を各段階で検出し、柱穴内に柱材が遺存するものも36基検出した。

初期の段階、地山であるIV層上面で検出したS K P 538は掘形が1.14×0.9mで、直径30cmもの柱材が据えられていた。また未調査のため詳細は不明であるが、周辺から同等規模の遺構群が検出された。大部分は柱穴と考えられるため、古段階～中段階においては払田柵と同様、大型の掘立柱建物群が存在したことが明らかとなった。掘立柱建物跡の項で詳述する。S K P 202柱穴からは題籤軸が出土した。S B 904掘立柱建物跡を構成するS K P 443柱穴からは緑釉陶器碗が出土し、この建物に対する廃絶行為として埋納されたものと考えられる。

(3) 土器埋設遺構 9基(Ⅲ層上面)

多賀城跡周辺遺跡では、街路の周辺に坏や甕を埋設した遺構を複数検出しており、地鎮や除災などを目的として、悪霊などが入り込まないように、道路(辻)に対する祭祀として埋設したものと考えられている。厨川谷地遺跡においてもごく浅い掘形に坏を埋設した遺構を複数検出し、同様の遺構と考えられる。埋設された器は灯明皿や墨書土器が多く、これらは灯火行為などを含め祭祀に直接関係したことが明らかである。

土器埋設遺構はすべてⅢ層上面で確認した。しかしⅢ層中から出土した完形の灯明皿や墨書土器の中には、成立した状態で確認されたものもあり、本来的には埋没した土器埋設遺構であった可能性も想定できる。

S R158土器埋設遺構は灯明皿土師器坏を正位に2個体並べて埋設していた。S R159土器埋設遺構は土師器坏と内面に漆を塗布した坏とを正位に2個体に並べて埋設していた。S R173土器埋設遺構は土師器甕を埋設していた。S R174土器埋設遺構は外面に模様を墨書し、内面は転用硯(パレット)として使用した須恵器坏を埋設していた。S R308土器埋設遺構は口縁部を意図的に打ち欠いた土師器坏を埋設し、周辺にも土師器破片が散在していた。S R362土器埋設遺構は0.5×2m程度の範囲に、40点を超える土器類が横たわっていた。掘形ははっきりと確認できなかったが、溝状の部分に土器類を並べたものと思われる。周辺に土器埋設遺構が集中することから、払田柵へ通じる「道」との関連があるのかもしれない。埋設された土器類は土師器坏が多数を占めるが、須恵器壺甕類の転用硯も含まれる。S R398土器埋設遺構(第71図)は土師器甕を2個体横位に重ねて埋設したものである。内側第71図2は広域接合須恵器壺甕類と同様の工程で、意図的に破碎した後の特定破片に油煙を付着させたものと考えられる。S R436土器埋設遺構は土師器甕が礫群とともに埋設されている。

(4) 溝状遺構 26条(Ⅲ層上面、詳細は附表1を参照されたい)

Ⅲ層上面で26条の溝状遺構を検出した。しかし大半は近世以降の水田区画に伴う用排水路跡と考えられる。

S D445およびS D447は前記水田区画に伴う排水路跡であるが、これ自体が平安時代の湧水点S B地区(S K532)および河川流路の位置を踏襲しており、該期の遺物が多数出土するため、本項に含めた。

(5) その他の土坑 14基(Ⅳ層上面～Ⅲ層下部検出の未調査分4基・Ⅲ層上面10基、
詳細は附表1を参照されたい)

厨川谷地遺跡における初期の段階、地山であるⅣ層上面で検出した4基には600番台の遺構No.を附した。Ⅳ層上面で検出した他の遺構のほとんどは、S K P538柱穴同様の掘立柱建物か、柵列を構成する柱穴と考えられるが、不整形の4基についてこの項に含めた。

(6) 旧河道 2条(Ⅲ層上面) ※遺構番号を割り当てたもののみ

広大な河川氾濫原の中に調査区が立地するため、調査区全域に河川流路がある。また調査区は「厨川谷地」という名称に表されるとおり、低位で、現況でも低湿・湿潤で周囲から水が集まってくるため、「谷地堰」と呼ばれる幹線排水路が調査区の西辺を南流する。

調査区を蛇行しながら西流する旧河道には自噴する複数の湧水点(甲A・乙A地区など)があり、その周辺は祭祀域として使用され、多量の祭祀遺物が出土した。またトレンチ調査により概要を把握

した乙地区より上流側（東側）の旧河道からも、多量の斎串・墨書土器などが出土した。旧河道に囲まれる微高地上には祭祀遺構群が展開するが、その西辺を画するSL407旧河道からもまた多量の祭祀遺物が出土した。

これらの河川流路は、「水辺」「湧水点」という自然に形成された地形そのものが祭祀の場として使用されているため、区域を厳密に括ることが困難であり、出土遺物について次節で詳述することとする。

(7) 掘立柱建物跡 6棟（附図2を参照）

IV層上面～Ⅲ層上面から、SKP538柱穴のように大規模な掘形を持つ柱穴を複数検出し、6棟の掘立柱建物跡を確認した。前述したとおりIV層上面～Ⅲ層下部の遺構については柱穴そのものを掘り下げた調査はしておらず、柱穴の平面配置から想定した掘立柱建物跡である。そのため掘立柱建物跡を構成する柱穴であっても、個々に柱穴としての遺構番号を附している。

SB901掘立柱建物跡は南北1間（7尺）×東西1間（10尺）の規模を有し、柱穴は4基ともIV層上面で検出した。

SB902掘立柱建物跡は南北2間（7尺）×東西1間（10尺）の規模を有し、柱穴は5基をIV層上面で、1基をⅢ層上面で検出した。

SB903掘立柱建物跡は南北2間（9尺）×東西1間（10尺）の規模を有し、柱穴は4基をIV層上面で、1基をⅢ層上面で検出した。もう1基はSK507土坑内に位置すると考えられるが、調査時には検出できなかったため、この土坑に壊された可能性がある。

SB904掘立柱建物跡は南北1間（12尺）×東西2間（10尺）の規模を有し、柱穴は5基をIV層上面で、1基をⅢ層上面で検出した。

SB905掘立柱建物跡は南北1間（7尺）×東西1間（7尺）の規模を有し、柱穴は2基をIV層上面で、2基をⅢ層上面で検出した。

SB906掘立柱建物跡は南北1間（7尺）×東西2間（10尺）の規模を有し、柱穴は3基をIV層上面で、1基をⅢ層中で、2基をⅢ層上面で検出した。

「SB904・905」、「SB901・902」、「SB903・906」の掘立柱建物跡が、軸線を共有する2棟一組の建物跡群となる。Ⅲ層上面で検出した柱穴はIV層上面で検出したものより相対的に新しく、この段階まで遺存した柱材のアタリ部分を検出したものと考えられる。6棟の建物それぞれの柱穴検出面から、概ね北側の掘立柱建物跡が古いことが想定でき、また間尺の広いものほど古い段階と考えられるため、

「SB904・905掘立柱建物跡」→「SB901・902掘立柱建物跡」
→「SB903・906掘立柱建物跡」

と建物群が変遷したと考えられる。柱穴すべてをⅢ層上面で検出できた建物跡は皆無であるため、柱穴の下限は9世紀末～10世紀初頭頃と思われ、該期にはすべての掘立柱建物が滅失している。

SB904掘立柱建物跡を構成するSKP443柱穴からは9世紀後半代の洛西産緑釉陶器碗が出土し、廃絶行為に伴い埋納されたものと考えられる。このSB904掘立柱建物跡のみ、12尺の間尺を使用しており、最も立派な構造を有することから創建時の建物である可能性が高い。他の建物は概ね10尺と7尺の間尺に限定され、桁行の方が梁間よりも短い間尺を取る様である。またSB904と対をなすSB905掘立柱建物跡を構成するSKP502柱穴の上位からSR436土器埋設遺構が検出されており、や

はり廃絶行為に伴い柱穴位置に土師器甕と礫を埋設したと思われる。

S B 903およびS B 906掘立柱建物跡は前記した傾向に従わず、また構成する柱穴の半数はⅢ層上面段階まで遺存した可能性があり、相対的に新しく考えることが妥当である。また柵列跡との重複もあり、事項で説明する。

(8) 柵列跡

15列 (附図2を参照)

Ⅳ層上面～Ⅲ層上面から、直線状に並ぶ小柱穴および遺構内ピットで構成されるS A 1001～1015柵列跡を確認した。Ⅳ層上面～Ⅲ層下部で28基・Ⅲ層中から4基・Ⅲ層上面84基の、合計116基の小柱穴および遺構内ピットが関わる。前項で説明したとおり未調査の柱穴が含まれるため、柱穴の平面配置から想定した柵列跡である。そのため柵列跡を構成する柱穴であっても、個々に柱穴としての遺構番号を附している。前項と同様、Ⅲ層上面で検出した柱穴はⅣ層上面で検出したものより相対的に新しく、この段階まで遺存した柱材のアタリ部分を検出したものと考えられる。

Ⅳ層上面～Ⅲ層下部およびⅢ層中で検出した柱穴が半数以上関わるのが、S A 1002～1005柵列跡である。

S A 1004・1005柵列跡はより下位のⅣ層上面で検出した柱穴で構成される傾向が強く、S A 1002・1003柵列跡より相対的に古い段階と考えられる。S A 1004・1005柵列跡は微高地上において北側の掘立柱建物による祭祀域と、南側の湧水点を中心とする水辺の祭祀域を区画するために設けられた柵列と考えられる。

S A 1002・1003柵列跡は東西方向に並行し、S L区・甲区とともにS B 904・905およびS B 901・902掘立柱建物跡の四方を区画しており、これらの祭祀屋に伴う目隠し塀として機能した柵列と考えられる。この目隠し塀が存続した間にS B 904・905掘立柱建物→S B 901・902掘立柱建物へと遷地し、その後は既に滅失していたと思われるS A 1004・1005の位置にS B 903・906掘立柱建物が設けられたと考えられる。

Ⅲ層上面で検出した柱穴はⅣ層上面で検出したものより相対的に新しく、この段階まで遺存した柱材のアタリ部分を検出したものと考えられるため、前掲した以外の柵列については10世紀代に存続したと思われる。

2 中世以降の遺構と遺物

厨川谷地遺跡は、埋納された甕入り中国銭が発見されたために、従来から中世遺跡として周知されていた。確認調査時には谷地堰西側(仙北町域)で中世陶器らしい破片が見つかったが、今回の調査区内では出土しなかった。中世遺物としては乙B地区周辺の旧河道から出土した中国銭が挙げられる。

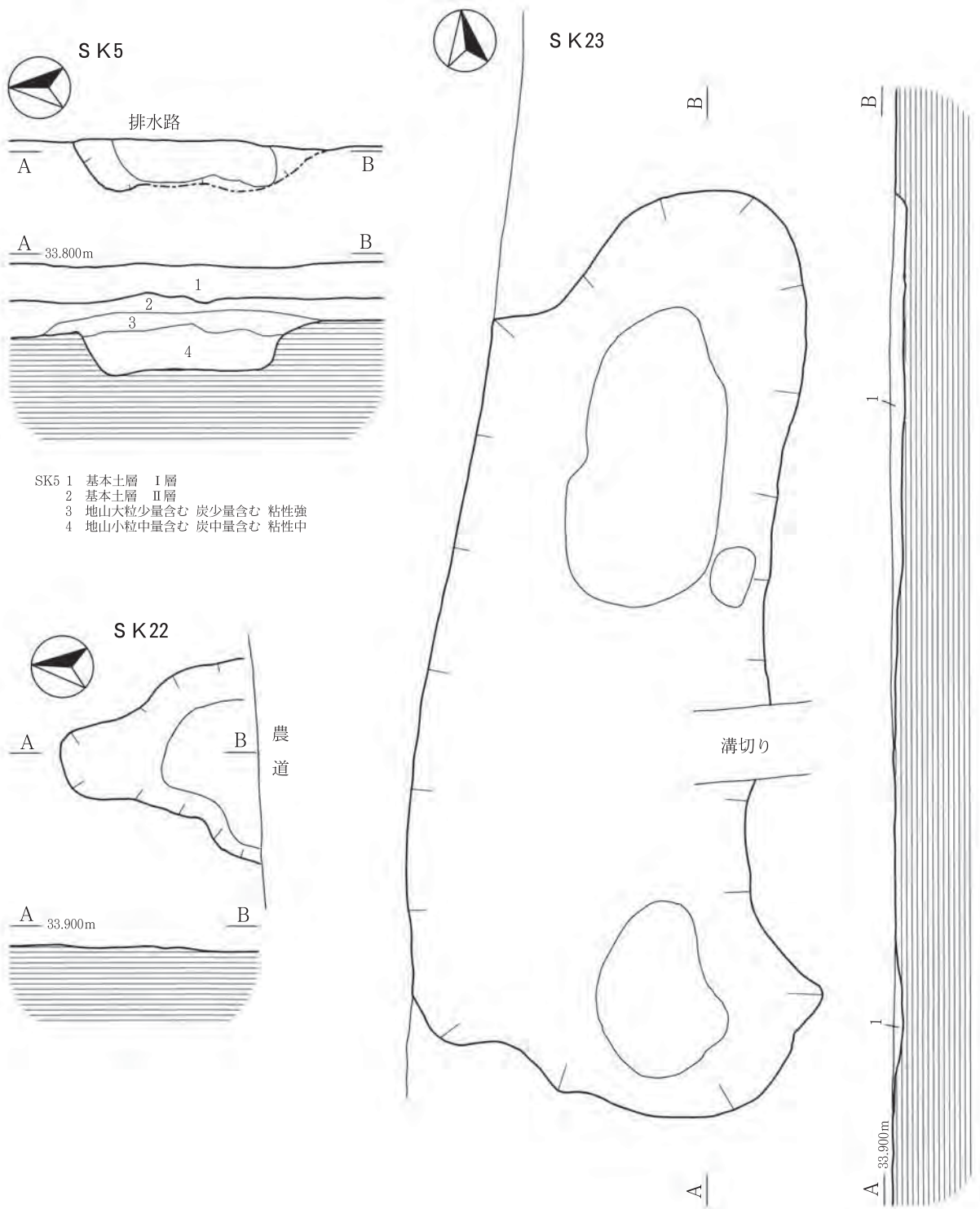
S D 224A溝状遺構からは寛永通宝が出土し、重複してこれより新しいS D 224B溝状遺構とともに江戸時代以降の溝跡の可能性が高い。また平安時代遺物を多量出土し、祭祀の場としても使用されているS D 445・446溝状遺構も旧水田区画に沿うことから、近世以降に排水路として使用されたと考えられる。S D 445溝状遺構の連続と考えられるS D 31溝状遺構、それに直交するS D 83溝状遺構も同様であろう。調査区を東西に横断する農道を挟み、調査区全域から旧水田区画を確認したことから、周囲に関連する溝跡が展開すると思われる。特に農道以北の範囲には、低地の埋め立て盛土も含めた農業関連遺構を確認した。明治～大正期の地籍図に描かれているものと同様の区画であり、大正年間の耕地整理以前の水田区画は近世まで遡ることが想定できるため、遺物が出土しない時期不明遺構のほとんどは近世以降のものであろう。

遺構内出土遺物(5)

単位 (cm)

挿図	No.	遺構 No.	註記	接合破片	種類・器種	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考
68	3	SR 159	RP1		土師器坏	SB	-	(16.0)	6.8	5.4	
68	4	SR 159	RP2	RP2, LT45白ローブ内Ⅱ	土師器坏内漆	SB	-	(12.8)	5.4	4.7	
69	1	SR 173	RP1		土師器甕	その他	-	(10.15)	6.0	7.6	植物遺体有
69	2	SR 174	RP1		墨書須恵器坏, ◎	その他	-	14.1	5.3	4.0	
69	3	SR 308	RP1		土師器坏	その他	-	(13.0)	5.0	4.2	
70	1	SR 362	RP5		土師器坏	その他	-	12.5	5.2	5.4	
70	2	SR 362	RP15		土師器坏	その他	-	(12.85)	(6.05)	4.8	SK262→SR362
70	3	SR 362	RP43	RP43, RP44	土師器坏	その他	-	(12.9)	-	-	
70	4	SR 362	RP17	RP17, RP22, RP31, RP32, RP33	土師器坏	その他	-	12.3	5.5	5.45	
70	5	SR 362	RP7		土師器坏	その他	-	(12.4)	(5.0)	5.4	
70	6	SR 362	RP19		土師器坏	その他	-	-	5.5	-	
70	7	SR 362	RP36		須恵器甕, ◎	その他	-	-	(10.8)	(10.0)	
71	1	SR 398	RP7~12	RP7~12, RP14, RP15, RP18, RP19, RP20, RP21, RP22, RP24, RP28, RP29, RP30, RP31, RP33, RP37, RP38, RP40, 埋設	土師器甕	SL	(22.1)	21.8	7.5	30.5	
71	2	SR 398	RP16	RP16, RP17, RP25, RP27, RP36, RP35, RP1, RP34, 埋設土器	土師器甕, ★	SL	21.6	21.3	-	33.7	
72	1	SR 436	RP11		土師器甕	SB	(20.0)	(18.0)	-	(8.2)	
78	1	SX 167	RP160		土師器坏灯明皿	その他	-	14.1	5.6	5.2	
79	1	SK 502	埋土中		土師器坏	SL	-	(14.0)	6.0	4.75	
79	2	SK 502	埋土中		墨書須恵器坏, ◎	SL	-	(12.2)	(4.8)	(3.0)	内墨全面墨
79	3	SK 502	埋土中	埋土中, MC43Ⅲ層, ME43Ⅲ層	須恵器坏	SL	-	-	5.0	(1.6)	タール付着
80	1	SK 513	RP5		土師器坏	SB	-	14.0	5.0	5.2	
80	2	SK 513	RP2		土師器坏	SB	-	(13.6)	5.4	4.9	
80	3	SK 513	RP3		墨書土師器坏	SB	-	(11.4)	-	-	
80	4	SK 505	埋土中		墨書須恵器坏	SB	-	-	-	-	
80	5	SK 513	埋土中	埋土中, RP1	墨書土師器坏	SB	-	(12.6)	(5.8)	5.1	
80	6	SK 513	埋土中		へら書土師器坏	SB	-	-	-	-	
80	7	SK 513	RP3		へら書土師器坏	SB	-	-	4.1	5.2	
81	1	SK 506	埋土中		内黒土師器坏	SB	-	(12.8)	-	(4.9)	
81	2	SK 506	埋土中		内黒土師器坏	SB	-	(13.4)	5.8	6.35	
81	3	SK 506	埋土中		土師器坏	SB	-	15.1	7.0	6.2	
82	1	SK 507	埋土中		土師器坏	SB	-	(12.7)	6.0	5.7	
82	2	SK 507	埋土中		土師器坏	SB	-	(12.4)	5.3	5.2	
82	3	SK 507	埋土中		土師器坏	SB	-	(12.4)	(5.7)	4.7	
82	4	SK 507	RP8		土師器坏	SB	-	13.5	4.3	5.8	
82	5	SK 507	埋土中	埋土中, MA41Ⅰ層, MC48Ⅱ層, MD45BⅢ層, ME44Ⅱ層, MB40Ⅱ層, MC45	須恵器	SB	-	-	-	(8.0)	付着物有
83	1	SK 507	埋土中	埋土中, MD43DⅢ層RP2	墨書須恵器坏	SB	-	13.75	5.8	4.5	
83	2	SK 507	埋土中		墨書須恵器坏	SB	-	13.0	5.6	(3.9)	回転へら切り
83	3	SK 507	埋土中	埋土中, RP4	墨書須恵器坏	SB	-	(11.6)	(5.9)	(4.5)	
83	4	SK 507	埋土中		墨書須恵器坏	SB	-	-	7.4	(2.6)	回転へら切り
83	5	SK 507	埋土中		墨書須恵器坏	SB	-	-	6.0	(1.0)	回転へら切り
83	6	SK 507	埋土中		墨書須恵器坏	SB	-	-	(4.4)	(1.3)	
83	7	SK 507	RP1, 3	RP1・3, MD44Ⅱ層, MD45AⅢ層, MD45Ⅱ層	墨書須恵器蓋	SB	-	15.8	-	3.6	つまみ径3.1cm
84	1	SK 508	埋土中		墨書土師器坏	SL	-	-	5.2	(1.6)	
84	2	SK 508	RP1		須恵器壺, ☆	SL	-	-	10.55	(17.5)	植物遺体有, 割れ口墨付着
84	3	SK 509	埋土中		墨書土師器坏	その他	-	-	5.8	(3.0)	
84	4	SK 509	埋土中		土師器坏灯明皿	その他	-	-	5.3	5.0	
84	5	SK 509	埋土中		土師器坏灯明皿	その他	-	(13.0)	5.3	5.25	
85	1	SK 515	埋土中		墨書須恵器坏, ☆	SB	-	13.5	4.8	3.45	内墨
86	1	SK 520	RP2		墨書須恵器坏	その他	-	(13.7)	(5.2)	5.1	
86	2	SK 520	埋土中	埋土中, SK165埋土中, SK334埋土中	須恵器脚付風字二面硯, ☆	その他	-	(11.8)	(8.8)	3.3	
87	1	SK 527	Ⅲ層RP1		土師器坏灯明皿	SB	-	12.4	4.6	4.7	
87	2	SK 530	埋土中RP19	埋土中RP19, MT49Ⅲ層, MA48CⅢ層	内黒土師器坏	SB	-	(21.5)	-	4.7	
88	1	SK 530	埋土中	埋土中, RP14	土師器坏	SB	-	(13.6)	(4.0)	4.5	
88	2	SK 530	RP4		土師器坏	SB	-	13.75	5.2	4.7	
88	3	SK 530B	RP4	RP4, MA48Ⅲ層	土師器坏	SB	-	(13.6)	5.2	4.9	
88	4	SK 530	埋土中	埋土中, RP2	土師器坏	SB	-	(15.7)	6.5	5.3	
88	5	SK 530	埋土中	埋土中, RP18, RP20	土師器坏	SB	-	(13.1)	5.6	5.2	
88	6	SK 530	埋土中	埋土中, RP8, RP14	土師器坏	その他	-	13.5	4.5	5.3	
88	7	SK 530	Ⅲ層RP13		墨書土師器坏	SB	-	14.3	(5.0)	5.0	内面に刻書×/x
88	8	SK 530	埋土中		へら書土師器坏	SB	-	-	(5.0)	(1.55)	
88	9	SK 530	RP13		土師器坏灯明皿	SB	-	(13.2)	5.0	5.0	
88	10	SK 530	埋土中	埋土中, RP13, RP14, RP16	土師器坏灯明皿	SB	-	(12.75)	(5.0)	4.9	
88	11	SK 530	埋土中		土師器坏灯明皿	SB	-	13.1	4.8	4.9	
89	1	SK 530	Ⅲ層RP6		土師器坏内漆	SB	-	(14.0)	5.4	5.0	
89	2	SK 530	Ⅲ層RP9	Ⅲ層RP9, RP11, RP19, 埋土中, SK530BRP7, MA48Ⅲ層	土師器甕	SB	(23.0)	(21.0)	-	(27.2)	叩き成形
89	3	SK 530	埋土中	埋土中, RP17	土師器甕砂底	SB	(18.0)	-	10.4	(10.7)	
89	4	SK 530	埋土中	埋土中, SL06埋土中, MA41Ⅱ層, MB41Ⅲ層, LR41盛土層, LR42盛土層, LS40RP57	須恵器壺, ☆	SB	(18.1)	-	-	(12.7)	
89	5	SK 530			アメリカ式石鏝	SB	-	3.0	1.6	0.45	1.5g

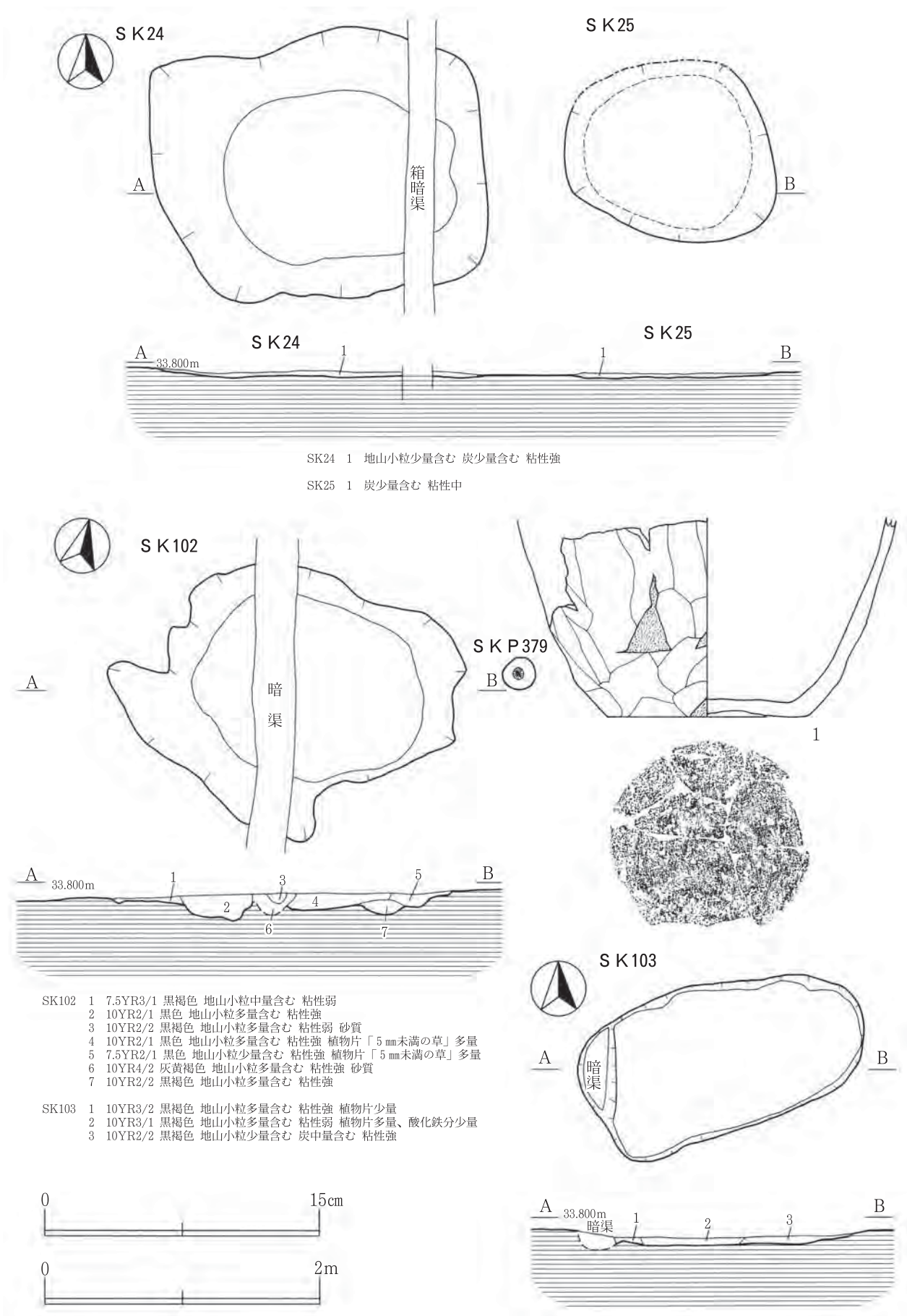
※「種類・器種」中、転用硯類の記号凡例。☆(祭祀関連)、●(内面に墨塗布)、◎(転用硯)、△(その他)



SK23(北側) 1 地山小粒中量含む 炭多量含む 粘性強
(南側) 1 地山小粒少量含む 炭中量含む 粘性強

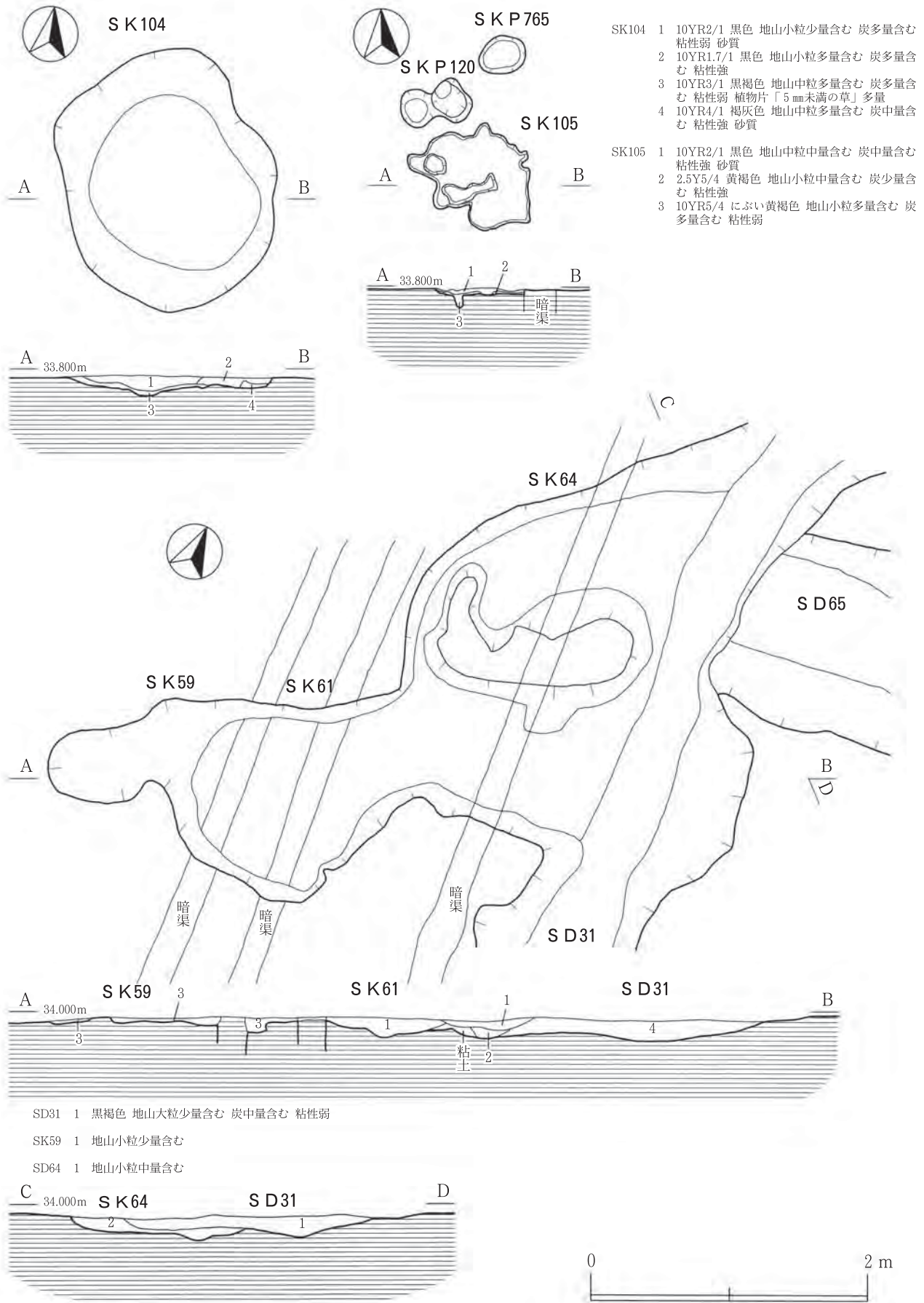


第1図 SK5・22・23土坑

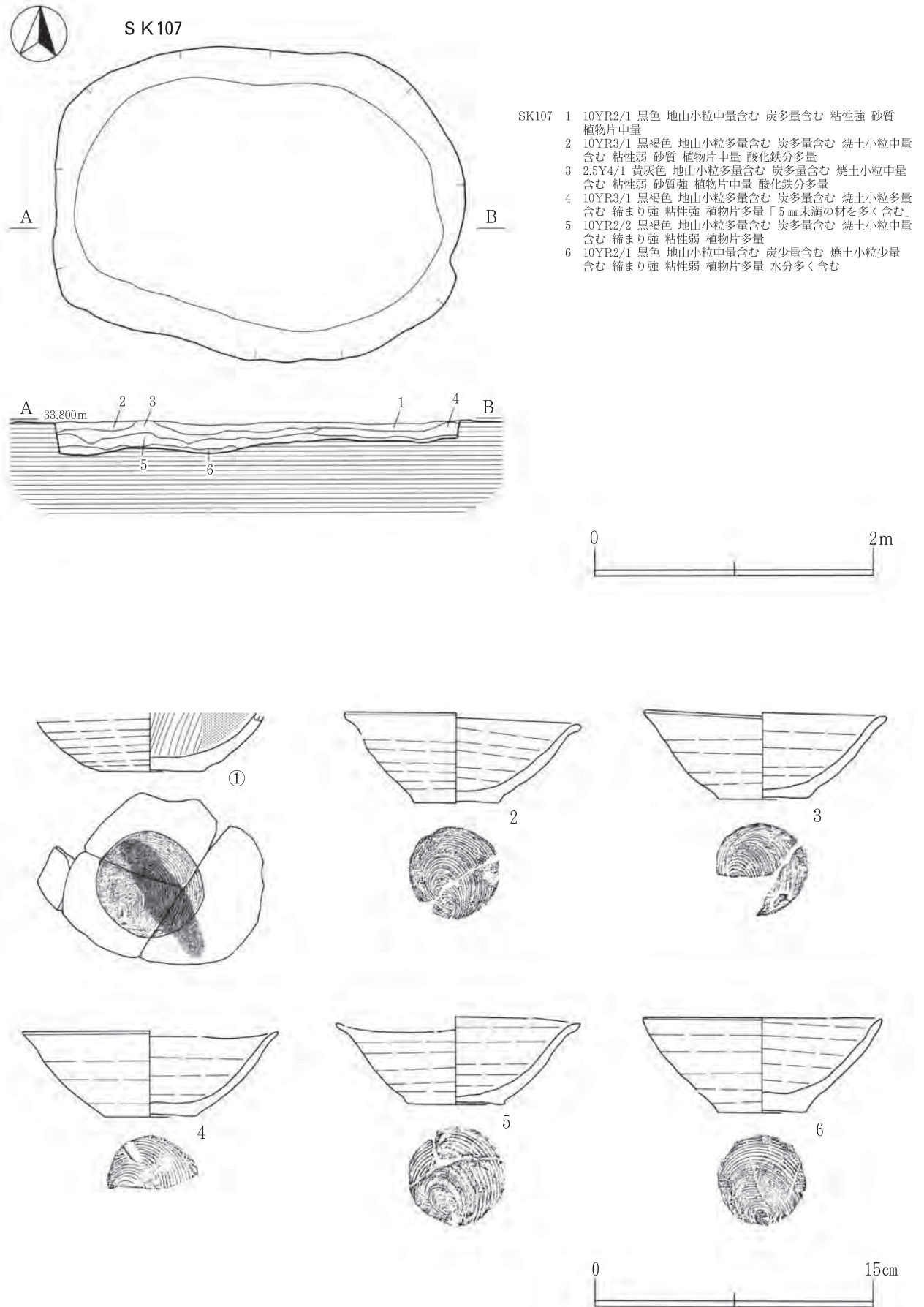


第2図 SK24・25・102・103土坑と出土遺物

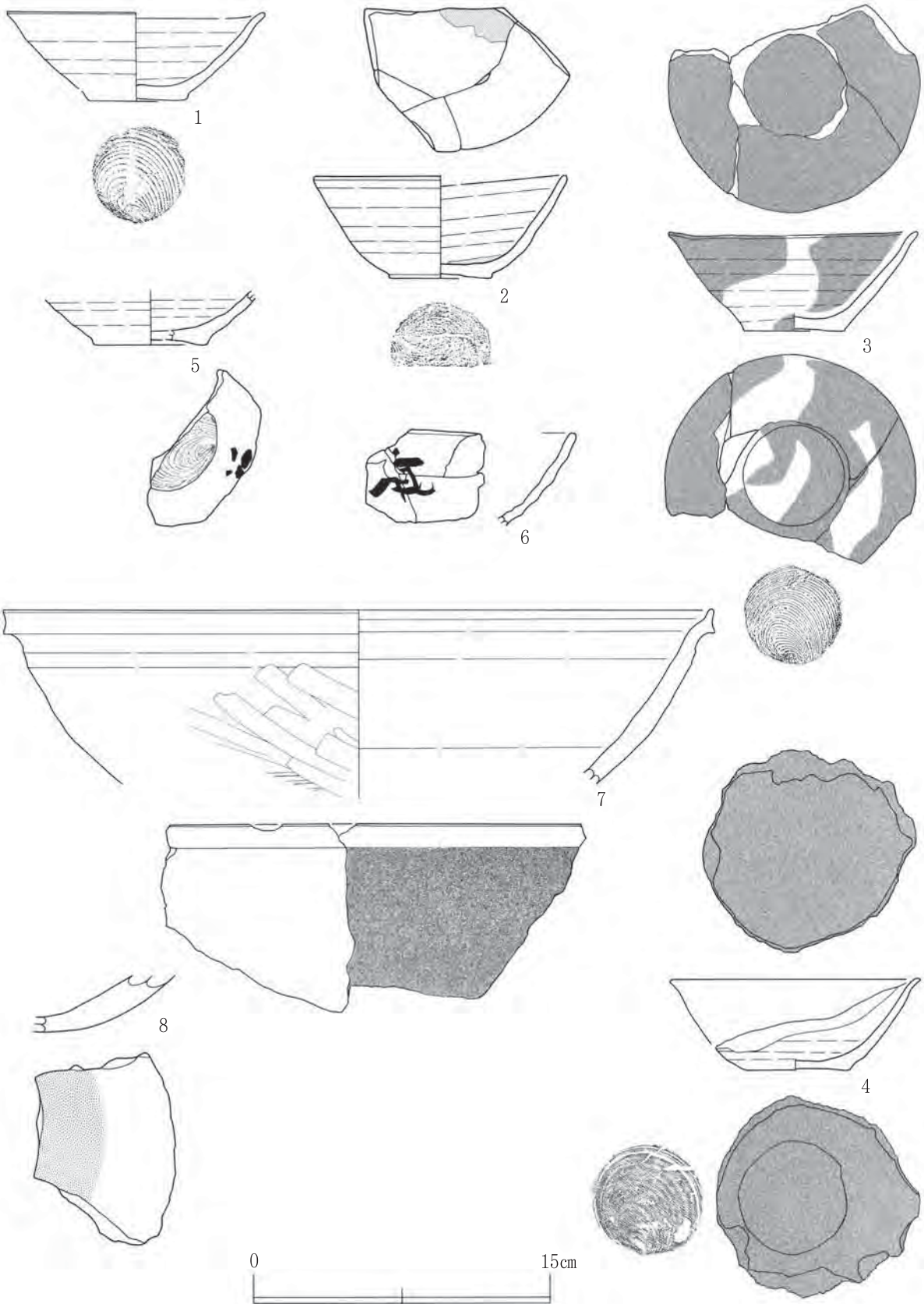
第4章 調査の記録



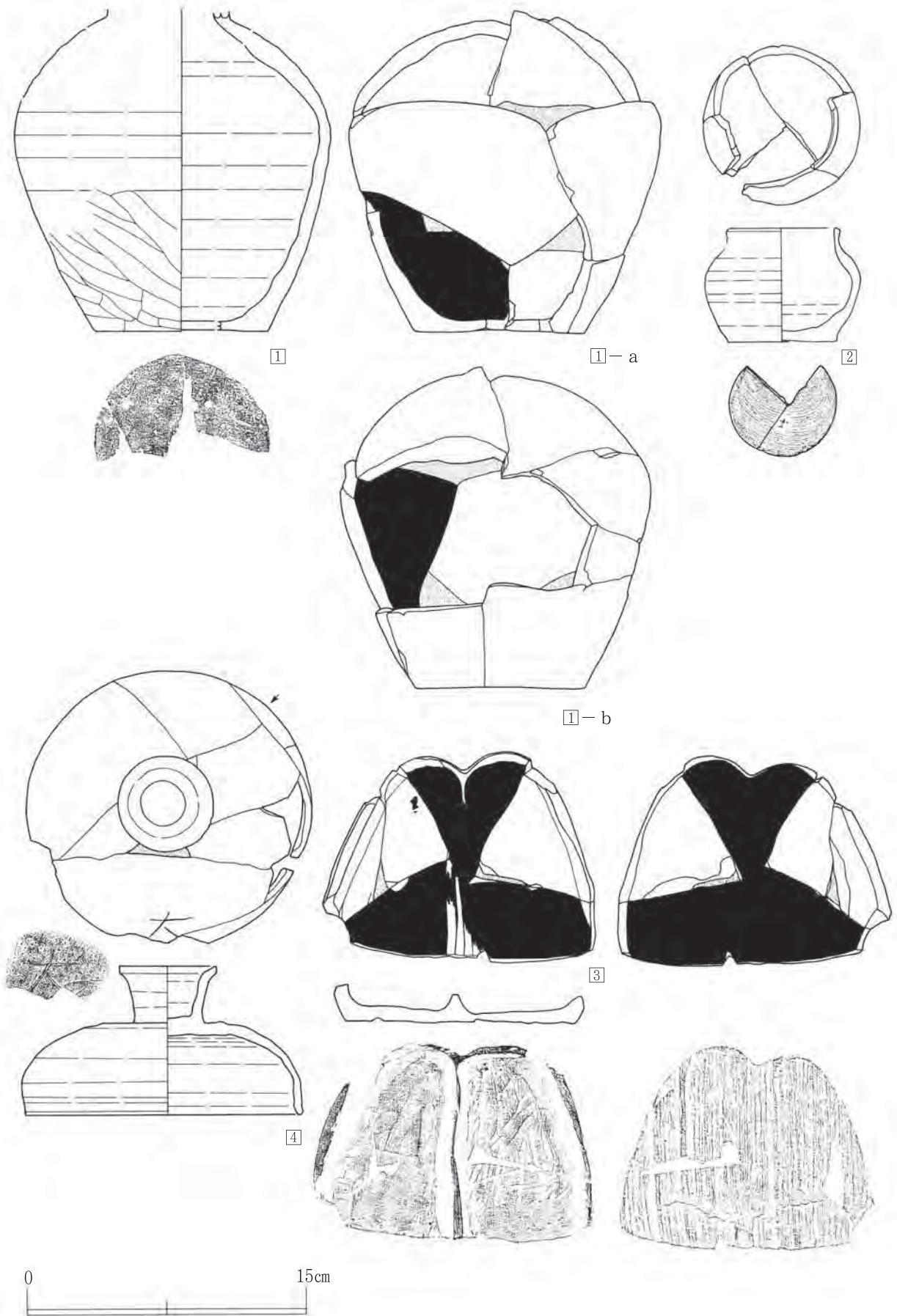
第3図 SK59・61・64・104・105土坑、SD31溝状遺構



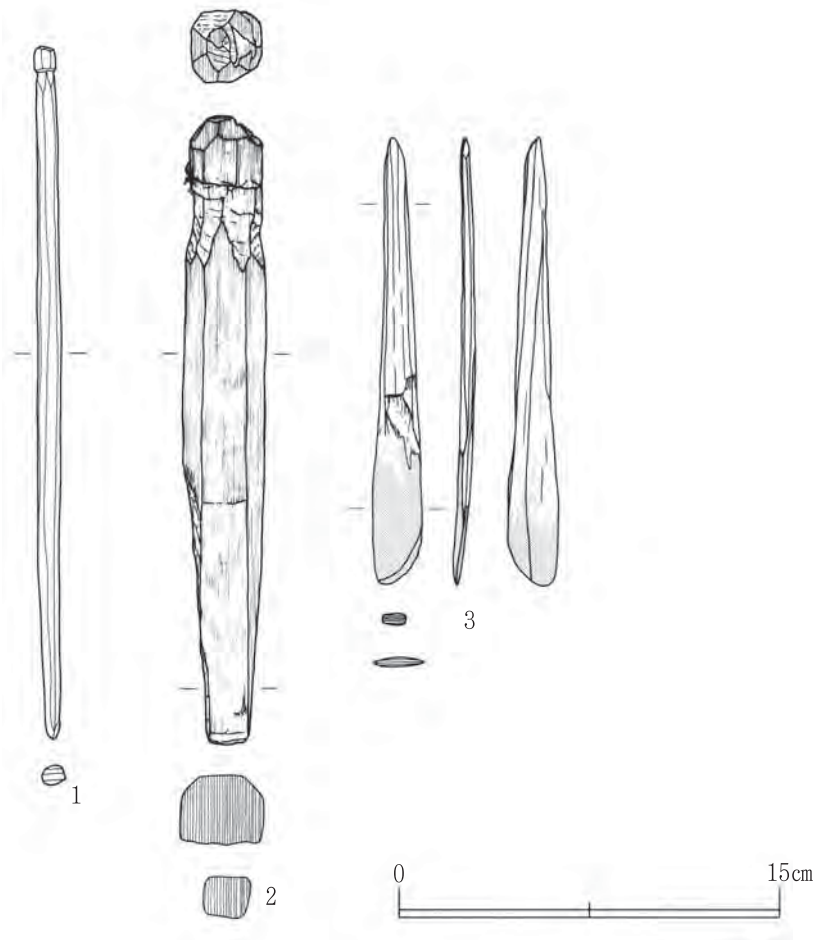
第4図 SK107土坑と出土遺物



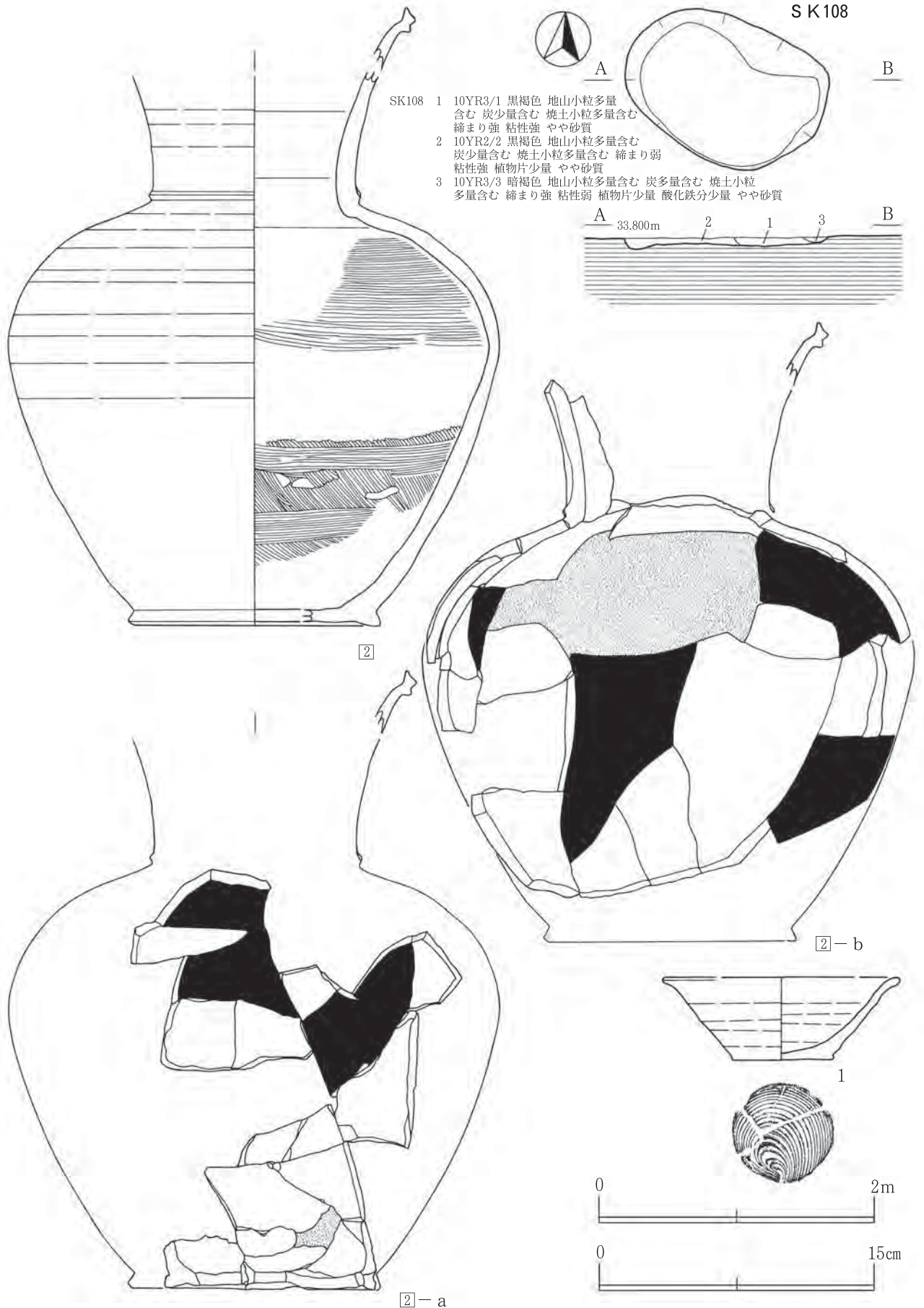
第5図 SK107土坑出土遺物（1）



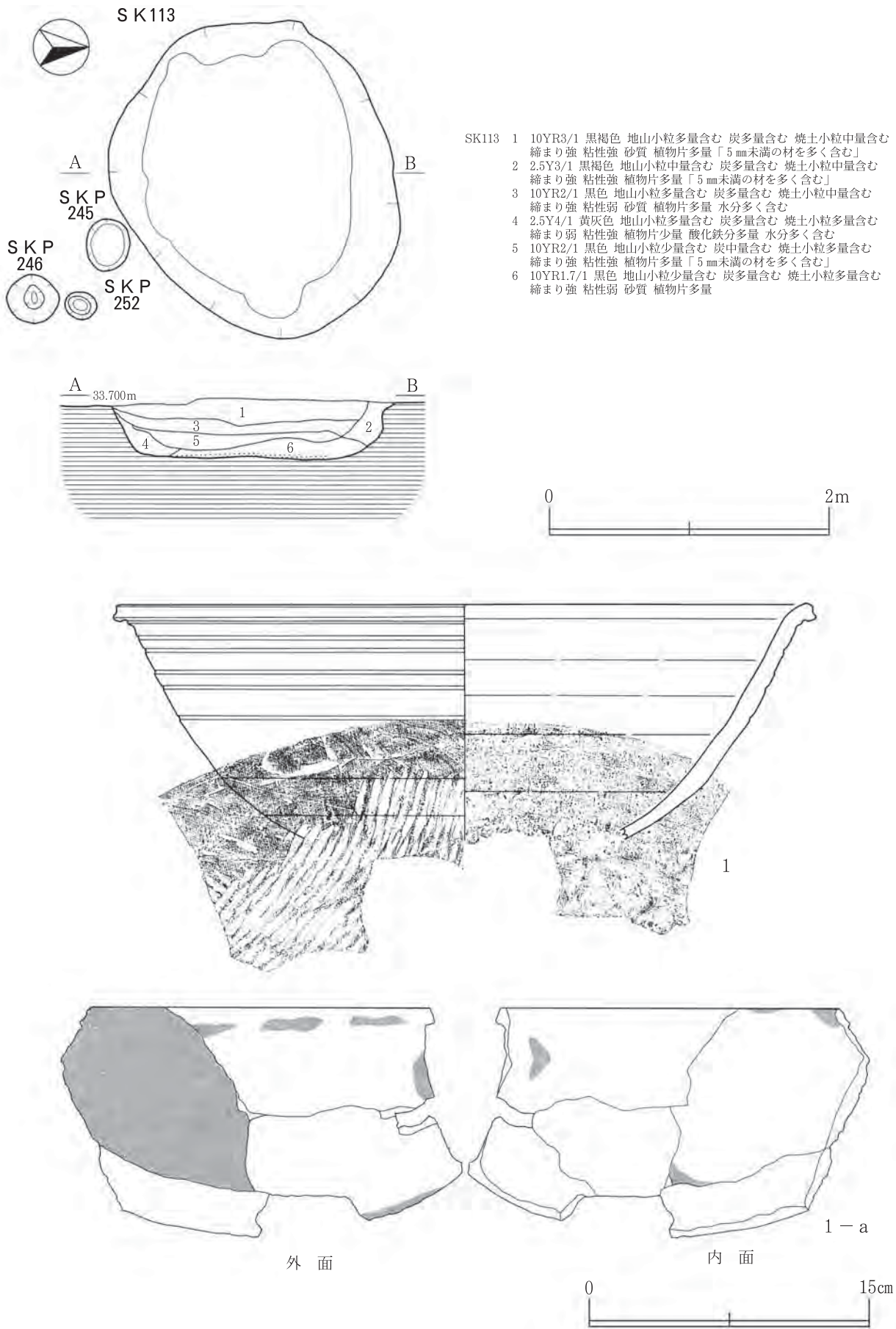
第6図 SK107土坑出土遺物（2）



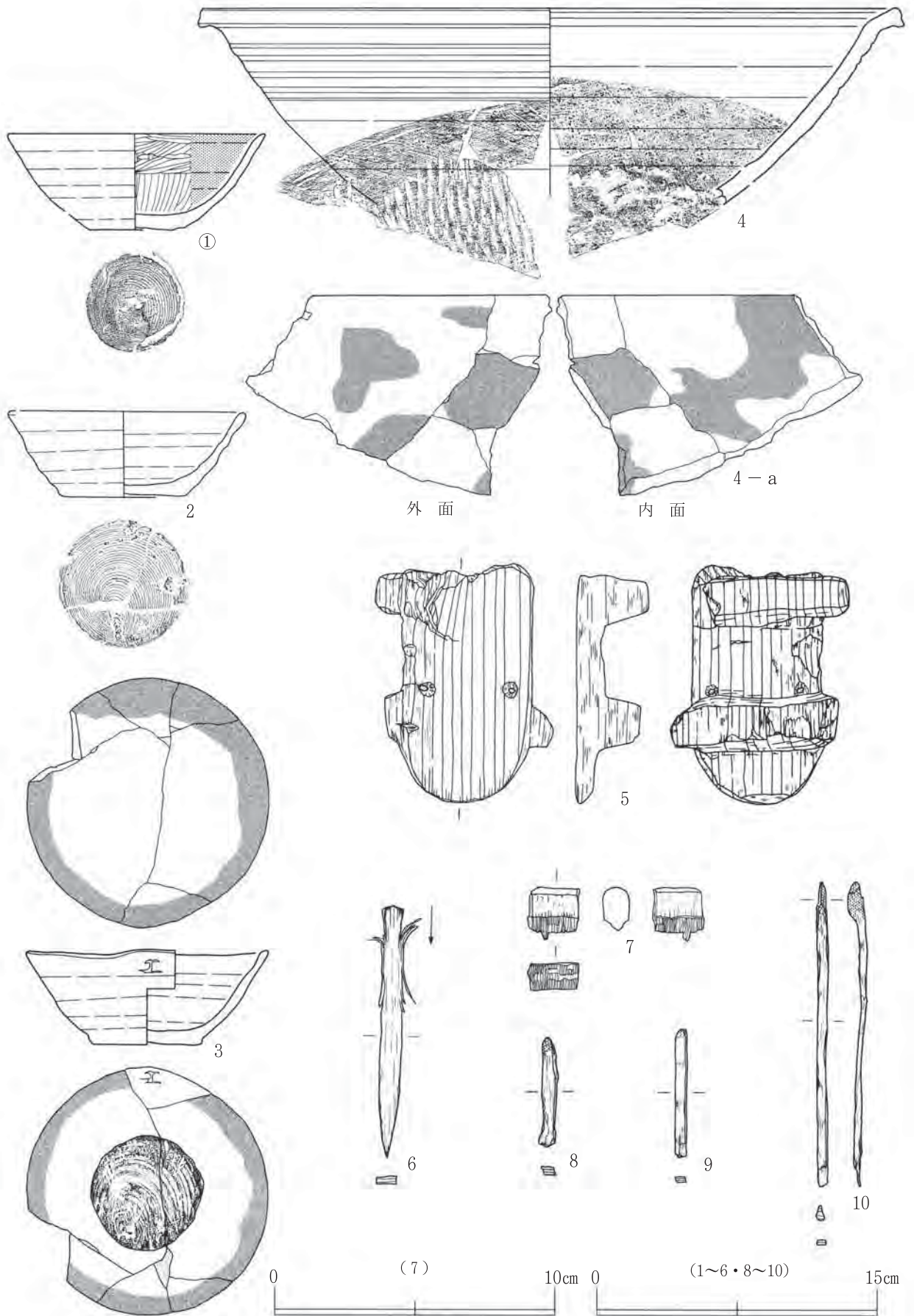
第7図 SK107土坑と出土遺物（3）



第8図 SK108土坑と出土遺物

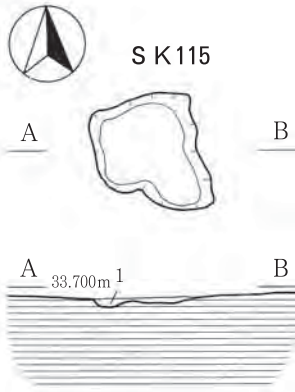


第9図 SK113土坑と出土遺物

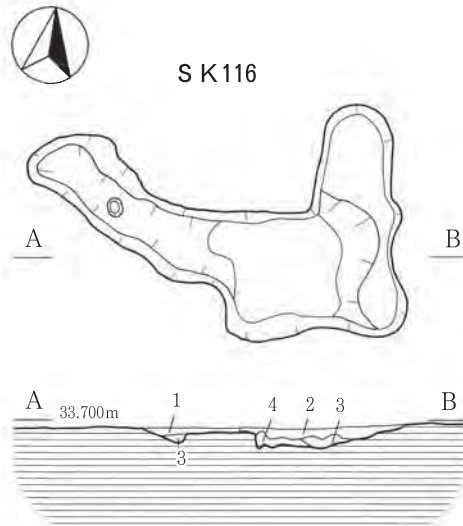


第10図 SK113土坑出土遺物

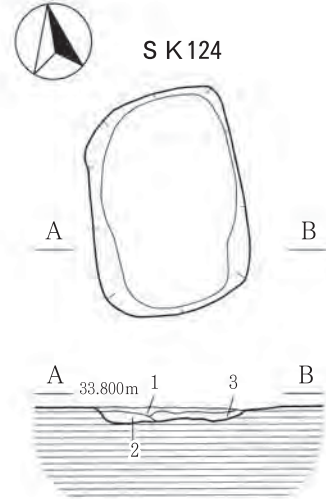
第4章 調査の記録



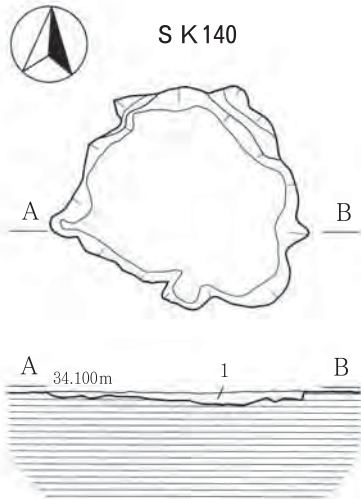
SK115 1 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量
含む 炭多量含む 締まり弱 粘性弱
砂質



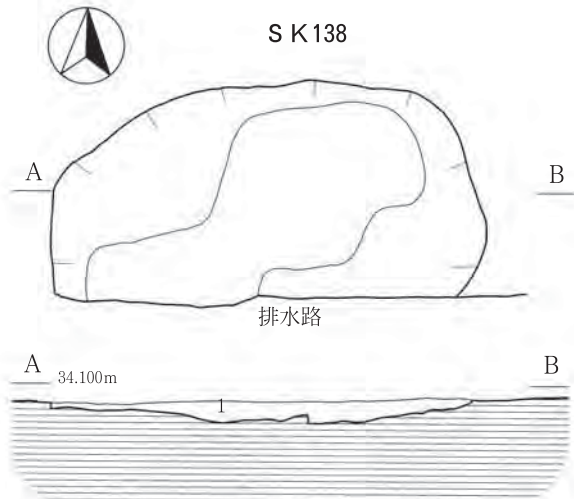
SK116 1 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む 炭少量含む
締まり強 粘性強 砂質
2 10YR3/1 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む
締まり強 粘性強 砂質
3 10YR2/2 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む
締まり強 粘性強
4 10YR2/1 黒色 地山小粒少量含む 炭少量含む
締まり弱 粘性弱



SK124 1 7.5YR3/1 黒褐色 地山小粒多量
含む 炭少量含む 焼土小粒多量
含む 締まりやや強 粘性弱
2 10YR3/1 黒褐色 地山小粒中量
含む 炭少量含む 焼土小粒多量
含む 締まり強 粘性弱
3 10YR2/3 黒褐色 地山小粒中量
含む 炭少量含む 焼土小粒中量
含む 締まり弱 粘性強 砂、少量



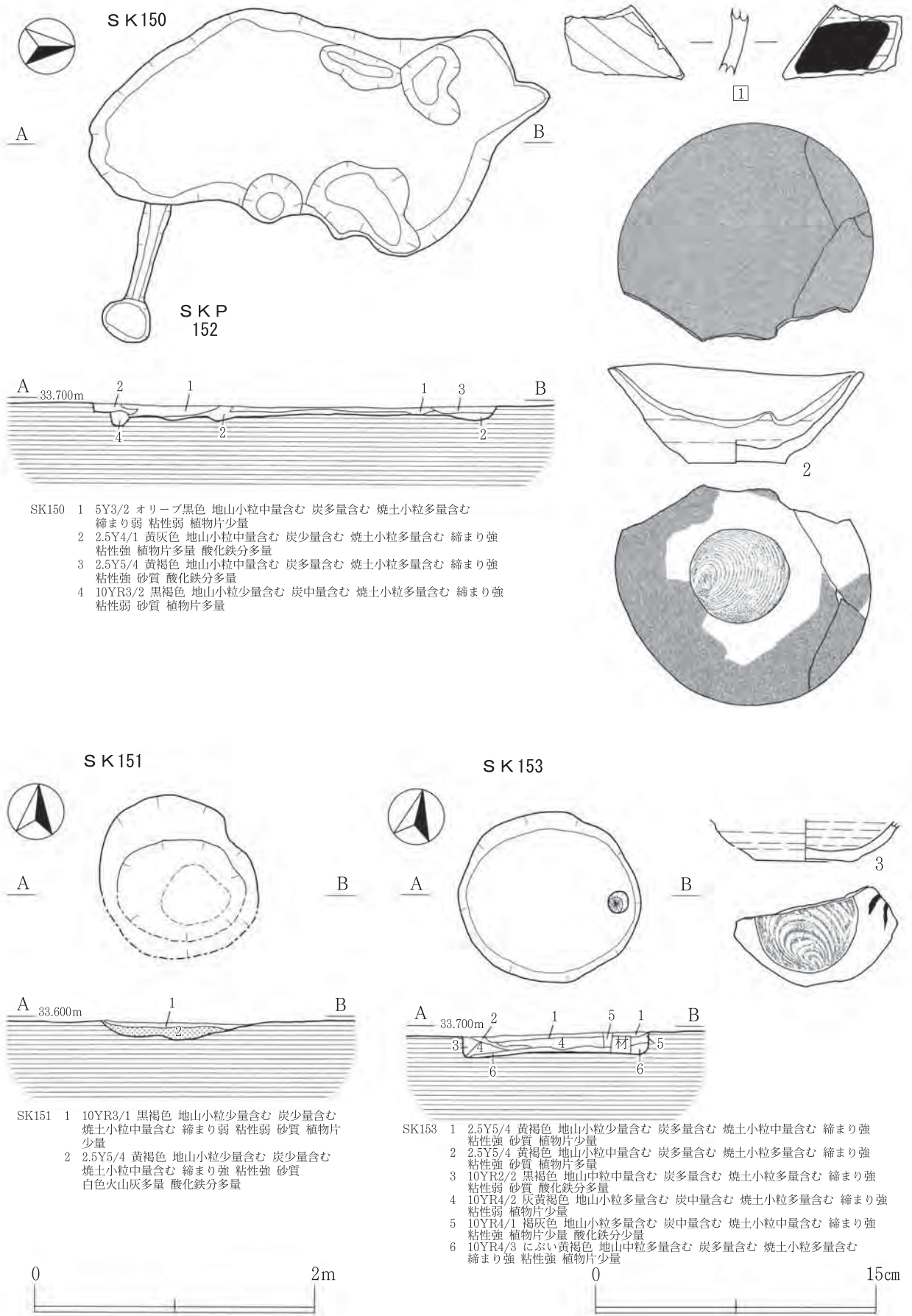
SK140 1 10YR2/3 黒褐色 地山小粒中量含む 炭多量含む
焼土小粒中量含む 締まり弱 粘性強



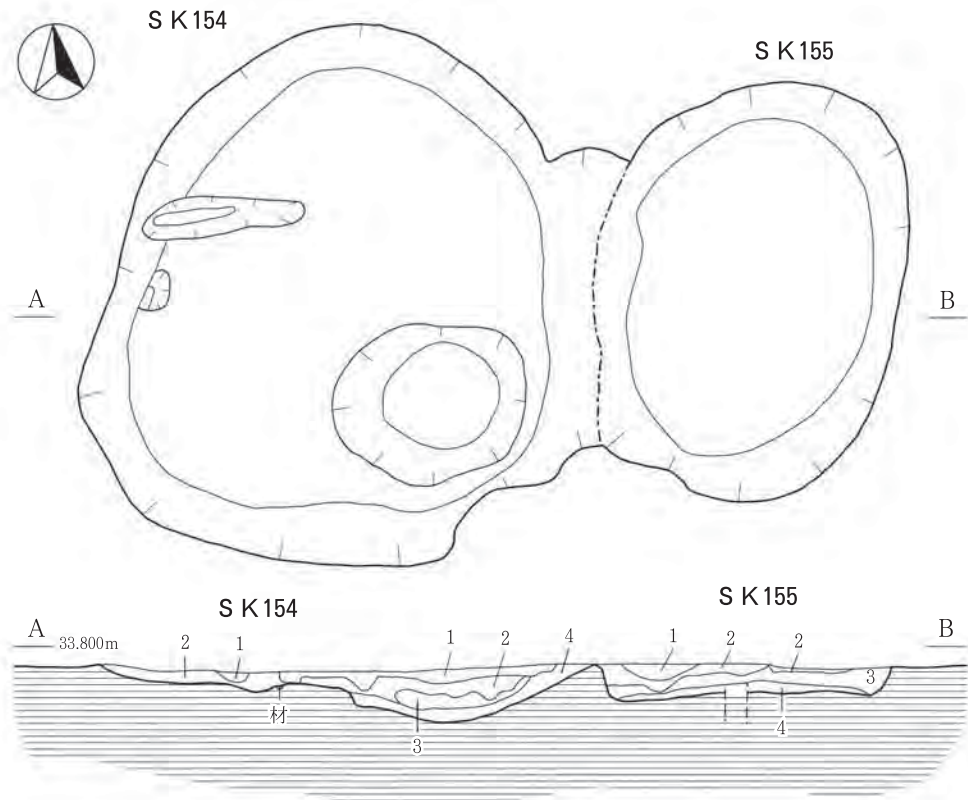
SK138 1 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 焼土小粒多量含む
締まり弱 粘性弱



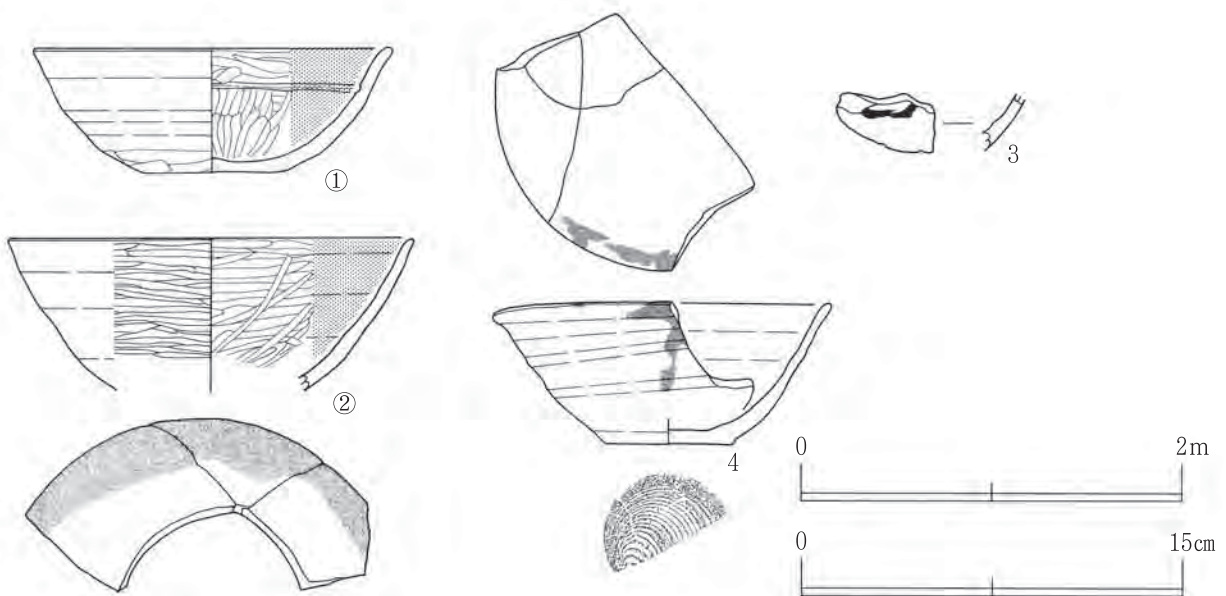
第11図 SK115・116・124・138・140土坑



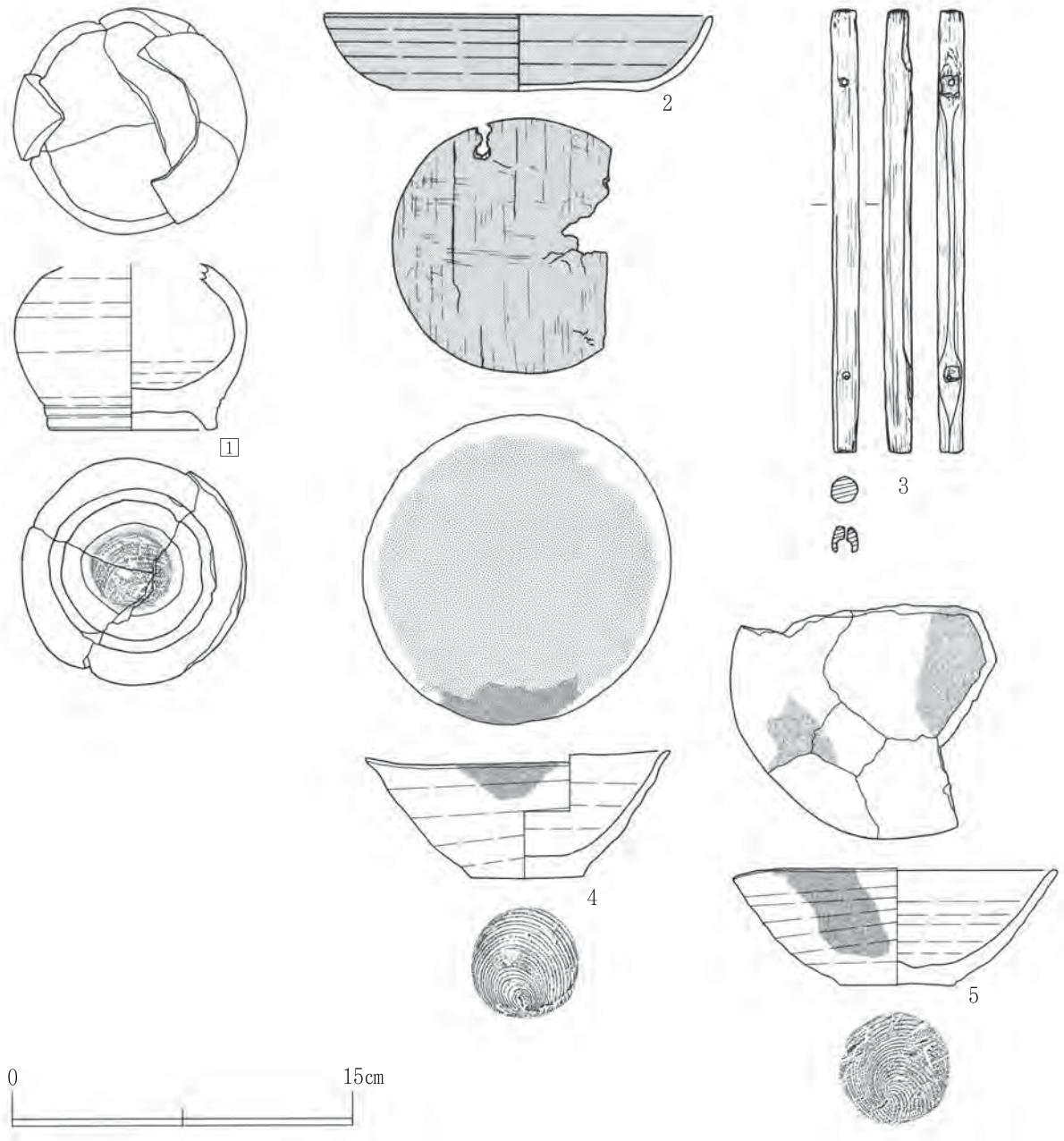
第12図 SK150・151・153土坑、SKP152柱穴と出土遺物



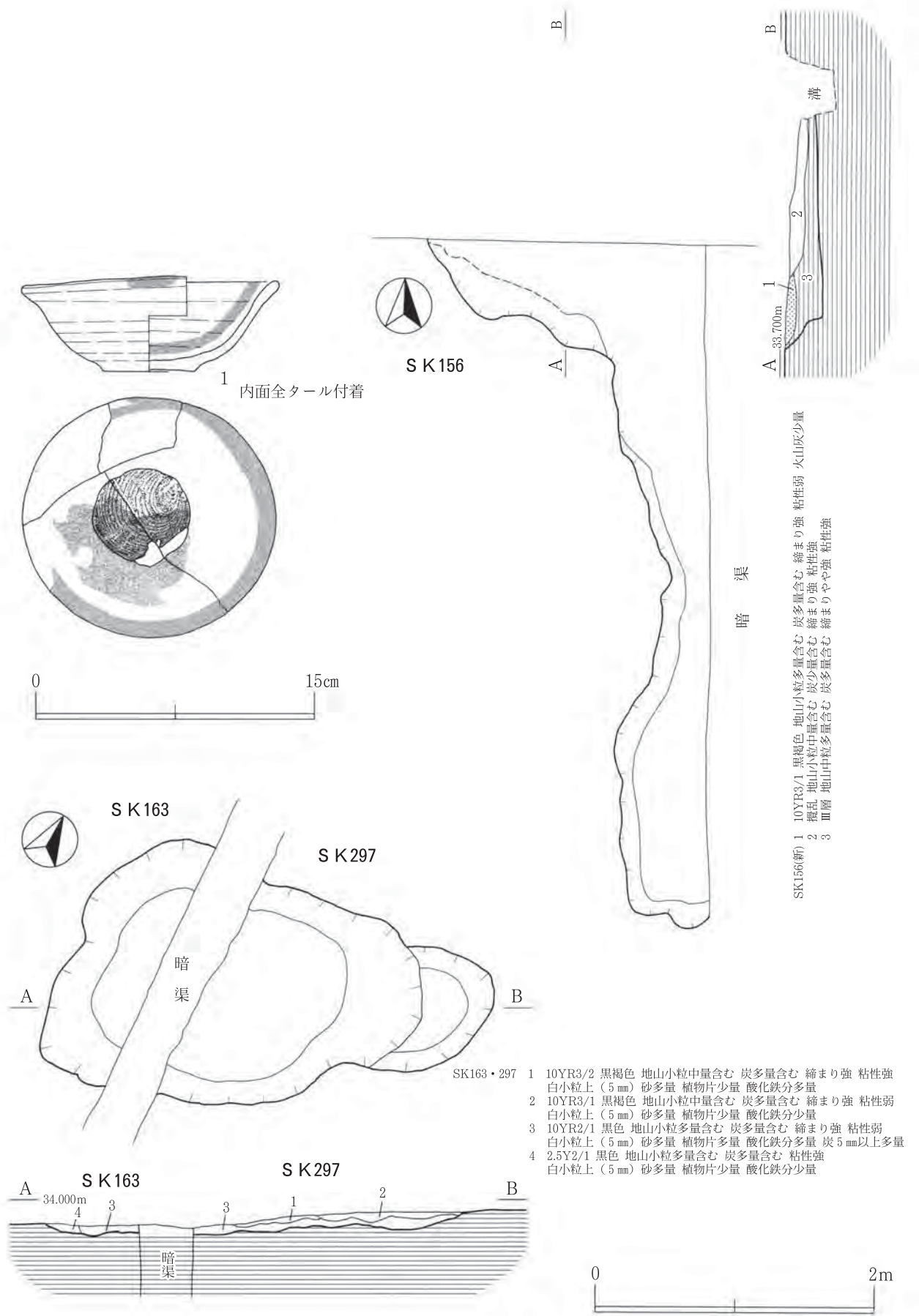
- SK154 1 2.5Y4/1 黄灰色 地山小粒少量含む 炭多量含む 焼土中粒少量含む 締まり強 粘性強 上からの粘土（鋤床層由来か）
 2 10YR3/3 暗褐色 地山中粒多量含む 炭中量含む 焼土小粒多量含む 締まり強 粘性強 水成層植物片多量
 3 10YR4/1 褐灰色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり弱 粘性強 水成層植物片多量
 4 10YR1.7/1 黒色 地山小粒少量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 水成層植物片多量
- SK155 1 2.5Y4/1 黄灰色 地山小粒中量含む 炭少量含む 締まり弱 粘性強 上からの粘土（鋤床層由来か）
 2 10YR3/3 暗褐色 地山大粒多量含む 炭中量含む 締まり強 粘性強 水成層植物片多量
 3 10YR4/1 褐灰色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり弱 粘性強 植物片多量
 4 10YR1.7/1 黒色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり弱 粘性強 植物片多量



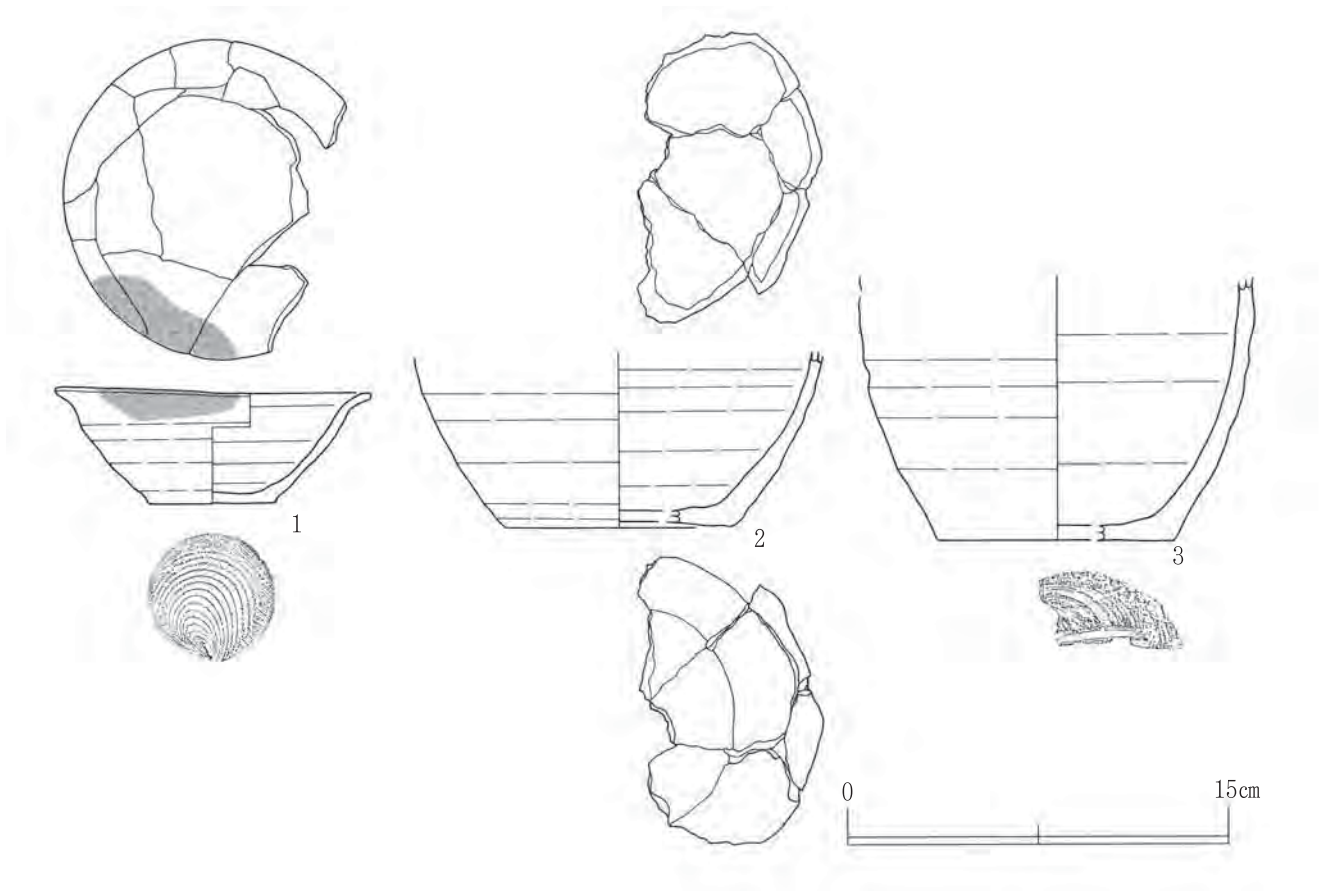
第13図 SK154・155土坑と出土遺物



第14図 SK154・155土坑出土遺物



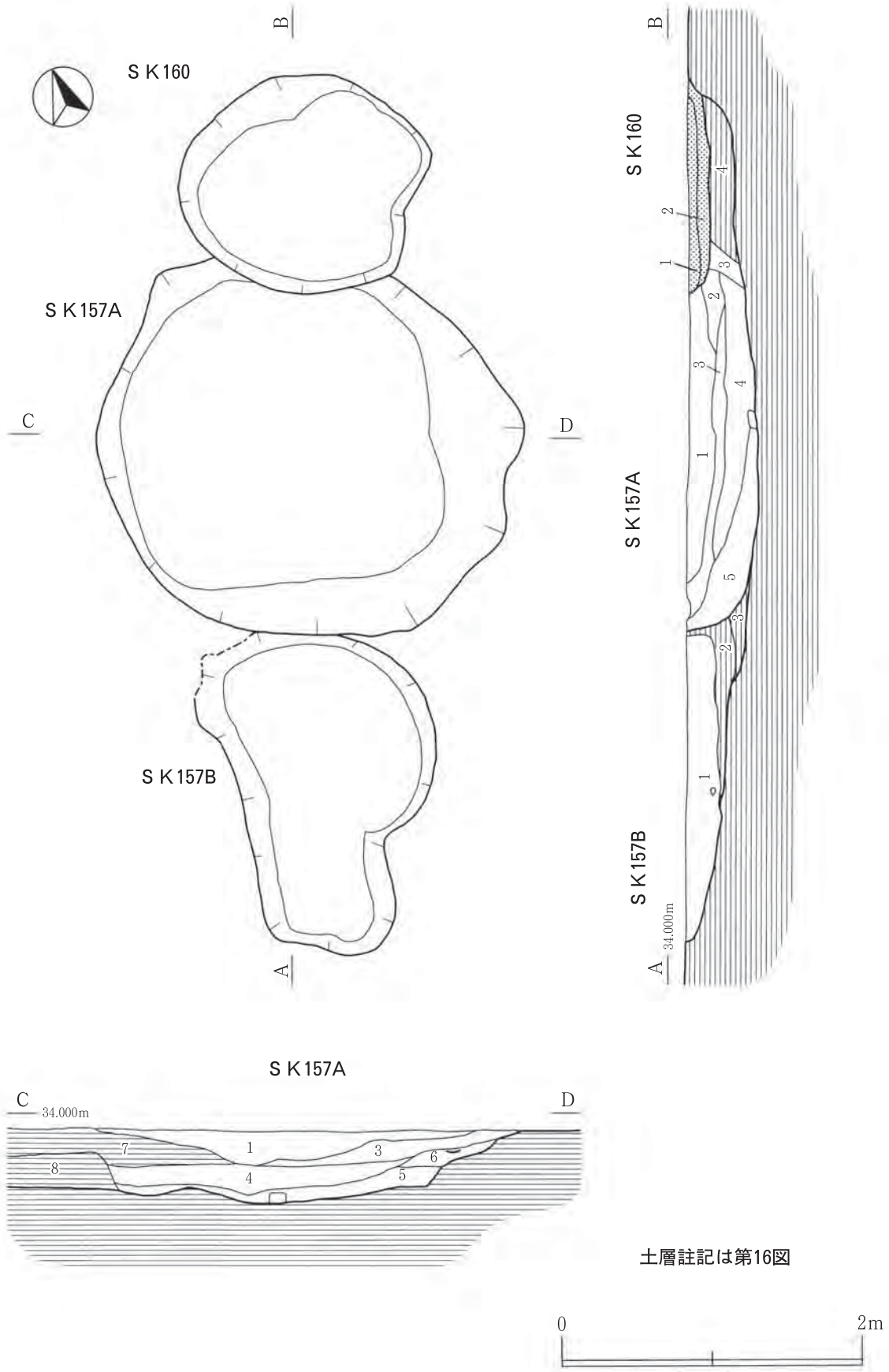
第15図 SK156・163・297土坑と出土遺物



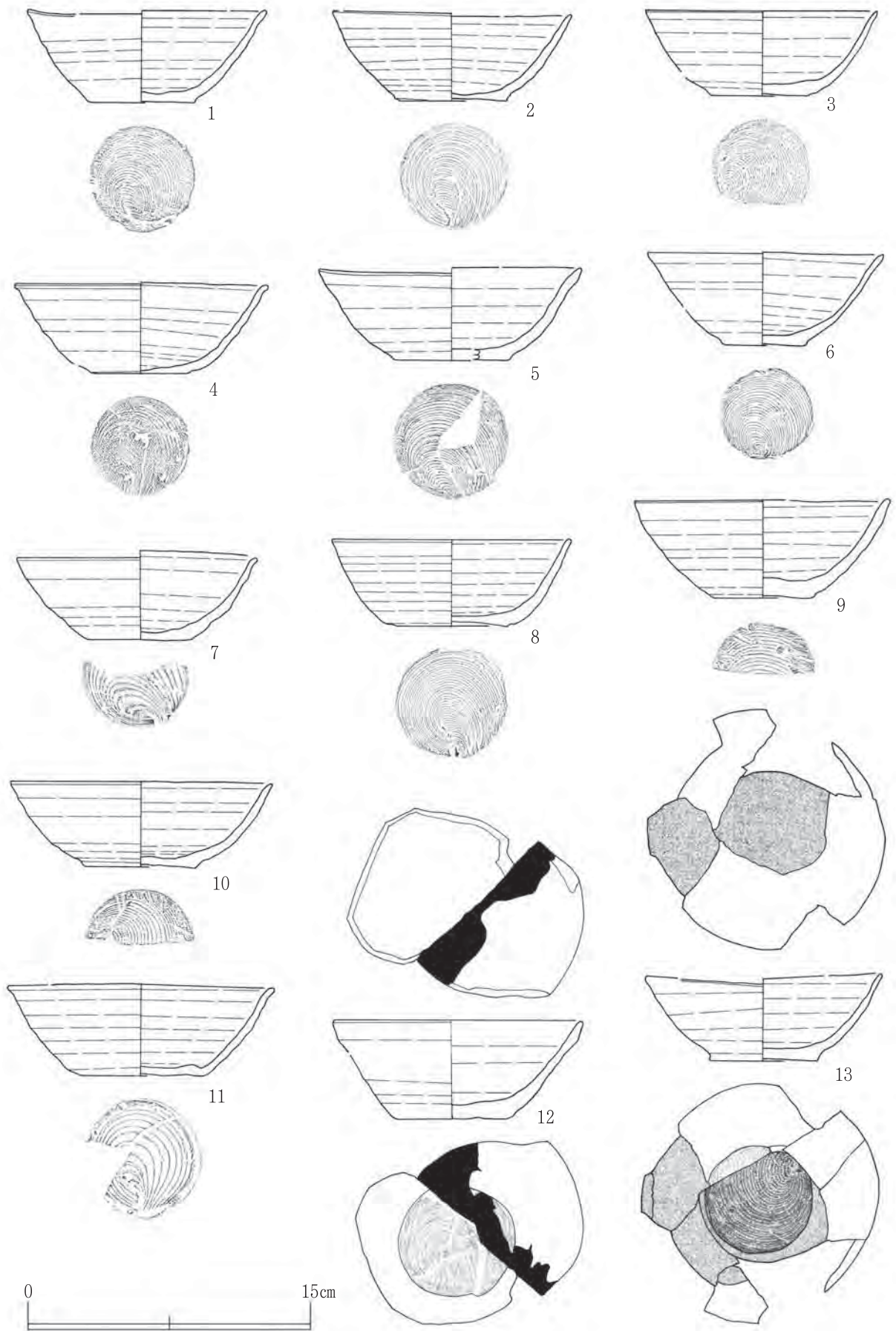
第16図 SK297出土遺物

第17図 SK157A・157B・160土坑 土層註記

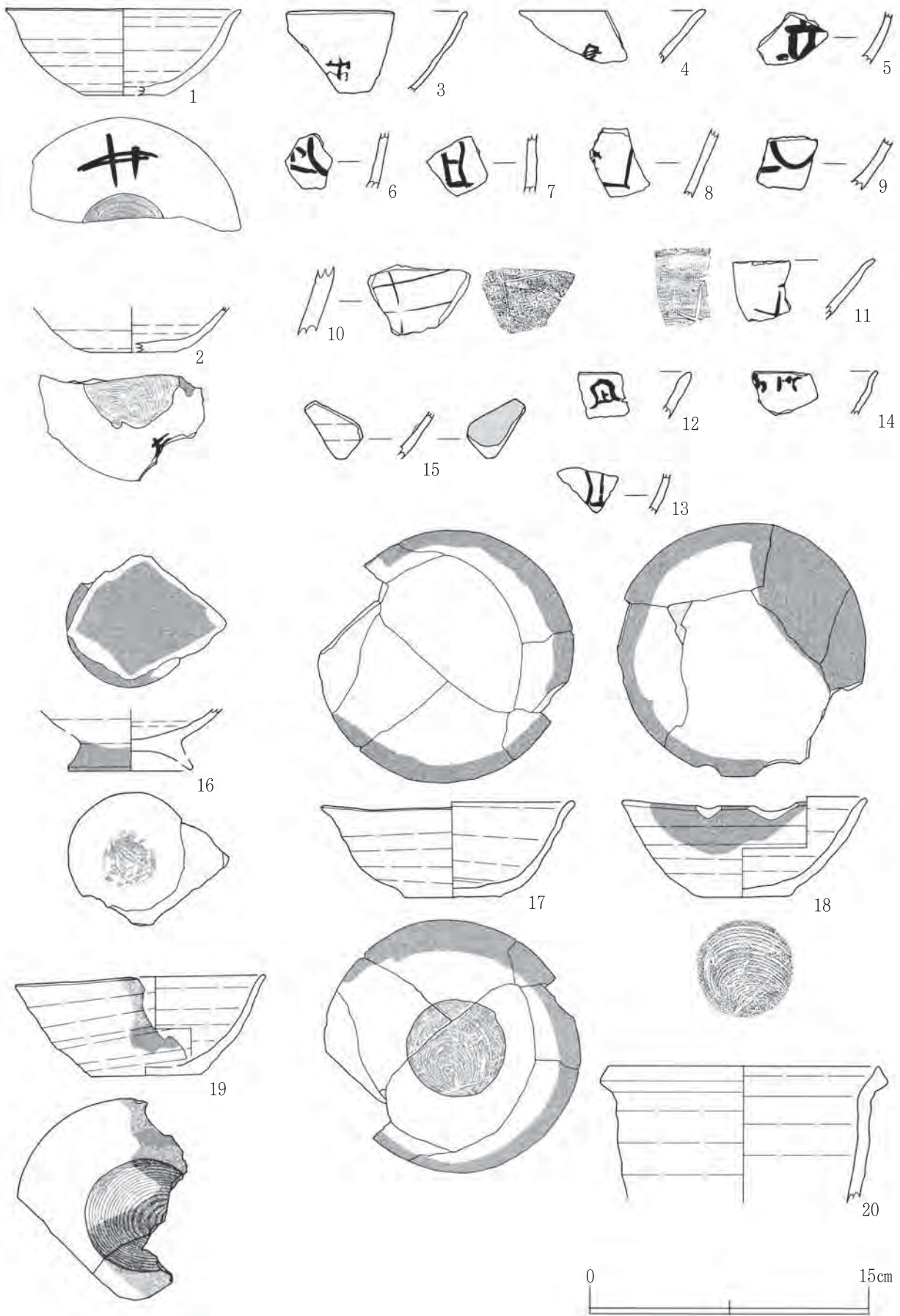
- | | | | | | | | | |
|--------|---|---------|-----|----------|-------|------|-----|---------------|
| SK157A | 1 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 地山小粒中量含む | 炭中量含む | 締まり弱 | 粘性強 | |
| | 2 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 地山大粒中量含む | 炭少量含む | 締まり強 | 粘性弱 | 粘土多 |
| | 3 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 地山中粒多量含む | 炭少量含む | 締まり強 | 粘性強 | |
| | 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 地山小粒多量含む | 炭少量含む | 締まり強 | 粘性強 | 植物片多量 |
| | 5 | 10YR2/1 | 黒色 | 地山小粒多量含む | 炭少量含む | 締まり強 | 粘性強 | 植物片多量 |
| | 6 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 地山小粒多量含む | 炭中量含む | 締まり強 | 粘性強 | |
| | 7 | 10YR4/6 | 褐色 | 地山小粒多量含む | 炭多量含む | 締まり強 | 粘性強 | Ⅲ層として一次堆積したもの |
| | 8 | 10YR4/1 | 褐灰色 | 地山小粒中量含む | 炭多量含む | 締まり強 | 粘性強 | 植物片多量 Ⅲ層 |
| SK157B | 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 地山小粒多量含む | 炭中量含む | 締まり強 | 粘性強 | |
| | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 地山小粒多量含む | 炭多量含む | 締まり強 | 粘性強 | Ⅲ層か |
| | 3 | 10YR4/1 | 褐灰色 | 地山小粒中量含む | 炭中量含む | 締まり強 | 粘性強 | Ⅲ層か |
| SK160 | 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 地山小粒多量含む | 炭多量含む | 締まり強 | 粘性強 | 白色火山灰多量ラミナ発達 |
| | 2 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 地山小粒少量含む | 炭少量含む | 締まり強 | 粘性強 | 白色火山灰少量ラミナ発達 |
| | 3 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 地山小粒少量含む | 炭多量含む | 締まり強 | 粘性弱 | |
| | 4 | 10YR4/1 | 褐灰色 | 地山小粒少量含む | 炭少量含む | 締まり強 | 粘性弱 | 植物片多量 Ⅲ層 |



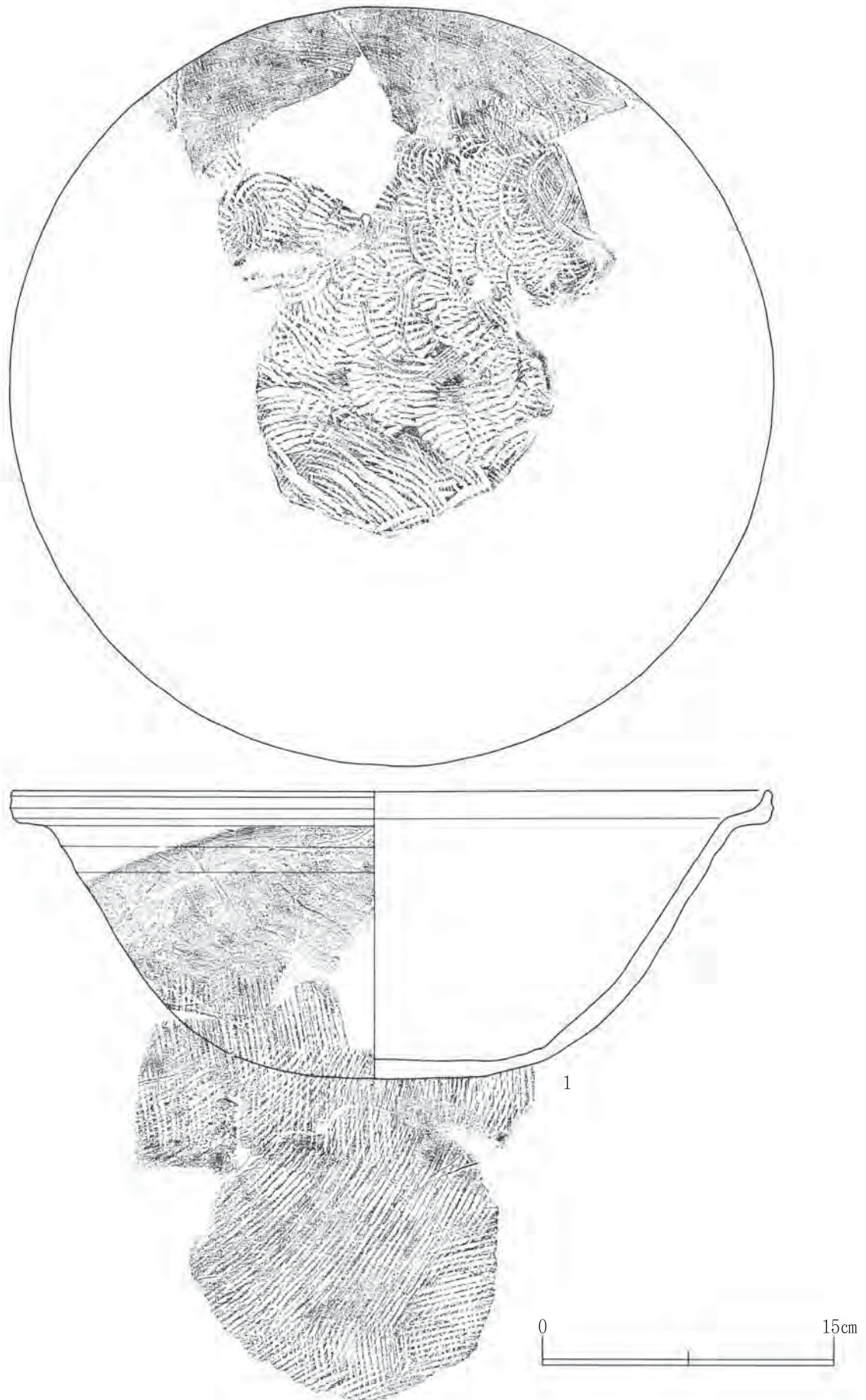
第17図 SK157A・157B・160土坑



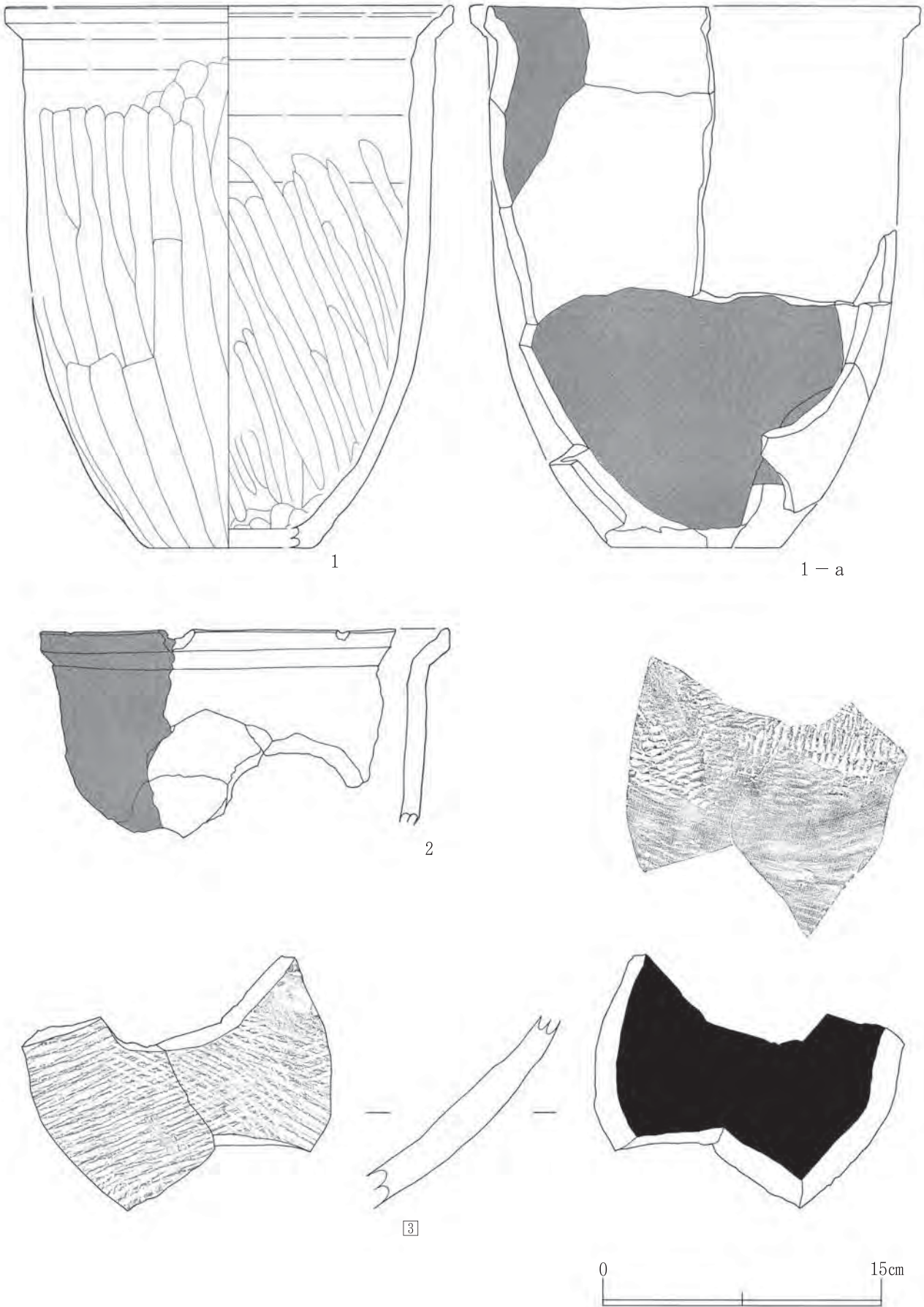
第18図 SK157A・157B・160土坑出土遺物（1）



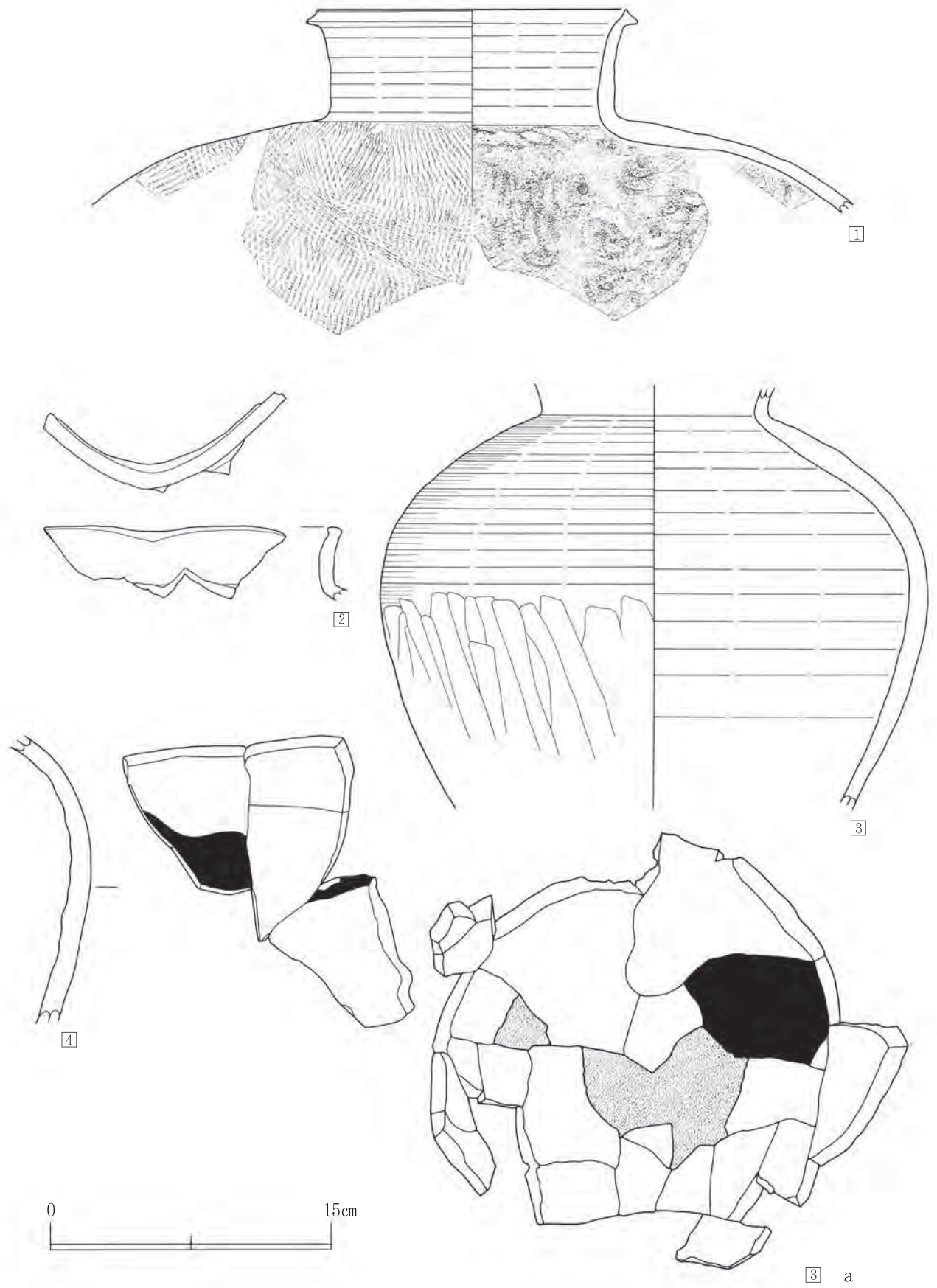
第19図 SK157A・157B・160土坑出土遺物（2）



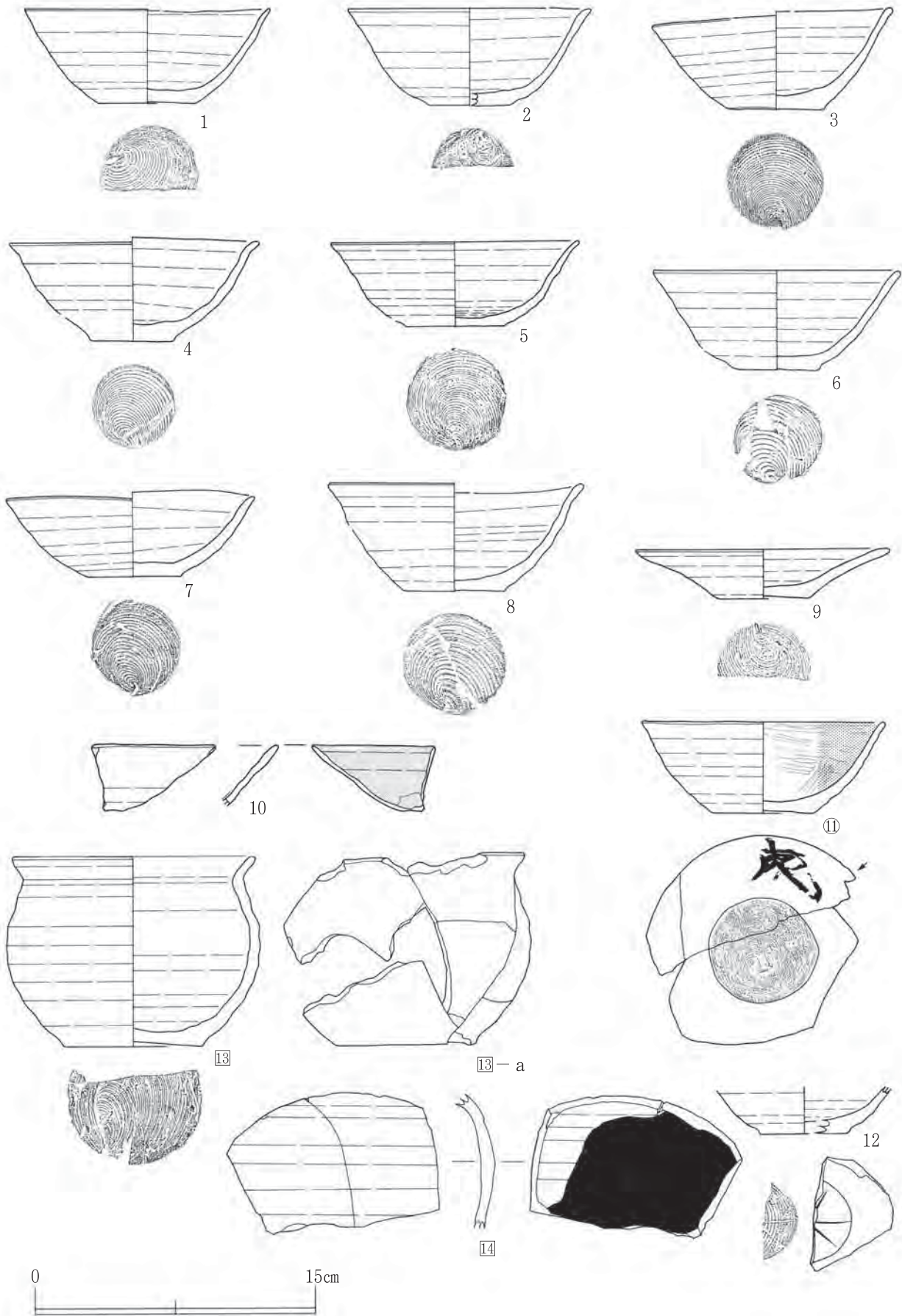
第20図 SK157A・157B・160土坑出土遺物（3）



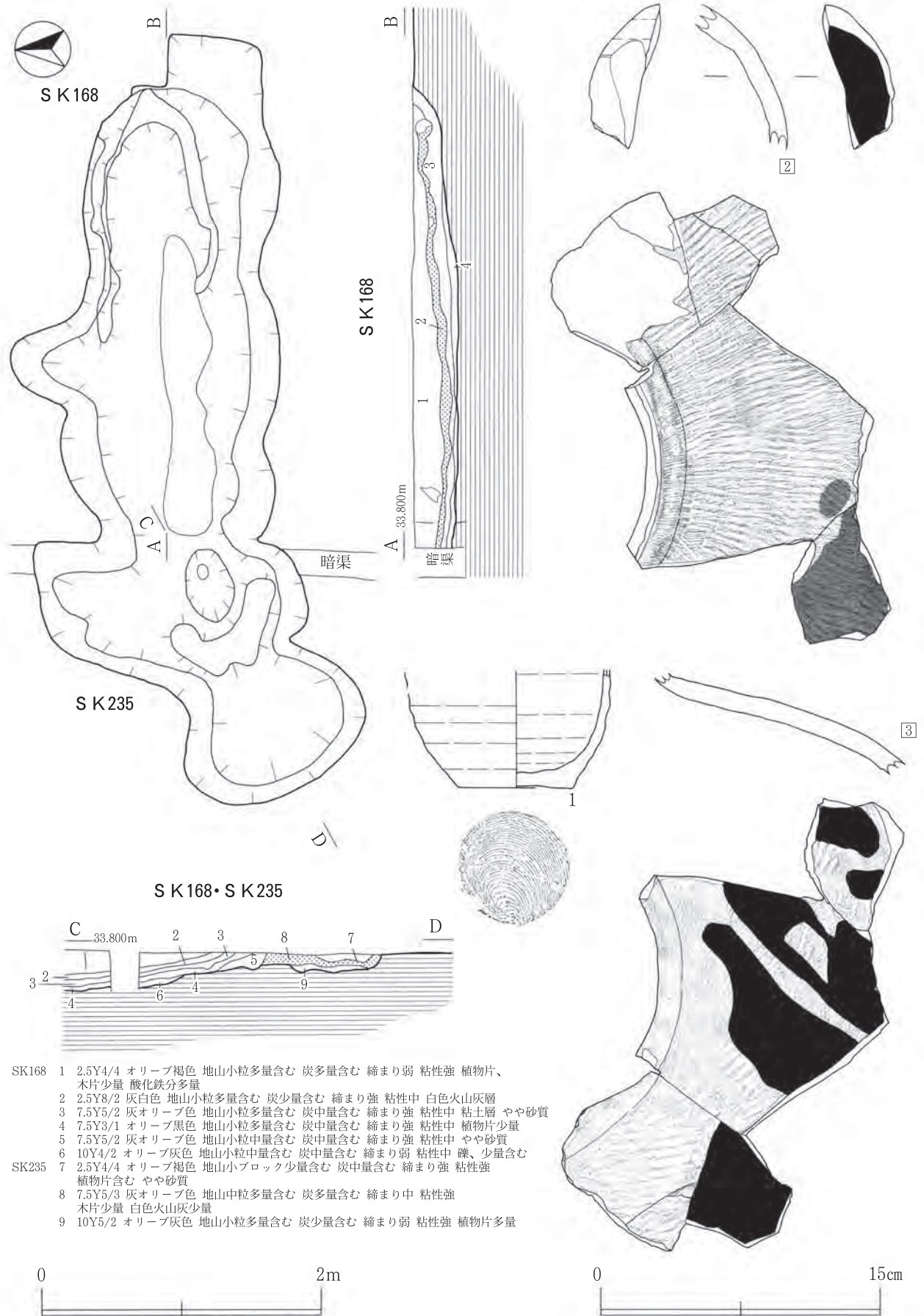
第21図 SK157A・157B・160土坑出土遺物（4）



第22図 SK157A・157B・160土坑出土遺物（5）

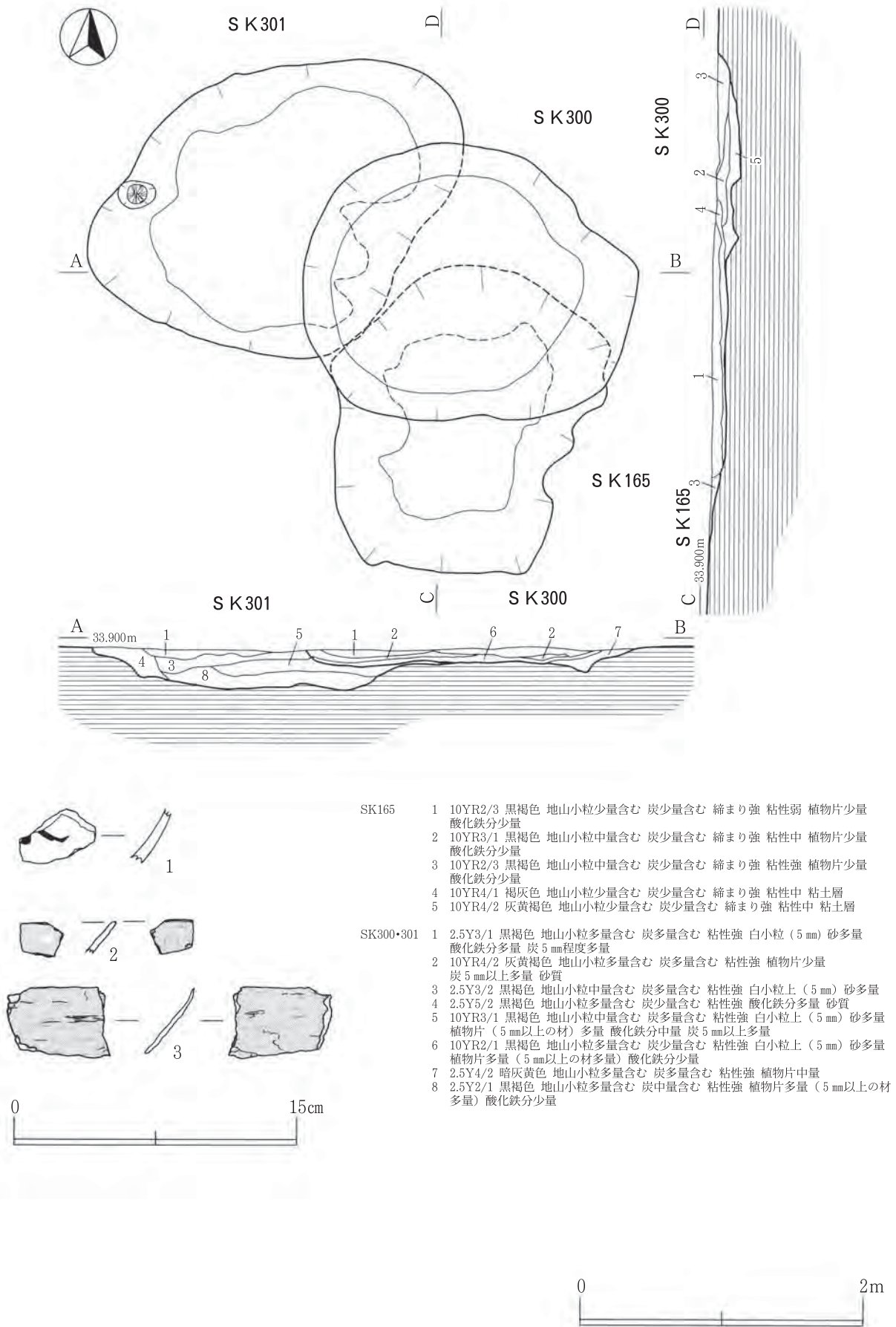


第23図 SK157A・157B・160土坑出土遺物（6）



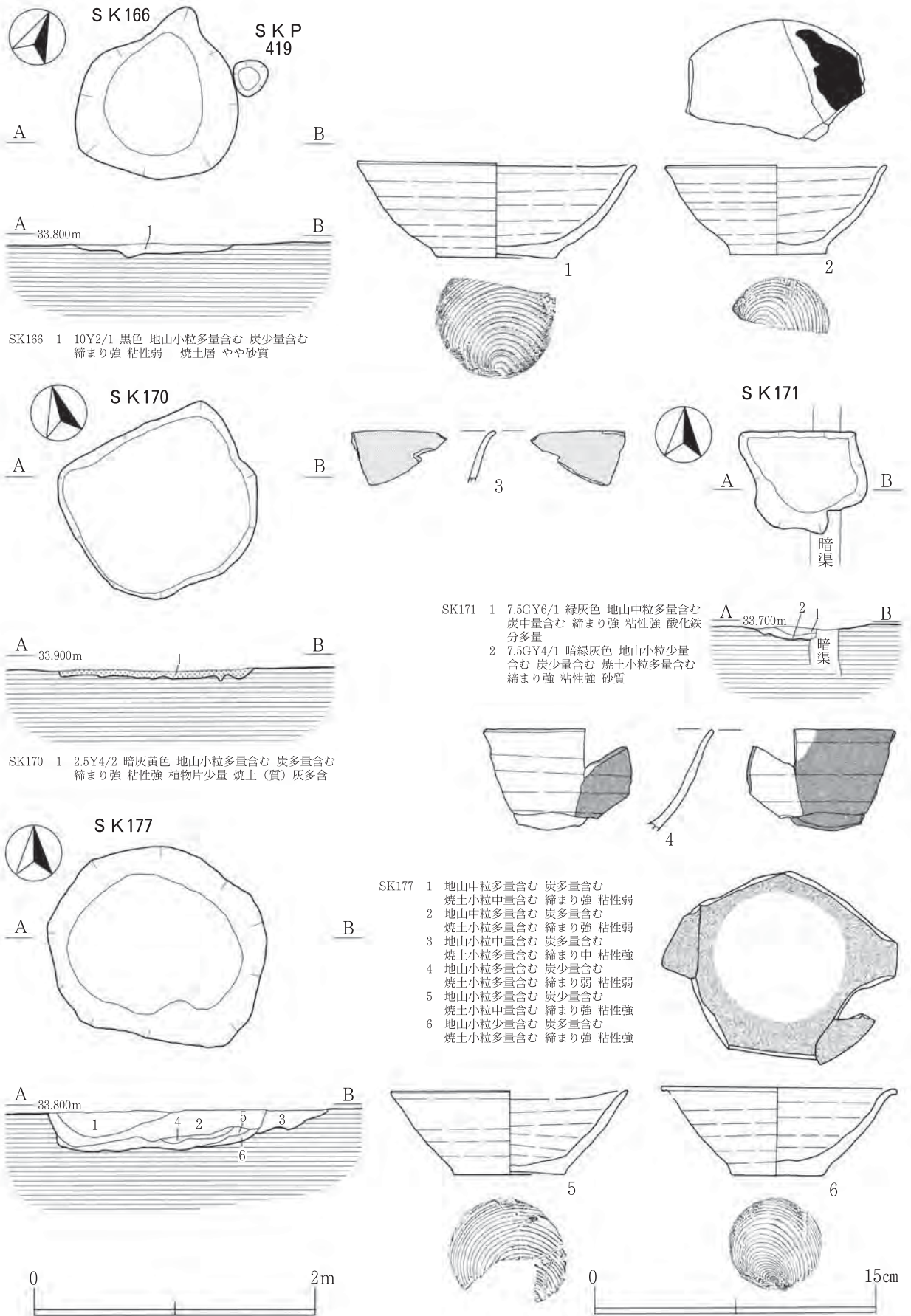
- SK168 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり弱 粘性強 植物片、木片少量 酸化鉄分多量
 2 2.5Y8/2 灰白色 地山小粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性中 白色火山灰層
 3 7.5Y5/2 灰オリーブ色 地山小粒多量含む 炭中量含む 締まり強 粘性中 粘土層 やや砂質
 4 7.5Y3/1 オリーブ黒色 地山小粒多量含む 炭中量含む 締まり強 粘性中 植物片少量
 5 7.5Y5/2 灰オリーブ色 地山小粒中量含む 炭中量含む 締まり強 粘性中 やや砂質
 6 10Y4/2 オリーブ灰色 地山小粒中量含む 炭中量含む 締まり弱 粘性中 礫、少量含む
 SK235 7 2.5Y4/4 オリーブ褐色 地山小ブロック少量含む 炭中量含む 締まり強 粘性強 植物片含む やや砂質
 8 7.5Y5/3 灰オリーブ色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり中 粘性強 木片少量 白色火山灰少量
 9 10Y5/2 オリーブ灰色 地山小粒多量含む 炭少量含む 締まり弱 粘性強 植物片多量

第24図 SK168・235土坑と出土遺物

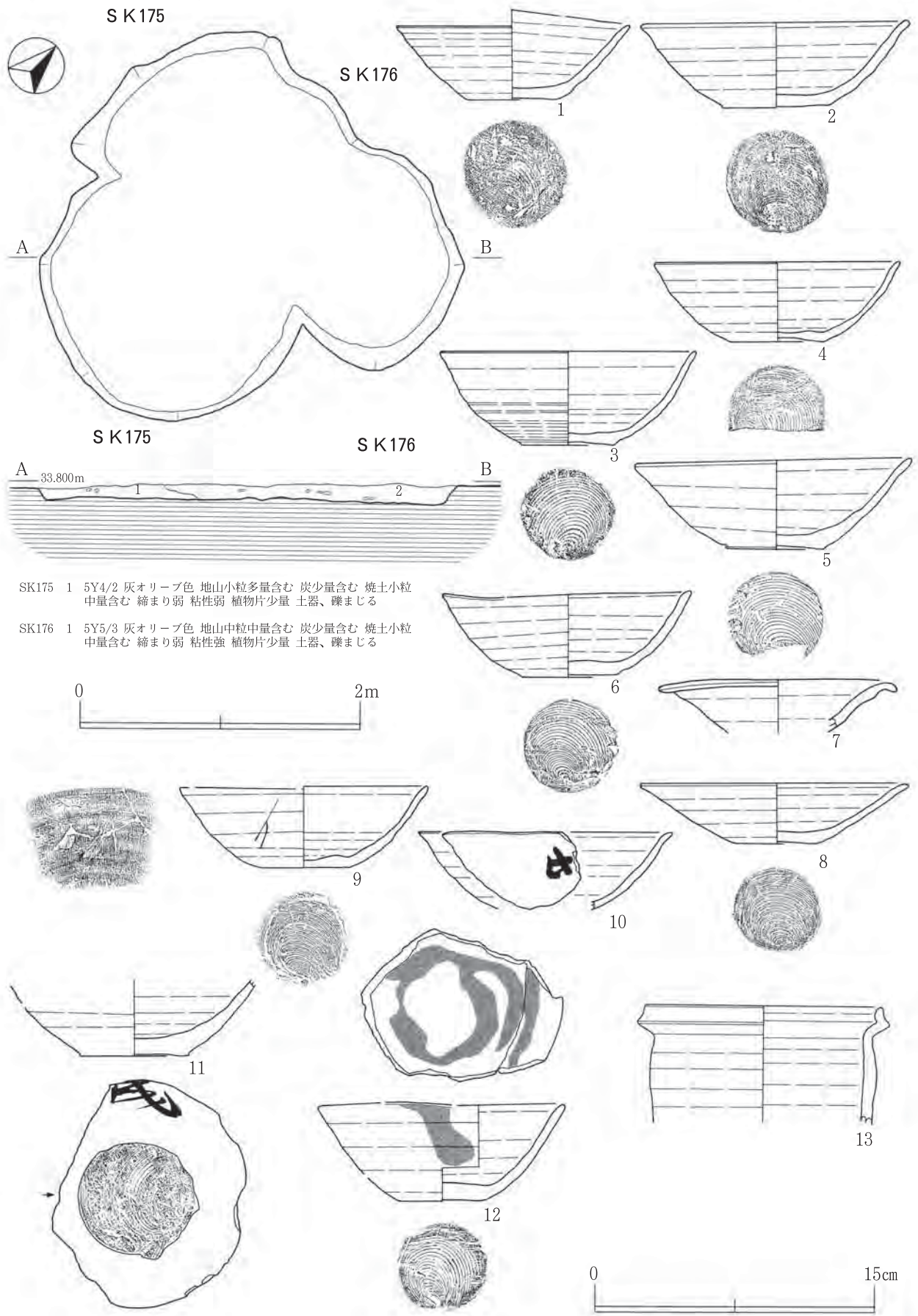


- SK165
- 1 10YR2/3 黒褐色 地山小粒少量含む 炭少量含む 締まり強 粘性弱 植物片少量 酸化鉄分少量
 - 2 10YR3/1 黒褐色 地山小粒中量含む 炭少量含む 締まり強 粘性中 植物片少量 酸化鉄分少量
 - 3 10YR2/3 黒褐色 地山小粒中量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分少量
 - 4 10YR4/1 褐灰色 地山小粒少量含む 炭少量含む 締まり強 粘性中 粘土層
 - 5 10YR4/2 灰黄褐色 地山小粒少量含む 炭少量含む 締まり強 粘性中 粘土層
- SK300・301
- 1 2.5Y3/1 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 粘性強 白小粒 (5mm) 砂多量 酸化鉄分多量 炭 5mm程度多量
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 粘性強 植物片少量 炭 5mm以上多量 砂質
 - 3 2.5Y3/2 黒褐色 地山小粒中量含む 炭多量含む 粘性強 白小粒上 (5mm) 砂多量
 - 4 2.5Y5/2 黒褐色 地山小粒中量含む 炭少量含む 粘性強 酸化鉄分多量 砂質
 - 5 10YR3/1 黒褐色 地山小粒中量含む 炭多量含む 粘性強 白小粒上 (5mm) 砂多量 植物片 (5mm以上の材) 多量 酸化鉄分中量 炭 5mm以上多量
 - 6 10YR2/1 黒褐色 地山小粒多量含む 炭少量含む 粘性強 白小粒上 (5mm) 砂多量 植物片多量 (5mm以上の材多量) 酸化鉄分少量
 - 7 2.5Y4/2 暗灰黄色 地山小粒多量含む 炭多量含む 粘性強 植物片中量
 - 8 2.5Y2/1 黒褐色 地山小粒多量含む 炭中量含む 粘性強 植物片多量 (5mm以上の材多量) 酸化鉄分少量

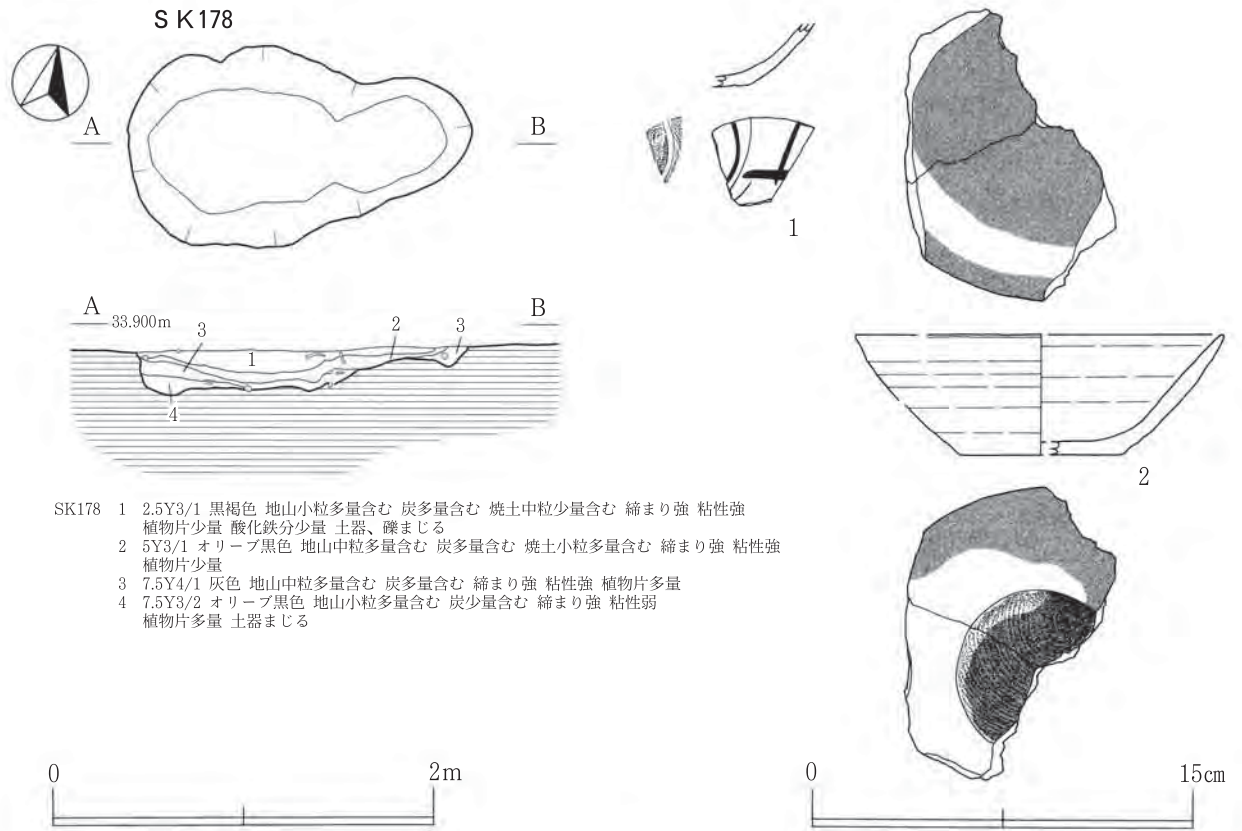
第25図 SK165・300・301土坑と出土遺物



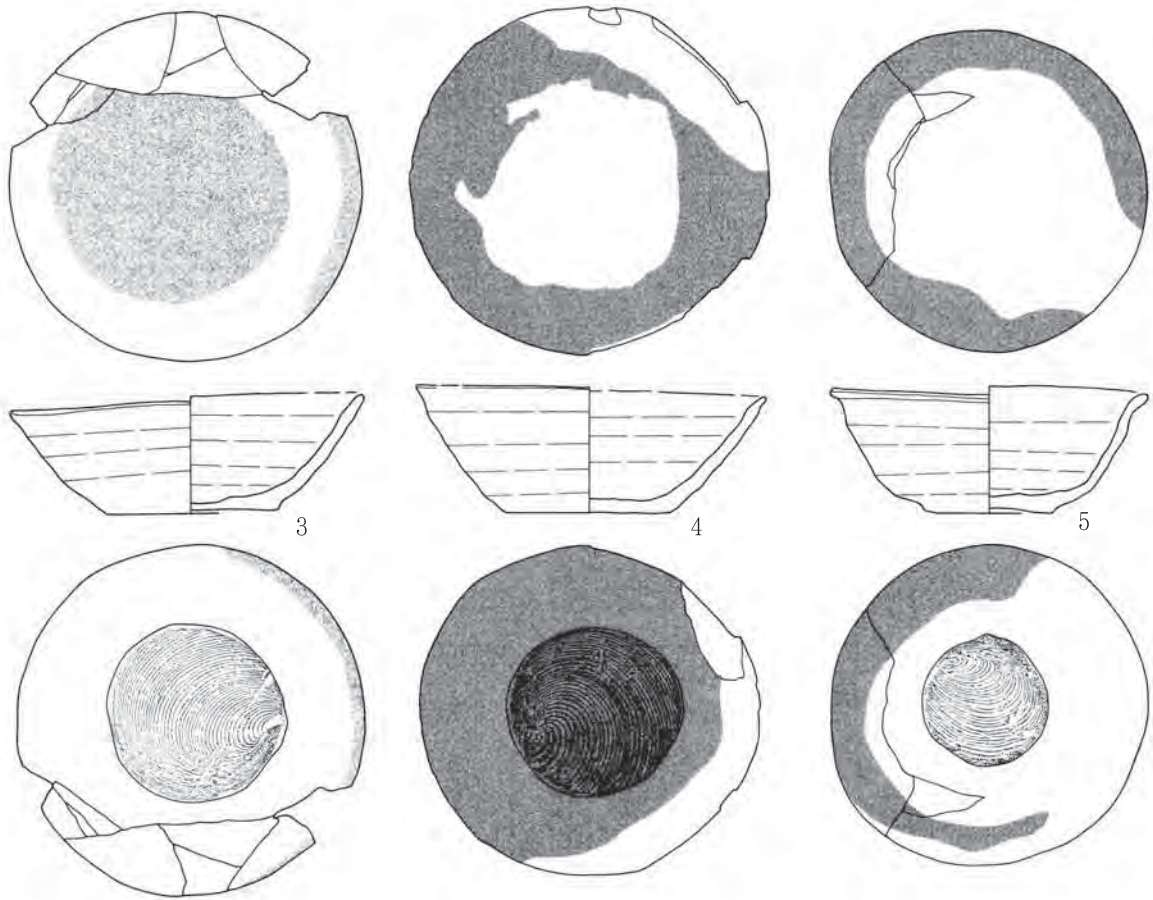
第26図 SK166・170・171・177土坑と出土遺物



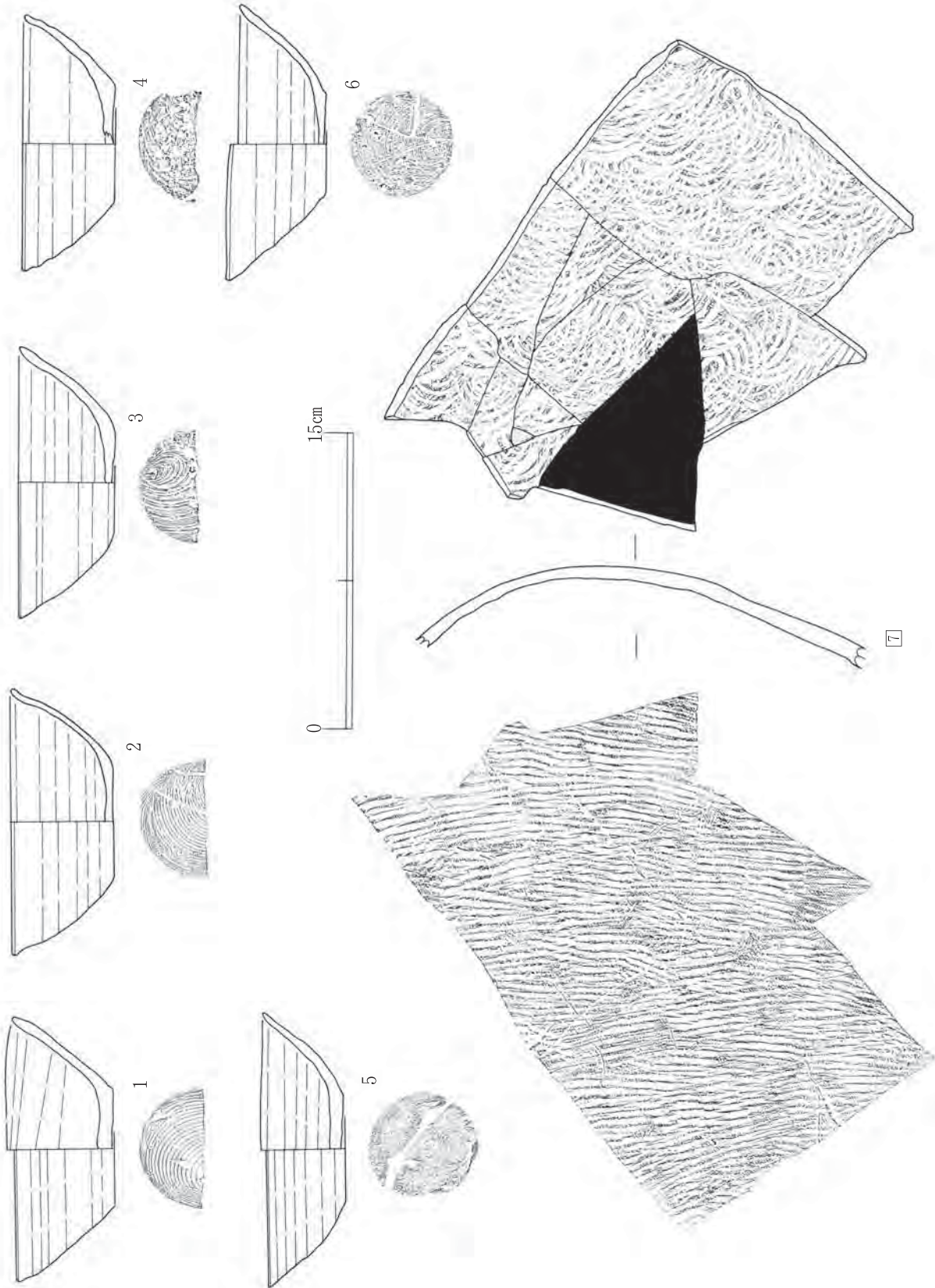
第27図 SK175・176土坑と出土遺物



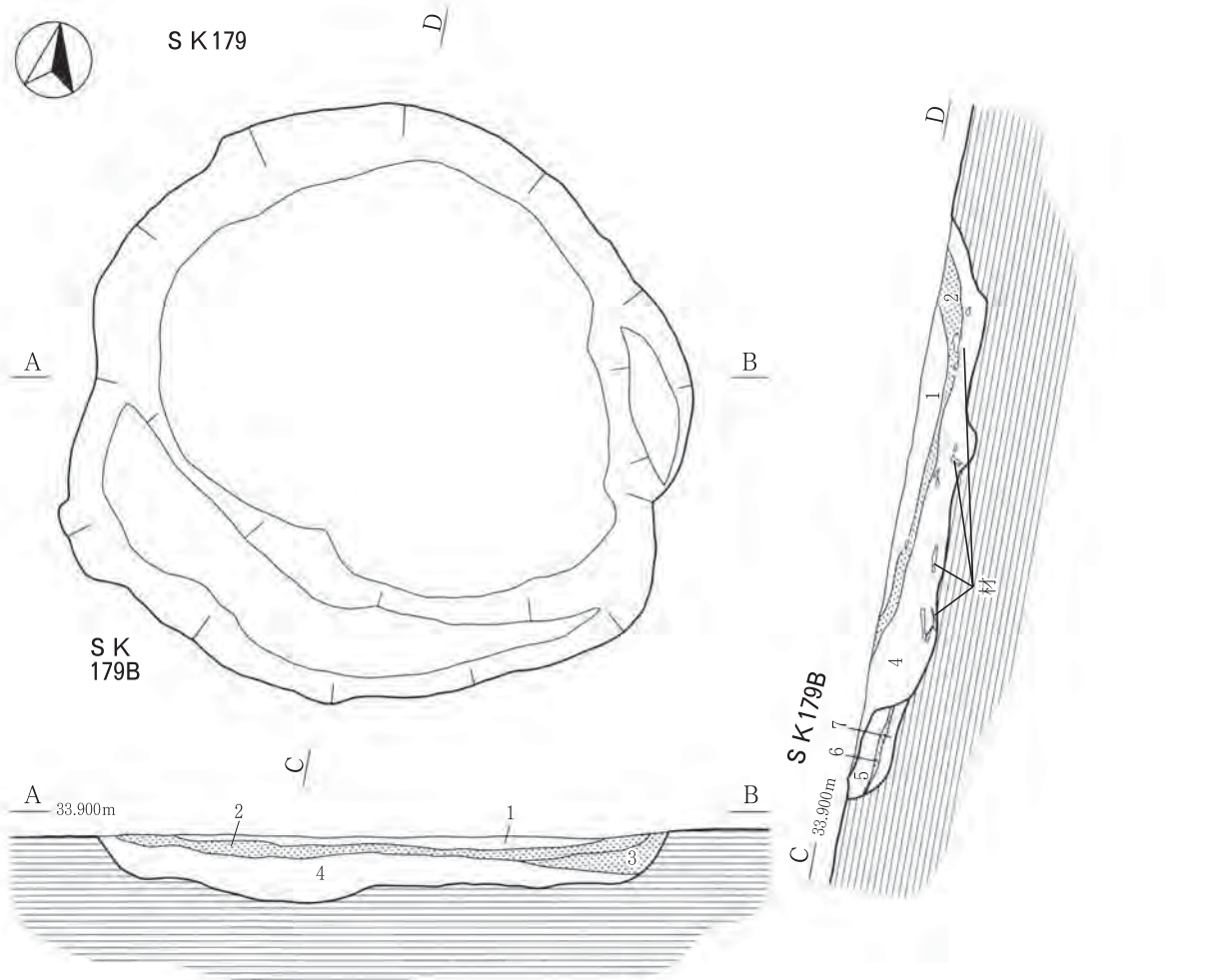
- SK178 1 2.5Y3/1 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 焼土中粒少量含む 締まり強 粘性強
植物片少量 酸化鉄少量 土器、礫まじる
- 2 5Y3/1 オリーブ黒色 地山中粒多量含む 炭多量含む 焼土小粒多量含む 締まり強 粘性強
植物片少量
- 3 7.5Y4/1 灰色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 植物片多量
- 4 7.5Y3/2 オリーブ黒色 地山小粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性弱
植物片多量 土器まじる



第28図 SK178土坑と出土遺物

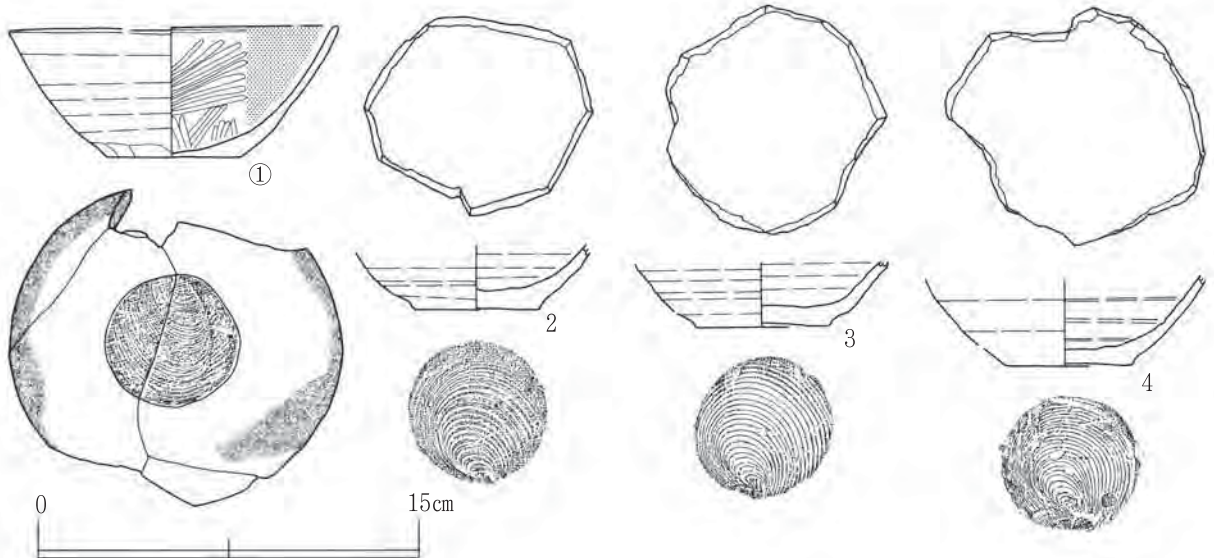


第29図 SK178土坑出土遺物

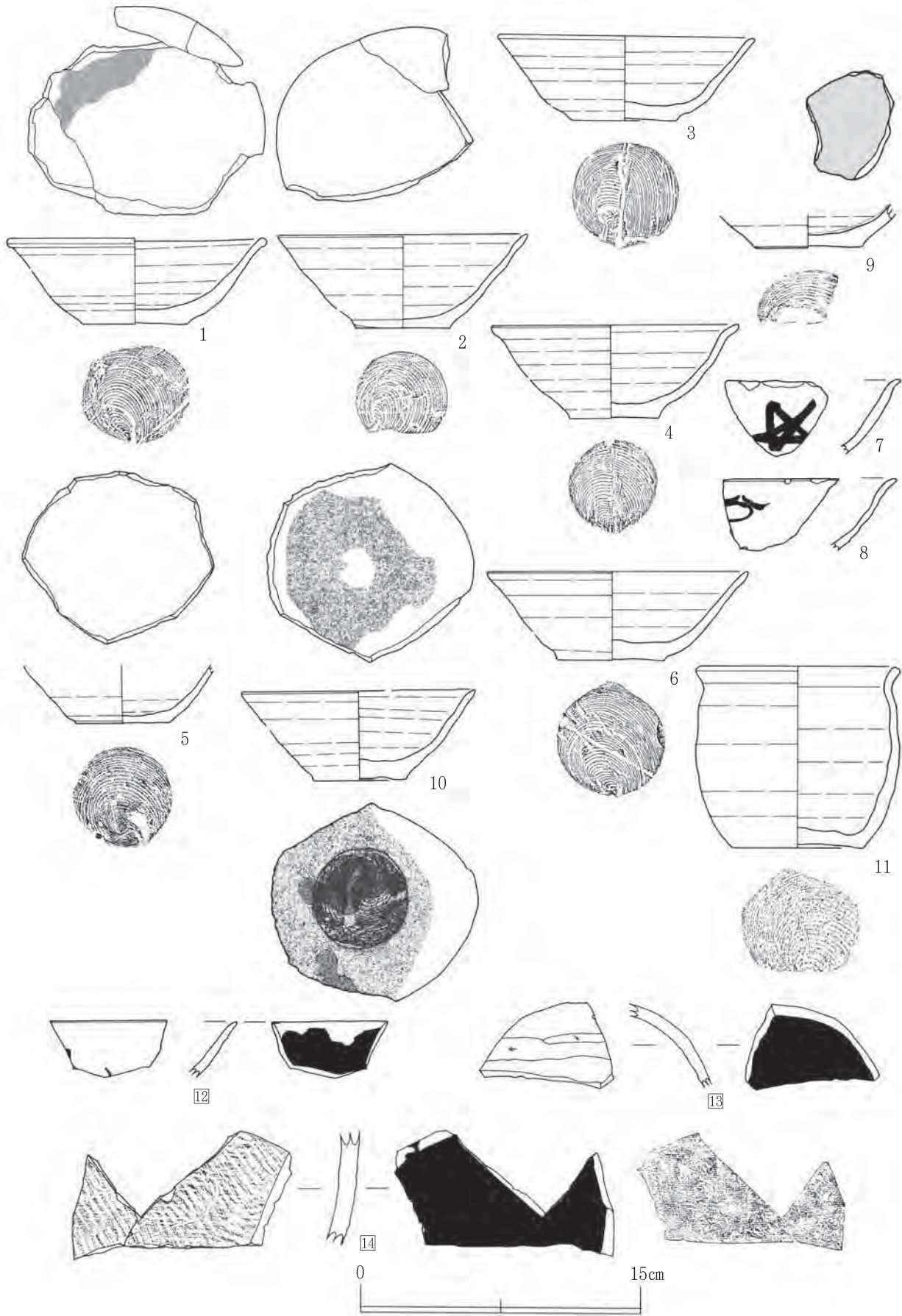


- SK179 1 2.5Y5/1 黄灰色 地山小粒少量含む 炭多量含む 締まり弱 粘性弱 鈎床か
 2 10YR3/3 暗褐色 地山小粒中量含む 炭中量含む 締まり弱 粘性強 白色火山灰2次堆積層
 3 10YR4/1 褐灰色 地山小粒中量含む 炭多量含む 締まり弱 粘性強 火山灰少量
 4 7.5YR3/1 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり弱 粘性強 植物片多量 木製品多量
 5 10YR2/1 黒色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり弱 粘性強
 6 10YR2/3 黒褐色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性弱 白色火山灰層
 (1次堆積か)
 7 10YR2/1 黒色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強

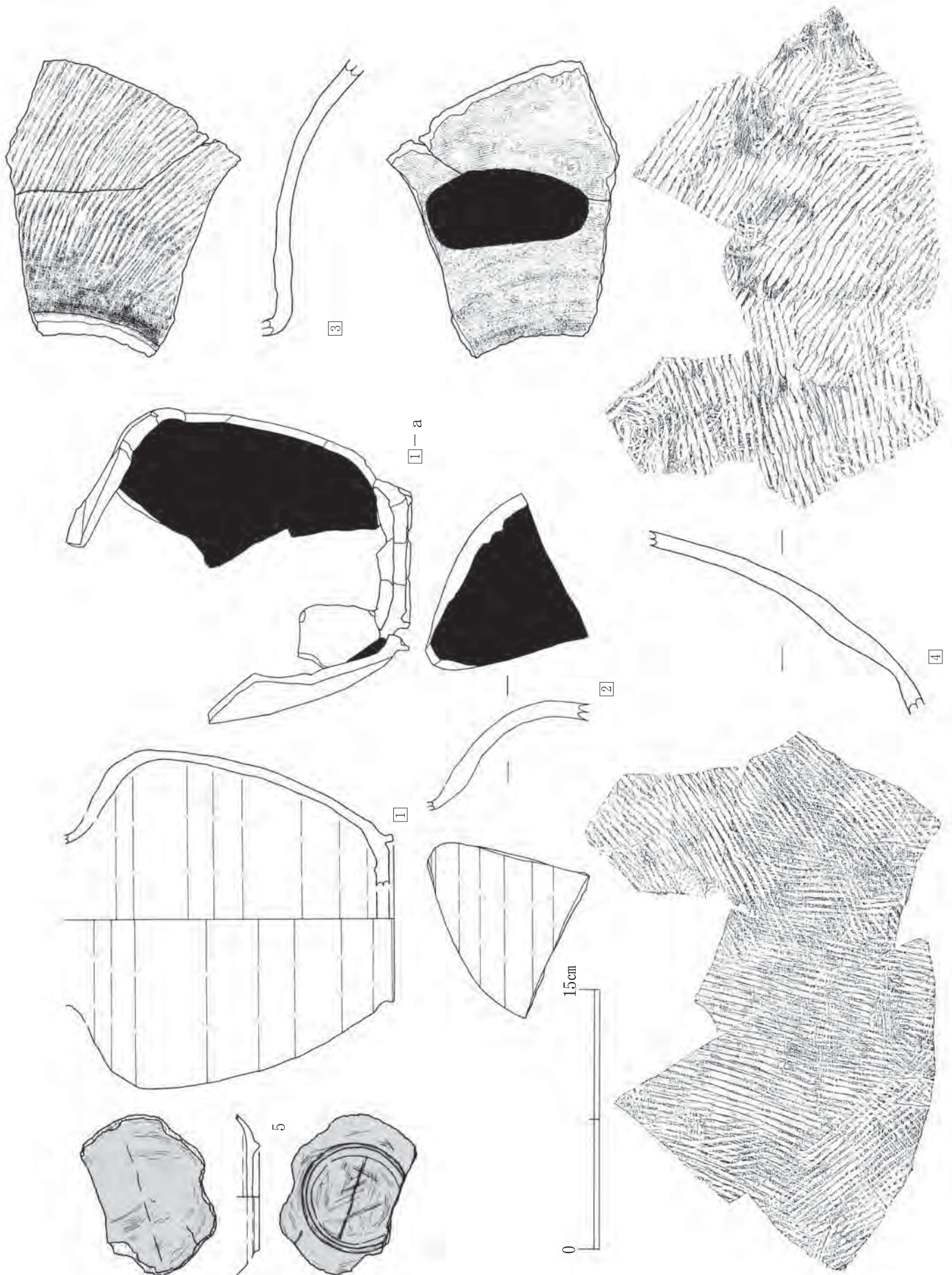
0 2m



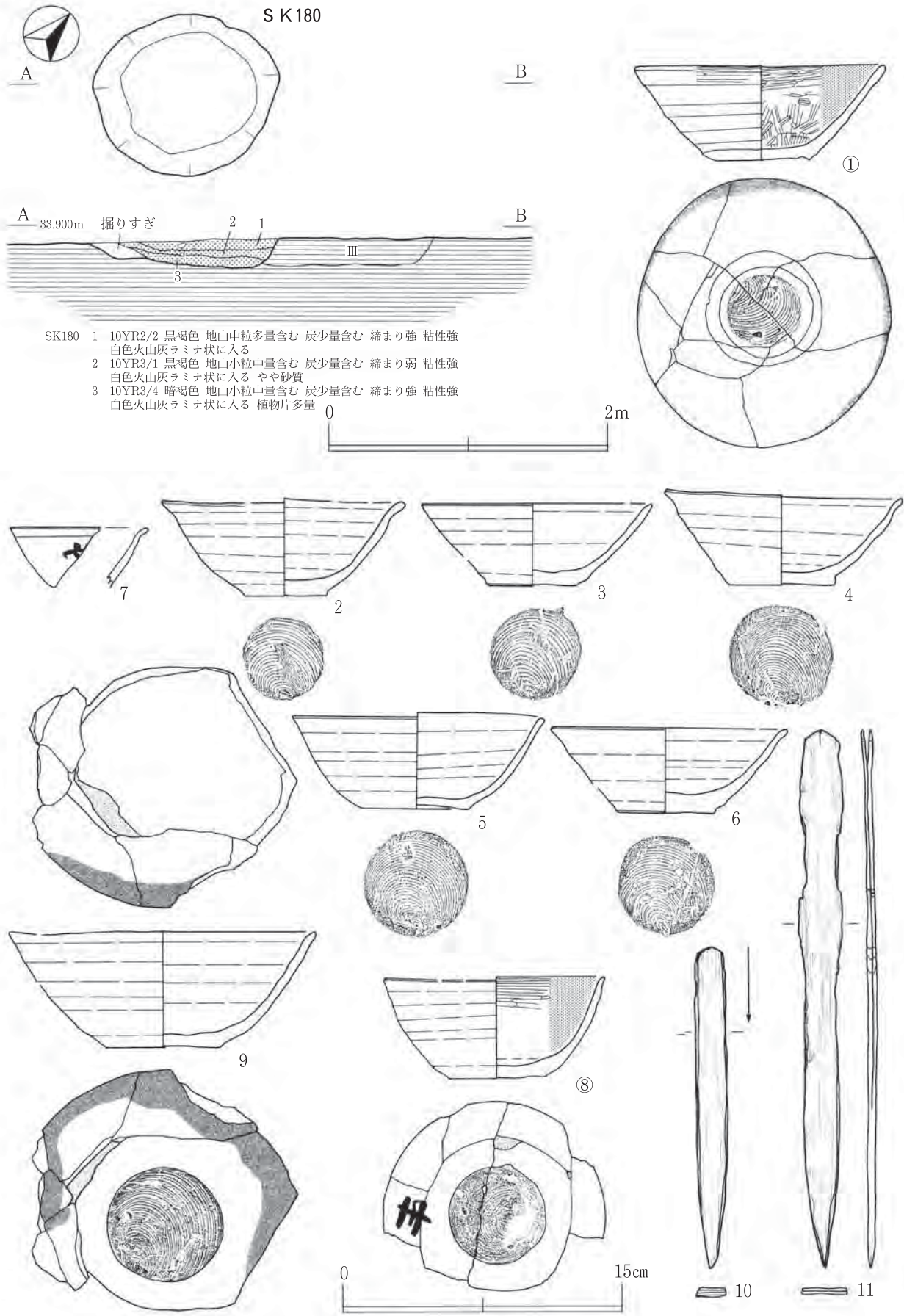
第30図 SK179A・179B土坑と出土遺物



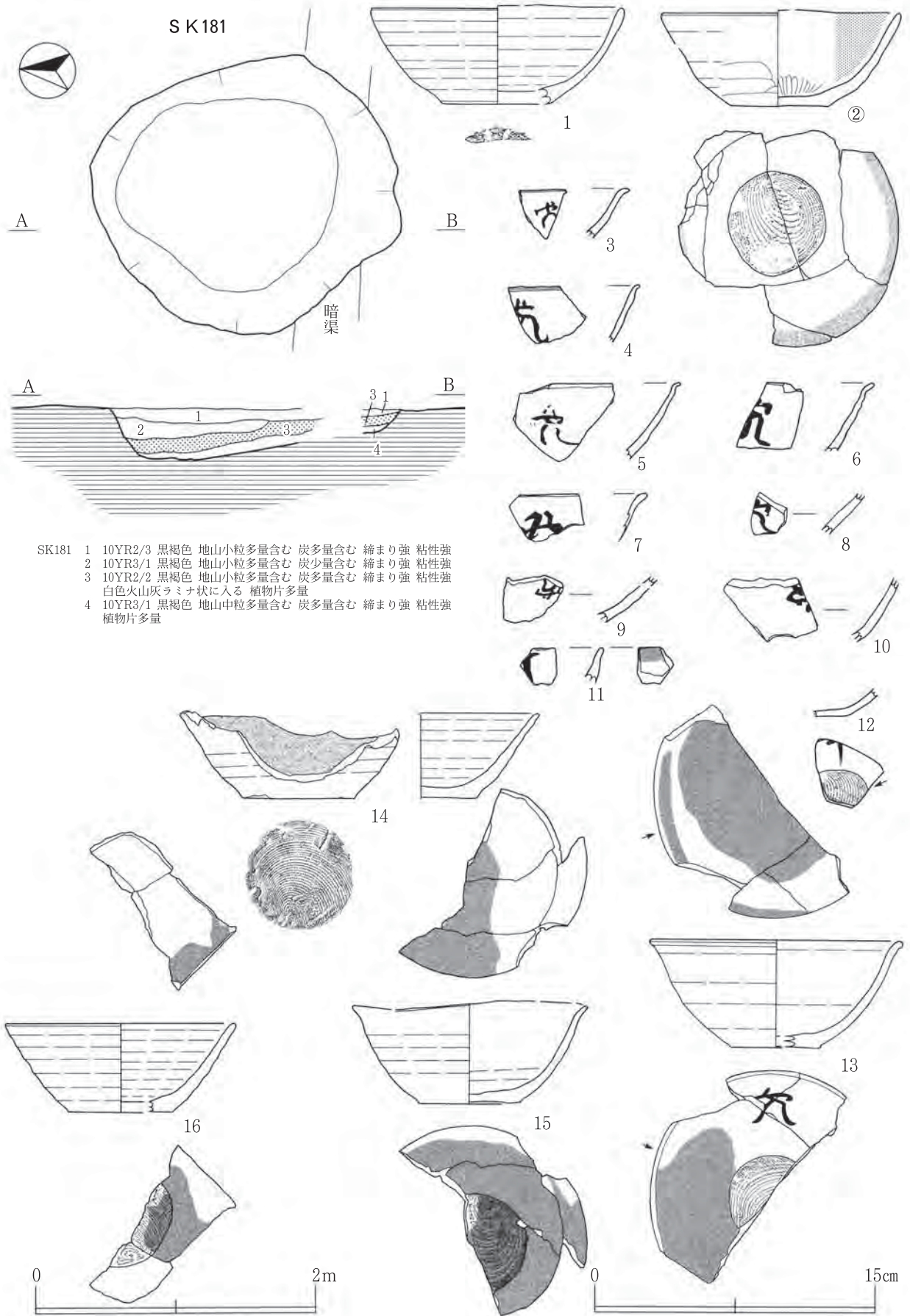
第31図 SK179A・179B土坑出土遺物（1）



第32図 SK179A・179B土坑出土遺物(2)

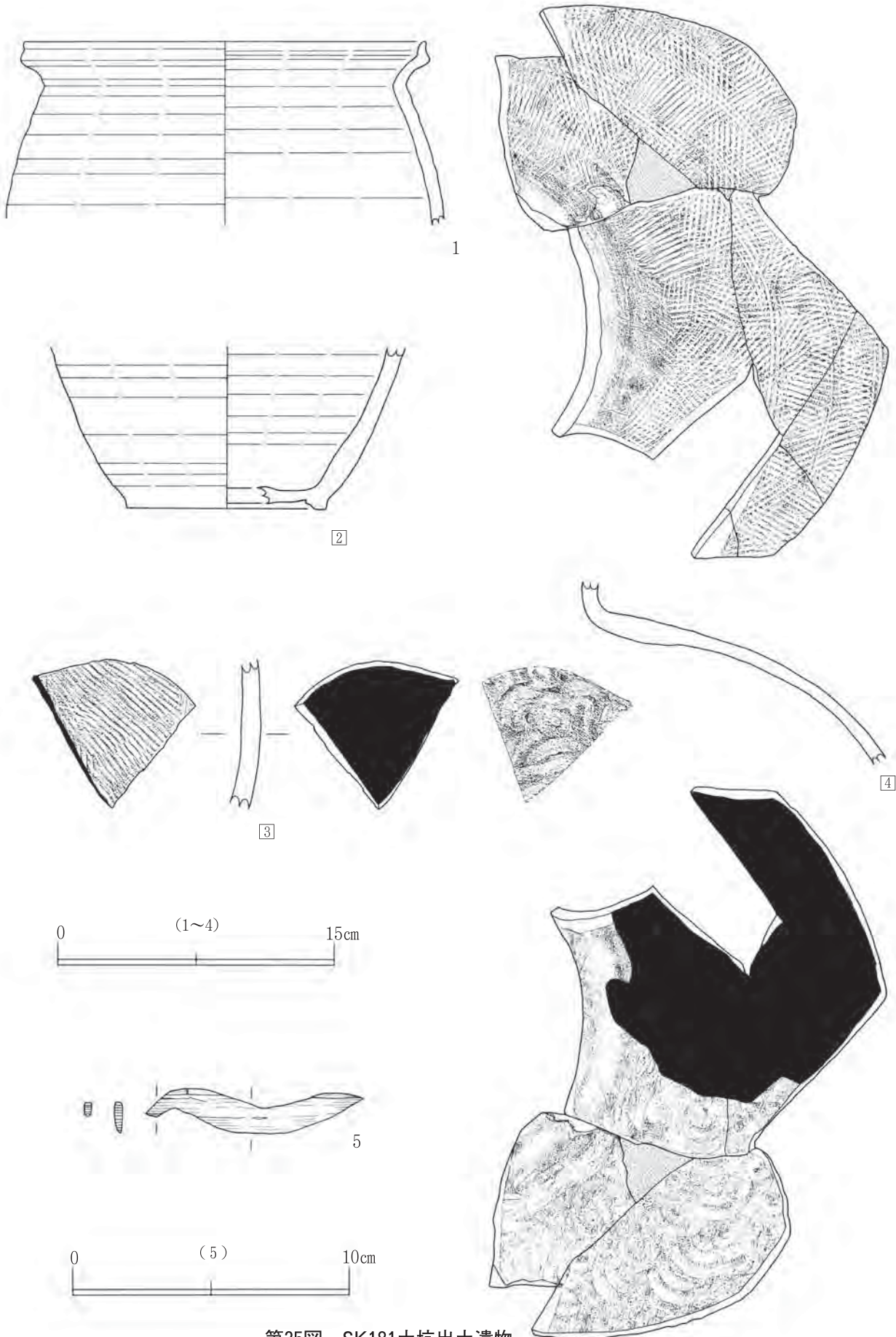


第33図 SK180土坑と出土遺物

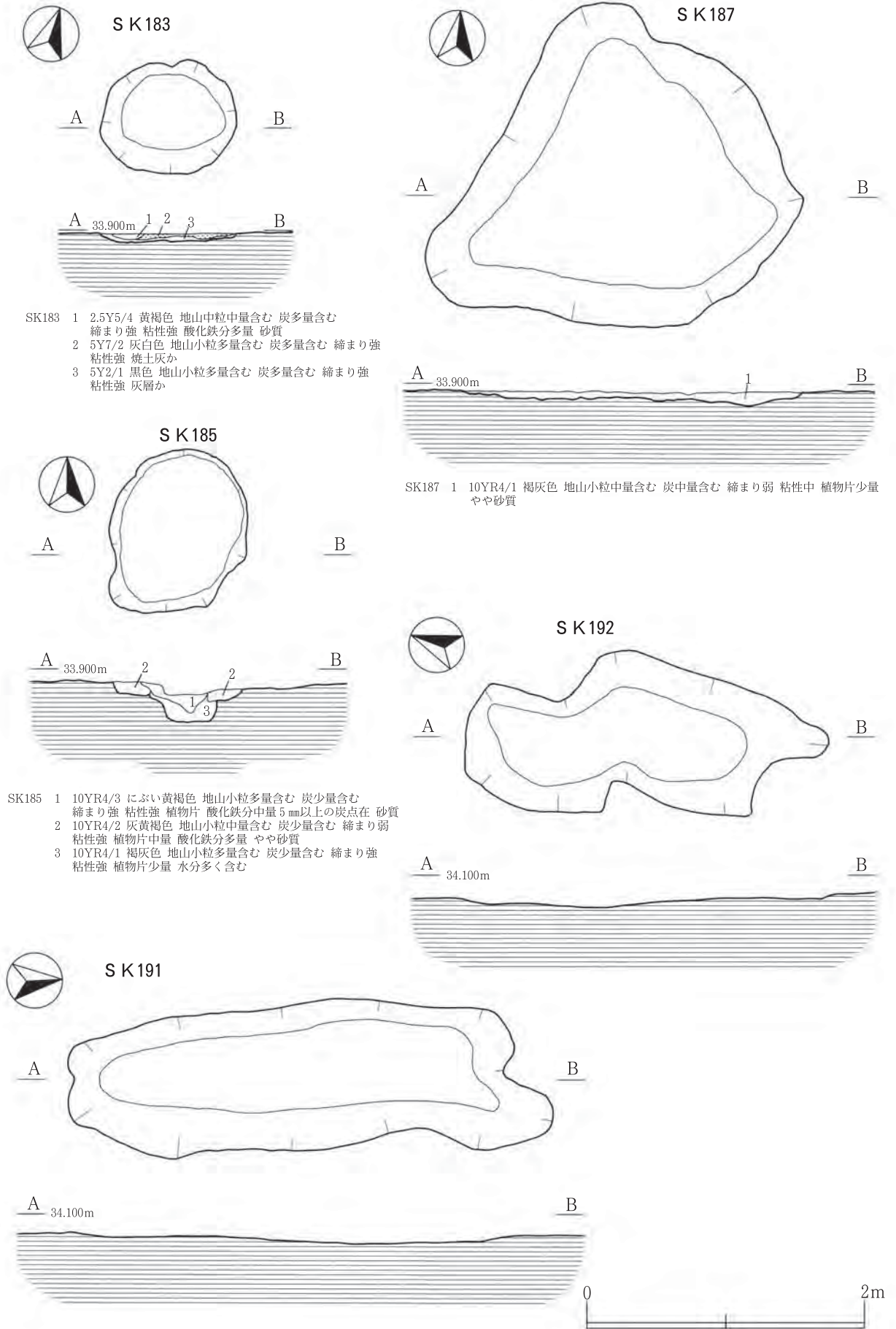


- SK181 1 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
 2 10YR3/1 黒褐色 地山小粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強
 3 10YR2/2 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
 白色火山灰ラミナ状に入る 植物片多量
 4 10YR3/1 黒褐色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
 植物片多量

第34図 SK181土坑と出土遺物

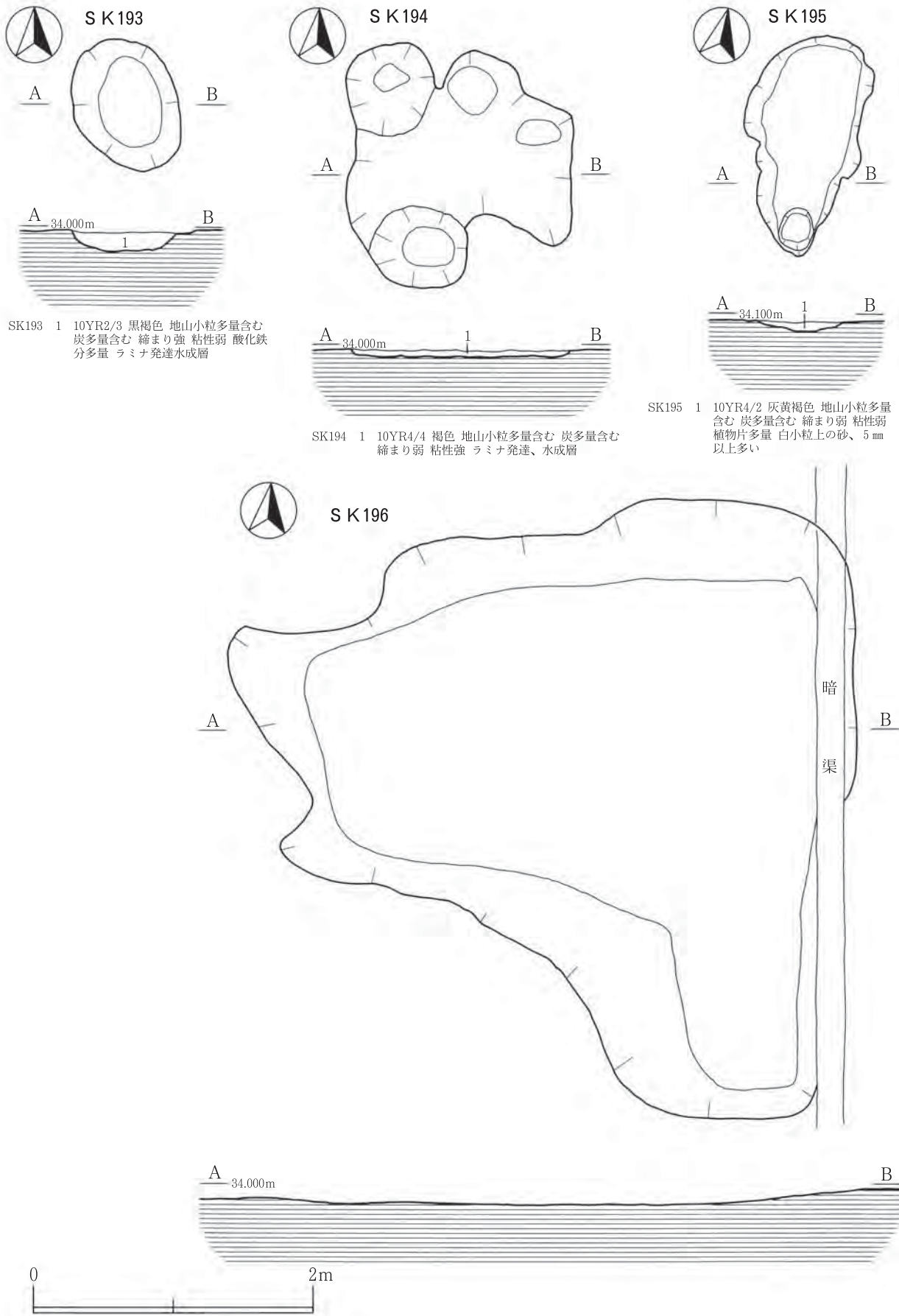


第35図 SK181土坑出土遺物

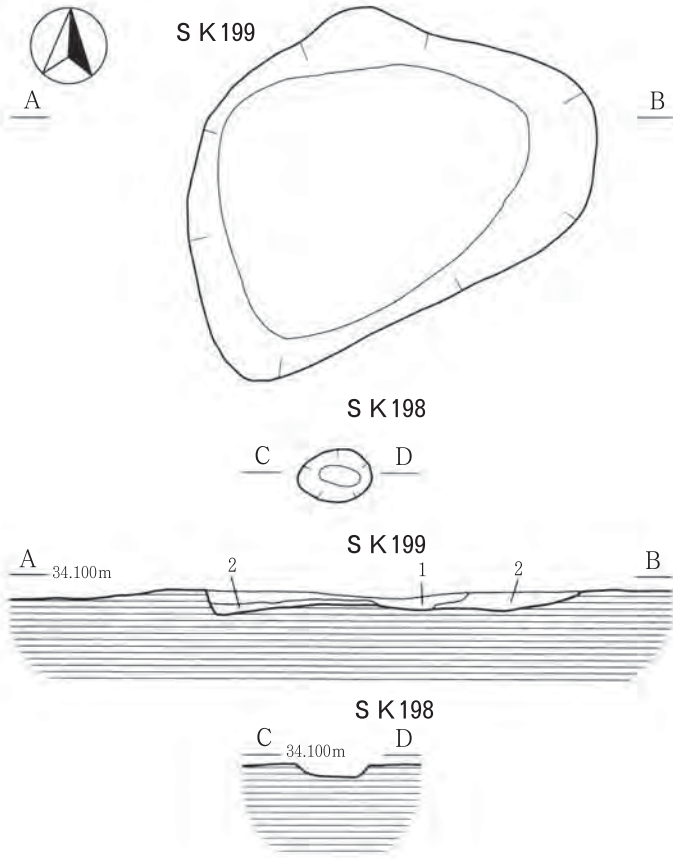


第36図 SK183・185・187・191・192土坑

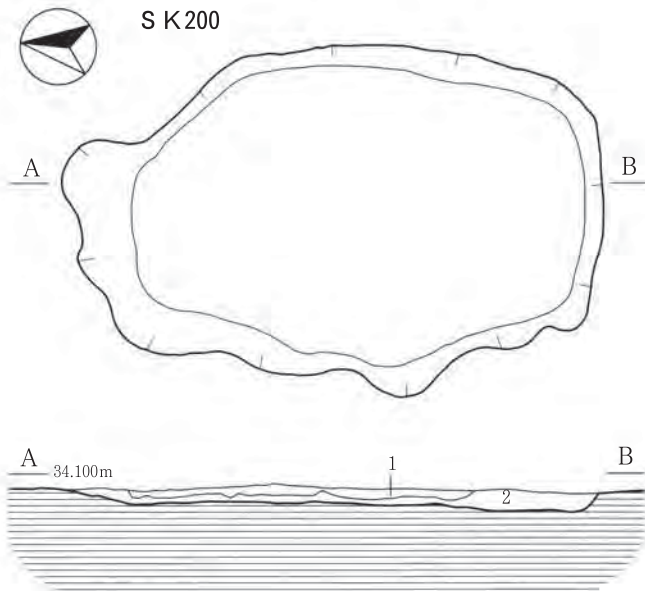
第4章 調査の記録



第37図 SK193・194・195・196土坑



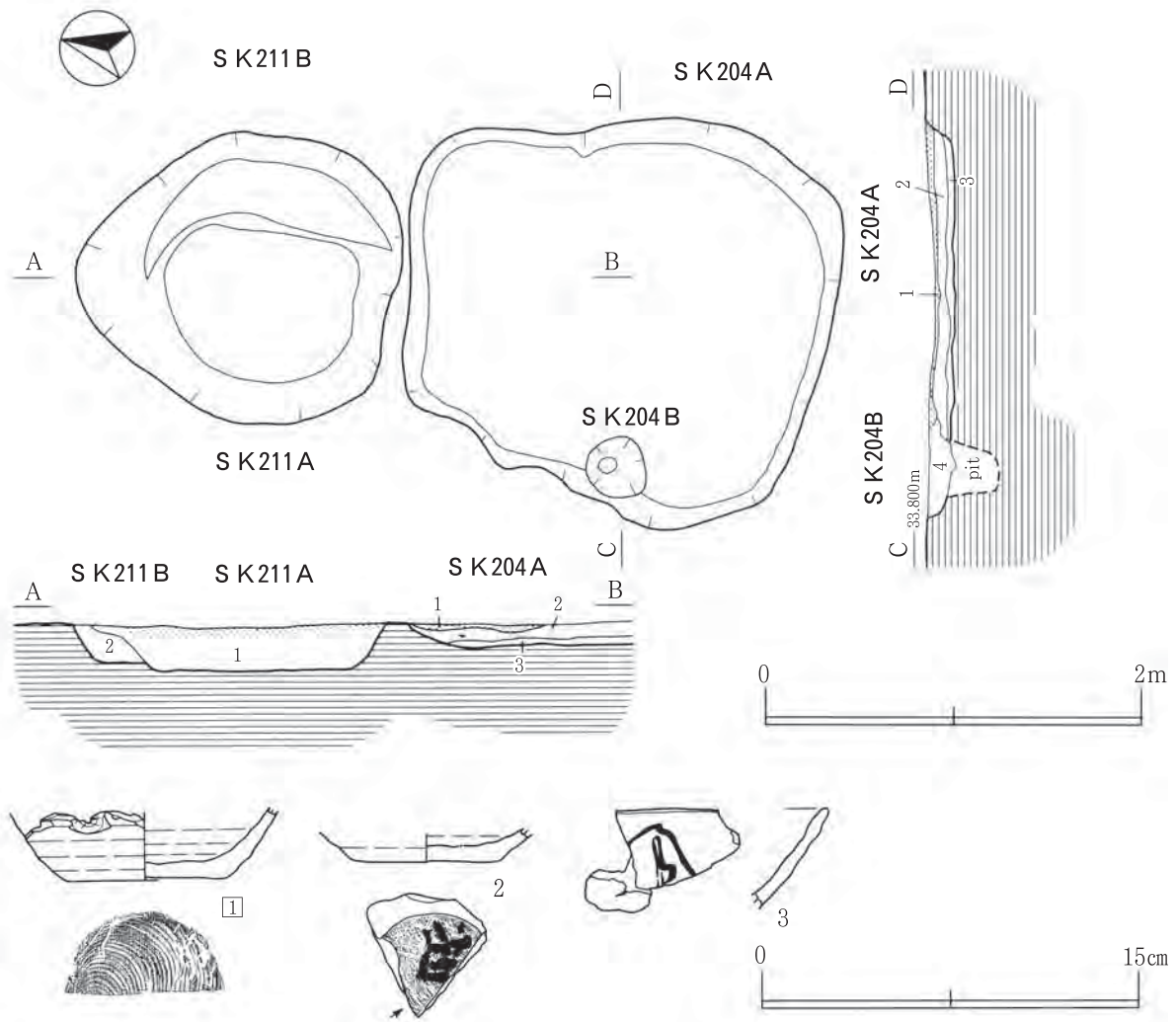
- SK199 1 10YR4/2 灰黄褐色 地山小粒多量含む 炭少量含む
 締まり強 粘性強 植物片多量 酸化鉄分多量
 2 10YR3/3 暗褐色 地山中粒中量含む 炭多量含む
 締まり強 粘性強 植物片中量 酸化鉄分多量



- SK200 1 2.5Y4/1 黄灰色 地山小粒中量含む 炭少量含む
 締まりやや強 粘性強 5mm以上の炭多量
 植物片多量 酸化鉄分少量 やや砂質
 2 2.5Y5/2 暗灰黄色 地山小粒多量含む 炭多量含む
 締まり弱 粘性強 植物片中量 酸化鉄分多量

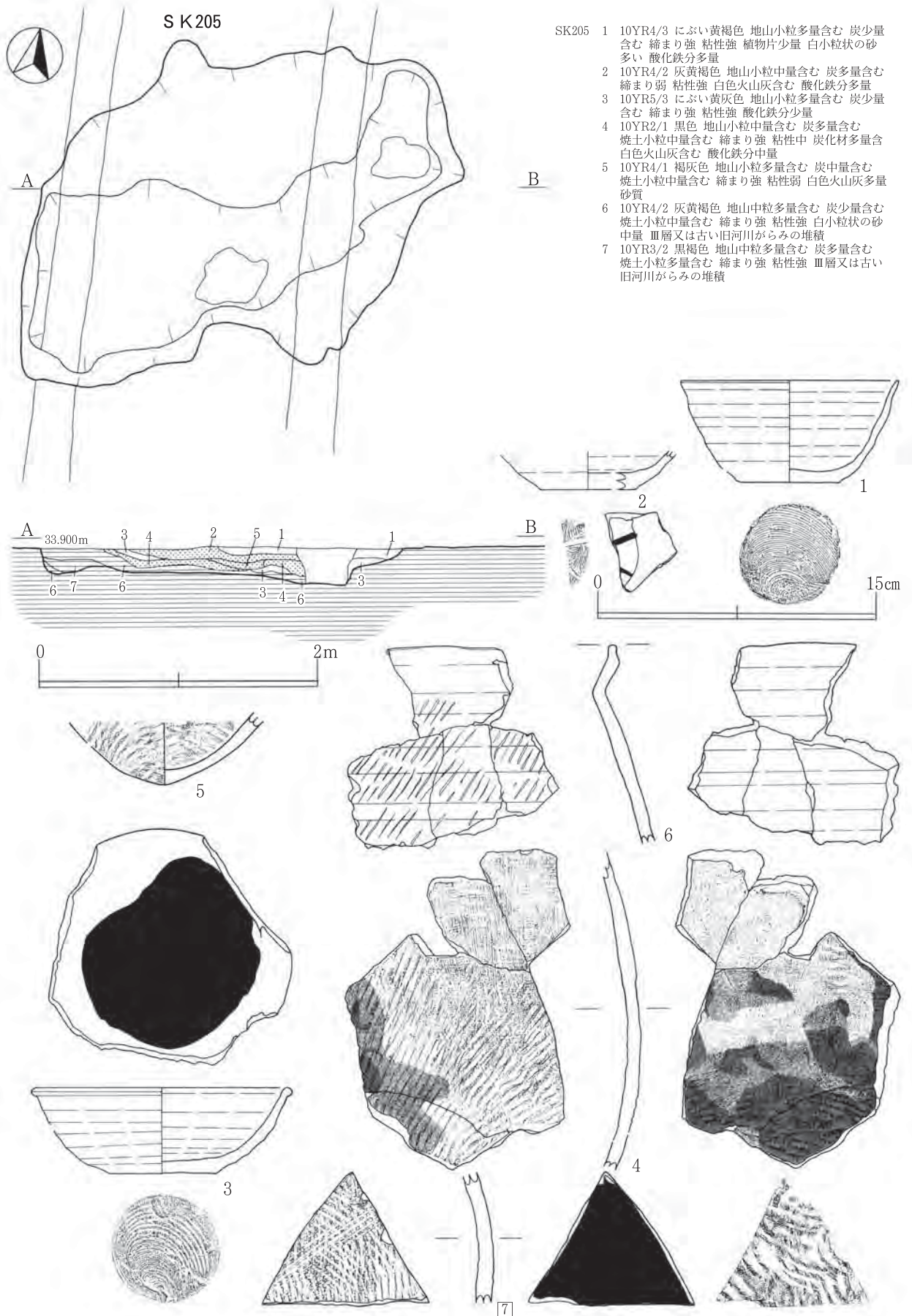


第38図 SK199・200土坑

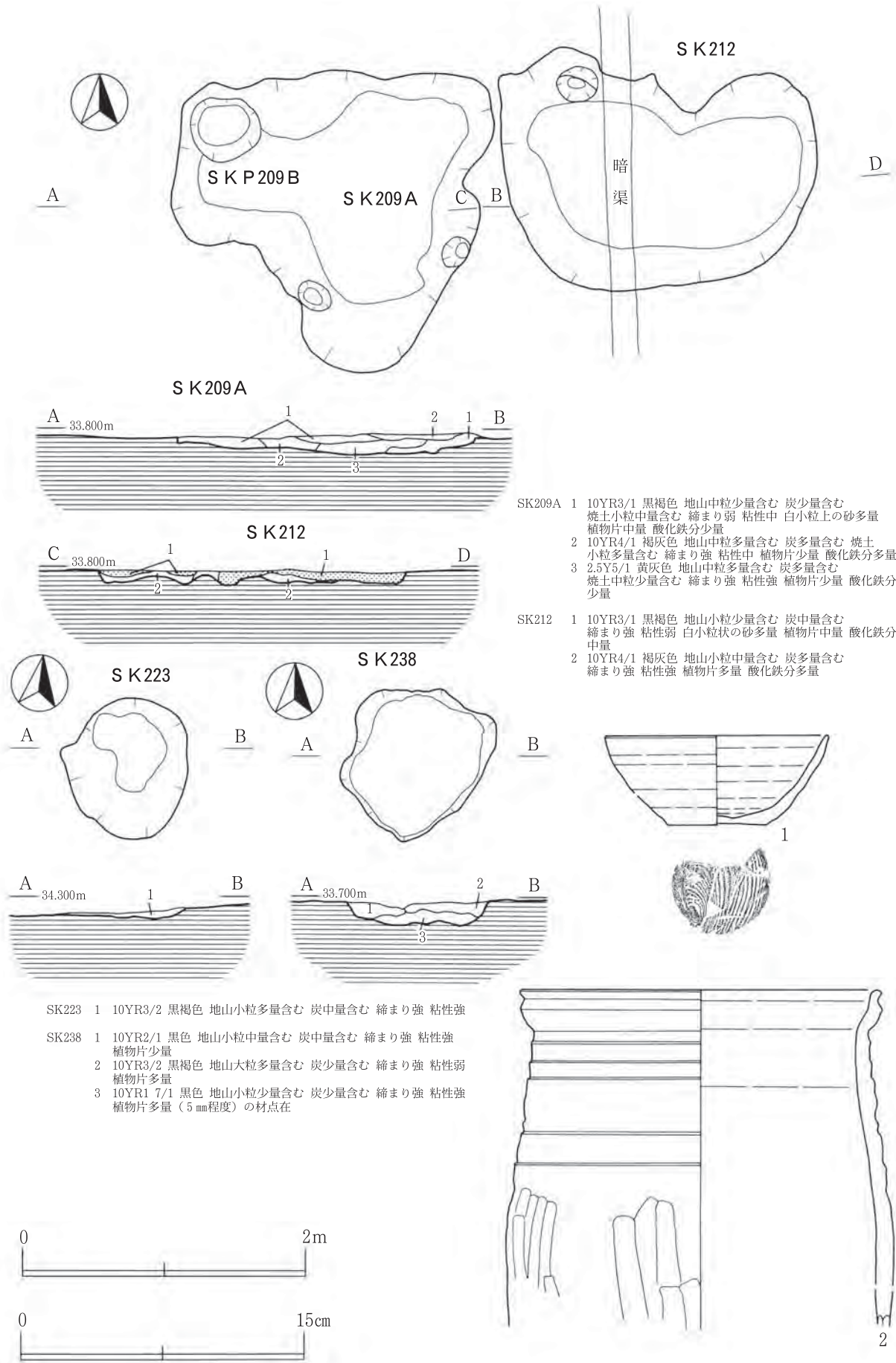


- SK204A 1 2.5Y2/3 暗オリーブ褐色 地山小粒多量含む 炭中量含む 締まり強 粘性強 火山灰斑状に含む
 2 10GY6/1 緑灰色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
 3 5GY4/1 暗オリーブ灰色 地山小粒中量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
 4 10Y5/1 灰色 地山小粒中量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
- SK204B 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 地山小粒少量含む 炭少量含む 締まり多 粘性強
 2 10GY6/1 緑灰色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強
 3 5GY4/1 暗オリーブ灰色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
- SK211 1 2.5Y5/2 暗灰黄色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
 2 5Y5/3 灰オリーブ色 地山小粒中量含む 炭多量含む 締まり強 粘性弱

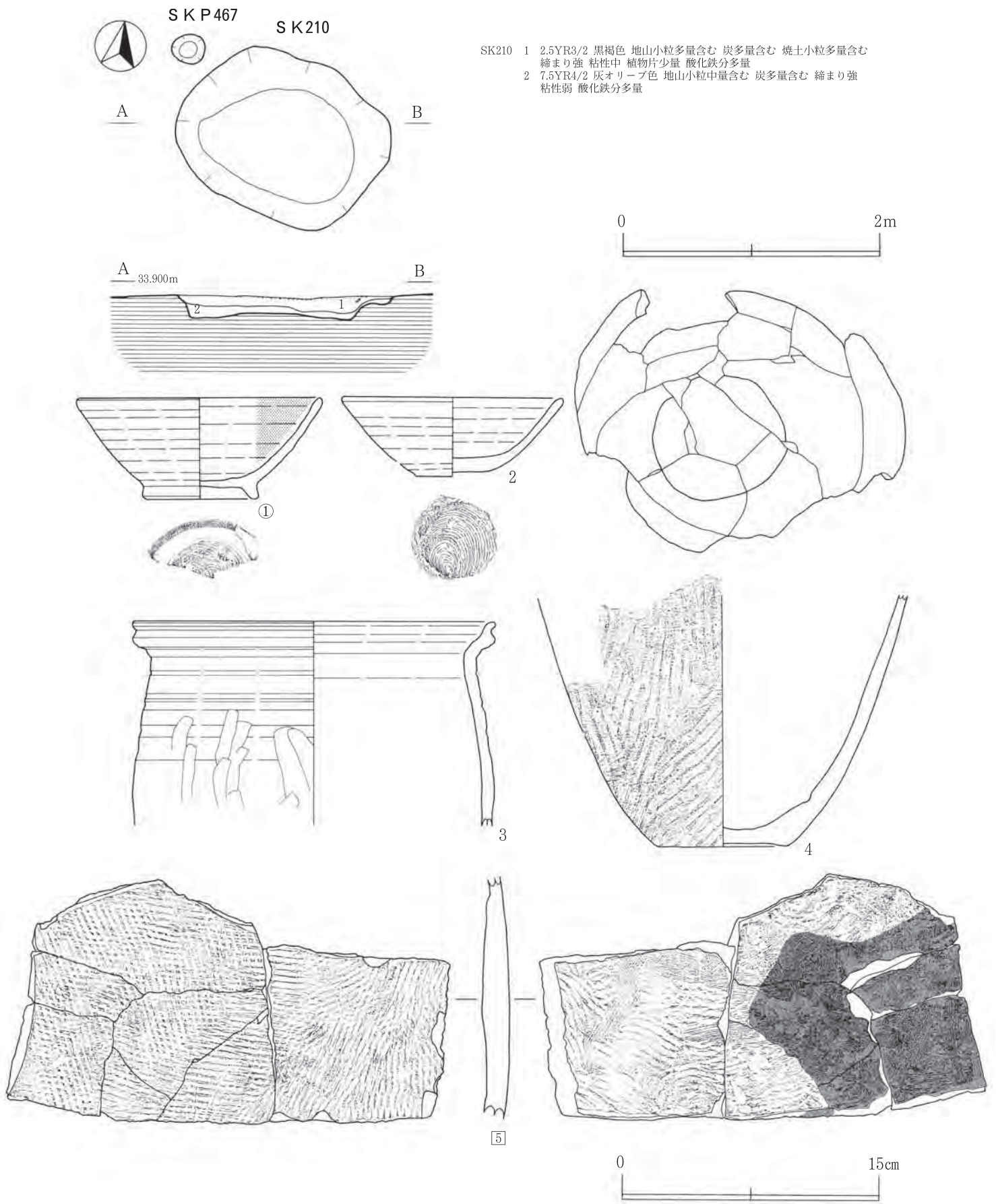
第39図 SK204A・211A・211B土坑と出土遺物



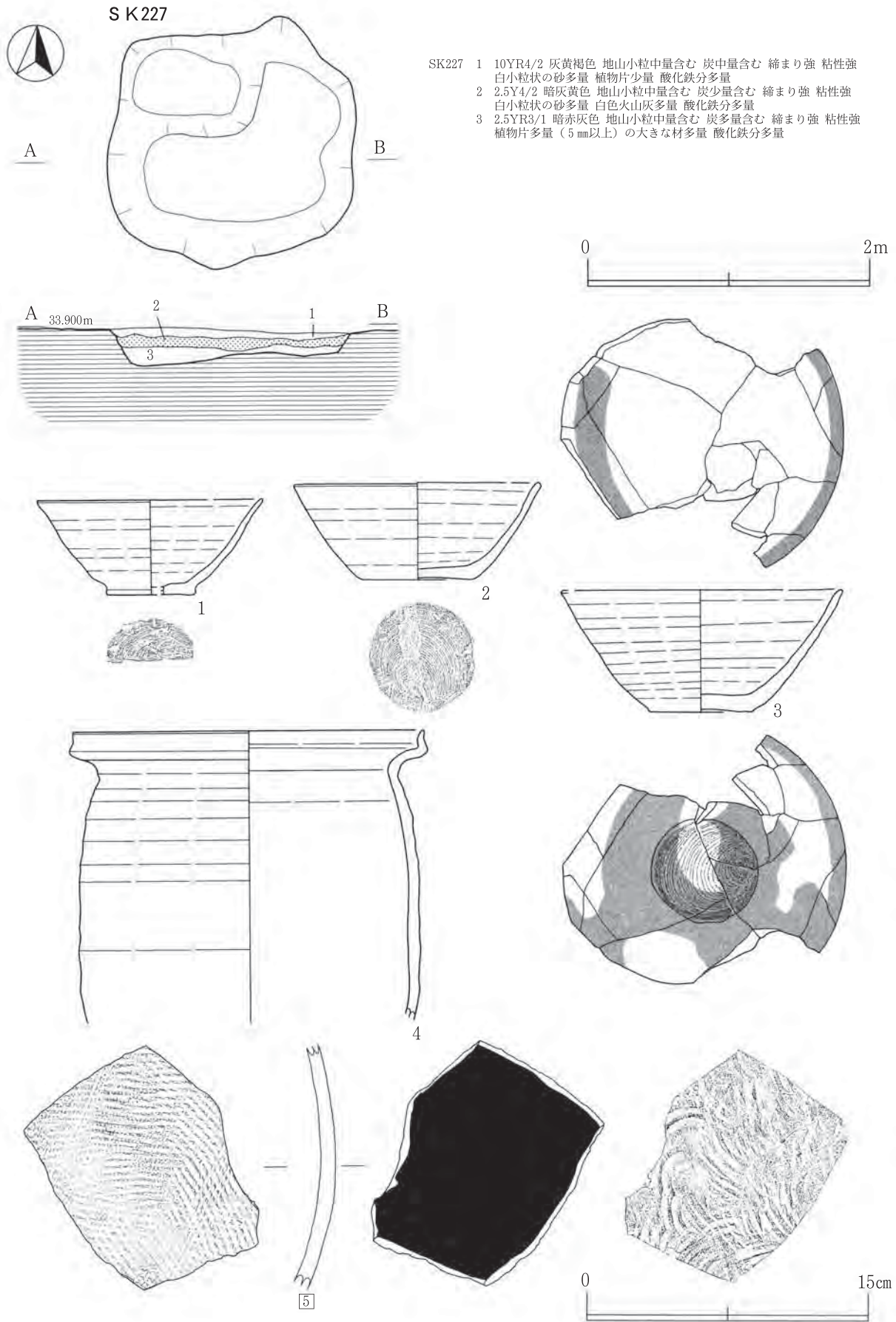
第40図 SK205土坑と出土遺物



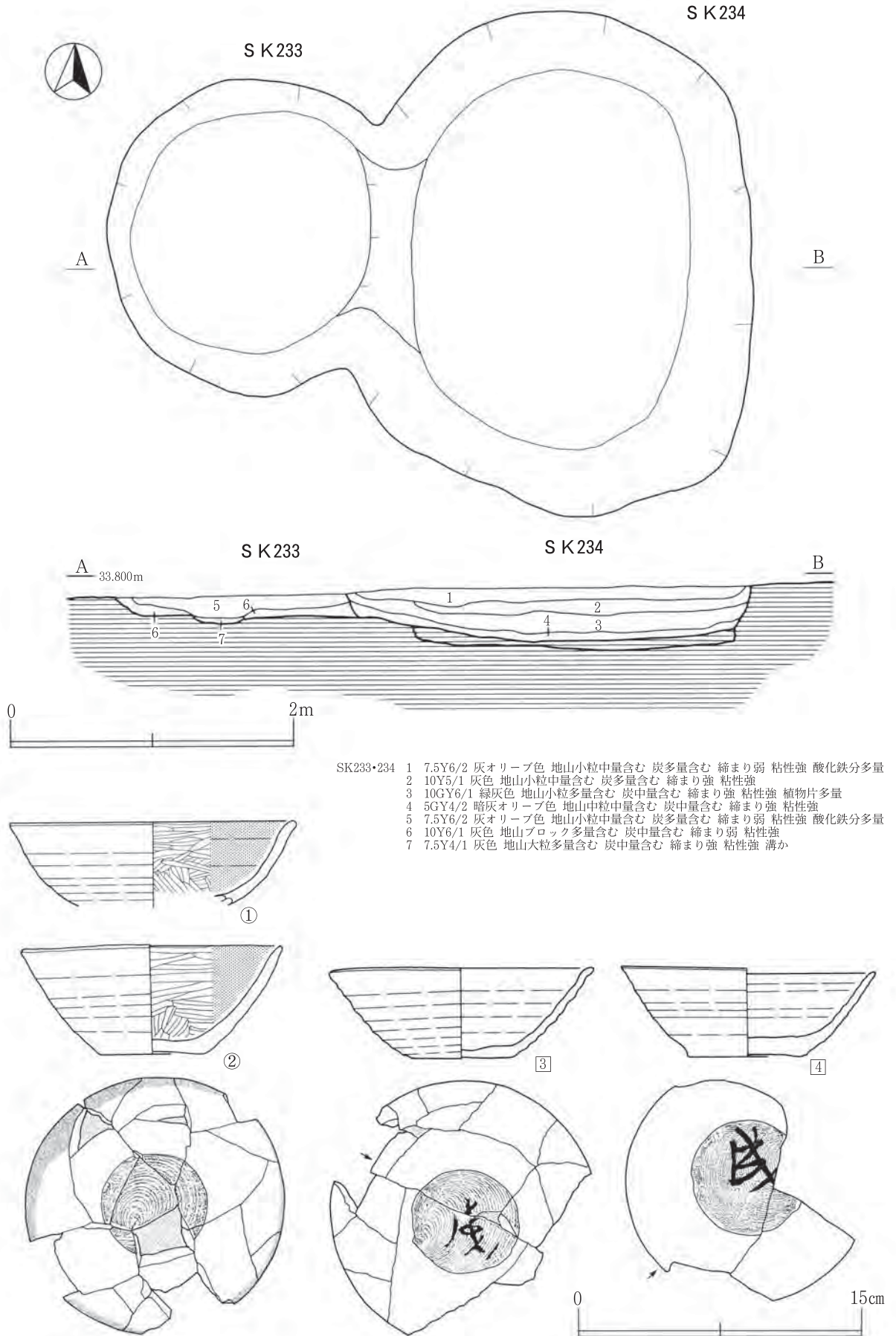
第41図 SK209A・212・223・238土坑と出土遺物



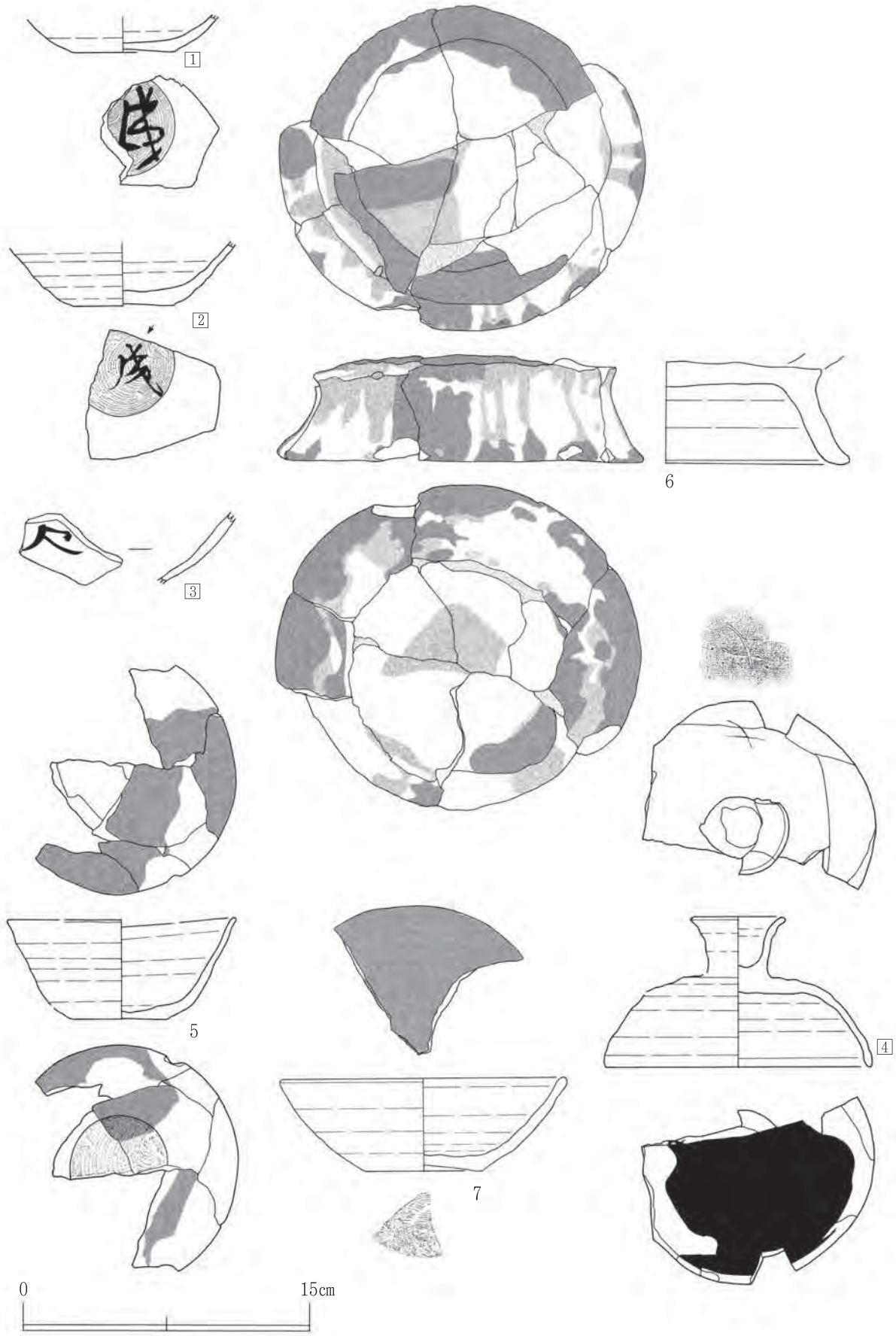
第42図 SK210土坑と出土遺物



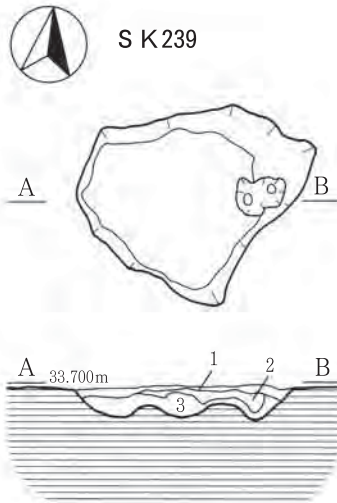
第43図 SK227土坑と出土遺物



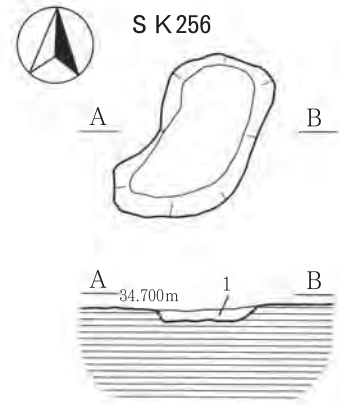
第44図 SK233・234土坑と出土遺物



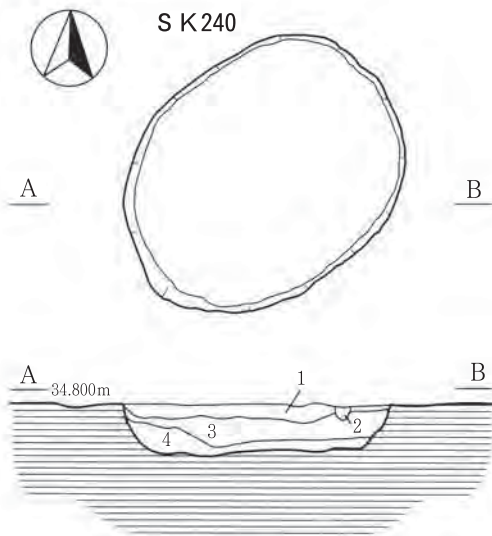
第45図 SK233・234土坑出土遺物



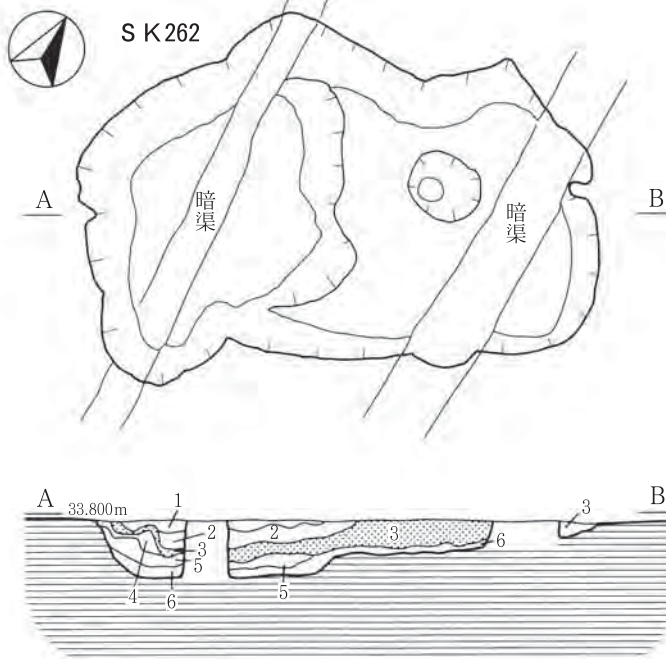
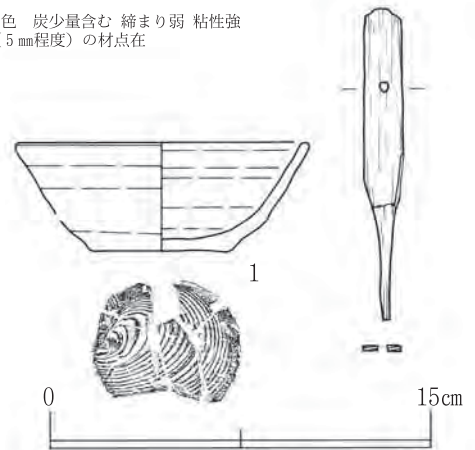
- SK239 1 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む 炭中量含む
 締まり強 粘性強 砂質
 2 10YR2/2 黒褐色 地山小粒中量含む 炭少量含む
 締まり弱 粘性強
 3 10YR2/1 黒色 地山小粒中量含む 炭中量含む
 締まり強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分少量



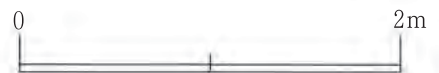
- SK256 1 10YR3/4 暗褐色 炭少量含む
 締まり強 粘性強 植物片少量



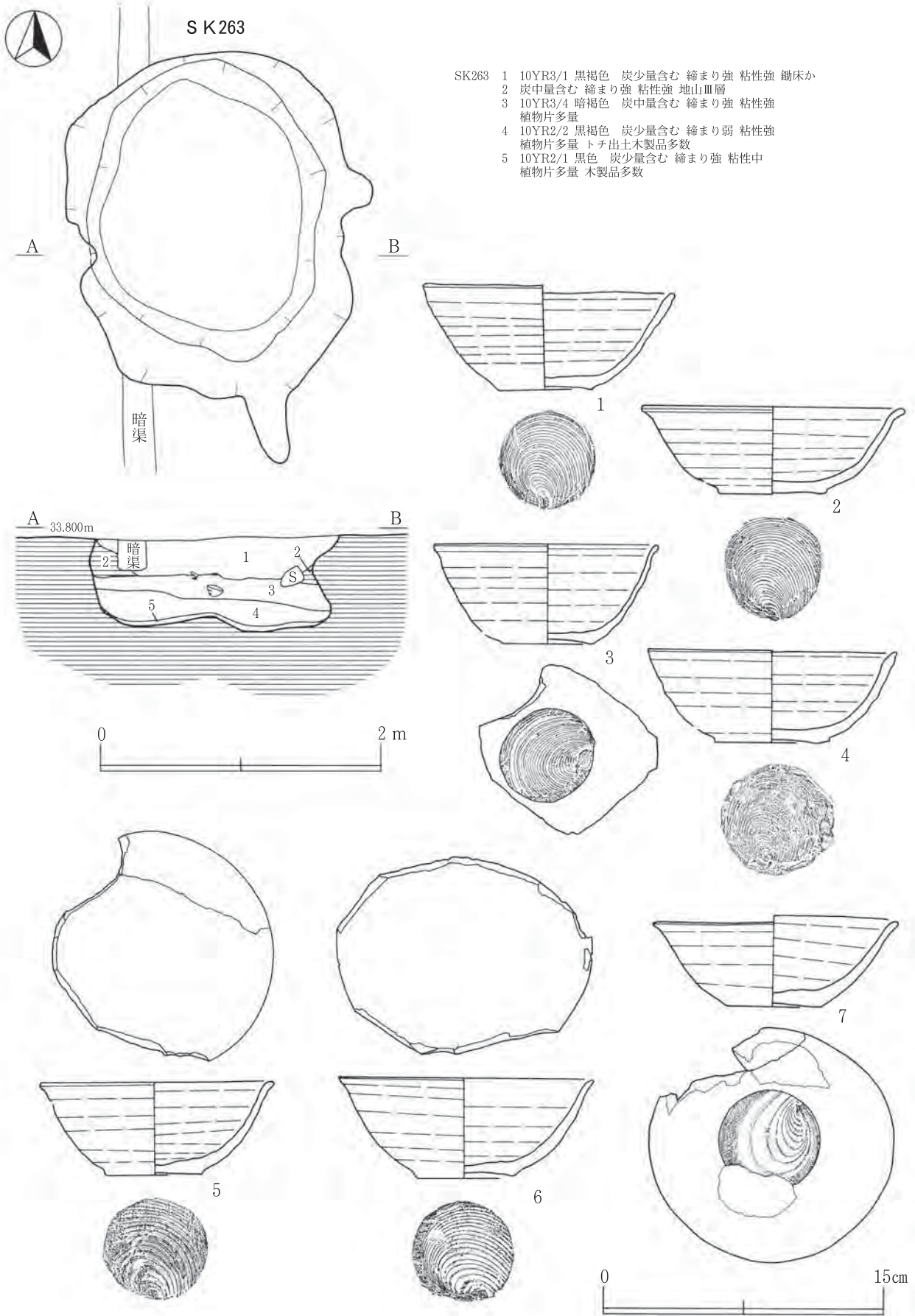
- SK240 1 10YR2/1 黒色 地山小粒少量含む 炭中量含む
 締まり弱 粘性強 植物片多量
 2 7.5YR3/2 黒褐色 地山小粒少量含む 炭少量含む
 締まり強 粘性強 植物片多量 酸化鉄分多量
 3 10YR2/3 黒褐色 炭少量含む 締まり弱 粘性強
 植物片少量
 4 7.5YR2/1 黒色 炭少量含む 締まり弱 粘性強
 植物片多量 (5mm程度) の材点在



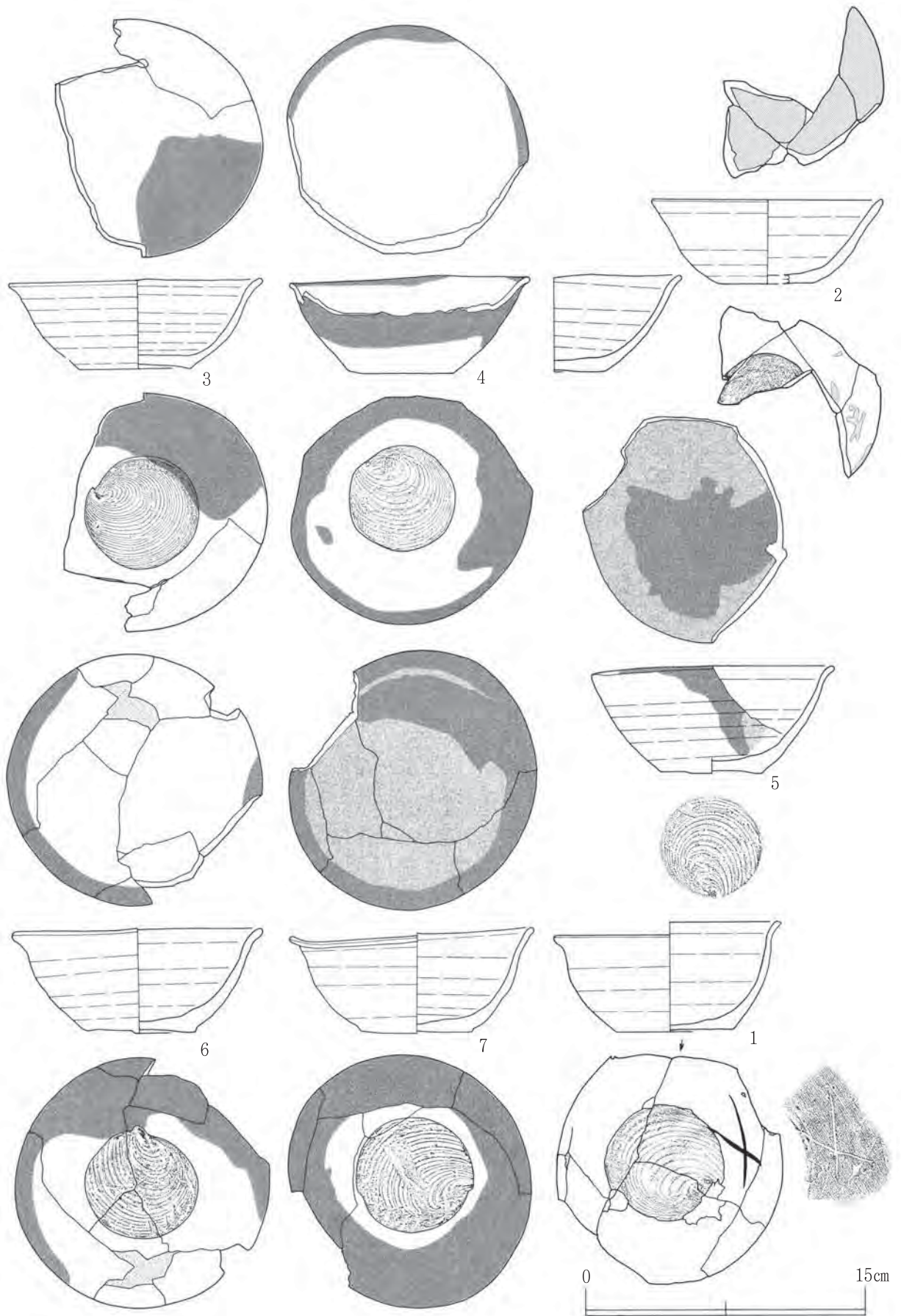
- SK262 1 2.5Y3/2 黒褐色 炭少量含む 締まり強 粘性強
 植物片含む
 2 5Y4/2 灰オリーブ色 炭少量含む 締まり強 粘性強
 やや砂質
 3 5Y7/3 浅黄色 炭少量含む 締まり強 粘性強
 白色火山灰多量 植物片少量
 4 7.5Y3/1 オリーブ黒色 炭多量含む 締まり強
 粘性強 やや砂質
 5 7.5Y4/2 灰オリーブ色 炭中量含む 締まり強
 粘性強 植物片少量
 6 7.5Y3/2 オリーブ黒色 炭少量含む 締まり強 粘性弱
 植物片少量



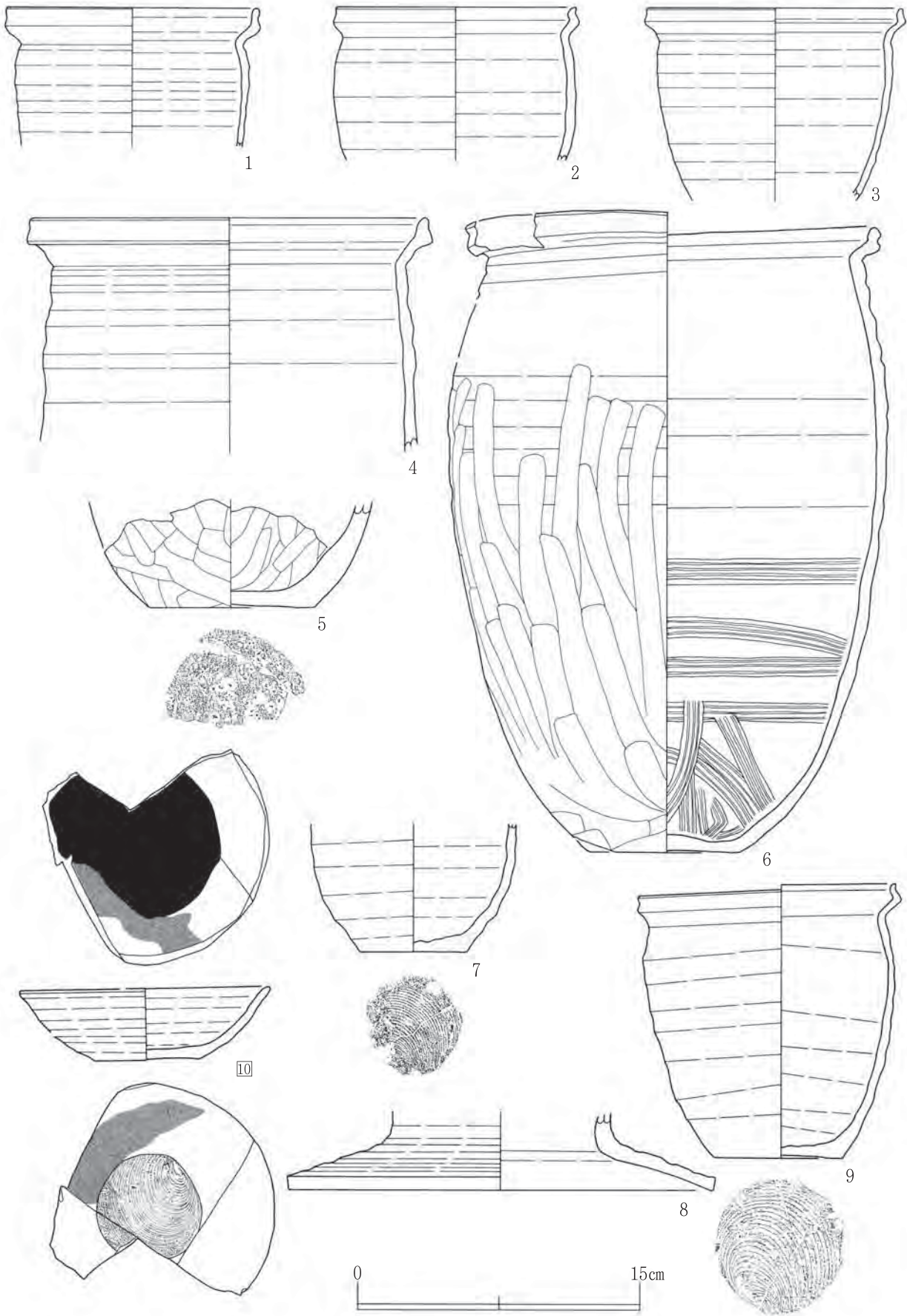
第46図 SK239・240・256・262土坑と出土遺物



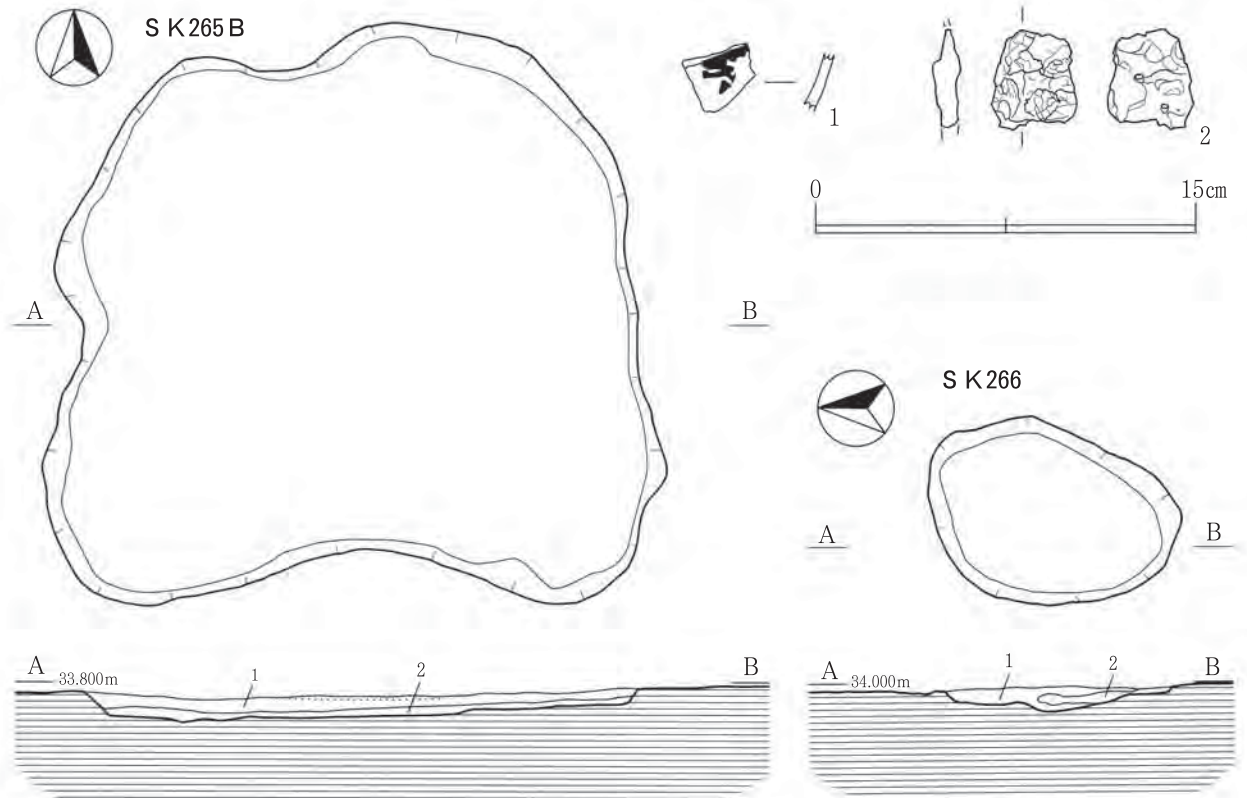
第47図 SK263土坑と出土遺物



第48図 SK263土坑出土遺物（1）

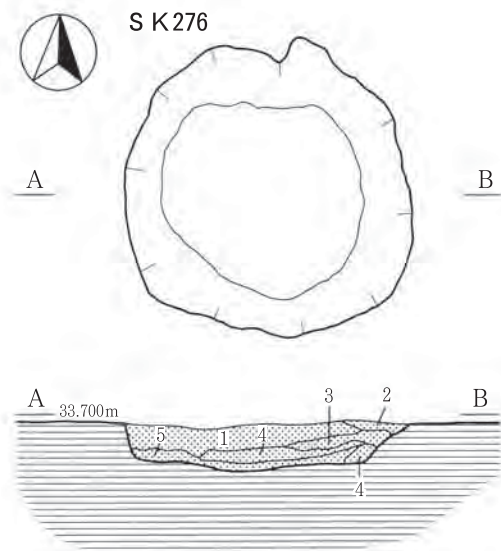


第49図 SK263土坑出土遺物（2）

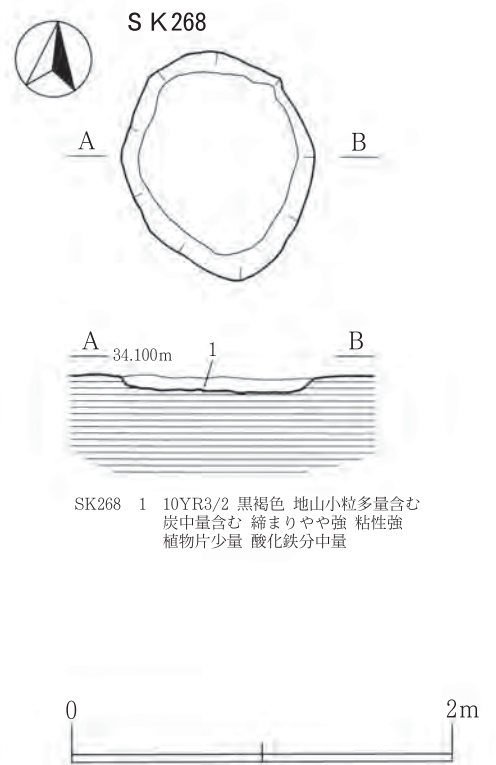


- SK265B 1 10YR3/2 黒褐色 地山小粒多量含む 炭中量含む 締まり強 粘性強 植物片中量 酸化鉄分多量
 2 10YR3/2 黒褐色 地山小粒中量含む 炭中量含む 締まり強 粘性強 植物片少量

- SK266 1 10YR3/2 黒褐色 地山小粒多量含む 炭中量含む 締まり強 粘性弱 植物片（5mm程度）の材点在多量
 2 10YR3/2 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 植物片中量



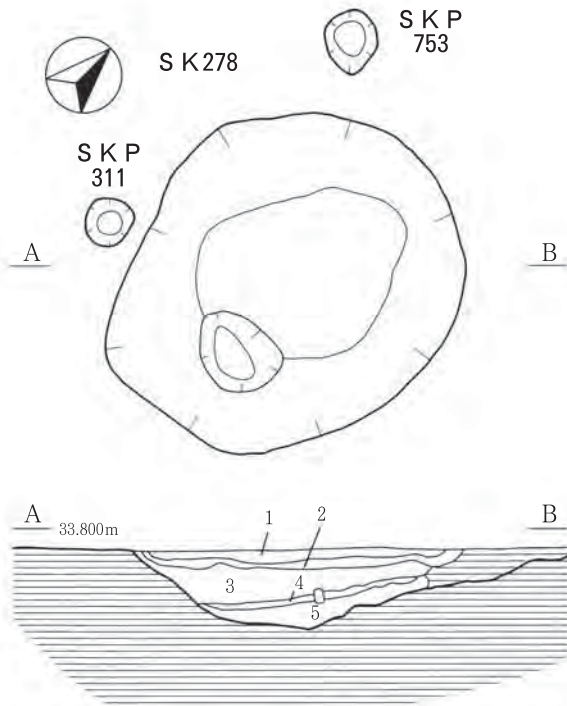
- SK276 1 10YR3/2 黒褐色 地山小粒中量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分少量 やや砂質 白色火山灰多量
 2 10YR3/1 黒褐色 地山小粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分多量 やや砂質 白色火山灰多量
 3 10YR2/3 黒褐色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性弱 植物片少量 酸化鉄分中量 白色火山灰多量
 4 10YR1 7/1 黒色 地山小粒少量含む 炭多量含む 締まり強 粘性中 植物片多量 炭がほとんど 白色火山灰多量
 5 10YR2/1 黒色 地山小粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 植物片多量（5mm程度）の粒状の砂多量 白色火山灰多量



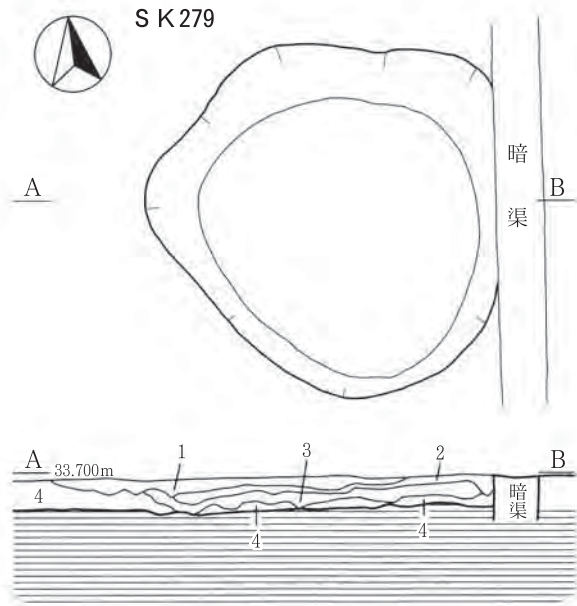
- SK268 1 10YR3/2 黒褐色 地山小粒多量含む 炭中量含む 締まりやや強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分中量

第50図 SK265B・266・268・276土坑と出土遺物

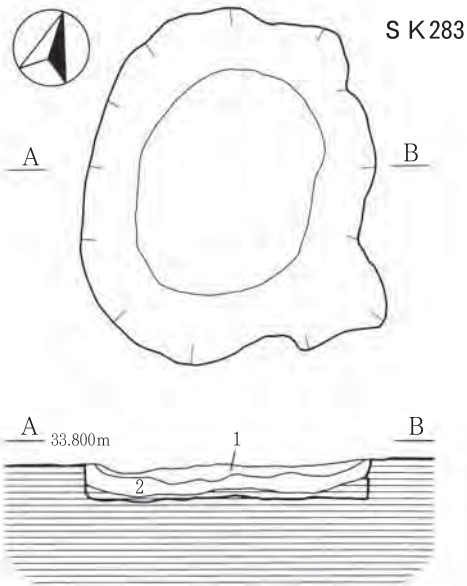
第4章 調査の記録



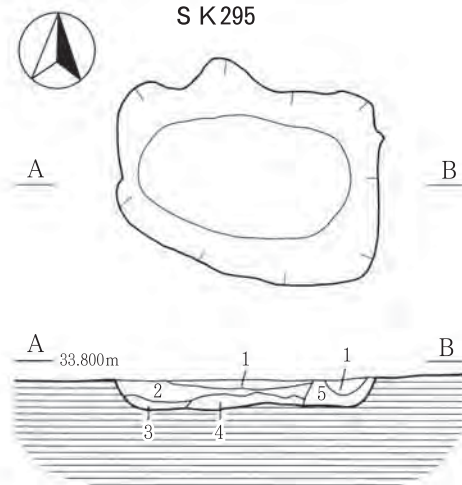
- SK278 1 地山中粒中量含む 炭少量含む 締まり強 粘性中
 2 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
 3 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性弱
 4 地山中粒中量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強
 5 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり弱 粘性強



- SK279 1 2.5Y4/1 黄灰色 地山中粒少量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 酸化鉄分中量 砂質
 2 2.5Y3/1 黒褐色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 酸化鉄分少量
 3 2.5Y4/2 暗灰黄色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり弱 粘性強 5mm程度の粒状の砂 酸化鉄分多量
 4 7.5Y4/1 灰色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性中 酸化鉄分少量 粘土層



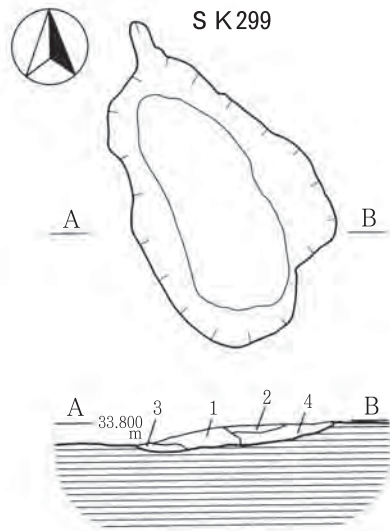
- SK283 1 2.5Y3/1 黒褐色 地山中粒中量含む 炭多量含む 締まり強 粘性中 白小粒状(5mm)砂多量 植物片多量 酸化鉄分多量
 2 5Y4/1 灰色 地山中粒中量含む 炭少量含む 締まり弱 粘性中 酸化鉄分多量



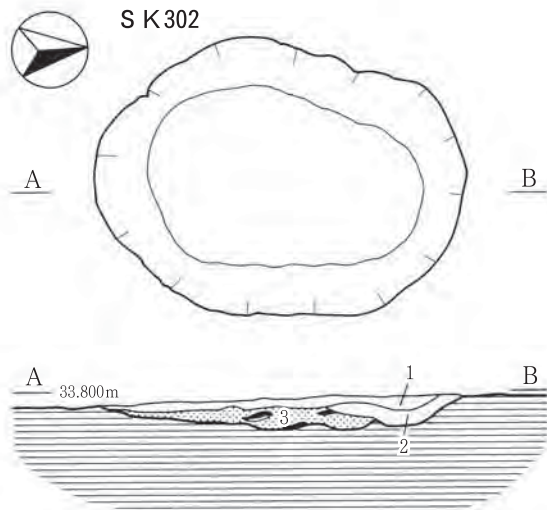
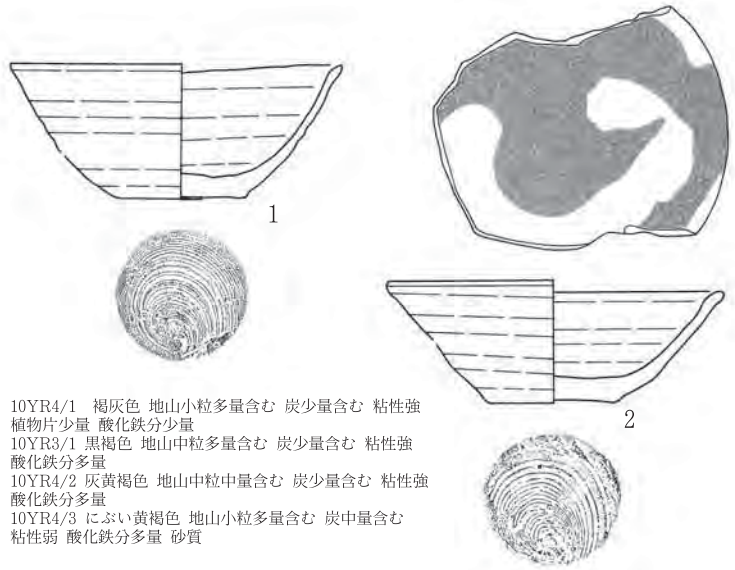
- SK295 1 2.5Y3/1 黒褐色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり弱 粘性強 植物片多量 酸化鉄分多量 やや砂質
 2 2.5Y3/2 黒褐色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分少量
 3 5Y4/1 灰色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分少量
 4 5Y4/2 灰オリーブ色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり中 粘性強 植物片多量 酸化鉄分少量
 5 2.5Y4/2 暗灰黄色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり弱 粘性強 植物片少量 酸化鉄分中量



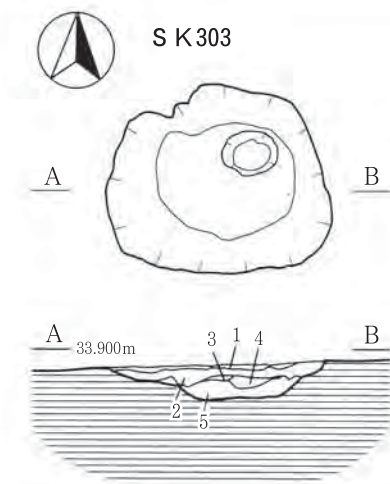
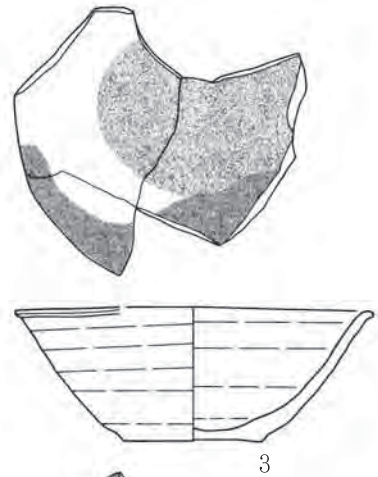
第51図 SK278・279・283・295土坑



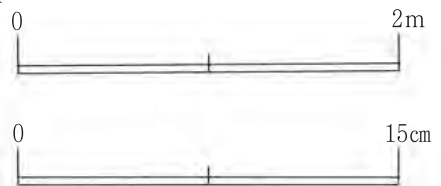
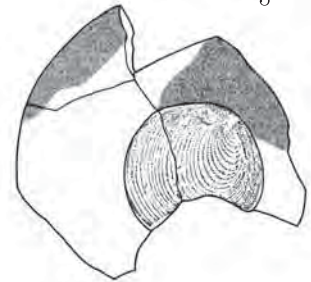
- SK299 1 10YR4/1 褐灰色 地山小粒多量含む 炭少量含む 粘性強 植物片少量 酸化鉄分少量
 2 10YR3/1 黒褐色 地山中粒多量含む 炭少量含む 粘性強 酸化鉄分多量
 3 10YR4/2 灰黄褐色 地山中粒中量含む 炭少量含む 粘性強 酸化鉄分多量
 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 地山小粒多量含む 炭中量含む 粘性弱 酸化鉄分多量 砂質



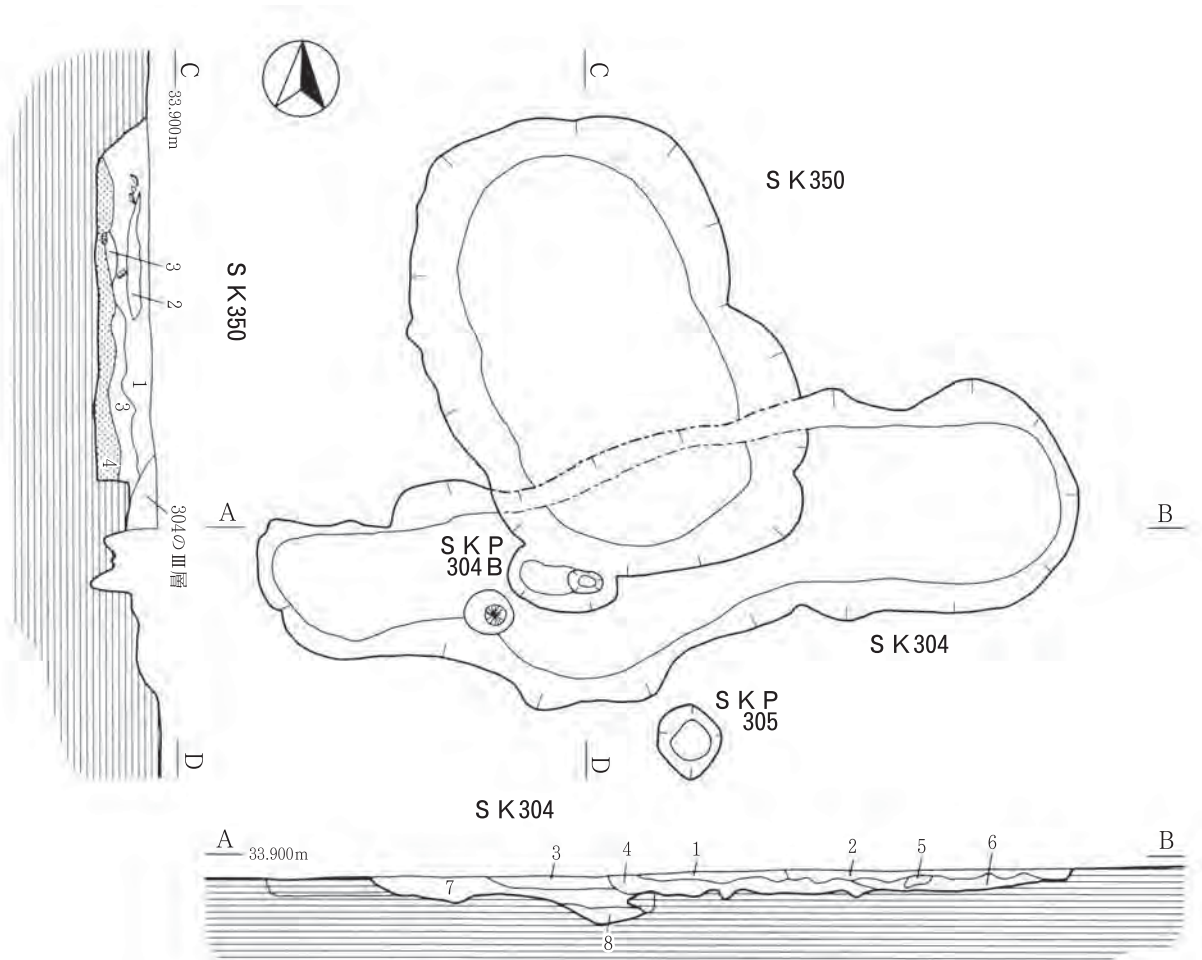
- SK302 1 10YR4/1 褐灰色 地山小粒多量含む 炭多量含む 焼土小粒多量含む 締まり強 粘性強 植物片少量 やや砂質 酸化鉄分中量
 2 10YR3/2 黒褐色 地山中粒中量含む 炭多量含む 焼土小粒多量含む 締まり強 粘性強 植物片少量 やや砂質 酸化鉄分少量
 3 10YR1.7/1 黒色 地山中粒中量含む 炭少量含む 焼土小粒多量含む 締まり強 粘性強 炭がほとんどである。白色火山灰多量 植物片多量



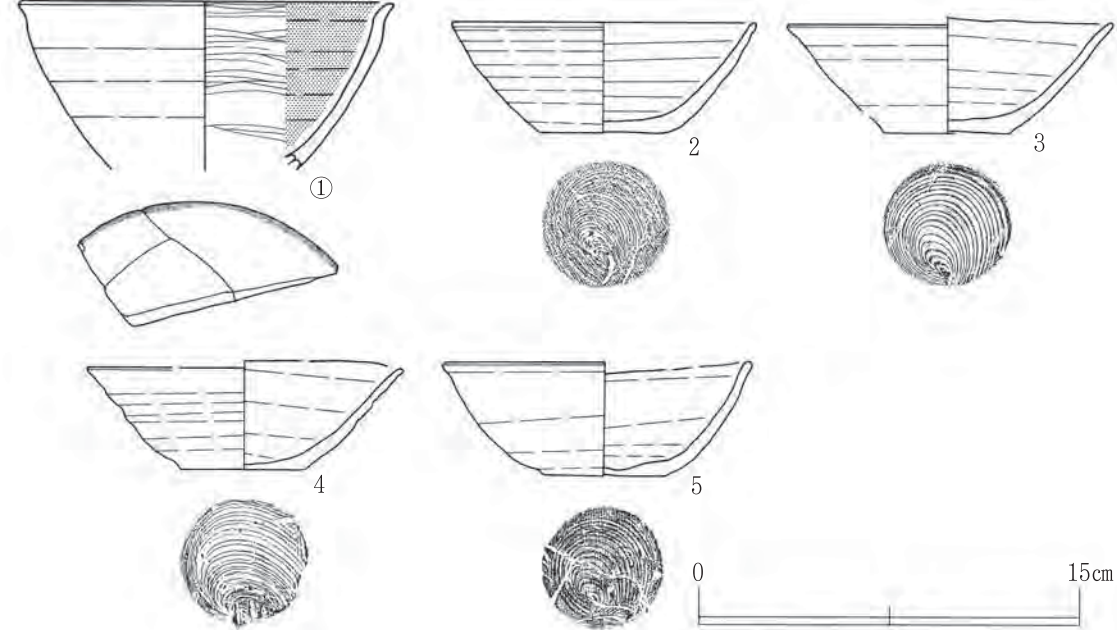
- SK303 1 10YR2/3 黒褐色 地山小粒多量含む 炭少量含む 焼土小粒中量含む 締まり弱 粘性中 植物片少量 やや砂質
 2 10YR2/1 黒色 地山小粒多量含む 炭多量含む 焼土小粒多量含む 締まり強 粘性弱 植物片少量 やや砂質
 3 10YR4/1 褐灰色 地山小粒中量含む 炭少量含む 焼土中粒少量含む 締まり強 粘性強 植物片多量 やや砂質
 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 地山小粒中量含む 炭多量含む 焼土小粒多量含む 締まり強 粘性弱 植物片多量 酸化鉄分中量
 5 10YR3/2 黒褐色 地山小粒少量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 植物片多量 酸化鉄分中量



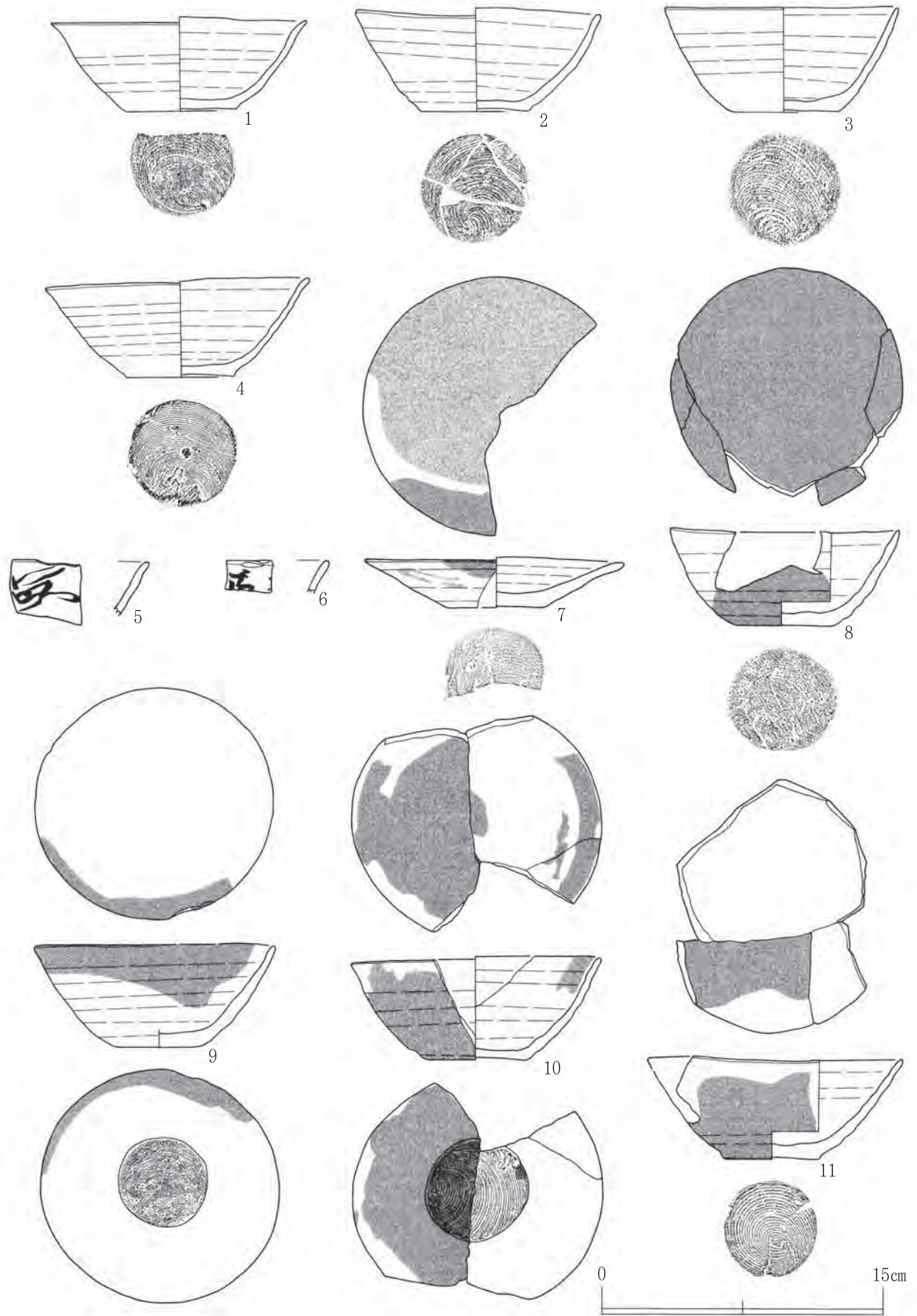
第52図 SK299・302・303土坑と出土遺物



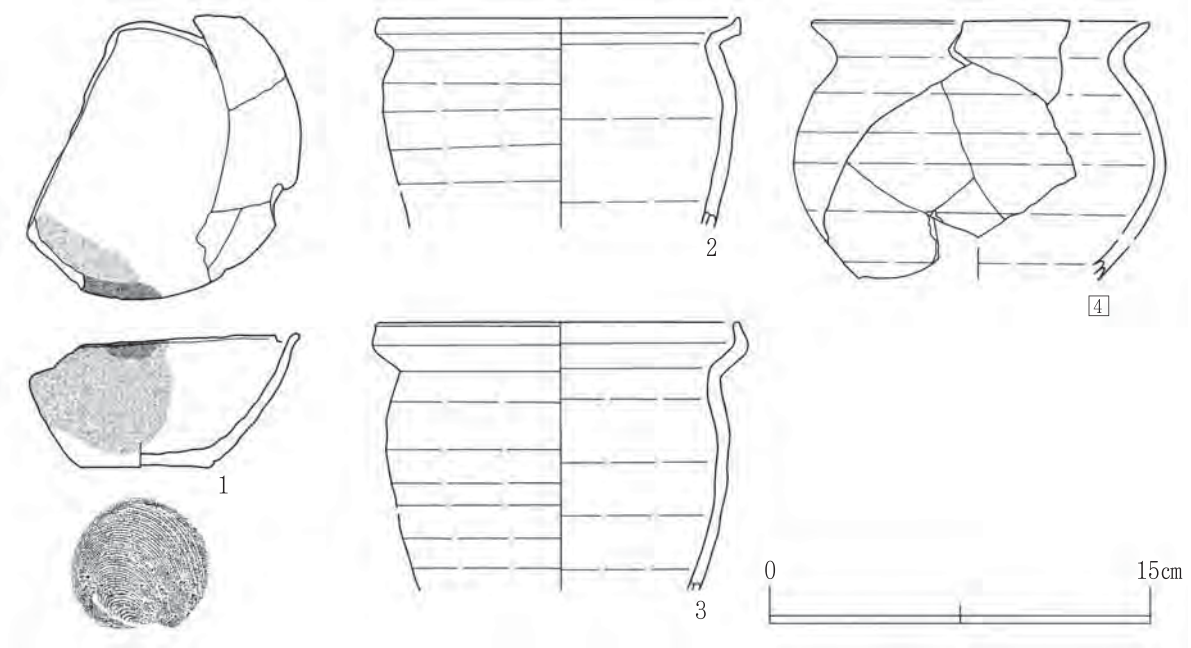
- SK304 1 10YR3/1 黒褐色 地山中粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 白小粒状 (5mm)
 砂多量 酸化鉄分多量
 2 10YR4/2 灰黄褐色 地山中粒多量含む 炭中量含む 焼土小粒中量含む 締まりやや強 粘性強
 白小粒状 (5mm) 砂多量 植物片多量 (5mm以上の材多量)
 3 10YR3/2 黒褐色 地山中粒多量含む 炭少量含む 焼土小粒多量含む 締まり強 粘性強 白小粒状
 (5mm) 砂多量 植物片少量 酸化鉄分少量
 4 10YR2/2 黒褐色 地山中粒中量含む 炭多量含む 焼土小粒多量含む 締まり弱 粘性強 白小粒状 (5mm) 砂多量 植物片多量 土より炭が多い
 5 10YR2/3 黒褐色 地山中粒中量含む 炭中量含む 焼土小粒中量含む 締まり強 粘性強 白小粒状 (5mm) 砂、植物片 (5mm以上の材)、酸化鉄分多量
 6 10YR2/1 黒色 地山中粒中量含む 炭少量含む 焼土小粒中量含む 締まり強 粘性強 白小粒状 (5mm) 砂、酸化鉄分多量 植物片少量
 7 10YR4/3 に近い黄褐色 地山中粒多量含む 炭少量含む 焼土小粒少量含む 締まり強 粘性強 5mmほどの炭多数 植物片少量 酸化鉄分多量
 8 10YR4/1 褐灰色 地山中粒多量含む 炭多量含む 焼土中粒少量含む 締まり強 粘性強 5mmほどの炭多量 植物片多量 酸化鉄分多量 水分多く含む
 SK350 1 2.5Y6/2 暗灰黄色 地山中粒中量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 土器片含む
 2 5Y6/3 オリーブ黄色 地山ブロック多量含む 炭中量含む 締まり強 粘性強 植物片多量 酸化鉄分多量
 3 7.5Y6/3 オリーブ黄色 地山大粒多量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 植物片多量 酸化鉄分多量
 4 7.5Y3/1 オリーブ黒色 地山小ブロック少量含む 炭中量含む 締まり弱 粘性強 焼けた細かい炭密に含む 酸化鉄分多量



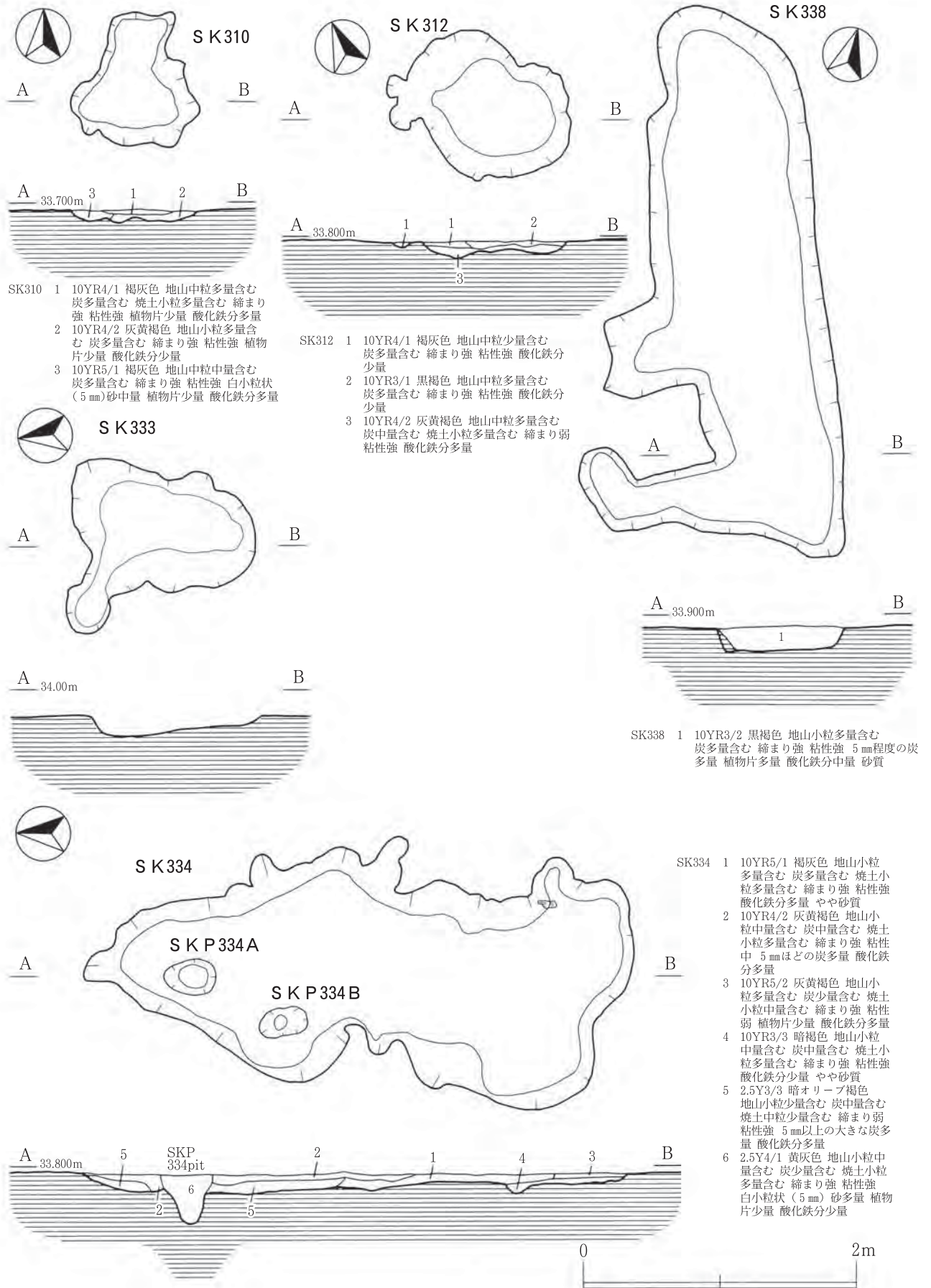
第53図 SK304・350土坑と出土遺物



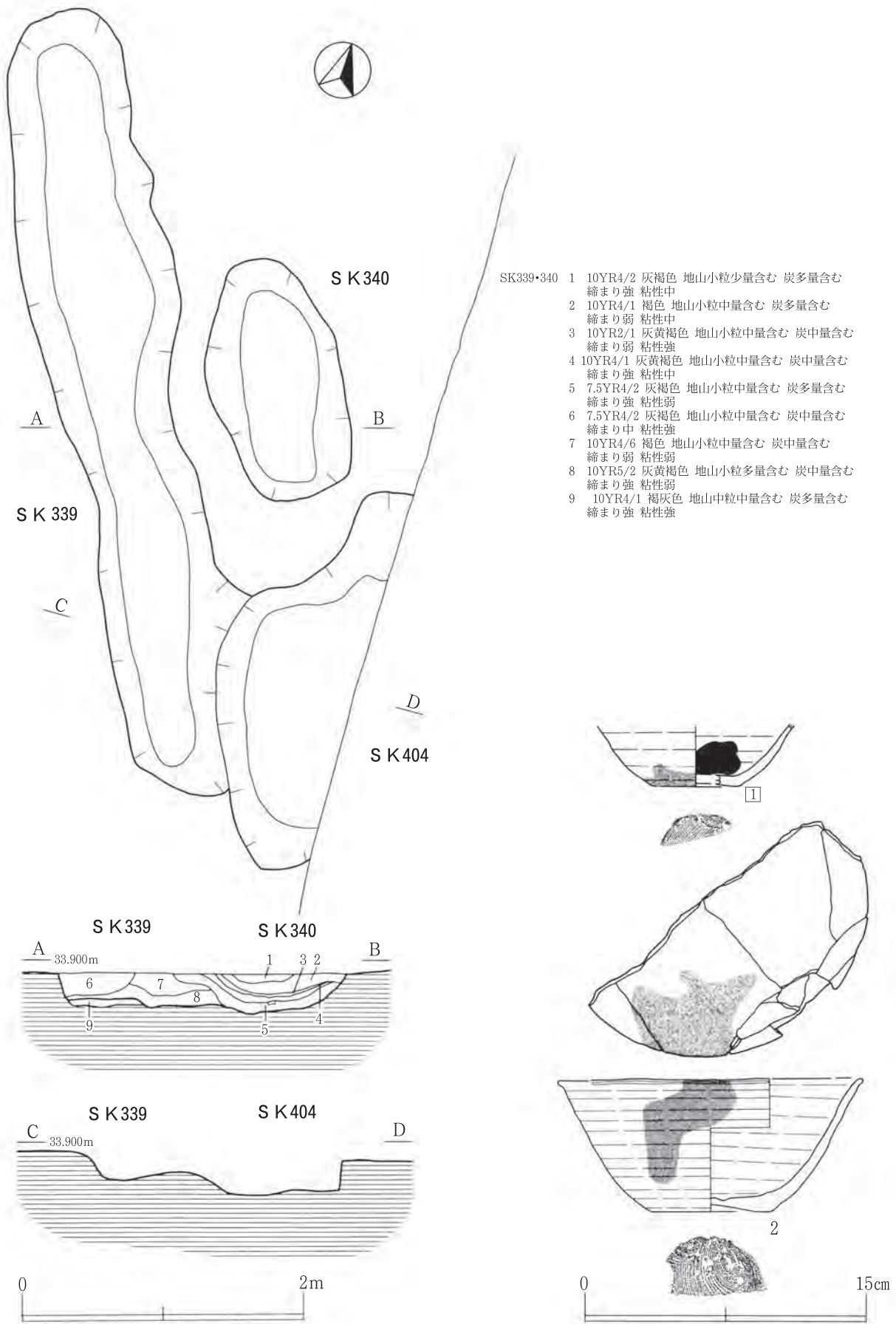
第54図 SK304・350土坑出土遺物（1）



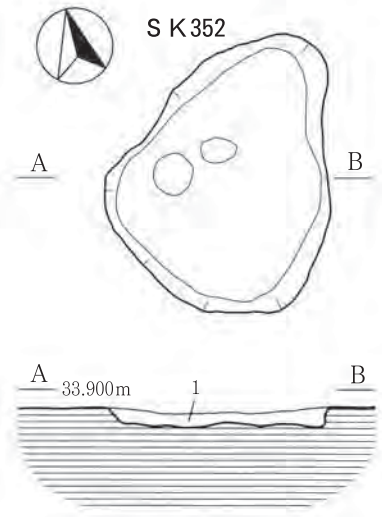
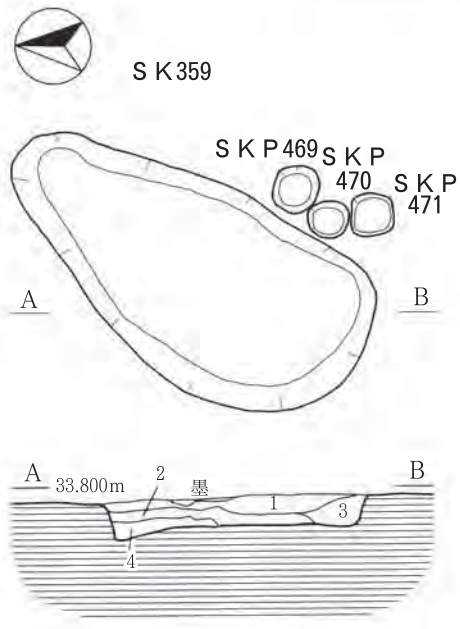
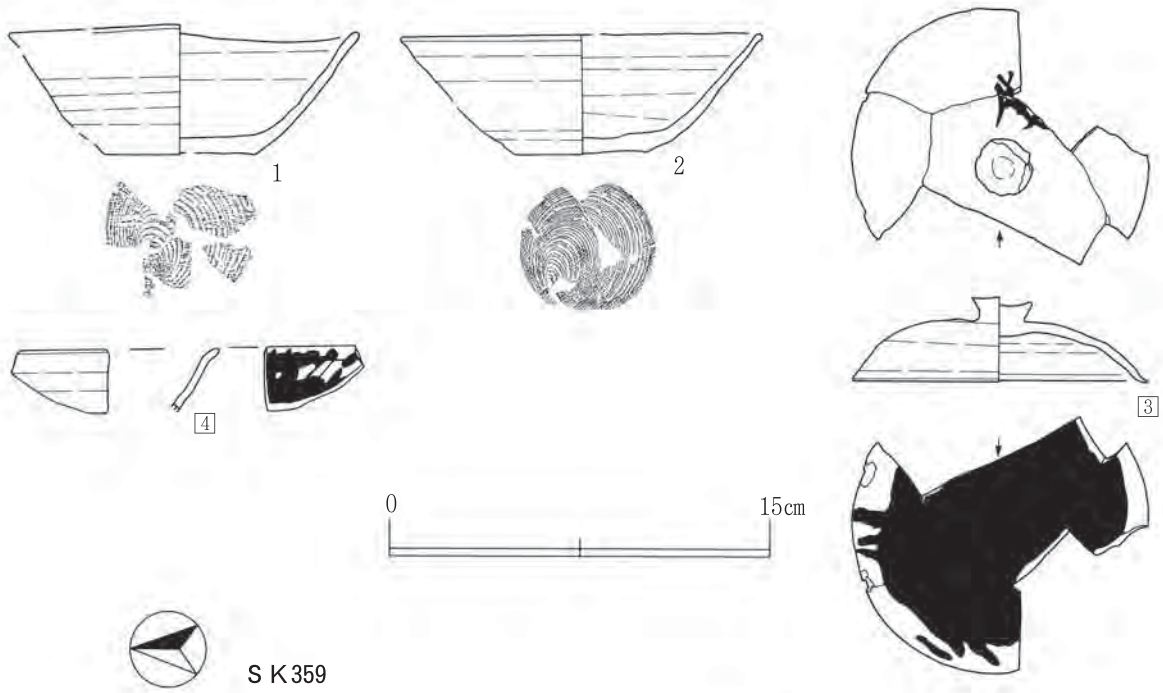
第55図 SK304・350出土遺物（2）



第56図 SK310・312・333・334・338土坑

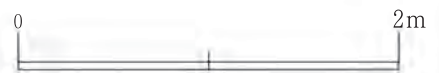


第57図 SK339・340・404土坑と出土遺物

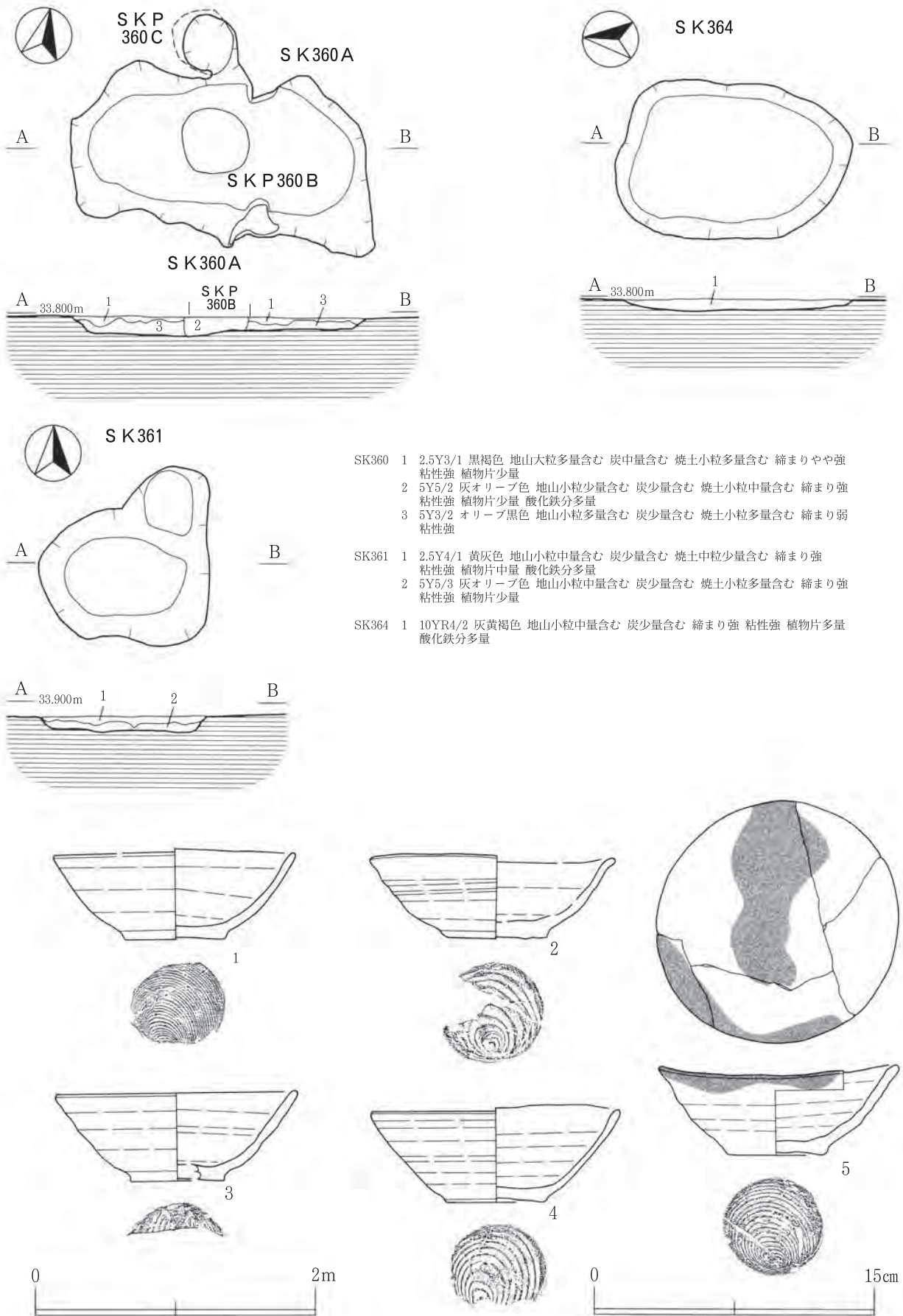


- SK359 1 10YR4/1 褐灰色 地山小粒多量含む 炭少量含む 締まり強
粘性強 植物片多量 酸化鉄分多量 やや砂質
2 2.5Y4/1 黄灰色 地山中粒中量含む 炭中量含む 締まり強
粘性強 植物片 (5 mm以上の材点在) 多量 酸化鉄分多量
3 10YR5/2 灰黄褐色 地山大粒少量含む 炭少量含む 締まり強
粘性強 5 mm以上の大きな炭、植物片少量 酸化鉄分中量
4 5Y4/1 灰色 地山小粒中量含む 炭中量含む 焼土小粒多量含む
締まり強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分多量

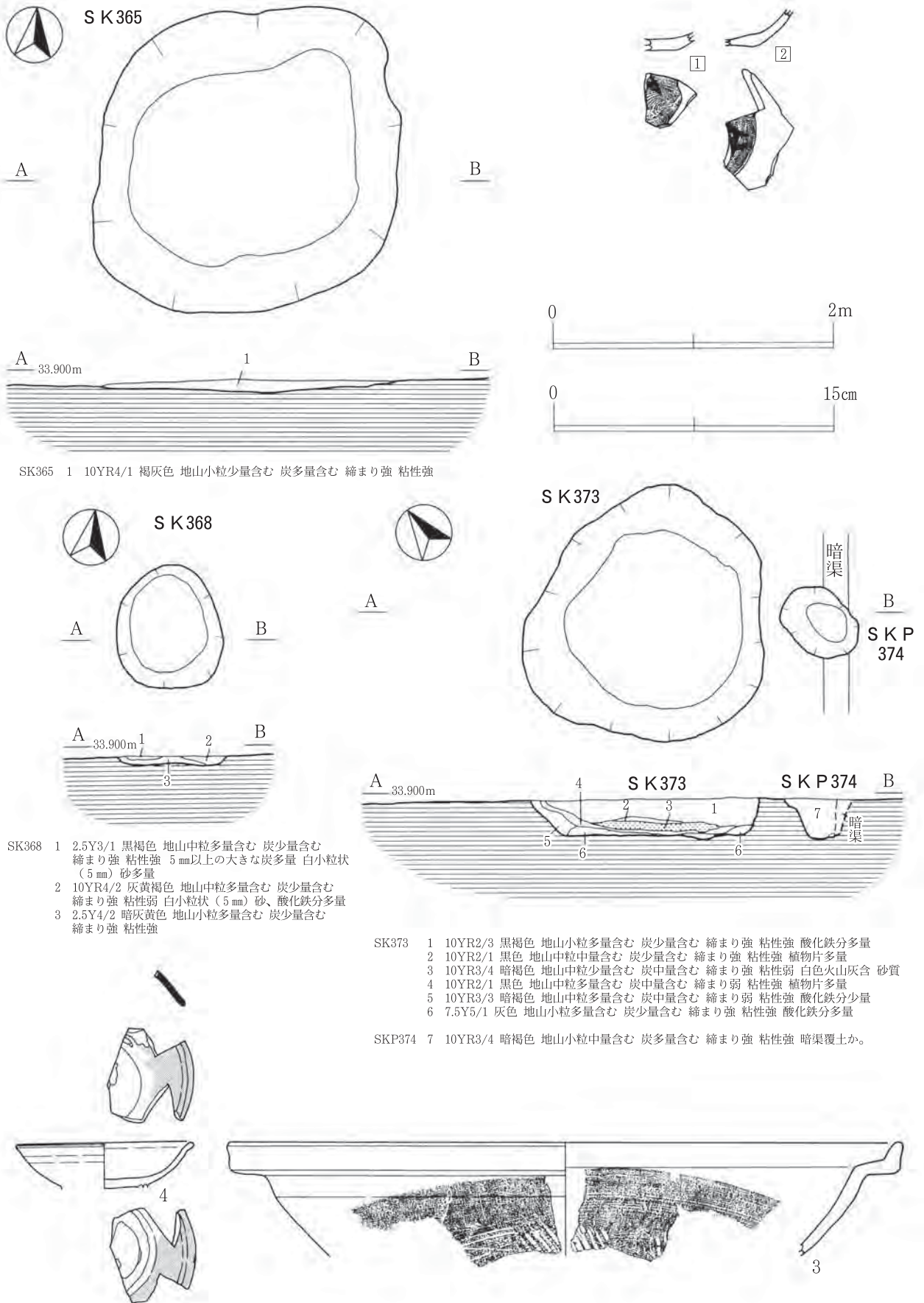
- SK352 1 2.5Y4/1 黄灰色 地山中粒多量含む
炭少量含む 締まり強 粘性強
植物片多量 酸化鉄分多量



第58図 SK339・340・404・352・359土坑と出土遺物



第59図 SK360A・361・364土坑と出土遺物



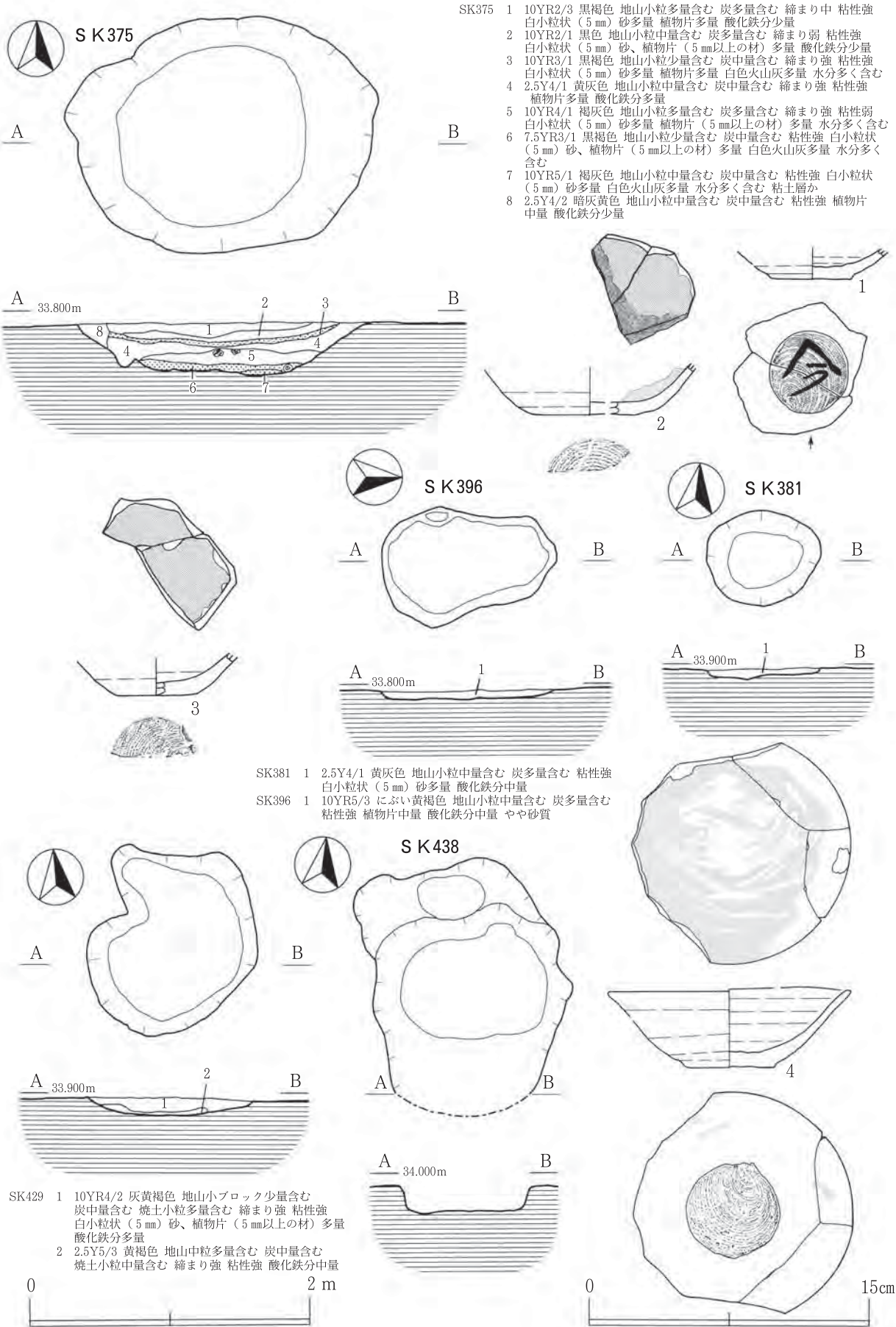
SK365 1 10YR4/1 褐灰色 地山中粒少量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強

SK368 1 2.5Y3/1 黒褐色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 5mm以上の大きな炭多量 白小粒状 (5mm) 砂多量
 2 10YR4/2 灰黄褐色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性弱 白小粒状 (5mm) 砂、酸化鉄分多量
 3 2.5Y4/2 暗灰黄色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強

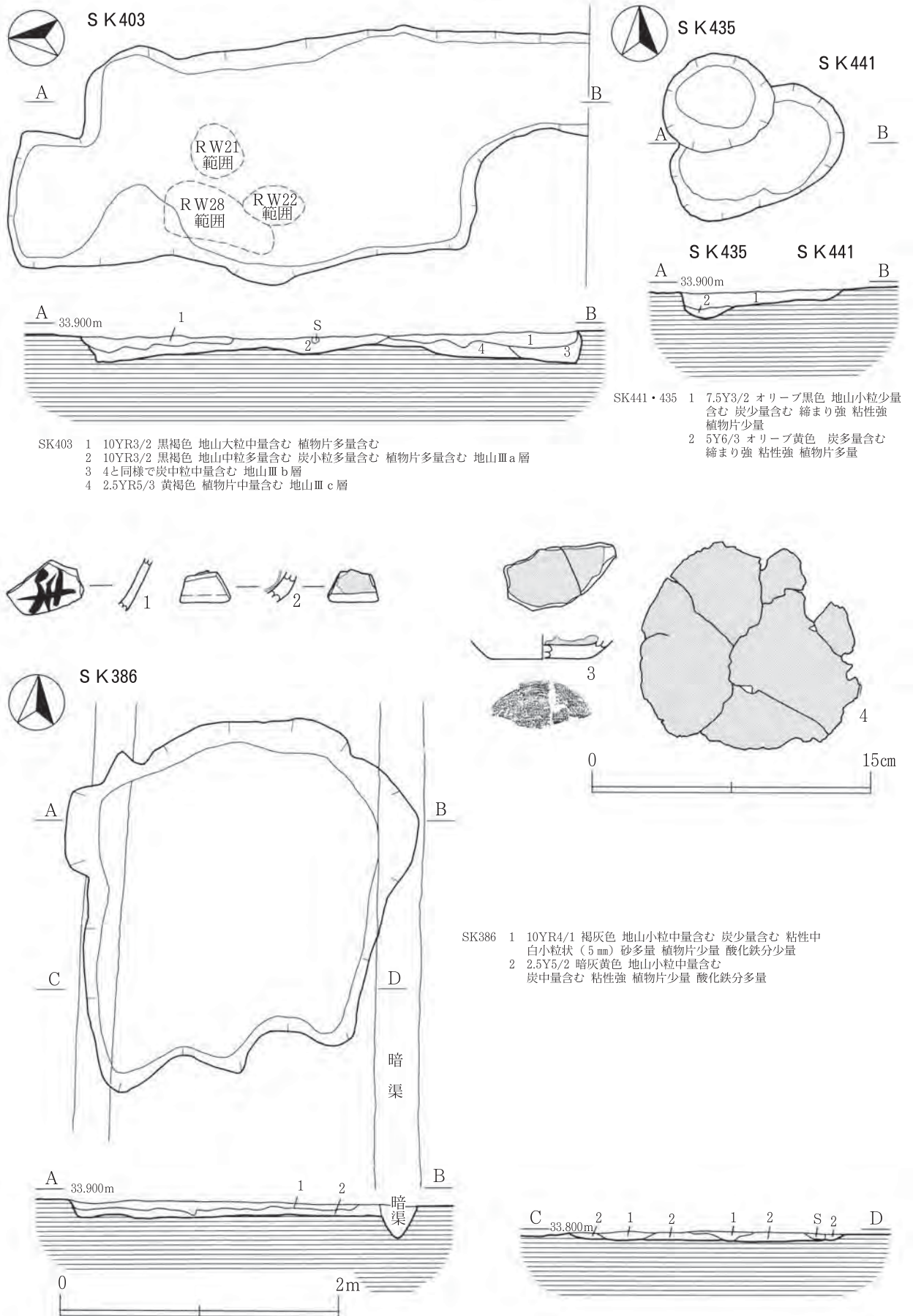
SK373 1 10YR2/3 黒褐色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 酸化鉄分多量
 2 10YR2/1 黒色 地山中粒中量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 植物片多量
 3 10YR3/4 暗褐色 地山中粒少量含む 炭中量含む 締まり強 粘性弱 白色火山灰含 砂質
 4 10YR2/1 黒色 地山中粒多量含む 炭中量含む 締まり弱 粘性強 植物片多量
 5 10YR3/3 暗褐色 地山中粒多量含む 炭中量含む 締まり弱 粘性強 酸化鉄分少量
 6 7.5Y5/1 灰色 地山中粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 酸化鉄分多量

SKP374 7 10YR3/4 暗褐色 地山中粒中量含む 炭多量含む 締まり強 粘性強 暗渠覆土か。

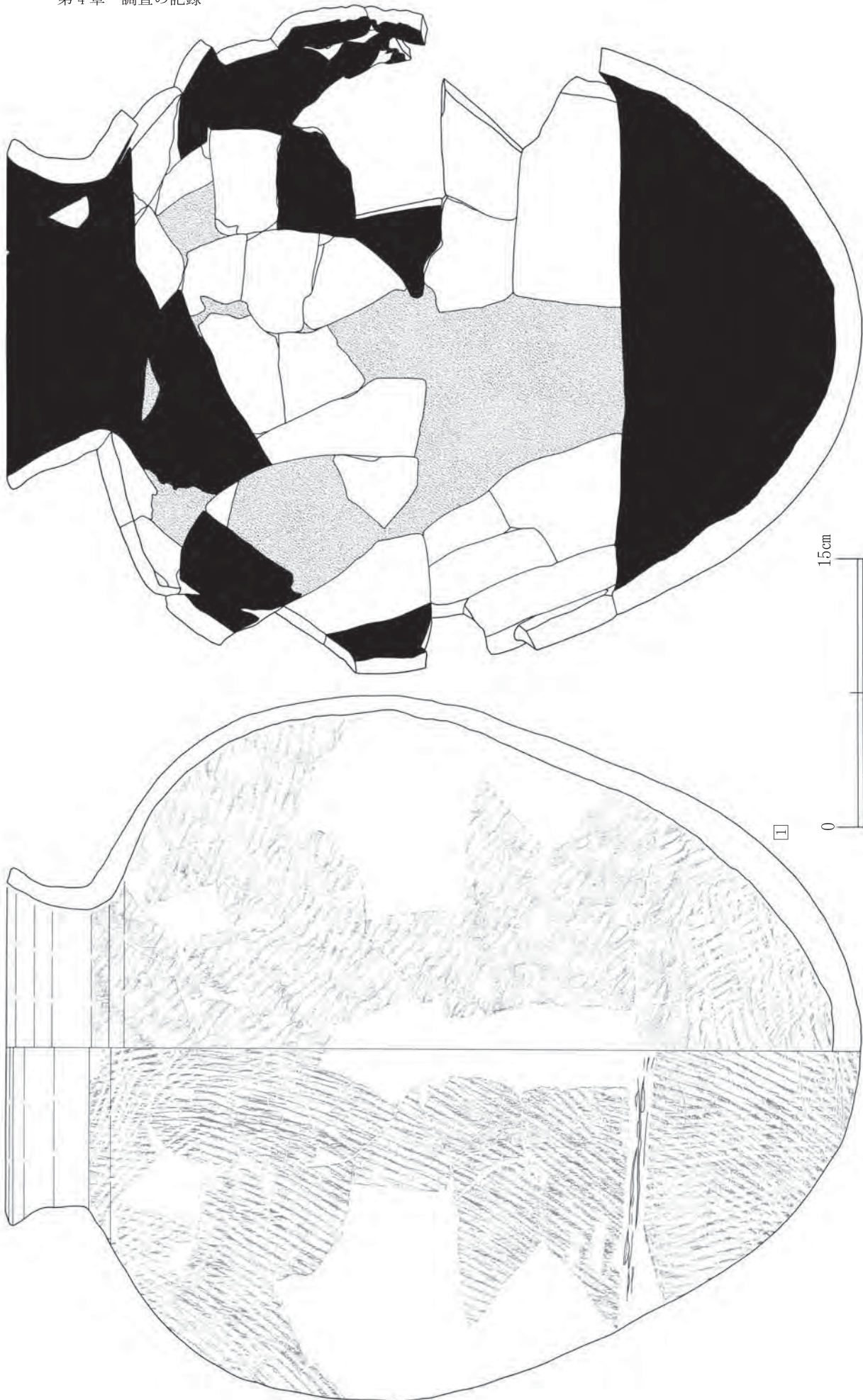
第60図 SK365・368・373土坑と出土遺物



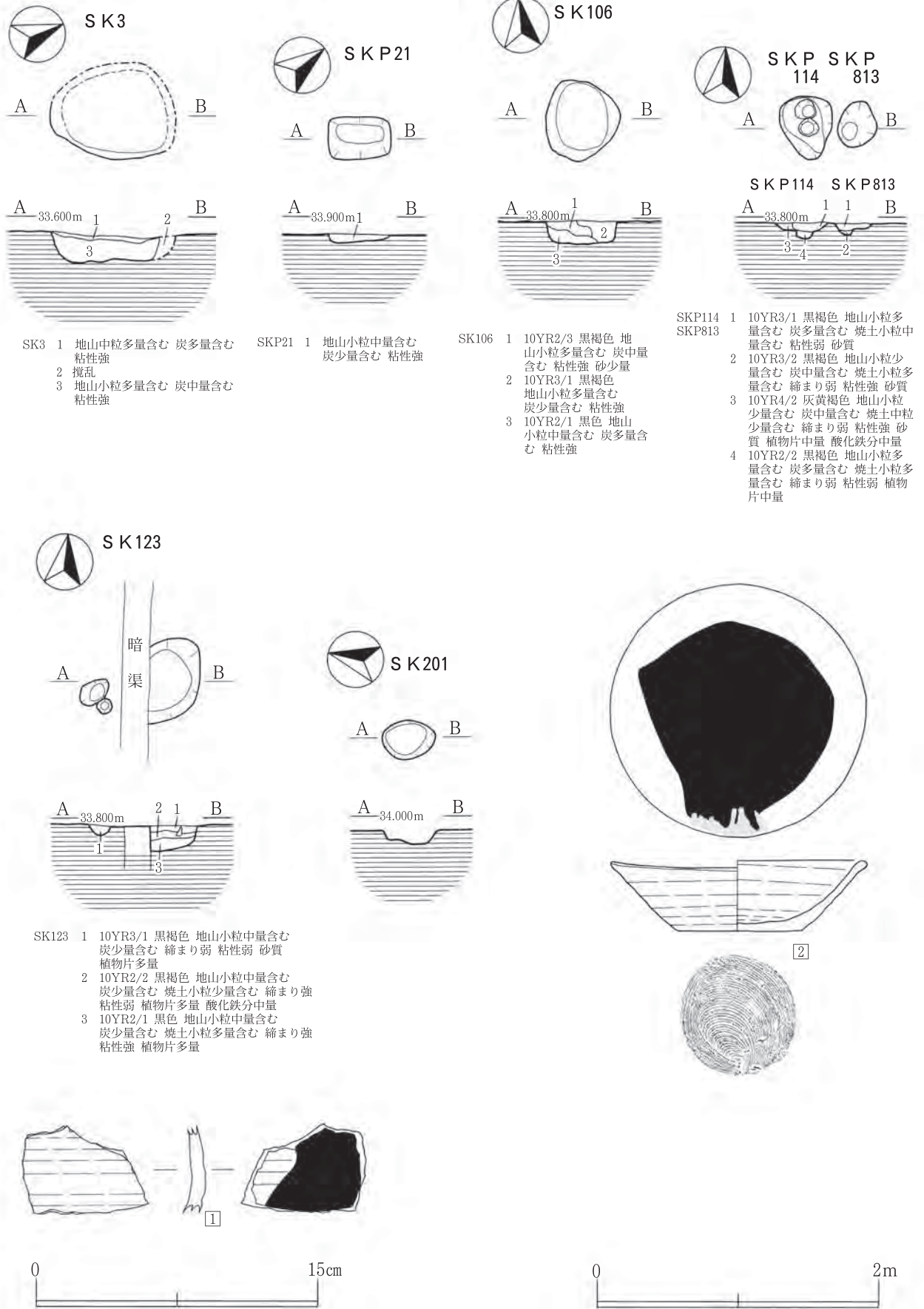
第61図 SK375・381・396・429・438土坑と出土遺物



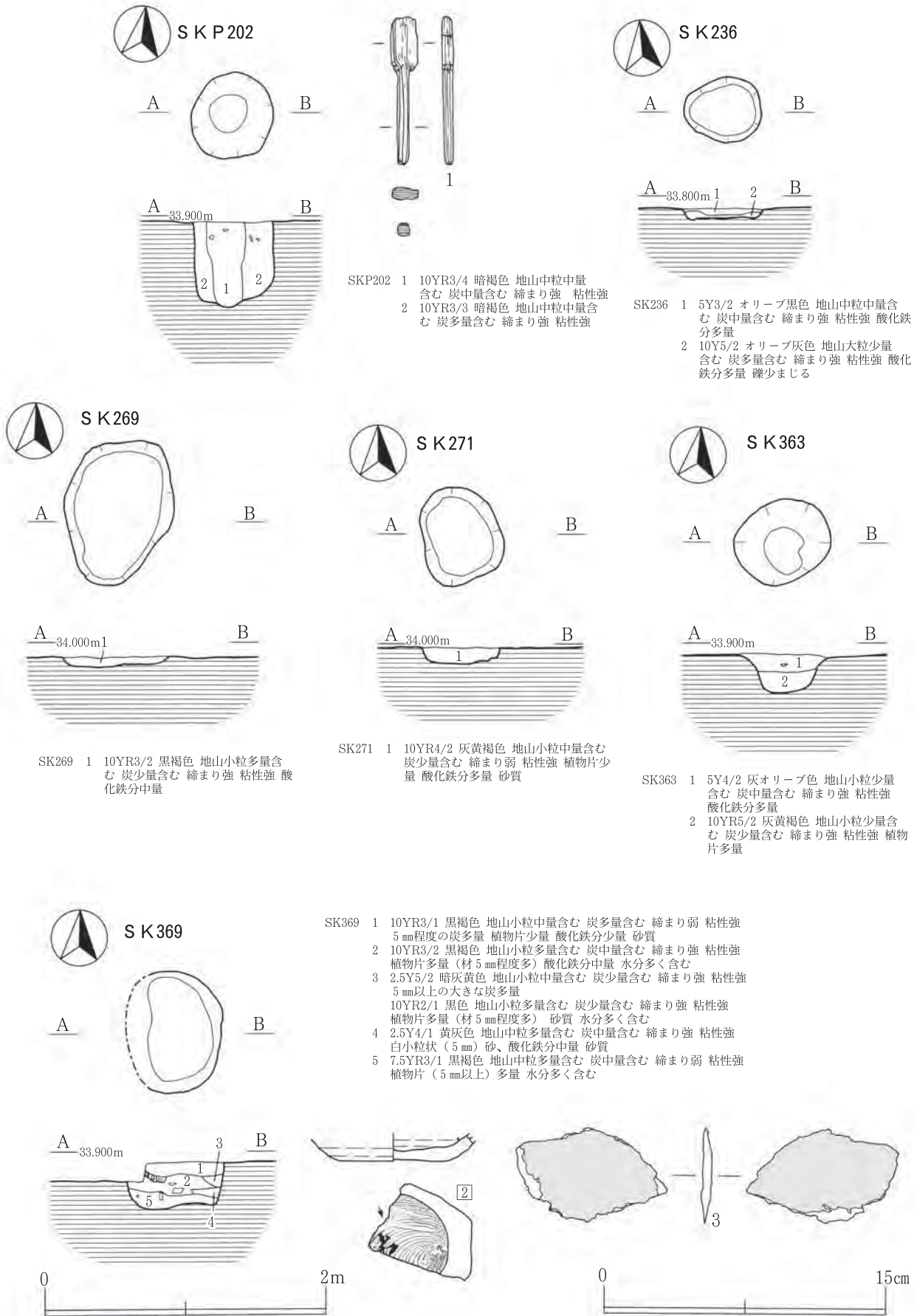
第62図 SK386・403・441・435土坑と出土遺物



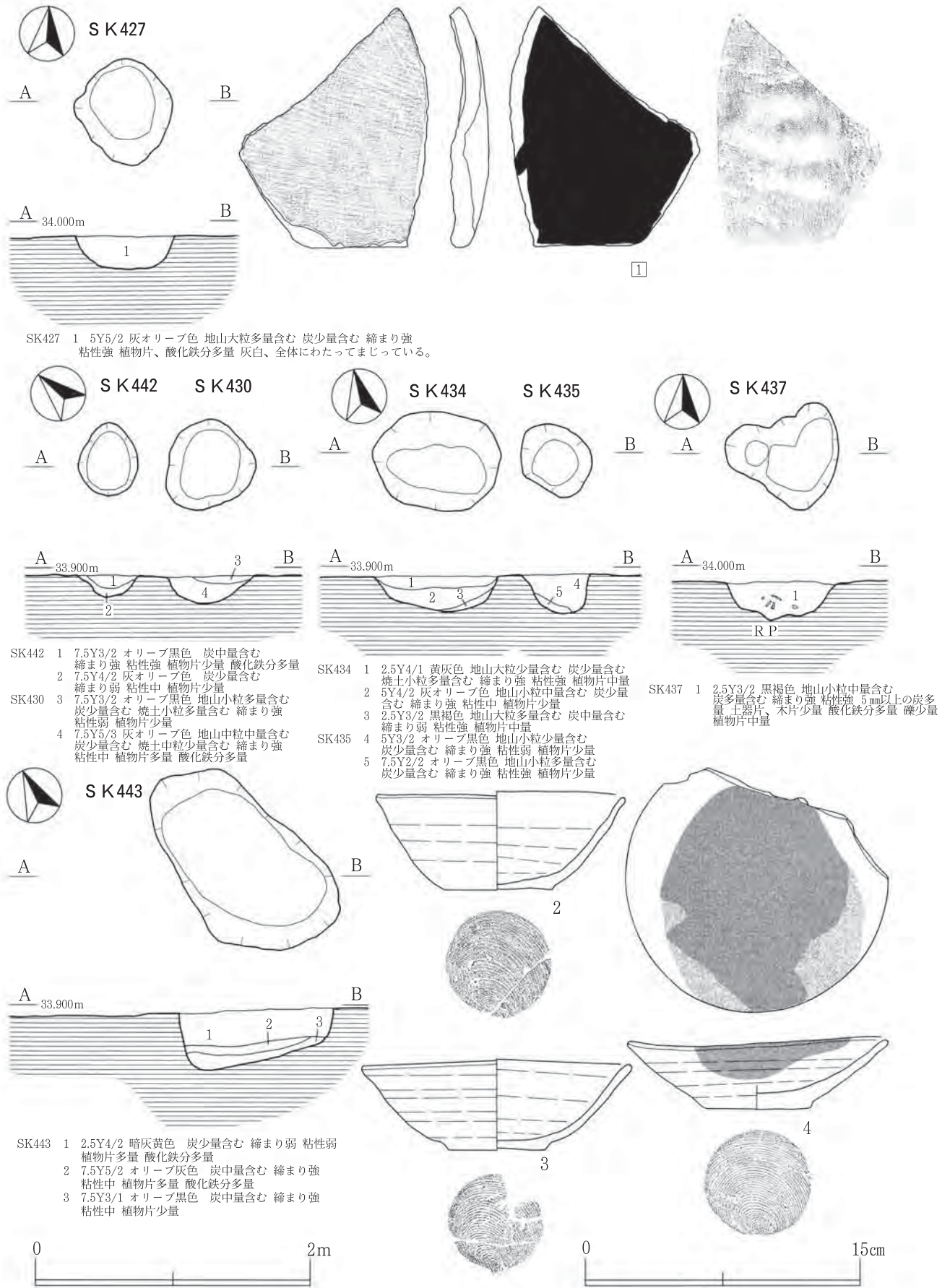
第63図 SK386土坑出土遺物



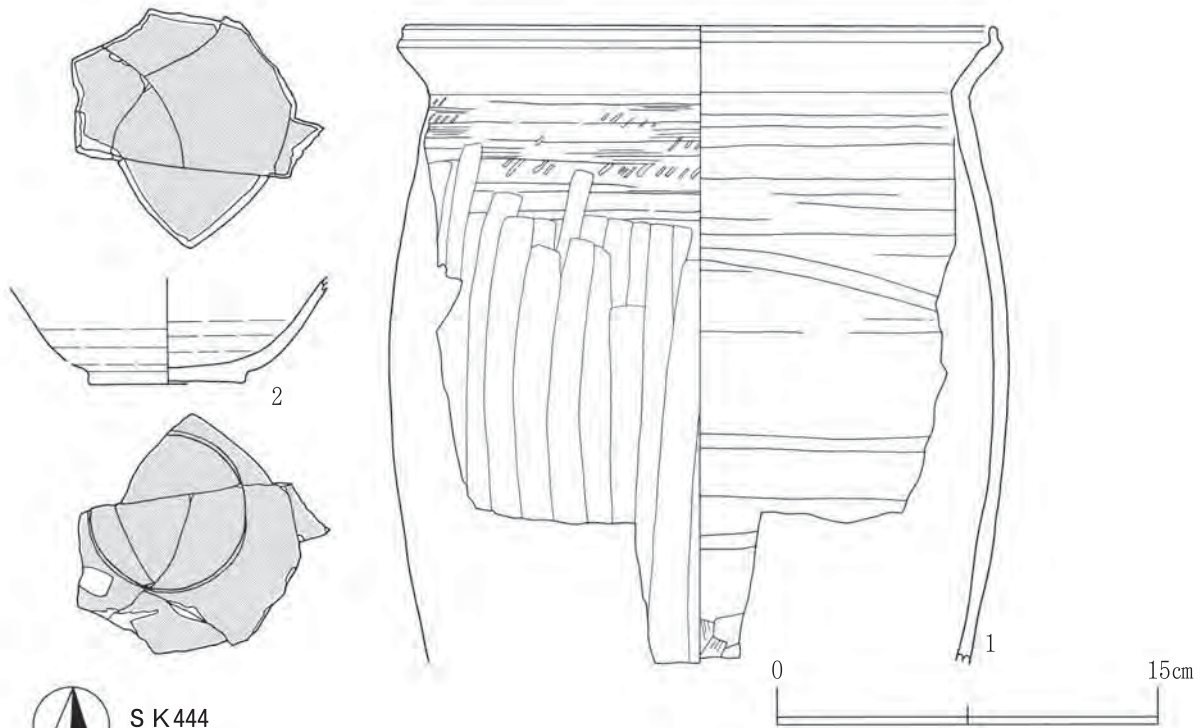
第64図 SK3・106・123・201,SKP21・114・813土坑と出土遺物



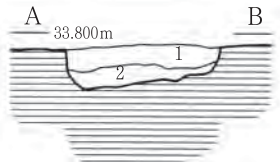
第65図 SK236・269・271・363・369土坑,SKP202柱穴と出土遺物



第66図 SK427・430・434・437・442・443土坑と出土遺物

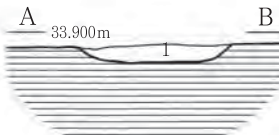


SK444



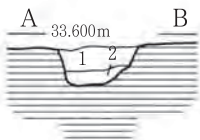
SK444 1 2.5Y4/2 暗灰黄色 炭少量含む 締まり中 粘性強
植物片中量
2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 炭少量含む 締まり弱
粘性強 植物片少量

SK453



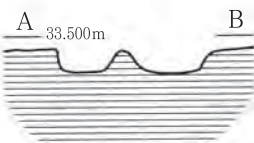
SK453 1 10YR4/2 灰黄褐色 地山小粒中量含む 炭多量含む 焼土小粒多量含む
締まり強 粘性強 5mm以上の大きな炭多量 植物片少量 酸化鉄分多量
やや砂質

SK472

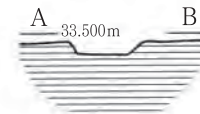
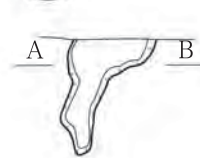


SK472 1 2.5Y5/2 暗灰黄色 地山ブロック
多量含む 炭少量含む 焼土中粒少量
含む 粘性強 植物片 (5mm以上の材)
多量 酸化鉄分少量 やや砂質
2 5Y4/1 灰色 地山大粒多量含む 炭
少量含む 焼土小粒多量含む 粘性強
植物片少量 酸化鉄分少量 水分多く含

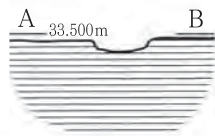
SK772



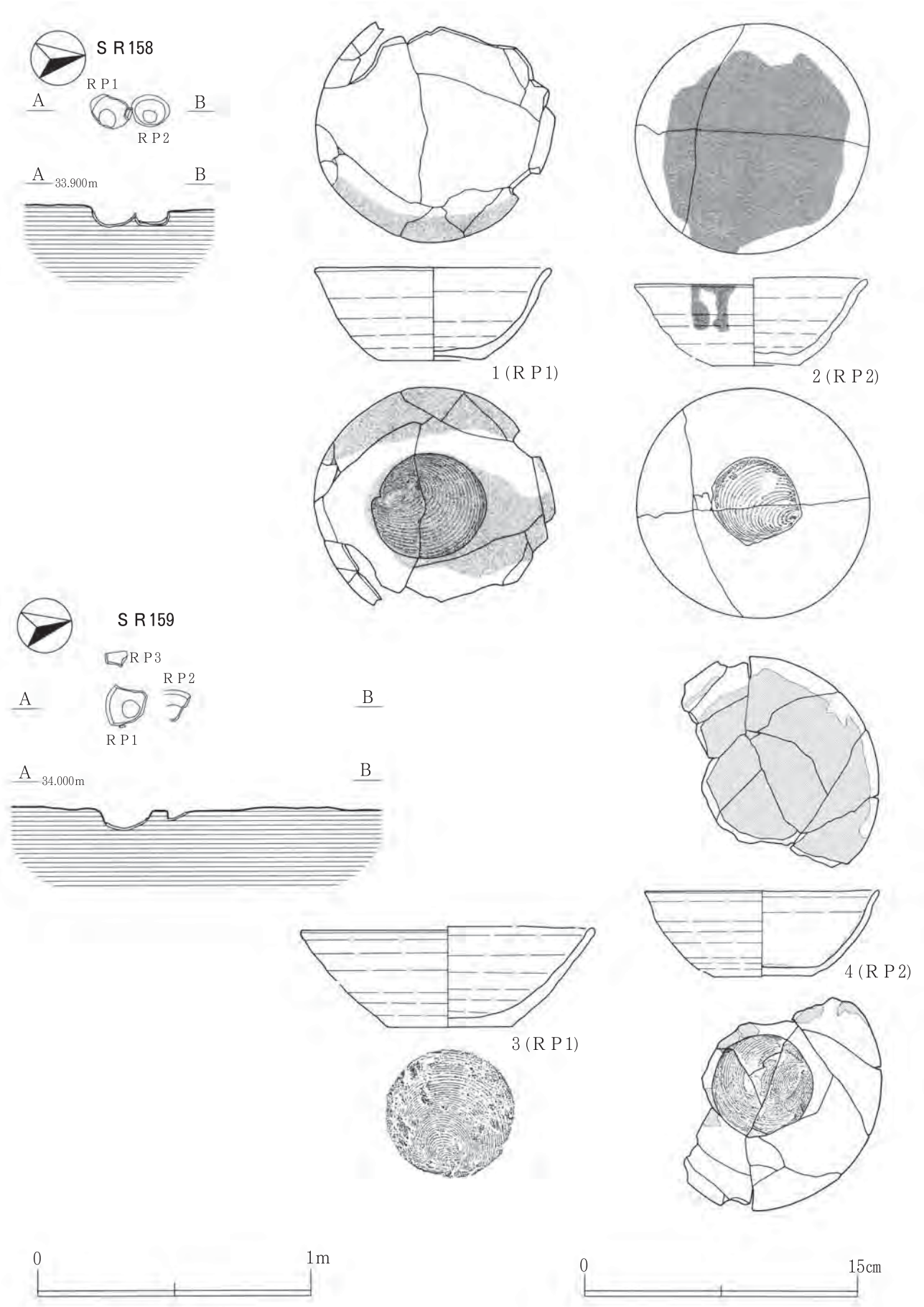
SK788



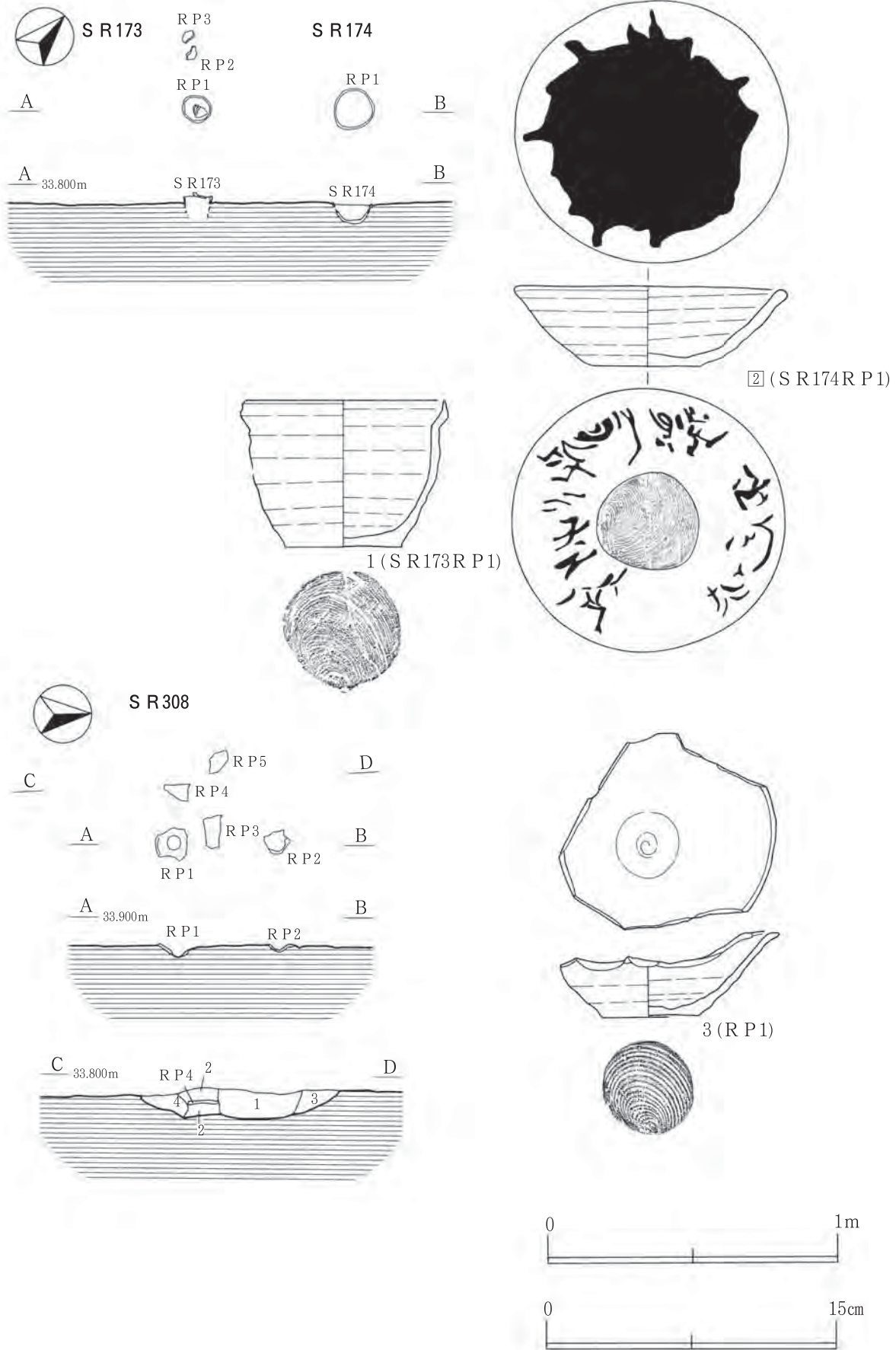
SK792



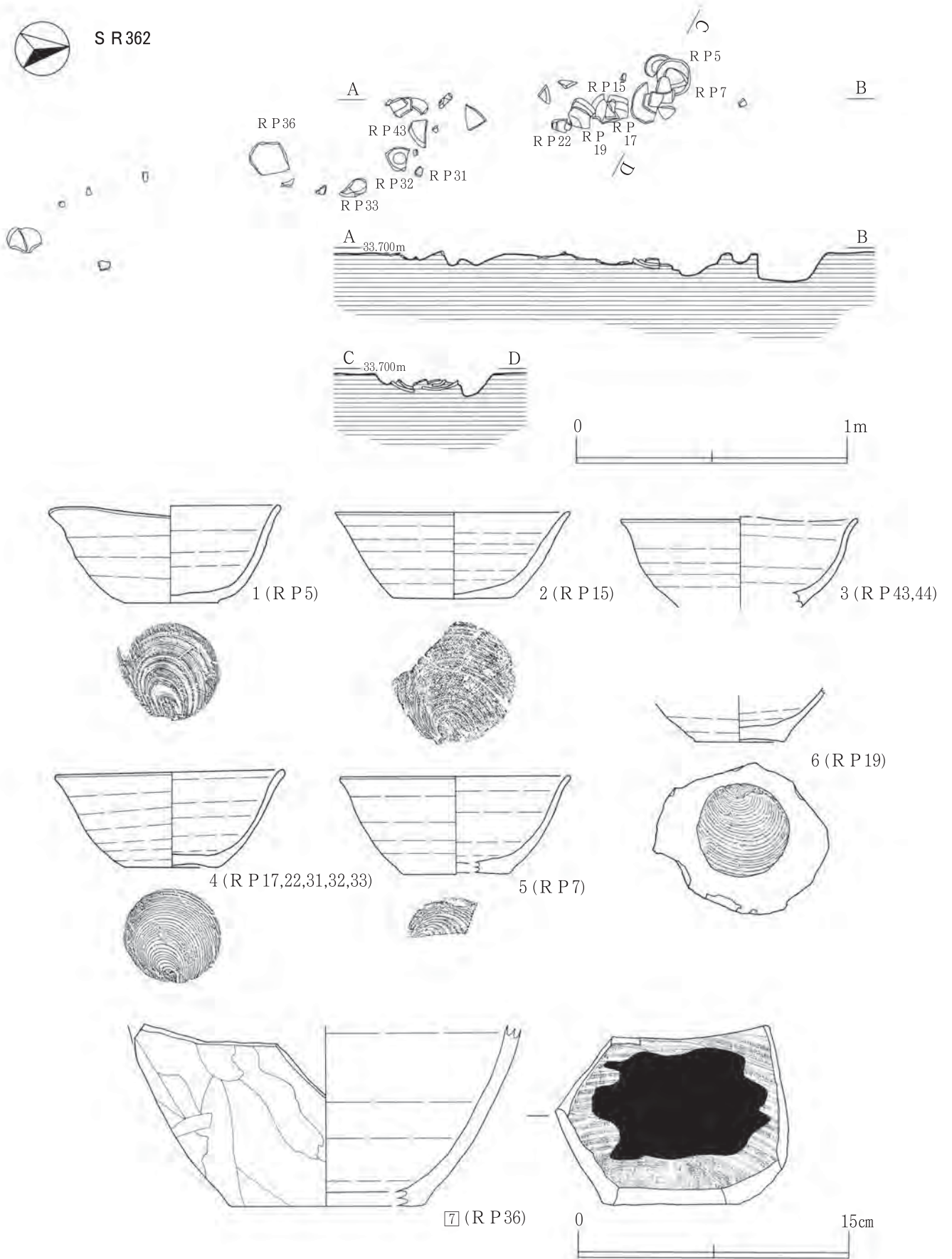
第67図 SK443・444・453・472・772・788・792土坑と出土遺物



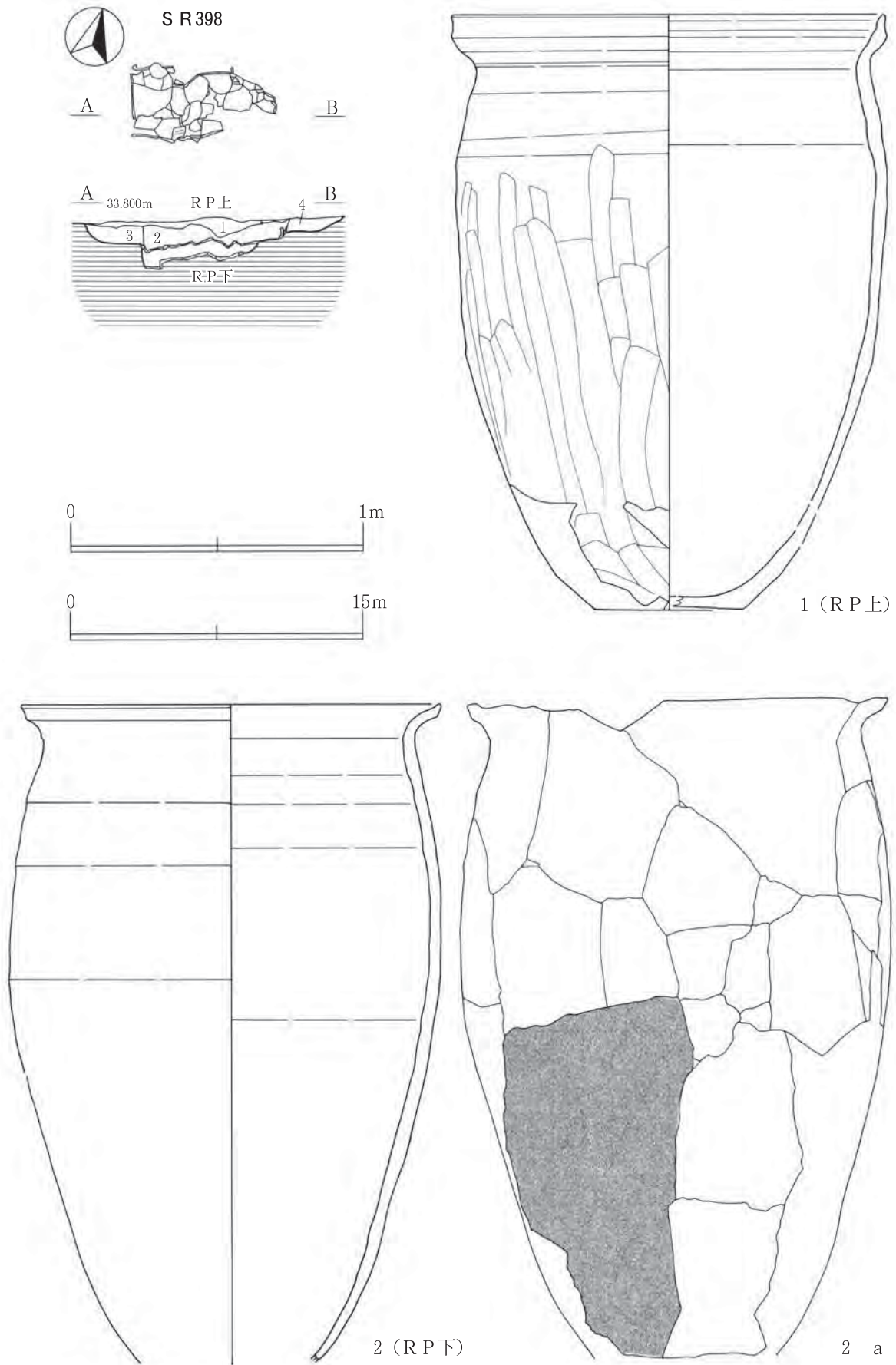
第68図 SR158・159土器埋設遺構と出土遺物



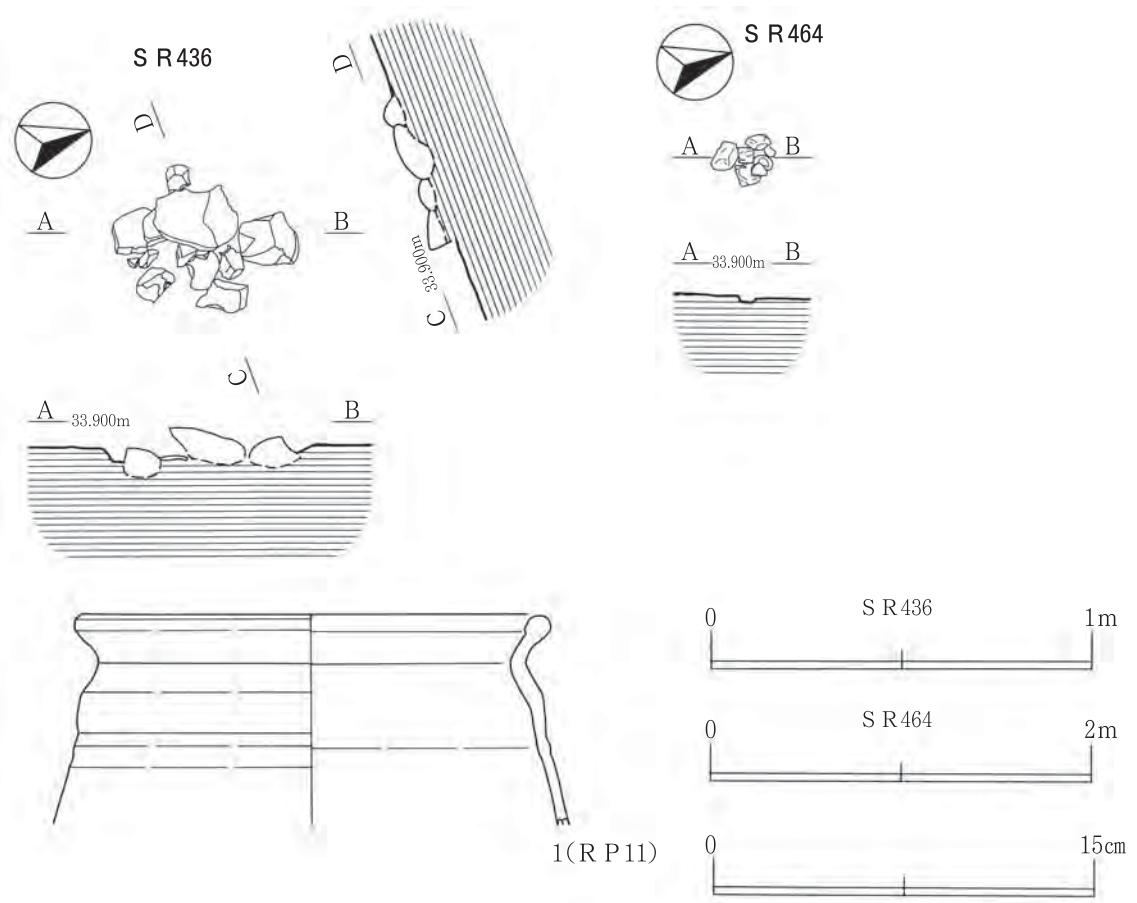
第69図 SR173・174・308土器埋設遺構と出土遺物



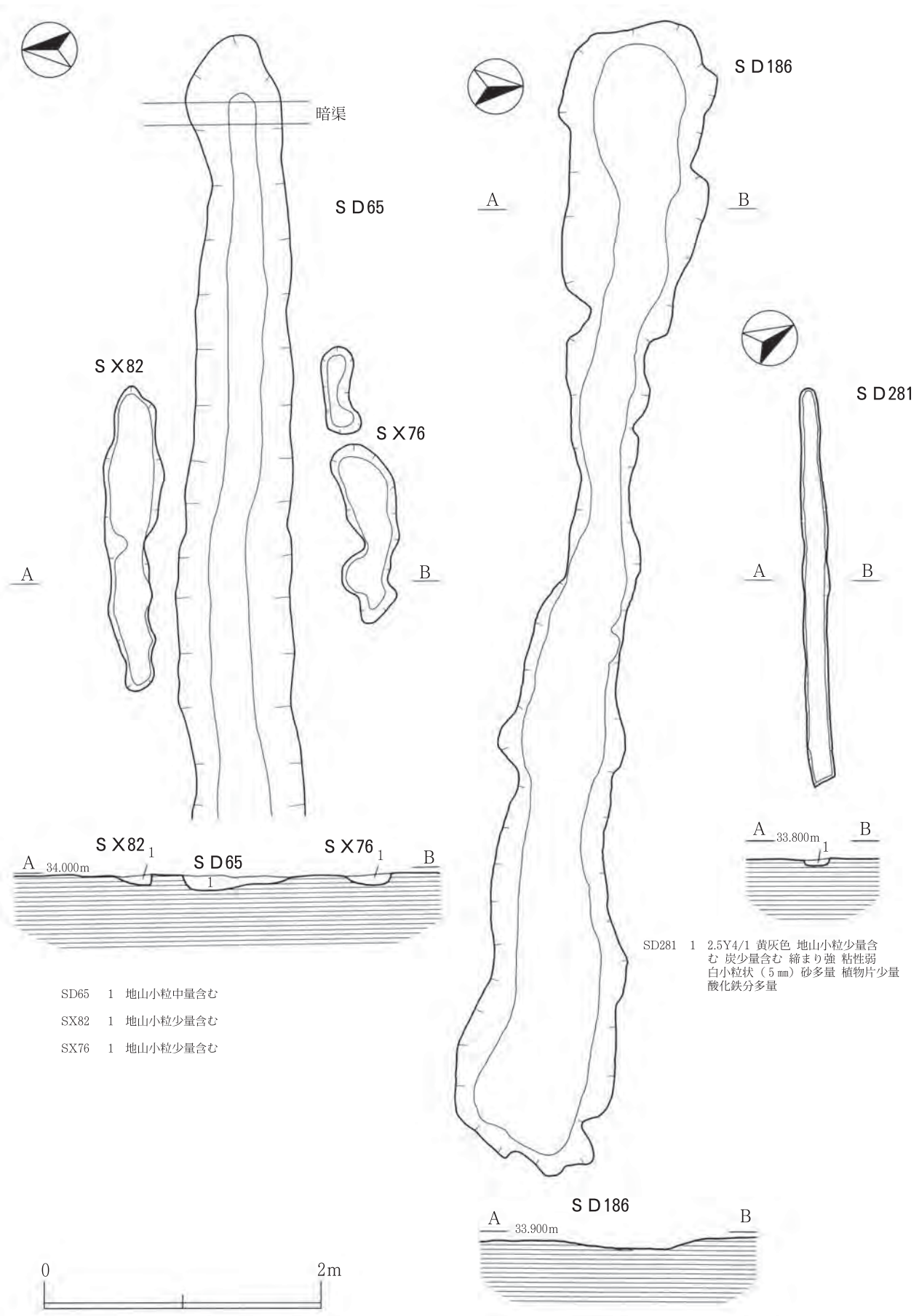
第70図 SR362土器埋設遺構と出土遺物



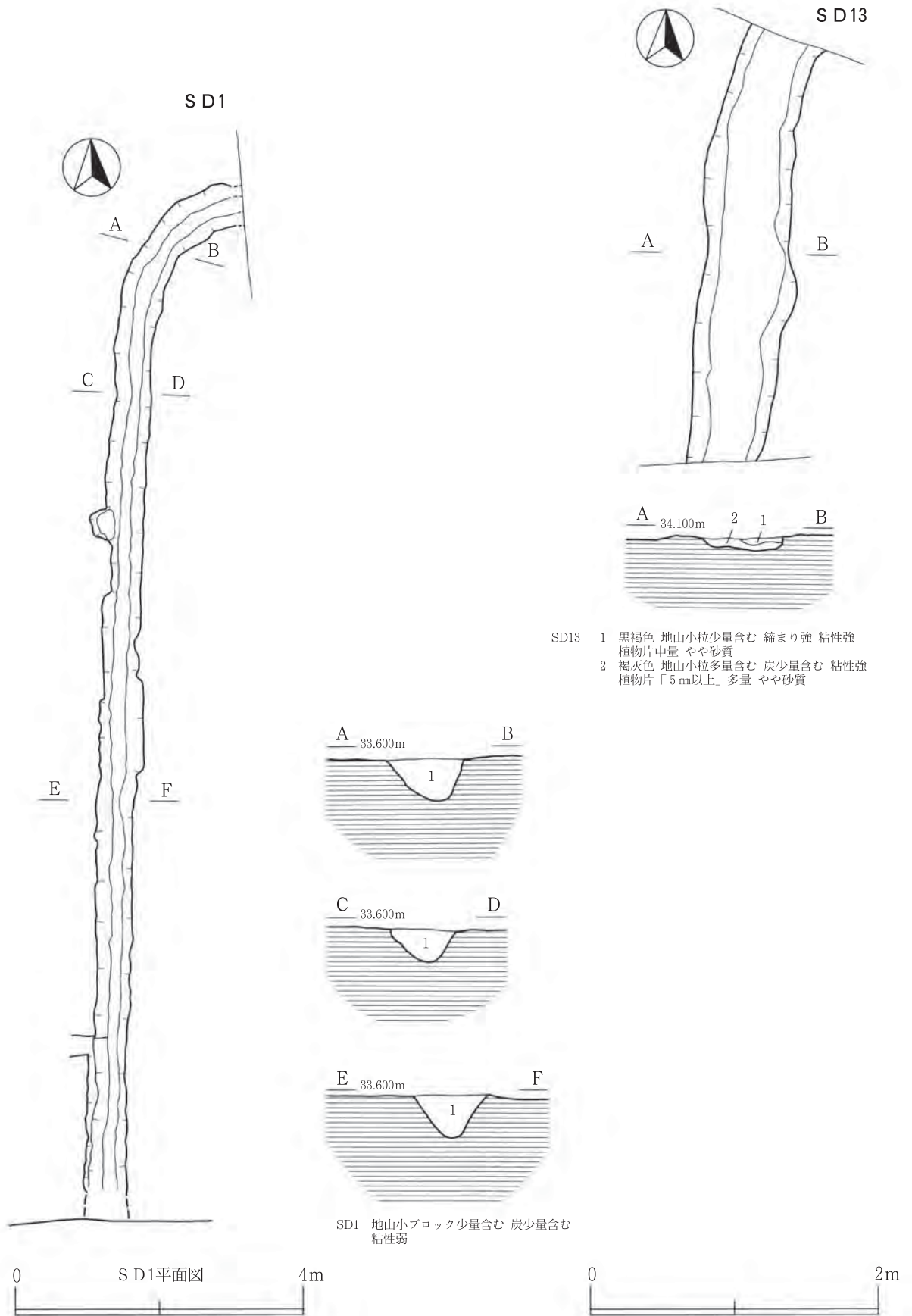
第71図 SR398土器埋設遺構と出土遺物



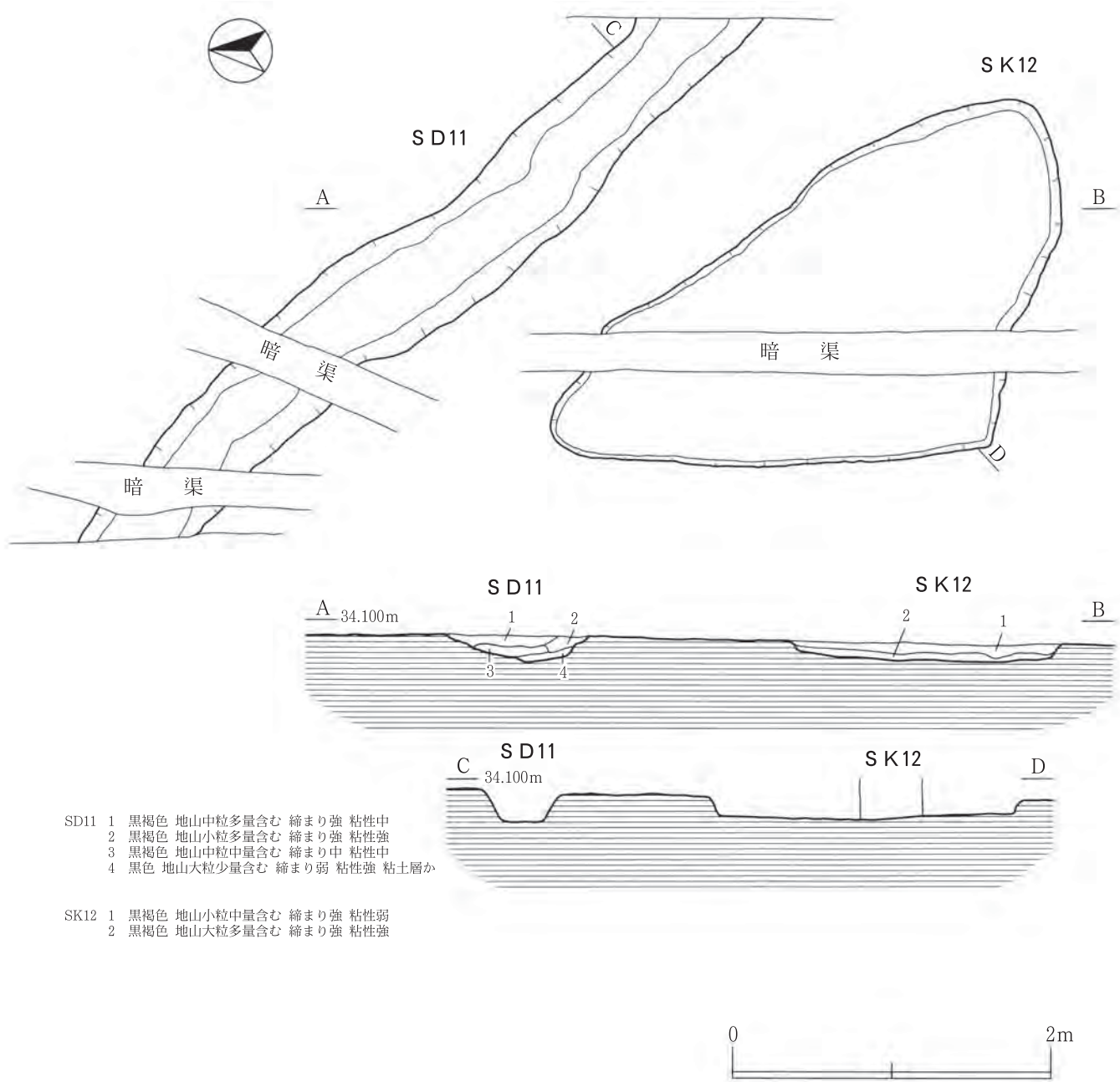
第72図 SR436・464土器埋設遺構と出土遺物



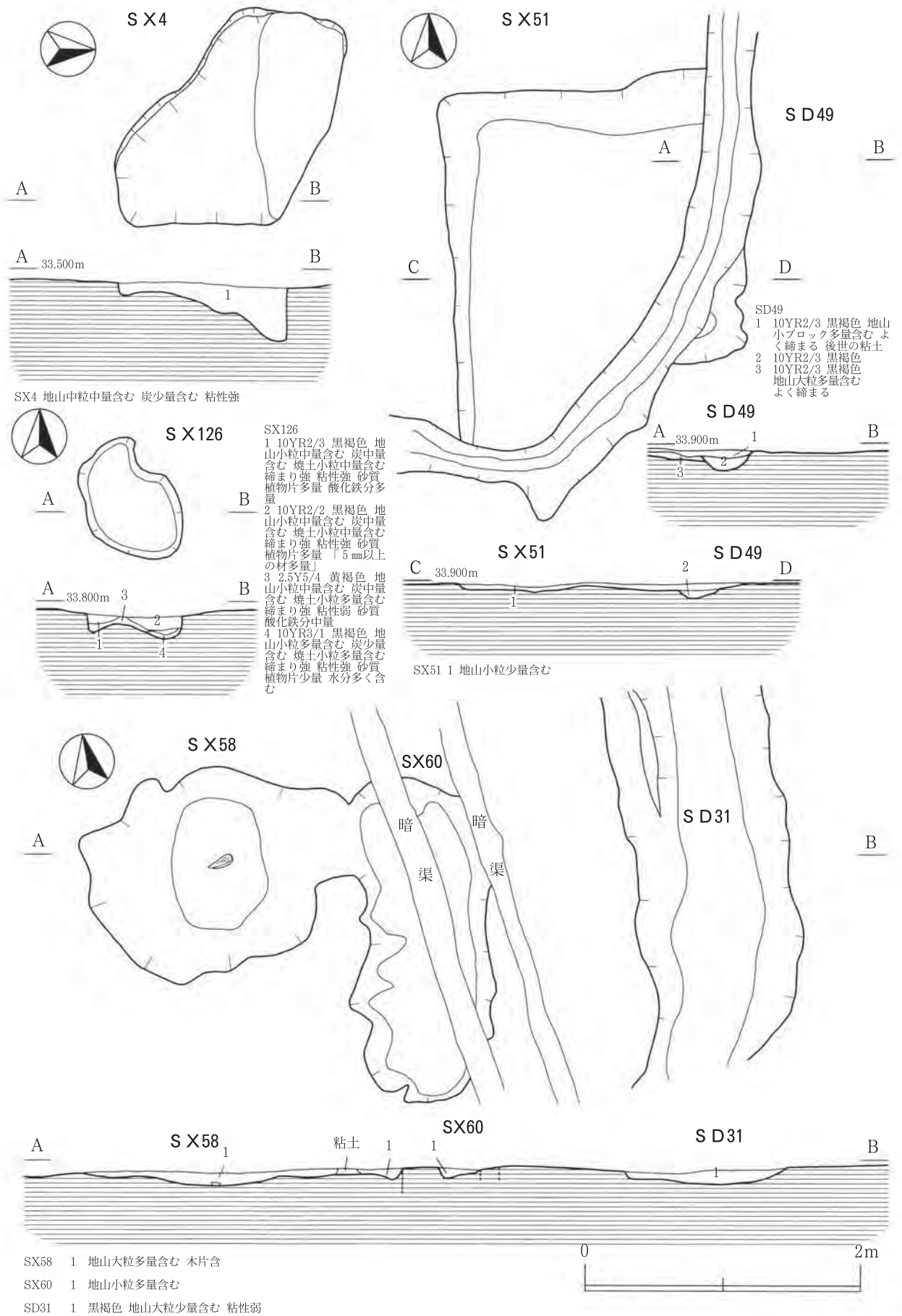
第73図 SD65・186・281溝状遺構、SX76・82性格不明遺構



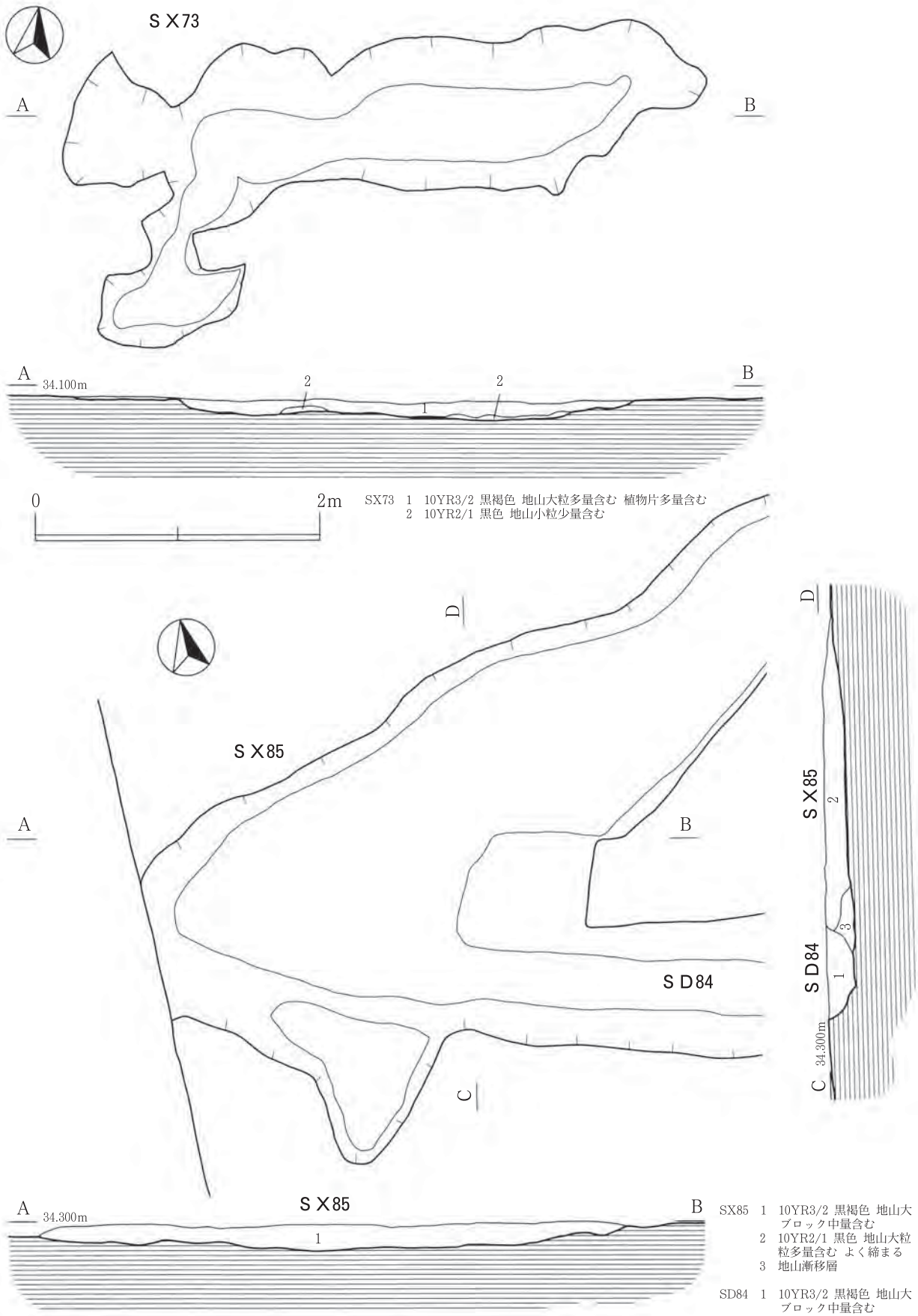
第74図 SD1・13溝状遺構



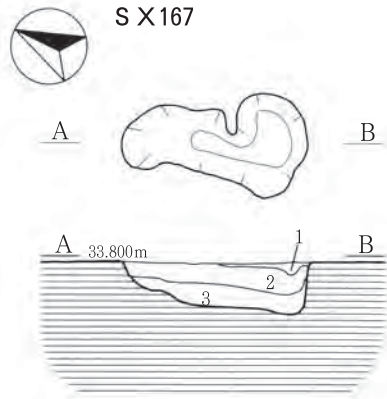
第75図 SD11溝状遺構、SK12土坑



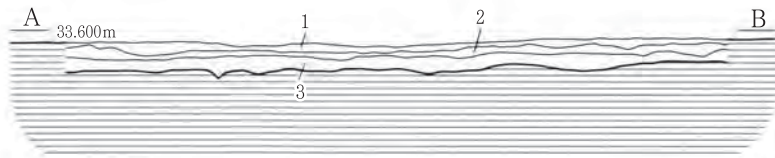
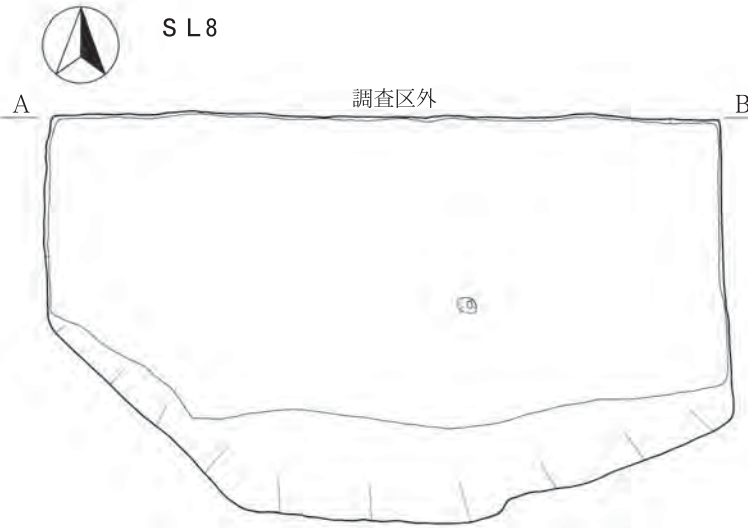
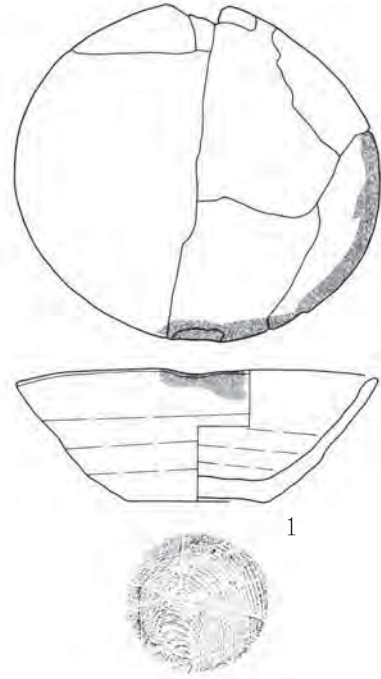
第76図 SD31・49溝状遺構、SX4・51・58・60・126性格不明遺構



第77図 SD84溝状遺構、SX73・85性格不明遺構



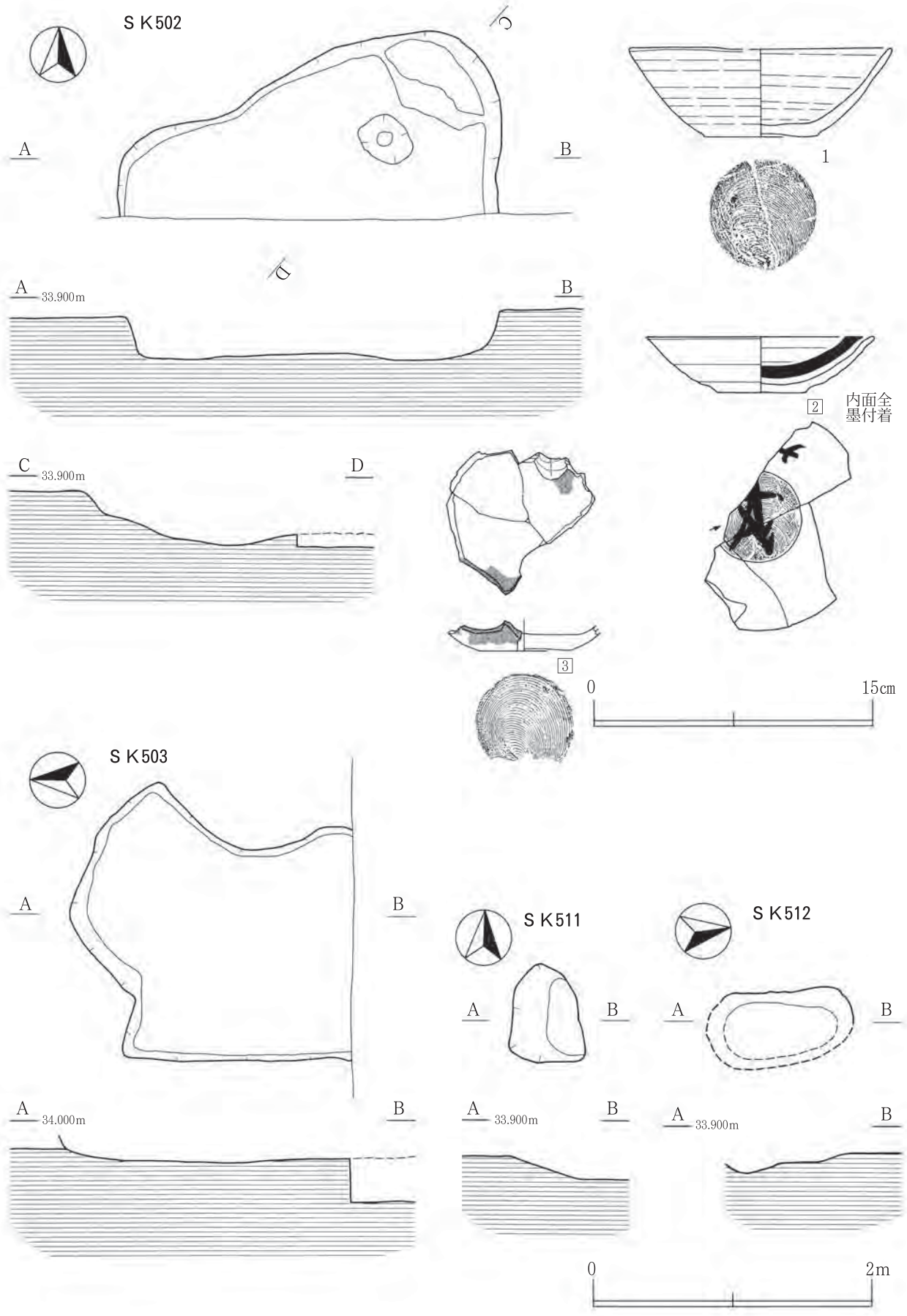
- SX167 1 10YR2/1 黒色 地山小粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性中 焼土か
 2 10YR4/2 灰黄褐色 地山小粒多量含む 炭少量含む 締まり強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分多量
 3 7.5YR6/2 灰褐色 地山小粒中量含む 炭中量含む 締まり強 粘性強 植物片少量 酸化鉄分少量



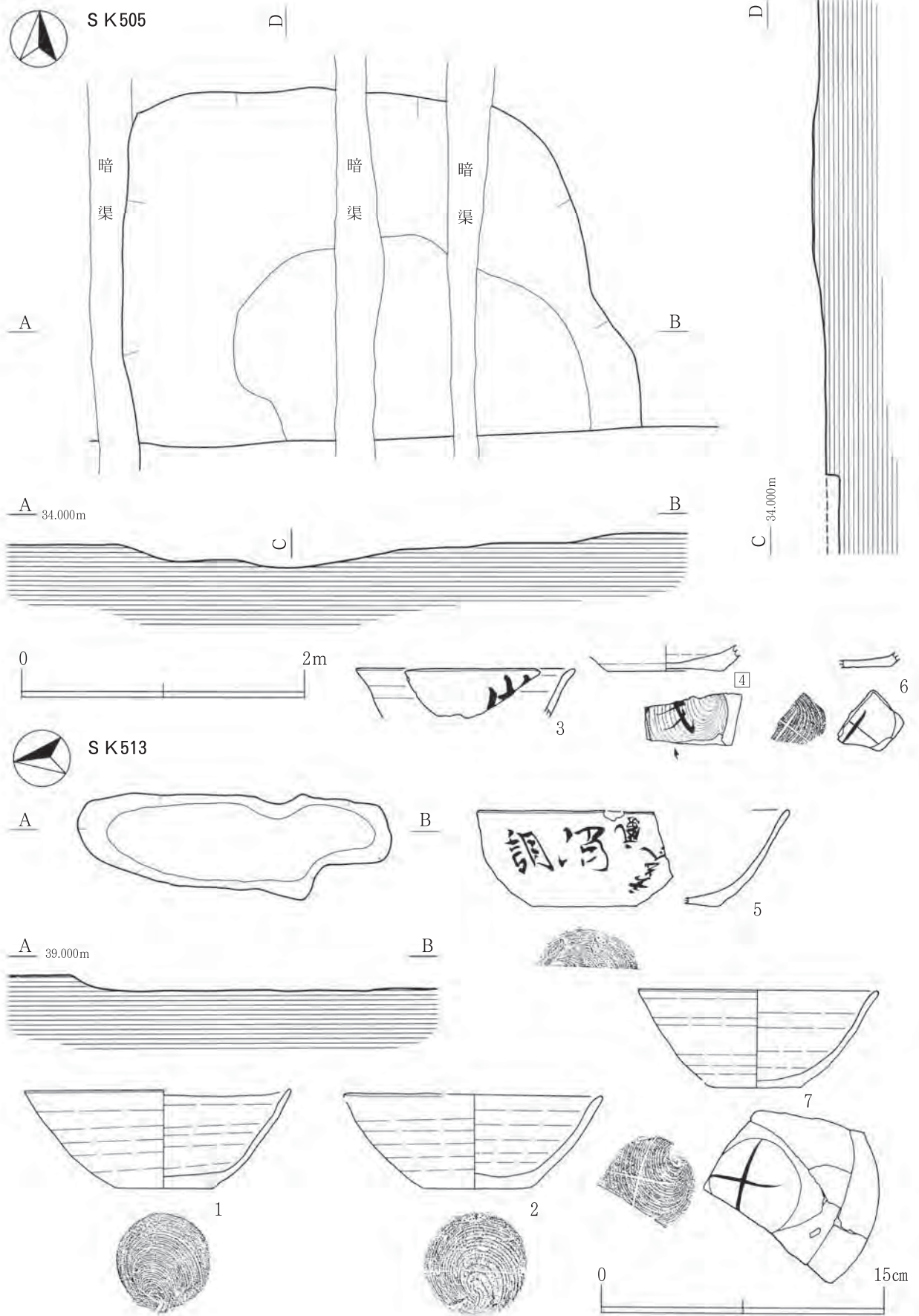
- SL8 1 地山小粒中量含む 炭中量含む 締まり弱 粘性強
 2 地山小粒中量含む 炭中量含む 締まり弱 粘性強
 3 地山小粒少量含む 締まり強 粘性強



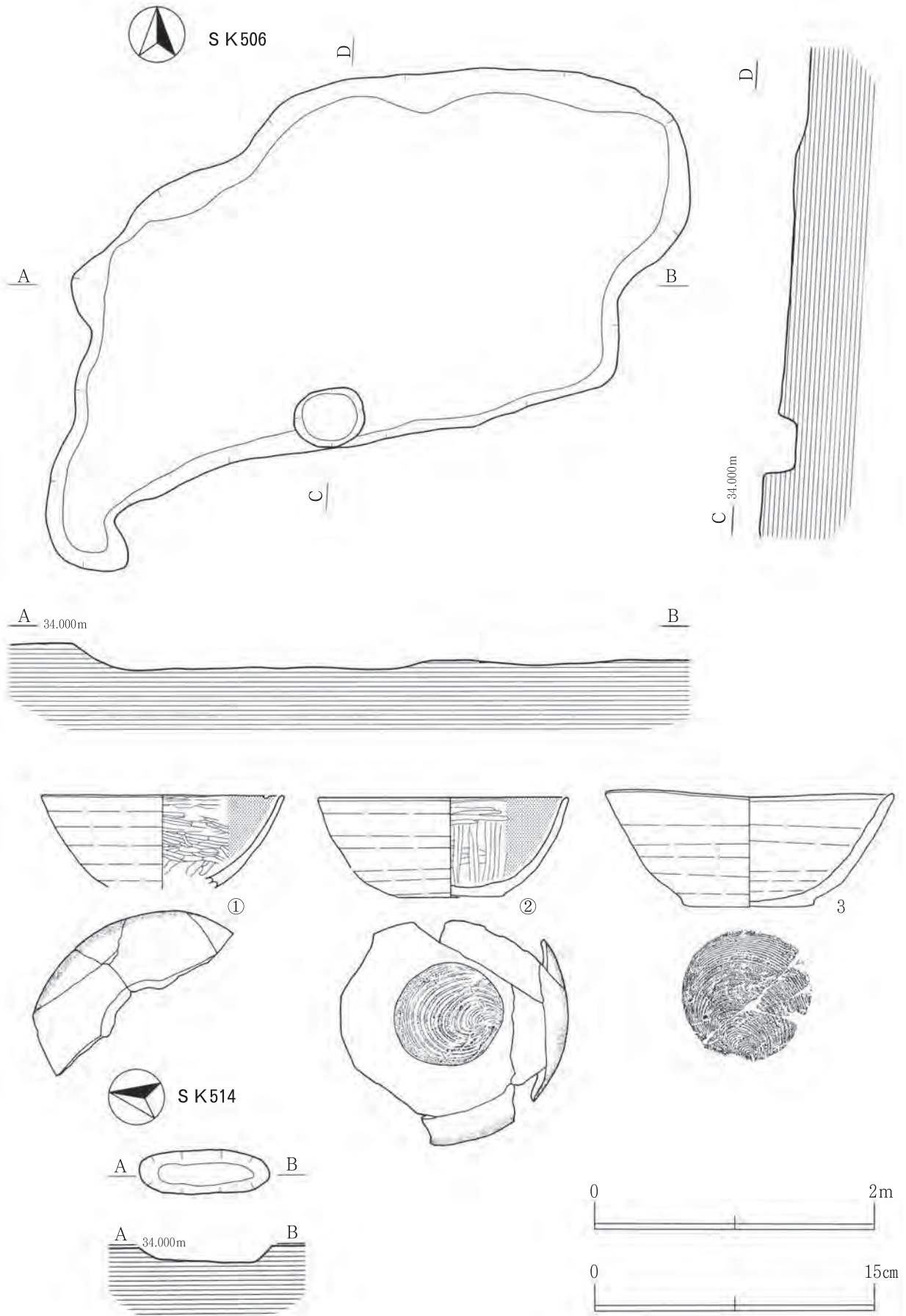
第78図 SX167性格不明遺構、SL8旧河道



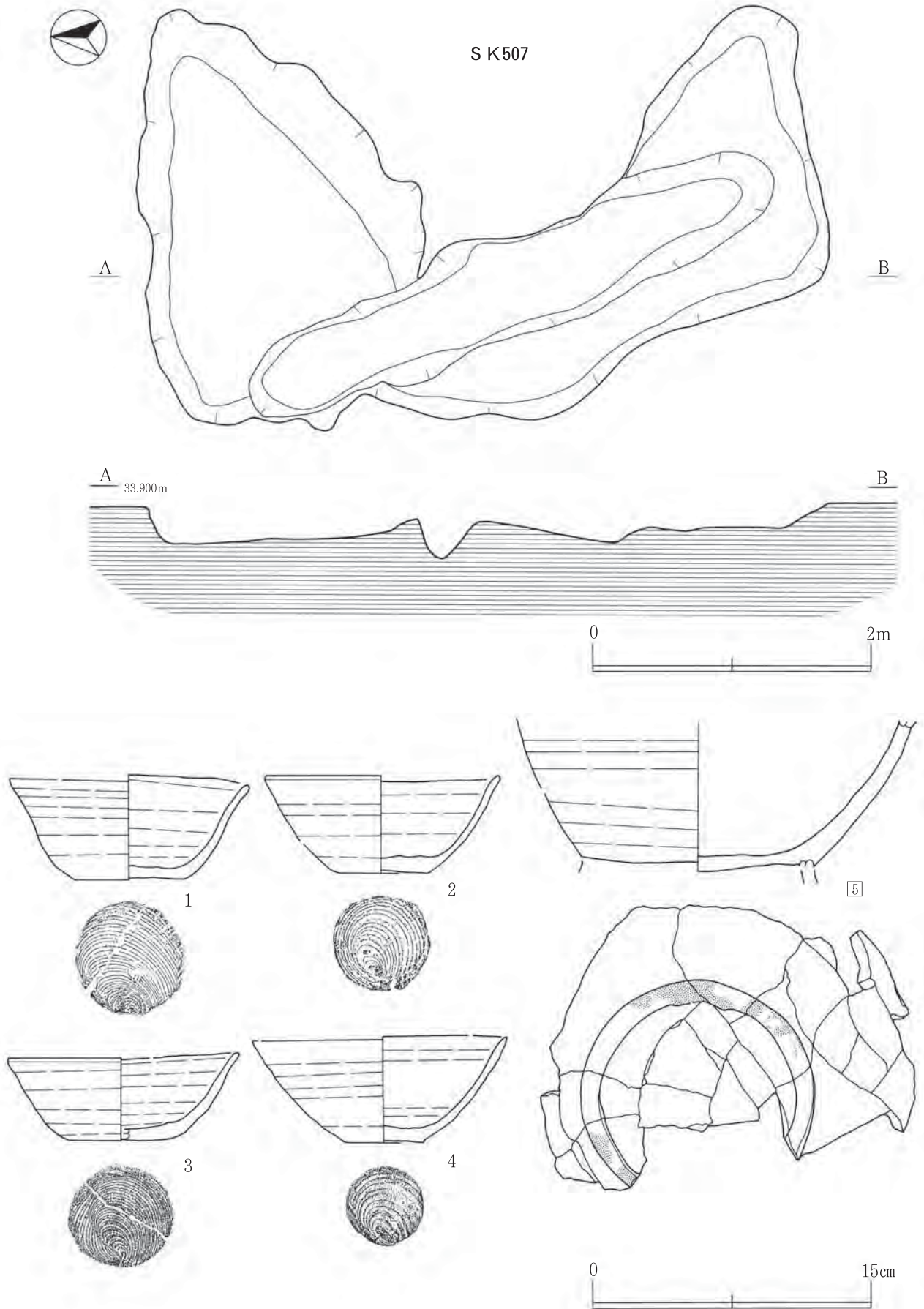
第79図 SK502・503・511・512土坑と出土遺物



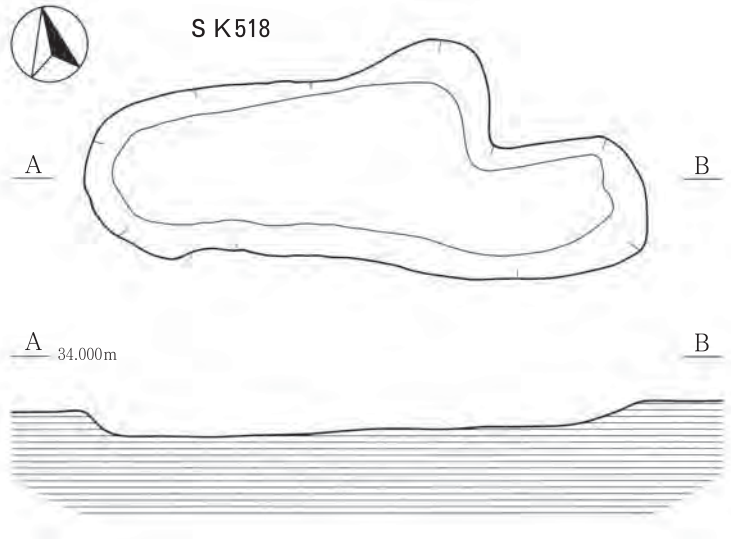
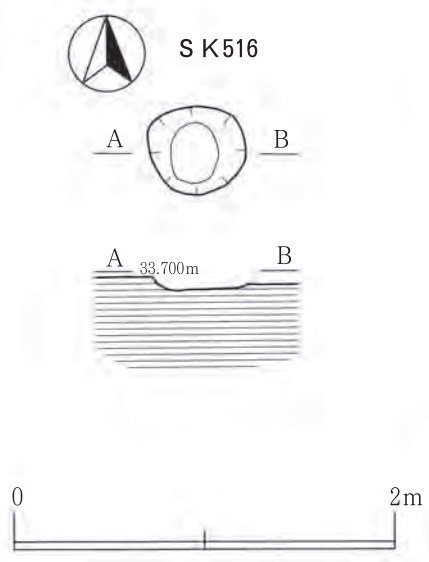
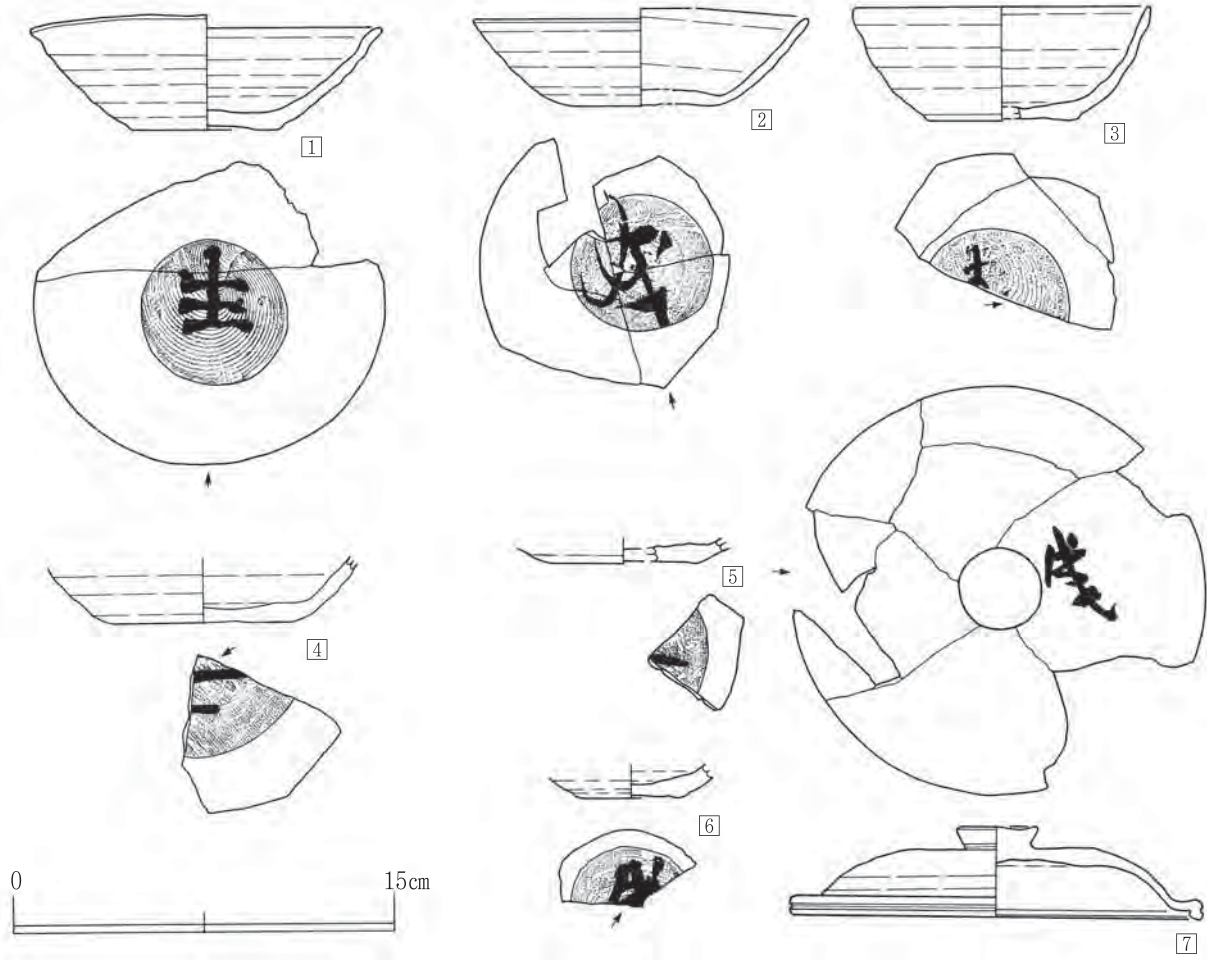
第80図 SK505・513土坑と出土遺物



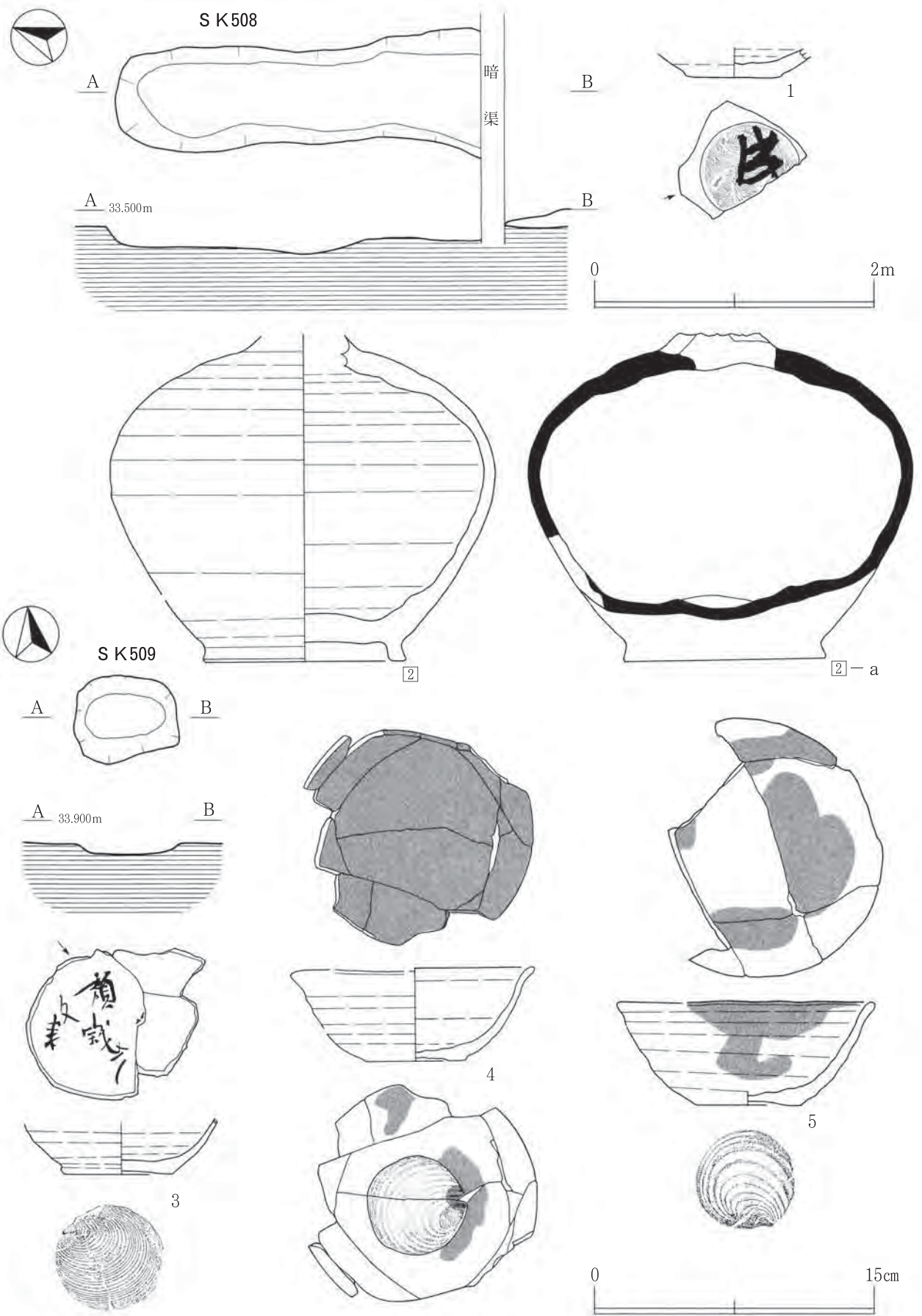
第81図 SK506・514土坑と出土遺物



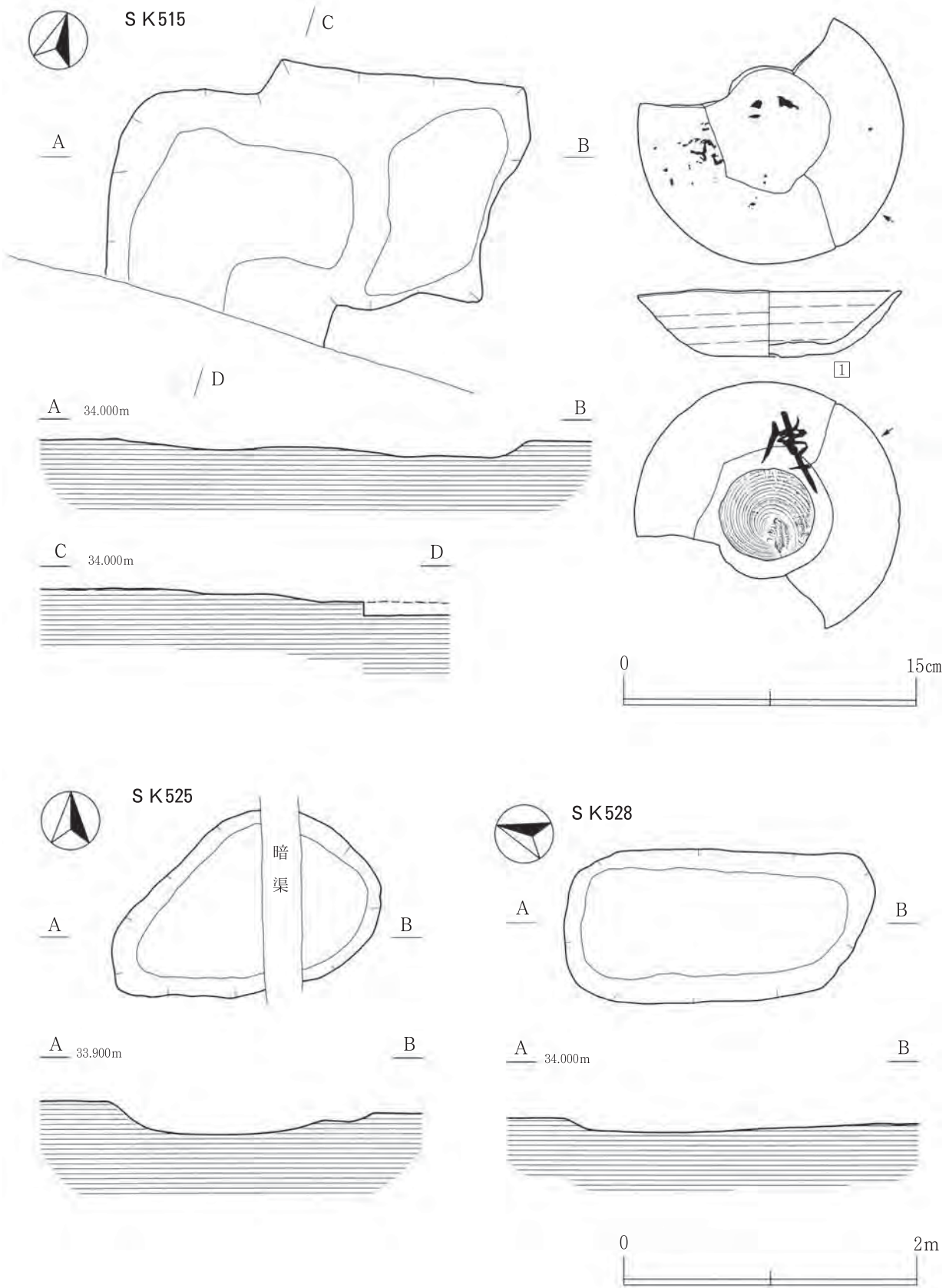
第82図 SK507土坑と出土遺物



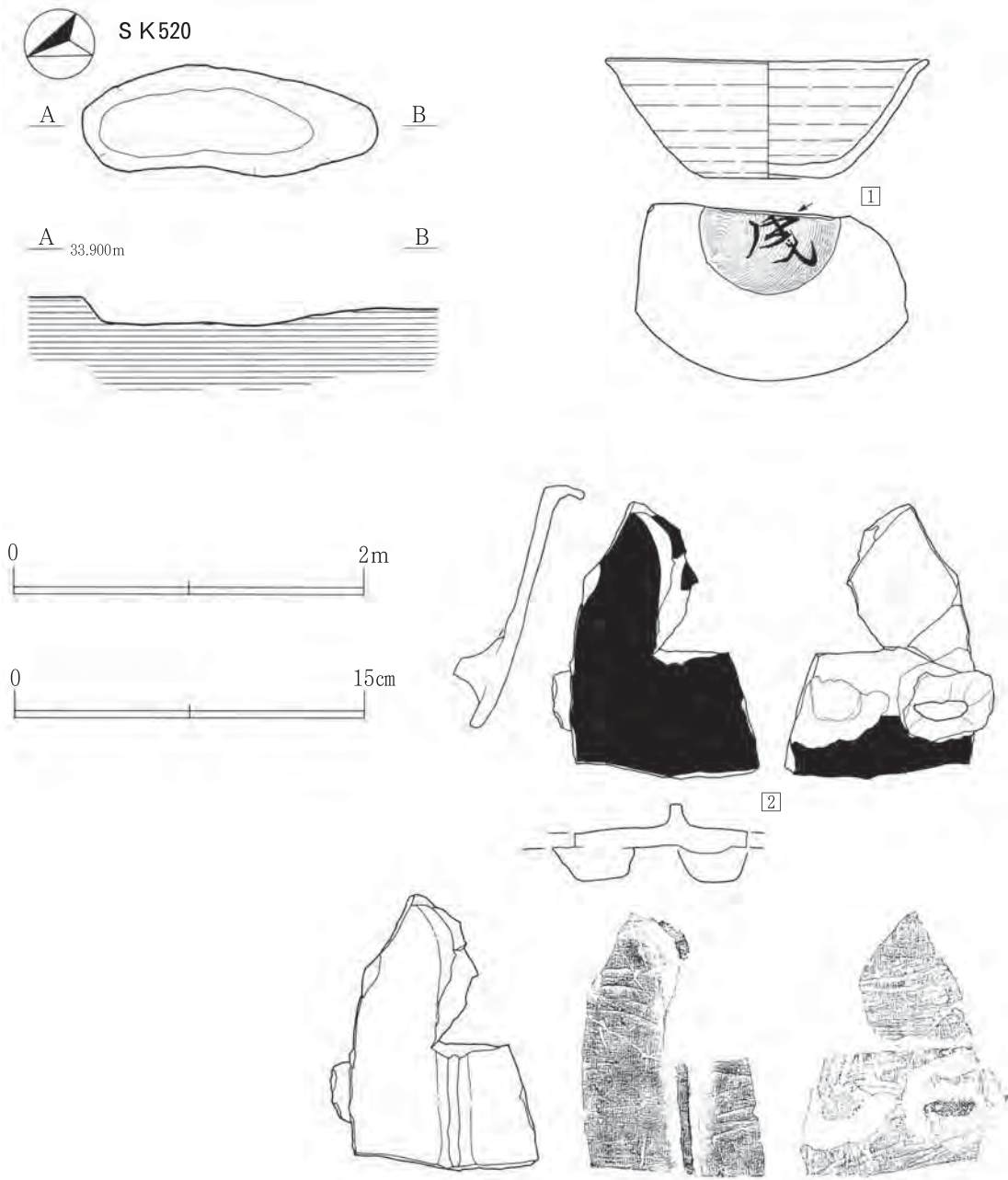
第83図 SK507・516・518土坑と出土遺物



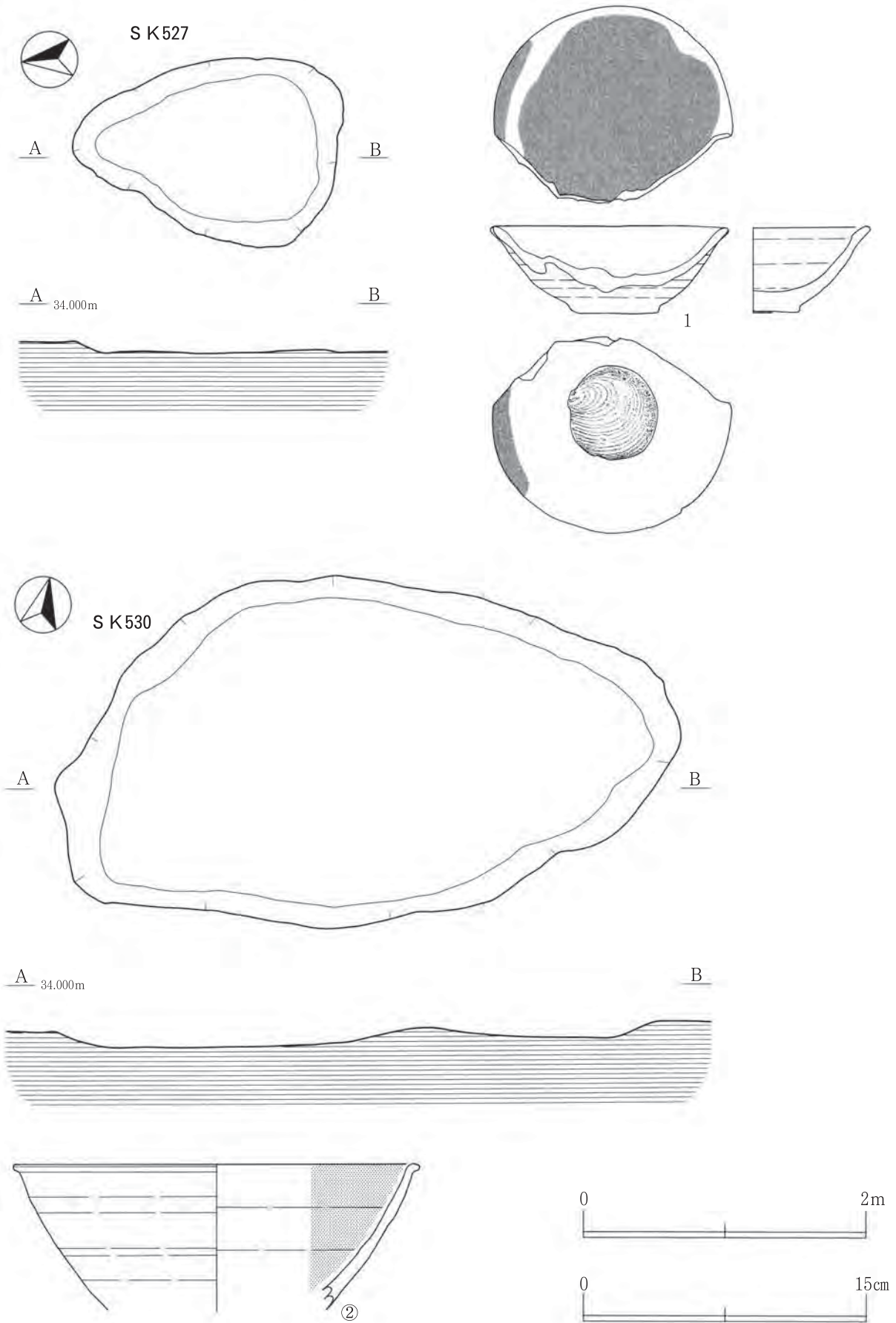
第84図 SK508・509土坑と出土遺物



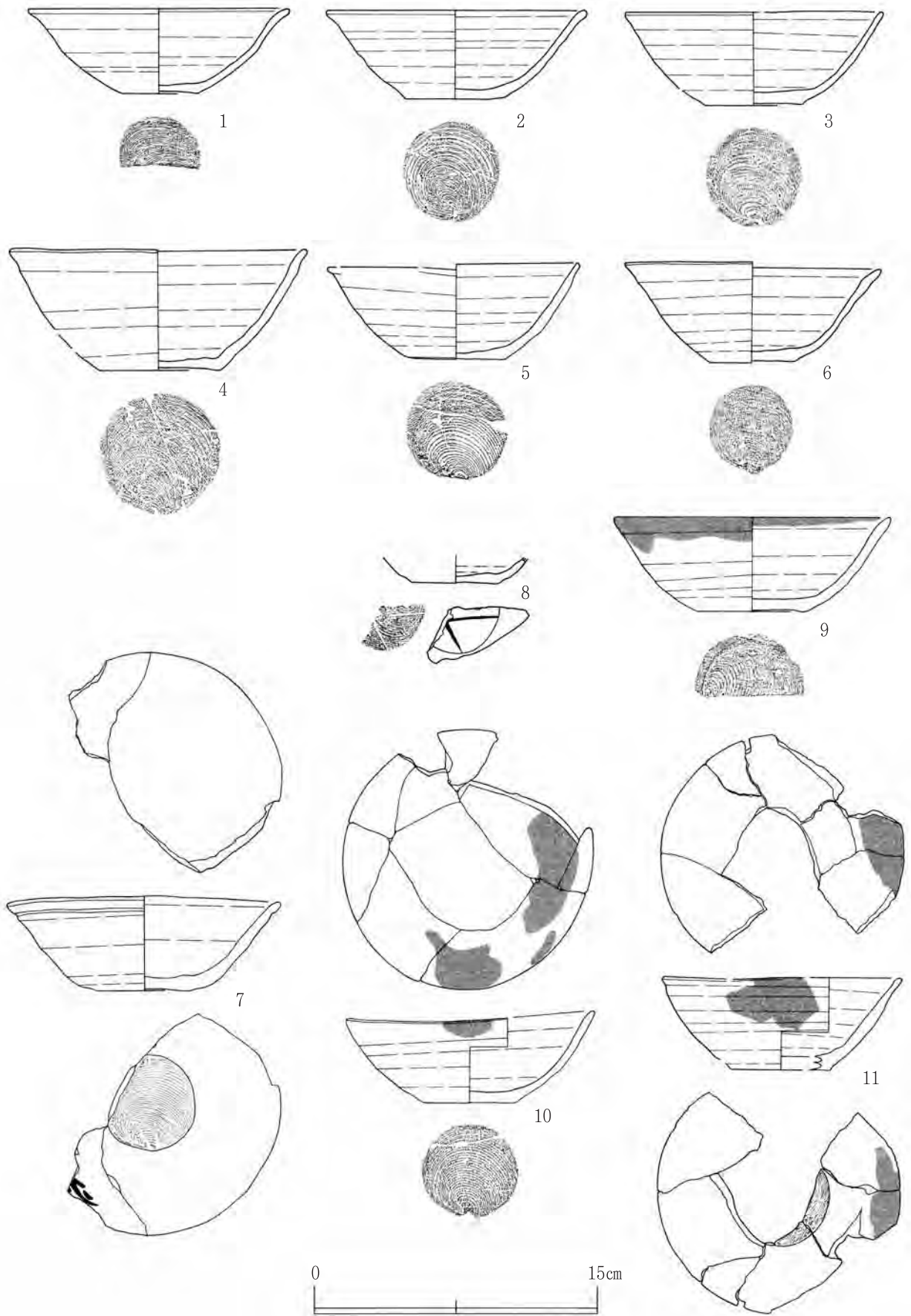
第85図 SK515・525・528土坑と出土遺物



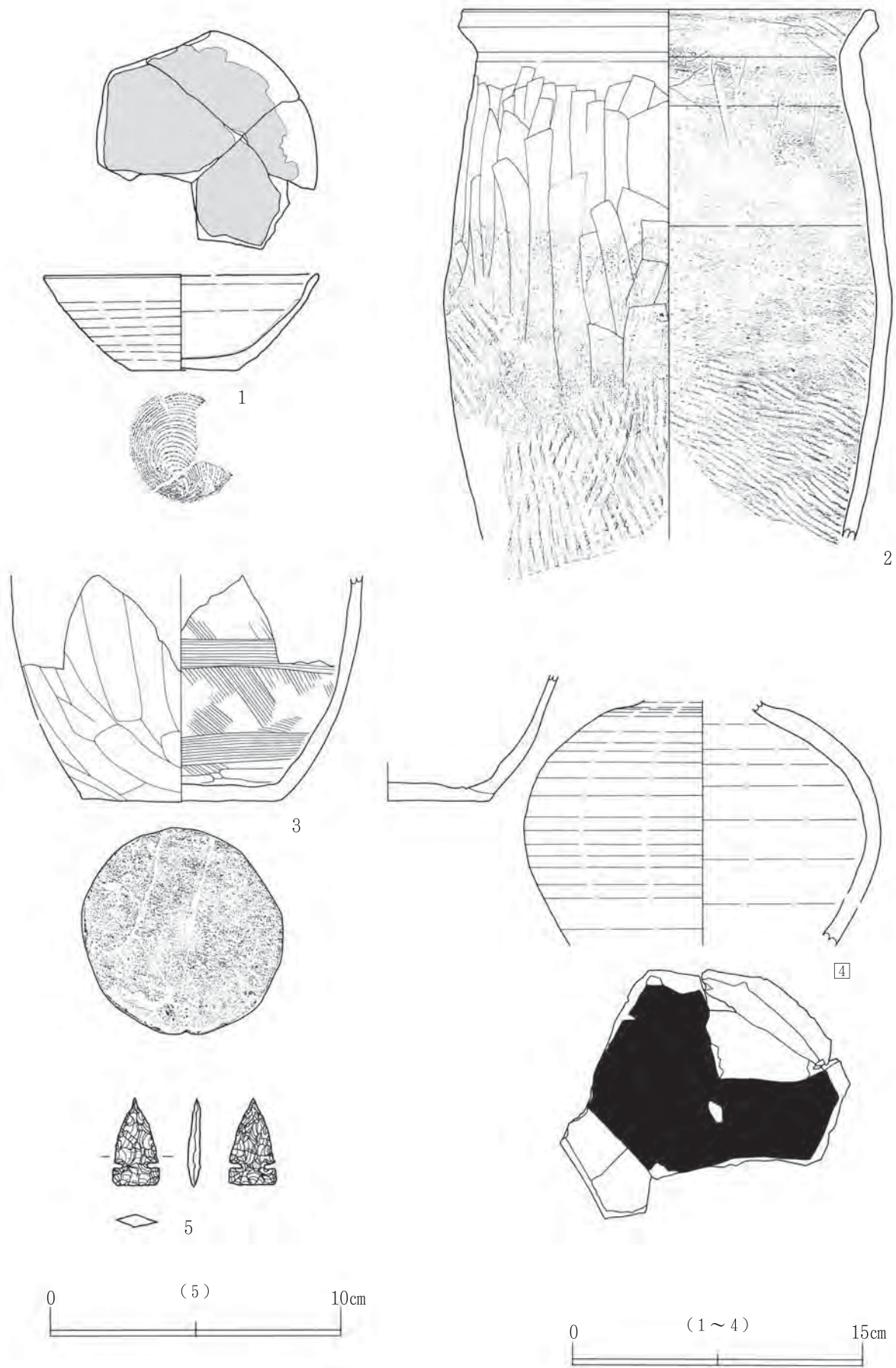
第86図 SK520土坑と出土遺物



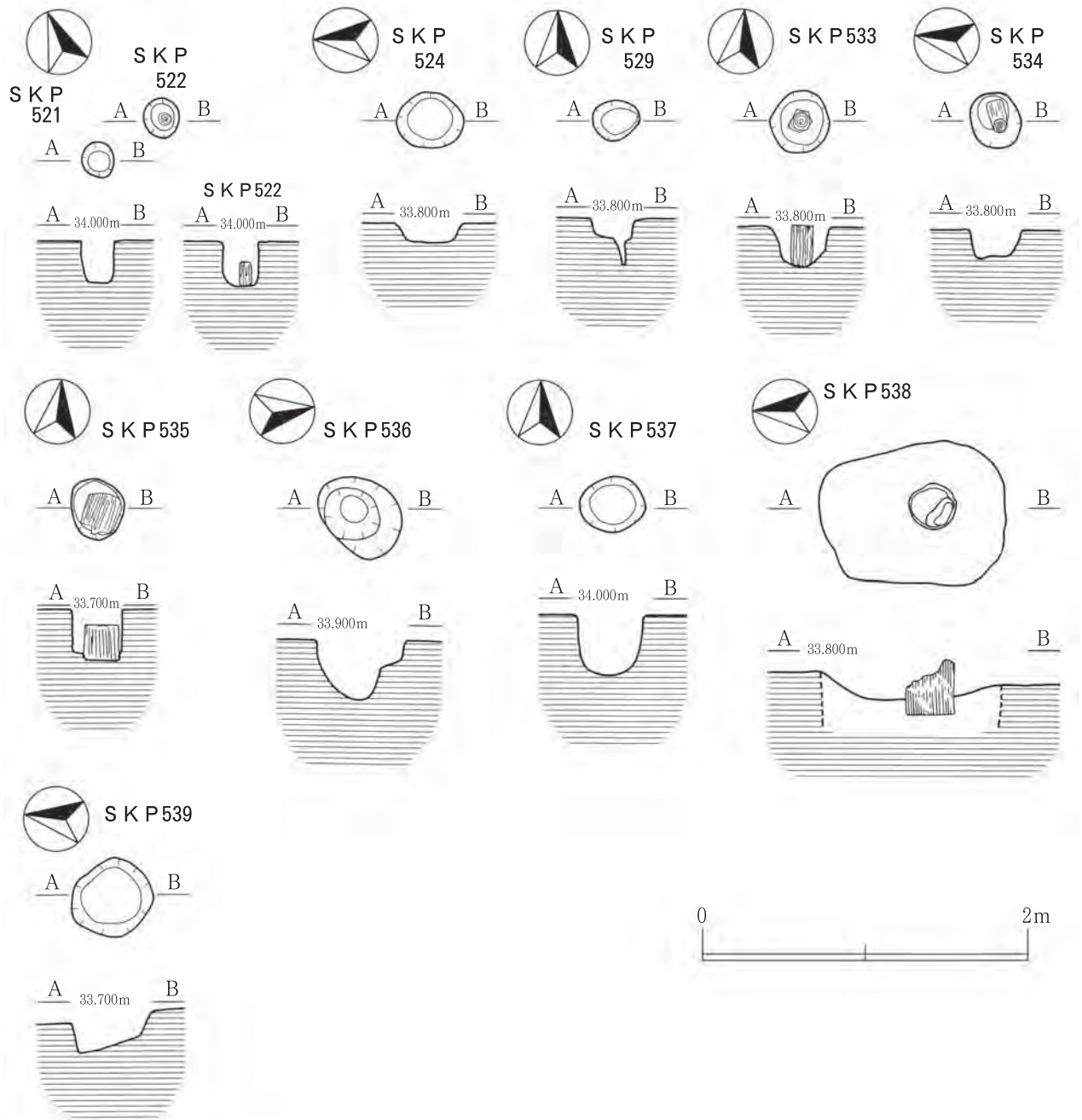
第87図 SK527・530土坑と出土遺物



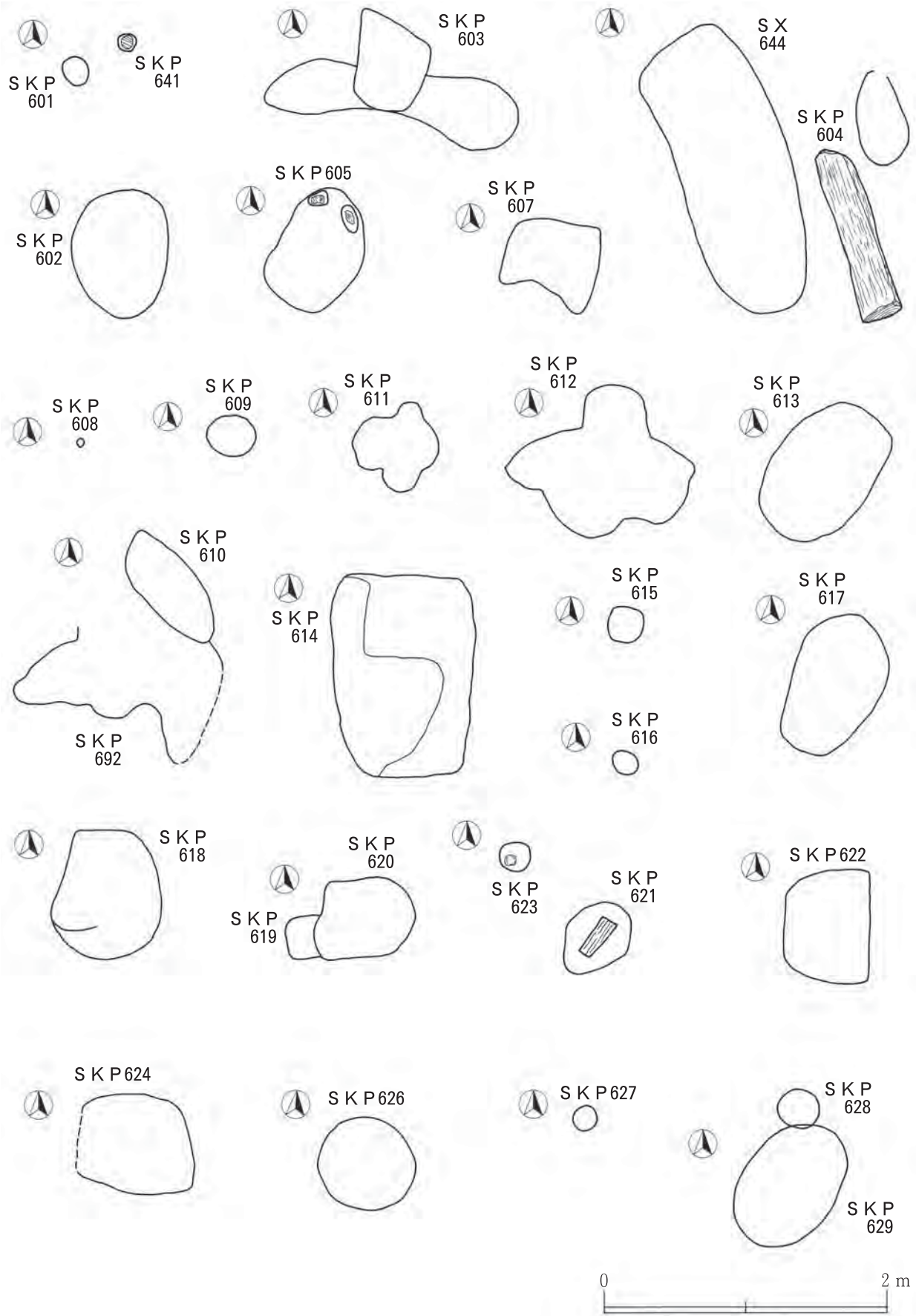
第88図 SK530土坑出土遺物（1）



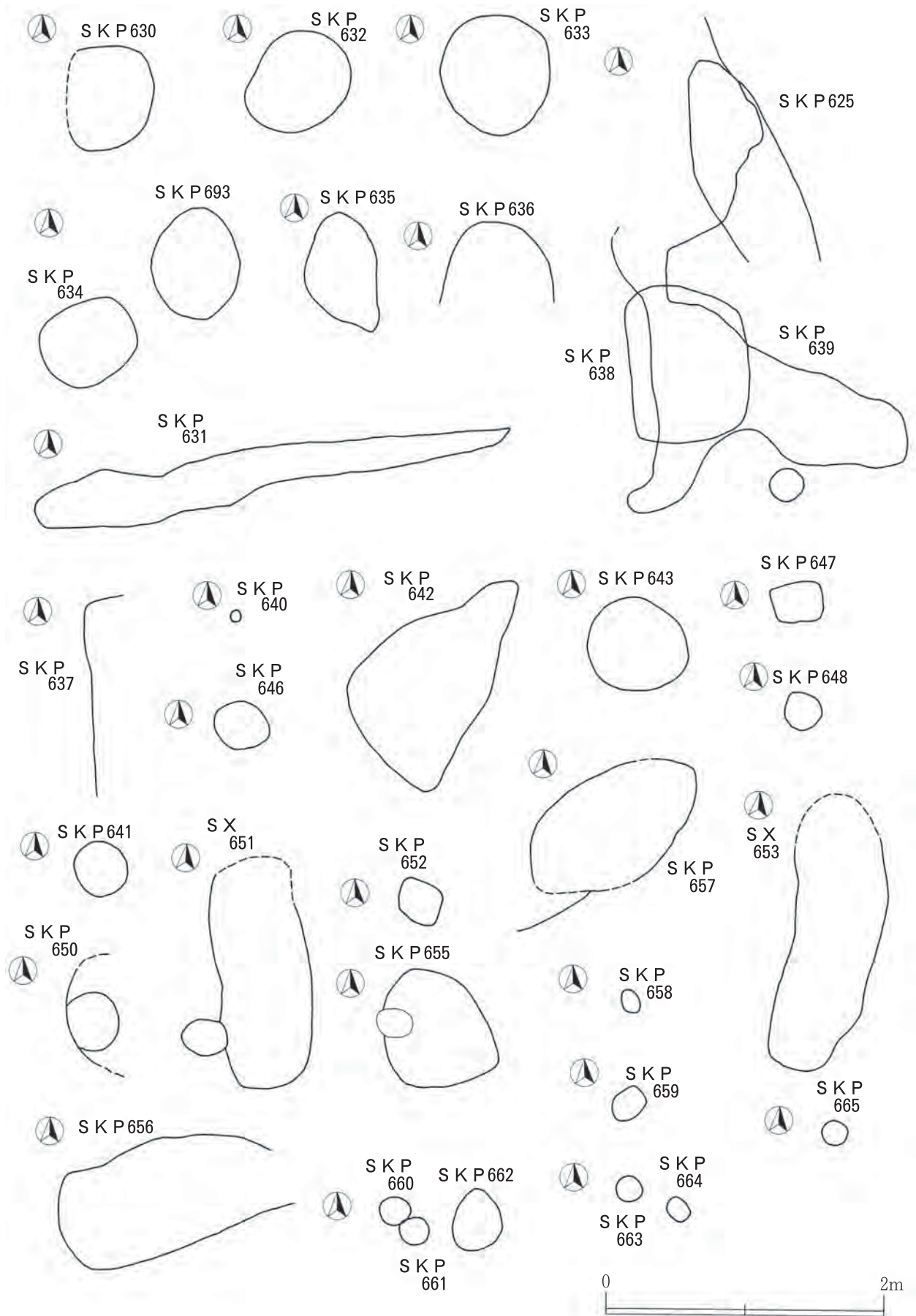
第89図 SK530土坑出土遺物(2)



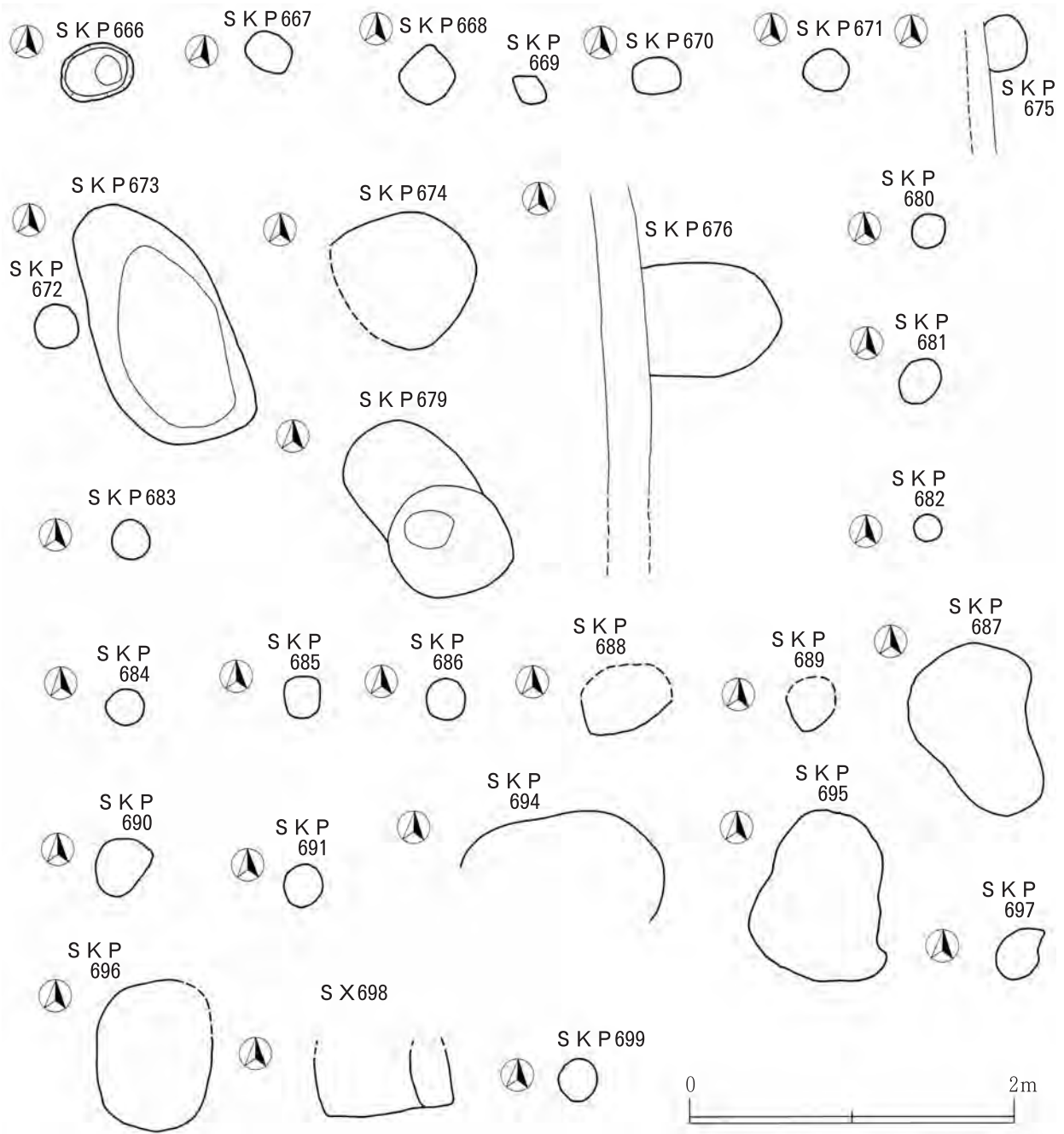
第90図 SKP521・522・524・529・533・534・535・536・357・538・539柱穴



第91図 未調査遺構(1)



第92図 未調査遺構 (2)



第93図 未調査遺構（3）

しかし前述のとおり、平安時代以来の旧河道・溝跡をそのまま踏襲して農業水路として使用していること、Ⅲ層とした河川堆積物中の遺物と当該遺構出土遺物との分別が不明確なことなどから、近世以降の可能性を指摘するだけに止めたい。

第2節 遺構外出土遺物

1 平安時代以前の遺物（第149図）

調査区内の旧河道中から縄文土器および石器が出土した。これらは周辺の微高地上にあった縄文時代遺構あるいは遺物包含層が河川により削平を受け、運搬され、堆積したものと考えられる。

（1）土器

縄文土器片が少量出土した。縄文のみの施文のうえ摩滅が著しく、時期は不明である。

（2）石器・石製品

剥片が少量と円盤状石製品が出土した。またアメリカ式石鏃も出土し（第89図5）、弥生時代遺物包含地の存在も予想される。

2 平安時代の遺物

（1）土器

ここでは、酸化炎焼成ののちに内面黒色処理を施した土器を内黒土師器、内外面黒色処理したものを黒色土器と呼称する。また酸化炎焼成のみの土器を土師器、還元炎焼成の土器を須恵器と呼称する。遺構外出土土器としては前記3種が出土したが（黒色土器は内黒土師器の項に含め）、それらを基とする墨書土器および灯明皿も多数出土し、それぞれの特徴および出土分布が遺跡の内容に密接に関わることから、別項を設け併せて説明することとした。

第6章に詳述するが、遺構外出土土器を対象として出土量を数値化し、比較検討した。土師器坏および鍋甕類の点数は他の遺物の数値から計算した参考値であり、また土師器坏を中心に註記不能な小破片は一律に除外した。

①内黒土師器

内黒土師器は遺構外から坏2,266点・鉢22点、重量で約10,900 g出土した。器種は坏・高台付坏・高台付皿・鉢が出土した。特に旧河道から出土したものは黒色処理を施した内面が銀化しており、使用時に有していた光沢を保持している。第125図19のように胎土中に雲母を混和し、銀化光沢が失われても煌びやかな見た目を保持する個体も数点出土した。内黒土師器・黒色土器とも、祭器としての金属器を指向したものと考えられ、その点では須恵器にも共通する。内黒土師器では内面黒色処理を施した際に、口縁部外面1～2 cmまでくすみ状に黒色化したものが一定量あり、実測図に図示した。

附図6に示した内黒土師器坏の出土分布図によると、出土遺構は微高地上の全域にわたり、また遺構外出土遺物は出土遺構の周囲にほぼ分布しており、S B地区西半および乙地区の湧水点を中心とした旧河道内に集中出土する地点がある。S B地区西半はS L区への水辺として機能する場でもあり、祭祀屋と考えられるS B 904・905およびS B 901・902掘立柱建物跡段階の祭祀に関係する可能性が高い。内黒土師器鉢の出土点数はごく少ないが、乙A地区の旧河道内に集中する箇所がある点では同様である。

内外面ともに黒色処理を施した黒色土器は遺構外から274点出土し、器種には坏・高台付坏・壺がある。壺は小型の特殊品が多く、祭器としての意図を持って生産された一群なのであろう。附図6に示した黒色土器の出土分布図によると、遺物の分布状況は内黒土師器に類似する。S B地区南辺中央部分に集中する箇所がある点では須恵器坏の分布に共通するが、出土点数がごく少量のため詳細は不明である。

②土師器

土師器は遺構外から重量で、坏365,100 g・鍋甕類274,700 g程度が出土した。内黒土師器や須恵器などの実測値をもとに計算すると、坏が76,500点・鍋甕類が18,700点程度の出土量となる。器種は坏・高台付坏・皿・蓋・鍋・甕・高台付鉢・羽釜が出土し、遺構内からは甕も出土した。羽釜は第138図16、26、27のようにごく小型のものが3点出土し、竈形土製品と同列に扱われるミニチュア品と考えられる。

土師器坏は硬質で焼き締まりが非常に良く、火だすきも見られる個体が一定量出土した。この一群は上部構造を有する窯で高火度焼成されたと考えられ、墨書土器に使用されたり、完形のまま乙A地区の湧水点周辺から多量に出土し、様々な祭祀に際して使用されたと考えられる。また焼け歪みやひび割れた個体についても、墨書土器の媒体として使用されたり、湧水点に一括して納置された事例を確認できることから、この一群は祭祀に供する器としての意図を持って生産され、墨書行為あるいは湧水点への供献などにより祭器としての機能を与えられたものとして捉えられる。

第96図3の様に内面に漆紙が貼りついた坏や、内面に漆を塗布した坏が一定量出土した。これらは内面に蓋紙が貼り付いたりしており、漆器などに漆を塗る際にパレットとして使用された漆容器と考えられる。塗布した後に漆を掻き取った痕跡を示すものもあり、第130図11にあげた漆篋などとセットで使用されたものと考えられる。

乙A地区湧水点周辺から笠形を呈し、外面に宝相華文が墨書された特殊な土師器蓋が出土した。詳細は墨書土師器の項で説明する。

土師器鍋および甕については体部破片での分別が困難なため、鍋甕類として併せて検討した。甕を意図的に破碎した後に特定の破片に油煙（タール）を付着させ、広域に散布したものが出土した。須恵器壺甕類の場合は墨が塗布されるのに対し、土師器では油煙を用いて黒色化させるという差異はあるが、同様の意図を持った祭祀行為と考えられる。このことについては須恵器の項で詳述する。

S K 263土坑内から1点のみ甕破片が出土した。(北) 関東のものと形態が類似する。

③須恵器

須恵器は遺構外から坏1,279点・壺甕類2,172点、重量で坏7,100 g・壺甕類37,300 g程度が出土した。器種は、坏・高台付坏・双耳坏・皿・高台付皿・蓋・壺・甕・横瓶・硯である。坏底部はほとんどが回転糸切りで切り離されており、ごく少数のみが回転ヘラ切りによる。

回転ヘラ切りによる須恵器坏は19点出土した。19点のうち9点の底部に墨書があり、これを含めて10点を図示した。このうち6点は「成」であった。これらは、払田柵官衙ブロックで管理・使用されていた土器で、吉祥句が書き入れられた一群と考えられ、厨川谷地遺跡が機能した時期からは、生産時期が多少遡る可能性が高い。この一群は調査区内でも初期の段階に持ち込まれたものと考えられ、横瓶などとともに官衙ブロックで管理・使用されていた伝世品を含む祭器の機能を停止させるために

S B地区に持ち込まれている可能性が高い。なお同様に吉祥区を書き入れた須恵器のセットとしては、多賀城跡周辺の市川橋遺跡で「松竹」墨書のセットが出土している。

須恵器坏は附図6に示した出土分布図によると、出土遺構は内黒土師器坏よりやや少ないながらも微高地上の全域にわたり、遺構外遺物も出土遺構の周囲にほぼ万遍なく分布しており、S B地区西半およびS B地区南辺中央部分、乙地区の湧水点以西の「水辺」に集中する箇所がある。

須恵器壺および甕については体部破片での分別が困難なため、壺甕類として併せて検討した。須恵器壺甕類は附図6に示した出土分布図によると、出土遺構は坏より多く、遺構外では旧河道を越えて広域に分布しており、S B地区西半と東部湧水点（S K 532）、乙地区の湧水点を含む「水辺」に集中する箇所がある。出土点数の違いはあるが、遺構外出土遺物は坏よりもひとまわり広く分布し、集中箇所もS B地区西半以外は明らかに差異が生じており、南北2か所の湧水点と「水辺」に対する指向性が強く感じられる。

附図5に示したように、須恵器壺甕類は意図的に破碎された後に、特定の破片内面に墨が塗布され広域に散布される事例が多く確認された。つまり、第98図に示すように、意図的に破碎された小破片の内面全体に墨が塗布されており、第120図1に示すような転用硯（いわゆる猿面硯）とは明確に区別できる。つまり壺甕類（いわゆる「袋物」）を廃棄する際には、それに憑依されることを恐れて破碎し、一部は墨を塗布して内面黒色の破片としたうえで広域に撒いた（送った）ものと考えられる。

須恵器壺甕類の破片は、十和田a火山灰が関係する遺構からも多く出土し、火山灰降灰時にはこの祭祀行為が盛行したことが予想される。降灰期には前掲した区画柵列等は消滅しており、微高地上とそれを取り巻く河川流路を含めた全域が単一の祭祀域として使用されていたと考えられる。

須恵器坏・壺甕類破片を用いた転用硯、および内面に墨が塗布された破片は、遺構外から198点出土した。大部分は前者であるが、後者は本来的には広域接合須恵器壺甕類の一部である可能性が高い。

④墨書土器など

広義の墨書土器（墨書・刻書・ヘラ書による記銘を有する土器）は、遺構内122点・遺構外260点の382点が出土した。そのほか同様の文字記号が記銘されたものとしては、「凧」漆書漆器がS K 532土坑（甲A地区）から、「𠄎」[九字（ドーマン）] 刻書砥石がS D 445溝状遺構（甲B地区）から1点・遺構外2点の、合計3点が出土した。記銘方法は墨書336点・ヘラ書28点・刻書21点・漆書1点である。詳細については125頁以降の「出土墨書土器一覧表」を参照されたい。

狭義の墨書土器（墨書による記銘を有する土器）336点の内訳は、内黒土師器10点・土師器249点・須恵器77点で、圧倒的に土師器が多い。そのほかに、呪符木簡2点・木簡4点、および木簡を転用したと考えられる墨痕を有する斎串1点が出土し、墨書土器と併せて、合計393点の文字関連資料が今回の調査で出土した。以下、内黒土師器、土師器、須恵器、ヘラ書・刻書土器、その他の順に説明し、最後に木簡類について説明する。

a) 墨書内黒土師器

墨書内黒土師器は遺構内3点・遺構外7点で、合計10点出土した。器種はすべて坏である。墨書された文字記号は「成」が3点・「万」が2点ある。「卅」が2点出土したが、「𠄎𠄎」「×」を含め、[九字（ドーマン）]と捉えられるものと考えられる（財団法人水沢市文化振興事業団 水沢市埋蔵文

化財調査センター『林前南遺跡 市道秋成本線建設に伴う緊急発掘調査（第17,18,20,21次調査の報告）』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第16集 2003（平成15）年。

墨書部位は底部2点・体部9点で、うち1点は底部と体部に墨書されている。底部に墨書された2点は「成」で、体部正位に墨書されたものも2点出土した。墨書内黒土師器は、S B地区で6点、乙A地区湧水点周囲から4点出土し、遺構外出土のものはすべてⅢ層中から出土していることから、比較的古い段階に撒かれたものと考えられる。

b) 墨書土師器

墨書土師器は遺構内81点・遺構外168点の、合計249点出土した。器種は杯248点のほか、笠形を呈する蓋が1点ある。この蓋は、第110図14に示すとおり、外面には緑釉陶器に描かれることの多い宝相華文が墨書されている。秋田・山形県内では類例が無く、祭器として製作された特殊な蓋と考えられる。

墨書された文字記号は「成」30点・「凧」29点で、五芒星・九字を含む「呪い記号」や模様を墨書したものが比較的多い。「凧」は土師器にのみ墨書され、その墨書部位も体部に限定される文字記号で、うち7点は体部倒位に墨書される。「凧」は平川南氏により〔特殊文字〕〔呪い記号〕として指摘されている文字記号で（平川南『墨書土器の研究』、2000（平成12）年）、乙A地区の湧水点周囲から19点が集中して出土し、S K 157土坑からも5点が出土した。つまり、「凧」は「土師器」「坏」の「体部」に対して墨書される〔呪い記号〕で、乙A地区湧水点およびS K 157土坑周囲において、特定の意図を持った祭祀が執り行われた際に撒かれたことが確実である。墨書部位では体部が主体をなすが、体部倒位も多数確認できることから、現地での墨書行為を経て祭器として使用されたものと考えられる。

平川氏により同様に〔特殊文字〕〔呪い記号〕と指摘されている「兪」は9点出土し、うちS K 181土坑から6点が出土した。この土坑周囲でも特定の意図を持った祭祀が執り行われ、その際に「兪」が墨書されて土坑に納置されたことがわかる。

そのほか模様20点・記号3点・五芒星〔セーマン〕6点、九字〔ドーマン〕と捉えられるもの（「卍」「卍」を含む）4点・「〇」（則天文字の「星」）2点など、文字ではなく「呪い記号」と考えられるものが30点以上出土し、ほとんどが体部に墨書されている。

「成」は30点出土したが、底部に墨書したものが11点で、19点は体部墨書で、体部倒位に墨書したのも2点である。これは後述する「成」墨書須恵器と様相が大きく異なり、次項で詳述する。「有」は4点出土し、すべて体部正位に墨書される。

墨書部位は底部24点（底部内面2点を含む）・体部225点（体部内面2点を含む）・蓋外面1点で、うち1点は底部と体部に墨書がある。体部への墨書が90%以上と圧倒的に多く、その中でも文字記号が釈読可能なもので体部正位62点・体部倒位15点・体部横位3点と、体部正位以外に墨書する例が一定量確認できるのも土師器の特徴といえる。これら墨書行為の媒体として用いられた土師器は硬質で焼き締まりが非常に良く、火だすきも見られる一群が多く使用される。そのような土師器には、たとえ歪みやひびわれを生じた個体であっても墨書行為がなされ、また乙地区湧水点を中心として同様の土師器坏が墨書を施されずに完形のまま多量に出土する事実も確認されている。このようなことから、この一群の坏は祭器として製作され、未使用の状態のままこの地に運び込まれ、現地で祭祀を執り行

う際に初めて墨書行為を受けたものと考えられる。墨書部位に体部が多く、倒位・横位への墨書例が存在するのもこのためだと考えられる。つまり土師器への墨書は特定の意図を持った祭祀のために、特定の文字記号を現地で坏に書き入れる形態をとったことが想定でき、次項で「成」墨書須恵器と比較し、詳述する。

c) 墨書須恵器

墨書須恵器は遺構内25点・遺構外52点の、合計77点出土した。器種は坏72点・蓋4点・皿1点と、坏が多い。墨書された文字記号は「成」が44点で最も多く、その墨書部位は釈読可能なもので、坏の底部35点・体部正位4点・体部倒位2点（複数の組み合わせを含む）、蓋外面3点、皿底部1点である。

墨書部位は底部55点・体部19点で、体部倒位に墨書される2点のうち第140図7は底部墨書の後に書き加えられたものと考えられる。S B地区では31点が集中して出土し、そのうち「成」が18点を占める。また埋没面であるⅢ層中からは55点出土しており、うち34点が「成」であった。ここで「成」墨書土器の様々な属性について整理してみる。

「成」は墨書須恵器で44点出土したほか、内黒土師器で3点、土師器で30点出土しており、墨書土器全体で合計77点出土した。器種では皿1点・蓋3点のほか、坏が73点を占める。土師器の墨書部位は、底部11点・体部19点と体部への墨書が過半を占める。また出土地点では、須恵器同様にS B地区から18点が集中的に出土し、そのうち14点がⅢ層中からの出土である。内黒土師器の2点とあわせ、「成」墨書土器77点のうち38点がS B地区から出土した。つまり「成」墨書須恵器は「坏」の「底部」に墨書されるが、土師器では「体部」に墨書される。また、「成」墨書須恵器は区画柵列北側の「S B地区」「Ⅲ層中」から出土する傾向が顕著であるが、これは「成」がS B地区のⅢ層中の段階に特徴的な文字記号でありながら、媒体となる器により墨書部位が異なることを示している。また回転ヘラ切りによる須恵器坏が19点出土しているが、実測した10点のうち9点が底部に墨書があり、6点は「成」であった。これらは払田柵官衙ブロックで管理・使用されていた吉祥句を書き入れられた一群と考えられ、生産時期も多少遡るものと考えられる。

このことより、厨川谷地遺跡における初期の区画柵列北側に、目隠し塀を伴い設営された祭祀屋で執り行われた祭祀においては、払田柵官衙ブロックからヘラ切りの「成」墨書須恵器坏を持ち込み、S B地区周辺に撒かれていたことがわかった。

d) ヘラ書・刻書土器

ヘラ書土器・刻書土器について説明する。

ヘラ書土器は内黒土師器1点・須恵器3点・土師器24点の合計28点で、13点が遺構から出土し、遺構外から15点出土した。S B地区から13点出土し、「×」8点・九字〔ドーマン〕1点・「卍」1点・「*」1点など、刻書土器同様に九字〔ドーマン〕と捉えられるものが多い。ヘラ書土器は焼成前に記銘することから、焼成時にはすでに九字〔ドーマン〕系の文字記号を墨書した器と同様の機能を持つ器ということになる。つまりヘラ書土器は、墨書土師器に用いられた、硬質で焼き締まりが非常に良い一群に、現地で墨書したものと同様の機能を持つこととなるため、まさに祭祀に供する器としての意図を持って生産されたものと考えられる。

刻書土器は内黒土師器3点・土師器15点の、合計18点で、すべて遺構外からの出土である。乙地区

から14点出土し、「×」5点・九字〔ドーマン〕3点・「*」2点など、広義に九字〔ドーマン〕と捉えられるものが多いことが特徴である。焼成後の土器に刻書する行為は墨書行為と同等の祭祀行為と考えられるが、九字〔ドーマン〕系の文字記号が記銘される傾向が高いことから、刻書行為の対象となる文字記号が極めて限定的で、特定の指向性を持って金属器による記銘がなされるのかもしれない。

第134図10は不明瞭ではあるが、底部に「成」を刻書した可能性が高い。

e) 漆書漆器

漆書で文字を記銘した漆器1点が出土した。甲A地区(S K 532)からの出土である。全面黒漆塗漆器碗の体部正位に、赤漆で「夙」が記されている。〔かぜかんむり〕部分は中心が盛り上がり、「全」のように「屋根」様になっている。土器に墨書されたものにも同様の特徴を呈するものがあり(第107図1など)、そもそも〔かぜかんむり〕ではなく中心から対称に書き下ろされた〔かんむり〕の中に「上」を書き入れる、「夙」のような記号なのであろう。その意味でも「文字」ではなく〔呪い記号〕とすることができ、即天文字と同様の構造を持っている。この「夙」漆書漆器は弘田柵跡はもとより秋田城跡にも類例を見ないことから、律令政府から城柵官衙に与えられた祭器の一つで、様々な律令祭祀の場面において供献器の範型として使用されたものと考えられる。これを範型として大量に製作・使用された祭器が「夙」墨書土師器なのであろう。

f) 刻書砥石

刻書を有する砥石が3点出土した。2点は擦り面に浅く傷状に九字〔ドーマン〕が記銘されている。もう1点は擦り面ではなく、端部に刀子状の刃物を用いて九字〔ドーマン〕が刻まれている。前掲したように刻書土器に記銘する金属器と直接関係する石器であり、興味深い。

g) 木簡(呪符木簡・題籤軸木簡を含む)

木簡は2点の呪符木簡を含め6点出土し、すべてが旧河道域から出土した(附図9、第100図1～4・第121図1・第130図9)。

第一号木簡 (323)×(23)×7 甲A地区(S K 5 3 2) 出土

- □解 申請 □□□□ 出稲粮□額 □□□□
- □□□□ □ □□□ 卅伍□□生□无□

表裏面に墨書される。上下端は欠損し、刀形に転用されている。

詳細については巻末に収載した山形大学人文学部三上喜孝助教授による論考を参照されたい。

第二号木簡 (143)×23×3 甲A地区(S K 532) 出土

「(符録) 急々如律令」

呪符木簡。上下端は直線状に切り取られ、板状を呈する。

第三号木簡 (99)×16×7 甲A地区出土

「□□□□」

釈文不明。上端は圭頭状、下端欠損。

第2節 遺構外出土遺物

出土墨書土器一覧表(1)

単位 (cm)

挿図 No.	内	遺構 No.	層位	接合破片	日付	種類	器種	象文	記銘部位	記銘方法	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考
5	5	SK 107	埋土中		010824	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他	-	-	(5.6)	(2.35)	
5	6	SK 107	埋土中		010903	土師器	坏	有	体部正位	墨書	その他	-	-	-	-	
6	4	SK 107	上面	上面,SK304RP1,SK304RP7,埋土中,SL407RP16,SL407RP17,LR41,盛土層,SD445(LR45)埋土中,RP726,MD38	010702	須恵器	蓋	大	外面	ヘラ書	その他	-	14.7	-	8.0	外121,SL407,SK107,S D445,LR40・41,MD38 Aと接合 つまみ径1.5cm
12	3	SK 153	埋土中		010903	土師器	坏	□	体部正位	墨書	SL	-	-	5.3	(2.0)	
13	3	SK 154	埋土中		010905	土師器	坏	□(夙カ)	体部倒位	墨書	SL	-	-	-	-	
19	1	SK 157	RP131		011102	土師器	坏	□(井)	体部	墨書	SB	-	12.6	4.4	4.65	
19	2	SK 157	埋土中		010928	土師器	坏	□	体部	墨書	SB	-	-	4.7	(2.4)	
19	3	SK 157	埋土中		010927	土師器	坏	出	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
19	4	SK 157	埋土中		010928	土師器	坏	□(寺カ)	体部倒位	墨書	SB	-	-	-	-	
19	5	SK 157	埋土中		010928	土師器	坏	□(立カ)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
19	6	SK 157	埋土中		010926	土師器	坏	夙	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
19	7	SK 157	埋土中		010926	土師器	坏	夙	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
19	8	SK 157	埋土中		010926	土師器	坏	□(夙カ)	体部倒位	墨書	SB	-	-	-	-	
19	9	SK 157	埋土中		010925	土師器	坏	□(夙カ)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
19	10	SK 157	埋土中		011002	土師器	甕	井	体部内面	ヘラ書	SB	-	-	-	-	
19	11	SK 157	埋土中		010928	内黒土師器	坏	×	体部	ヘラ書	SB	-	-	-	-	
19	12	SK 157A	埋土中		011012	土師器	坏	夙	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	注記は57A
19	13	SK 157A	埋土中		011012	土師器	坏	□(巾カ)	体部倒位	墨書	SB	-	-	-	-	注記は57A
19	14	SK 157A	埋土中		011012	土師器	坏	□(巾カ)	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	注記は57A,2文字カ
23	11	SK 157B	RP193	RP192,RP193	011012	内黒土師器	坏	成	体部正位	墨書	SB	-	(12.8)	5.5	4.9	連筆,SK157BRP192と 接合
23	12	SK 160	埋土中		010925	土師器	坏	*	底部	ヘラ書	SB	-	-	(4.6)	(2.5)	
25	1	SK 301	埋土中		010913	土師器	坏	□(夙カ)	体部正位	墨書	その他	-	-	-	-	
27	9	SK 176	RP13		010807	土師器	坏	×	体部	ヘラ書カ	SB	-	13.1	4.6	4.4	
27	10	SK 175	RP45		010831	土師器	坏	成	体部正位	墨書	SB	-	(13.5)	-	(4.2)	
27	11	SK 176	RP5		010807	土師器	坏	成	体部正位	墨書	SB	-	-	5.8	(4.1)	
28	1	SK 178	埋土中		010920	土師器	坏	□	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
31	7	SK 179	埋土中		010910	土師器	坏	「☆」	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
31	8	SK 179	埋土中		010928	土師器	坏	[記号]	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
31	12	SK 179	埋土中		010913	須恵器	坏	□	体部	墨書	SB	-	-	-	-	内墨
33	7	SK 180	埋土中		010920	土師器	坏	□(井カ井カ)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
33	8	SK 180	埋土中		010928	内黒土師器	坏	卅	体部横位	墨書	SB	-	11.7	5.2	5.4	121・126と接合
34	3	SK 181	埋土中		010927	土師器	坏	宀	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
34	4	SK 181	埋土中		011004	土師器	坏	宀	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
34	5	SK 181	埋土中		010926	土師器	坏	宀	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
34	6	SK 181	埋土中		011030	土師器	坏	□(宀カ)	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
34	7	SK 181	埋土中		010928	土師器	坏	□	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
34	8	SK 181	埋土中		011001	土師器	坏	□	体部	墨書	SB	-	-	-	-	実測図で示す
34	9	SK 181	埋土中		010927	土師器	坏	宀	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
34	10	SK 181	埋土中		010925	土師器	坏	□	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
34	11	SK 181	埋土中		010925	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
34	12	SK 181	埋土中		010920	土師器	坏	□	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
34	13	SK 181	埋土中	埋土中,RP62,SK503Ⅲ層	010920	土師器	坏	宀	体部	墨書	SB	-	13.3	(4.8)	5.7	156と接合,灯明皿
39	2	SK 204	RP9	RP9,埋土中	010904	土師器	坏	夙	底部	墨書	SB	-	-	(5.8)	(1.4)	
39	3	SK 204	埋土中	埋土中,SK299埋土中	010913	土師器	坏	夙	体部正位	墨書	その他	-	-	-	-	60と接合
40	2	SK 205	埋土中		010920	土師器	坏	□	底部	ヘラ書	SB	-	-	(5.3)	(2.75)	深い
44	3	SK 234	RP11	RP11,RP14,埋土中,MD44Ⅲ層RP11,MD44Ⅲ層RP14	010830	須恵器	坏	成	底部	墨書	その他	-	14.0	5.5	4.8	外175,MD44Ⅲ RP11・ 14と接合
44	4	SK 234	RP11	RP11,MD44Ⅲ層RP8	010829	須恵器	坏	成	底部	墨書	その他	-	13.3	6.1	4.8	外174,MD44Ⅲ RP8と 接合
45	1	SK 234	RP41		010907	須恵器	坏	成	底部	墨書	その他	-	-	5.4	(2.9)	
45	2	SK 234	RP32		010831	須恵器	坏	成	底部	墨書	その他	-	-	5.3	(3.3)	
45	3	SK 234	埋土中		010827	土師器	坏	□	体部	墨書	その他	-	-	-	-	
45	4	SK 234	RP20	RP20,RP27,RP28,埋土中,MB41Ⅱ層,MD40Ⅱ層	010830	須恵器	蓋	×	外面	ヘラ書	その他	-	(14.9)	-	8.5	つまみ径(5.0)cm
48	1	SK 263	RP259	RP259,RP260,RP258,埋土中	011003	土師器	坏	×	体部	ヘラ書	その他	-	(12.2)	(6.3)	(5.8)	77と接合
50	1	SK 265B	埋土中		010907	土師器	坏	□(成カ)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
54	5	SK 350	埋土中		010927	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	その他	-	-	-	-	
54	6	SK 304	埋土中		010910	土師器	坏	□(正カ)	体部正位	墨書	その他	-	-	-	-	
58	3	SK 404	埋土中	埋土中,SK340埋土中,M B44Ⅲ層,MD45Ⅲ層	010914	須恵器	蓋	成	外面	墨書	SB	-	11.55	-	3.35	つまみ径2.4cm
60	1	SKP 365	埋土中		010925	須恵器	坏	□	底部	墨書	その他	-	-	-	-	
60	2	SKP 365	埋土中		011004	須恵器	坏	□(成カ)	底部	墨書	その他	-	-	-	-	回転ヘラ切り
61	1	SK 375	埋土中		010918	土師器	坏	今	底部	墨書	その他	-	-	4.6	(1.8)	
62	1	SK 403	埋土中		011022	土師器	坏	□(井カ)	体部倒位	墨書	SB	-	-	-	-	
65	2	SK 369	埋土中		011004	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	(5.8)	(1.5)	
69	2	SR 174	RP1		011025	須恵器	坏	[外周模様]	体部	墨書	その他	-	14.1	5.3	4.0	
79	2	SK 502	埋土中		011105	須恵器	坏	成/ナ	底部	墨書	SL	-	(12.2)	(4.8)	(3.0)	体部倒位に「ナ」,外 139と接合
80	3	SK 513	RP3		011107	土師器	坏	成	体部正位	墨書	SB	-	(11.4)	-	-	
80	4	SK 505	埋土中		011105	須恵器	坏	□(成カ)	底部	墨書	SB	-	-	-	-	
80	5	SK 513	埋土中	埋土中,RP1	011107	土師器	坏	調酒/大 田部/三 □□□	体部正位	墨書	SB	-	(12.6)	(5.8)	5.1	
80	6	SK 513	埋土中		011107	土師器	坏	×	底部	ヘラ書	SB	-	-	-	-	
80	7	SK 513	RP3		011107	土師器	坏	×	底部	ヘラ書	SB	-	-	4.1	5.2	
83	1	SK 507	埋土中	埋土中,MD43Ⅲ層RP2	011107	須恵器	坏	生	底部	墨書	SB	-	13.75	5.8	4.5	外22と接合
83	2	SK 507	埋土中		011108	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	13.0	5.6	(3.9)	回転ヘラ切り
83	3	SK 507	RP4	埋土中,RP4	011117	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	(11.6)	(5.9)	(4.5)	
83	4	SK 507	埋土中		011108	須恵器	坏	□	底部	墨書	SB	-	-	7.4	(2.6)	回転ヘラ切り
83	5	SK 507	埋土中		011109	須恵器	坏	□	底部	墨書	SB	-	-	6.0	(1.0)	回転ヘラ切り
83	6	SK 507	埋土中		011109	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	(4.4)	(1.3)	
83	7	SK 507	RP1	RP1・3,MD44Ⅱ層,MD4 5AⅢ層,MD45Ⅱ層	011107	須恵器	蓋	成	外面	墨書	SB	-	15.8	-	3.6	つまみ径3.1cm
84	1	SK 508	埋土中		011105	土師器	坏	成	底部	墨書	SL	-	-	5.2	(1.6)	

出土墨書土器一覧表(2)

単位 (cm)

挿図No	内	遺構No	層位	接合破片	日付	種類	器種	釈文	記銘部位	記銘方法	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考
84	3	* SK 509	埋土中		011115	土師器	坏	□(頸)□ [内面に習書]	底部内面	墨書	その他	-	-	5.8	(3.0)	
85	1	* SK 515	埋土中		011116	須恵器	坏	成	体部正位	墨書	SB	-	13.5	4.8	3.45	
86	1	* SK 520	埋土中		011007	須恵器	坏	成	底部	墨書	その他	-	(13.7)	(5.2)	5.1	
88	7	* SK 530	ⅢRP13		011115	土師器	坏	□/×/	体部	墨書	SB	-	14.3	(5.0)	5.0	内面に刻書×/×
88	8	* SK 530	埋土中		011115	土師器	坏	×	底部	へら書	SB	-	-	(5.0)	(1.55)	
96	4	LQ 45	ⅢRP58		011115	土師器	坏	方	底部	墨書	甲B	-	12.7	5.0	5.0	灯明皿
96	5	* 甲A区 532	ⅢRP111		011119	土師器	坏	大	体部正位	墨書	甲A	-	(13.4)	(5.4)	6.5	
96	6	* 甲A区 532	埋土中		011119	土師器	坏	成	体部正位	墨書	甲A	-	-	-	-	
96	7	* 甲B区 445	LR46		011026	土師器	坏	□(酒カ)	体部	墨書	甲A	-	-	-	-	異体字,LR46
96	8	* 甲B区 445	LR46		011026	土師器	坏	井	体部	墨書	甲A	-	-	-	-	LR46
96	9	LR 45D	Ⅲ		011114	土師器	坏	大	体部正位	墨書	甲A	-	-	-	-	
96	10	* 甲A区 532	埋土中		011114	土師器	坏	×	底部	へら書	甲A	-	-	(5.2)	(2.0)	
96	11	LR 45C	Ⅲ		011115	土師器	坏	□(千力王カ)	体部倒位	墨書	甲A	-	-	(4.6)	(1.5)	
96	12	LQ 44B	Ⅲ		011120	土師器	坏	ナ	体部	墨書	甲B	-	-	-	-	
96	13	LQ 45B	Ⅲ		011116	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	甲A	-	-	-	-	
96	14	* 甲A区 532	埋土中		011119	土師器	坏	□	体部	墨書	甲A	-	-	-	-	
96	15	* 甲B区 445	埋土中	埋土中,LR45	011031	磁石	-	井	磨面部	刻書	甲A	-	(2.7)	(4.4)	(1.4)	被熟練刻磁石,LR45 10.6g
96	16	LR 45	Ⅱ	Ⅱ層,Ⅲ層	010713	土師器	坏	[模様] (垂力)	底部	へら書	甲A	-	-	(1.9)	(1.5)	
101	1	* 甲A区 532	ⅢRP98		011119	漆器	坏	凡	体部正位	漆書	甲A	-	14.3	7.8	4.9	黒漆地に朱塗で記す
106	1	LR 41	盛土RP140	LR40盛土層,盛土層RP140,盛土層RP157,盛土層RP156	011016	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	13.2	5.4	4.9	灯明皿
106	2	LR 41	盛土RP456		011019	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	(13.0)	5.6	5.5	灯明皿
106	3	LR 41	盛土RP366	盛土層RP366,盛土層RP512,盛土層RP514	011017	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	13.5	5.85	4.8	148と接合
106	4	LR 41	盛土	盛土層,盛土層RP446	011018	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	12.75	(5.4)	5.1	234と接合
106	5	LR 41	盛土		011022	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	12.4	5.2	5.6	227と接合
106	6	LR 41	盛土RP645	盛土層RP645,盛土層,LS41盛土層	011019	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	12.8	5.6	5.1	78と接合
106	7	LS 40	盛土		011011	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	(13.0)	-	(3.6)	
106	8	LR 41	盛土		011023	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	(13.8)	-	(3.9)	232と接合
106	9	LR 41	盛土		011017	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	-	-	-	
106	10	LR 41	盛土		011019	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	13.5	5.9	5.3	
107	1	LR 41	盛土	盛土層,盛土層RP141,盛土層RP367,盛土層RP409,盛土層RP335	011017	土師器	坏	凡	体部倒位	墨書	乙A	-	13.0	5.0	4.95	
107	2	LR 40	盛土RP160	盛土層RP160,LR41盛土層RP156	011017	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	12.6	5.4	4.6	
107	3	LR 41	盛土RP651	盛土層RP651,盛土層RP652	011023	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	12.45	5.1	4.9	
107	4	LR 41	RP116		011011	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	-	-	-	
107	5	LS 41	Ⅲ下		011115	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	13.3	(5.9)	4.7	
107	6	LR 41	盛土RP495・497	盛土層	011019	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	13.0	5.2	5.7	
107	7	LR 41	盛土	盛土層,LR42Ⅲ層下To-a混	011115	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	-	-	-	51と接合
107	8	LR 41	盛土		011019	土師器	坏	(凡カ)	体部倒位	墨書	乙A	-	-	-	-	
107	9	LR 41	盛土RP517	盛土層RP510,盛土層RP513,盛土層RP517	011019	土師器	坏	凡	体部倒位	墨書	乙A	-	13.3	5.7	4.7	68と接合
107	10	LR 41	盛土		011018	土師器	坏	凡	体部倒位	墨書	乙A	-	12.85	5.9	5.55	105と接合
107	11	LR 41	盛土RP478	盛土層,RP478	011019	土師器	坏	凡	体部正位	墨書	乙A	-	13.1	5.8	4.9	
107	12	LR 41	盛土		011019	土師器	坏	[記号]	体部	墨書	乙A	-	(12.4)	-	(3.6)	
108	1	LQ 41	盛土	盛土層RP33,盛土層	011026	土師器	坏	☆	体部	墨書	乙A	-	-	(5.4)	3.05	
108	2	LS 40	盛土RP335	盛土層RP335,盛土層	011004	土師器	坏	☆	体部	墨書	乙A	-	12.6	4.7	5.2	
108	3	LS 40	盛土	盛土層RP201,RP372	011009	土師器	坏	☆	体部	墨書	乙A	-	12.5	5.8	4.65	147と接合
108	4	LR 41	盛土	盛土層,LQ44DⅢ層	011115	土師器	坏	☆	底部	墨書	甲B	-	-	(5.8)	(2.3)	
108	5	LR 41	盛土	盛土層,LQ44DⅢ層	011022	土師器	坏	□(☆カ)	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	6	LS 40	盛土		010929	内黒土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	7	LS 40	盛土		011005	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	8	LR 40	盛土		011012	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	9	LR 41	盛土		011022	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	10	LS 41	盛土		011009	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	11	LS 40	盛土		011004	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	12	LR 41	盛土RP423		011018	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	(5.2)	(2.1)	割れ
108	13	LS 40	盛土	盛土層,LT40AⅢ層	011002	土師器	坏	[模様]	体部/底部	墨書	乙A	-	-	(5.5)	(2.3)	
108	14	LS 41	盛土		011009	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	15	LR 41	盛土		011016	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	16	LR 41	盛土		011016	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
108	17	LS 40	盛土		011004	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	蓮文?
108	18	LR 41	盛土	盛土層,盛土層RP454,盛土層RP455,盛土層RP459	011018	土師器	坏	画	体部正位	墨書	乙A	-	13.8	5.9	5.5	197と接合
108	19	LR 41	盛土		011019	土師器	坏	[模様]	体部内面	墨書	乙A	-	(14.85)	(6.6)	5.25	
108	20	LR 41	盛土RP607	盛土層RP607,LR40盛土層RP208,LQ42盛土層,LR41盛土層,LS41盛土層	011022	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	乙A	-	(13.0)	5.0	5.4	
109	1	LR 40	盛土RP43	盛土層RP43,LR40盛土層	011012	内黒土師器	坏	□(成カ)	体部正位	墨書	乙A	-	(13.25)	(6.3)	5.7	
109	2	LR 41	盛土		011023	須恵器	坏	成	底部	墨書	乙A	-	-	(6.2)	-	
109	3	LQ 42	盛土		011030	土師器	坏	有	体部正位	墨書	乙A	-	-	-	-	
109	4	LR 41	盛土	盛土層,LQ42盛土層	011030	土師器	坏	有	体部正位	墨書	乙A	-	-	-	-	
109	5	LR 41	盛土		011023	土師器	坏	有	体部正位	墨書	乙A	-	-	-	-	
109	6	LR 41	盛土		011022	土師器	坏	有	体部正位	墨書	乙A	-	-	-	-	
109	7	LQ 41	Ⅲ		011016	土師器	坏	東	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
109	8	LS 41A	Ⅲ		011107	土師器	坏	東	体部	へら書	乙A	-	-	-	-	
109	9	LQ 42D	Ⅲ		011101	土師器	坏	井	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
109	10	LR 40	盛土	盛土層RP9,盛土層RP8,盛土層	011006	内黒土師器	坏	万	体部正位	墨書	乙A	-	12.0	5.4	4.9	
109	11	LR 41	盛土RP501		011019	土師器	坏	東/一	体部正位	墨書	乙A	-	13.4	5.3	5.4	
109	12	LR 41	ⅢRP103		011011	土師器	坏	規	体部正位	墨書	乙A	-	(13.0)	-	(3.5)	
109	13	LR 41	盛土RP320	LR40盛土層RP97,LR41盛土層	011016	土師器	坏	大	体部	墨書	乙A	-	(13.4)	(5.8)	(5.6)	
109	14	LS 40	盛土PR342	盛土層RP342,盛土層	011010	土師器	坏	上	体部	墨書	乙A	-	13.2	5.25	5.3	142と接合

出土墨書土器一覽表(3)

単位 (cm)

種図 No.	内	遺構 No.	層位	接合破片	日付	種類	器種	釈文	記銘部位	記銘方法	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考
109	15	LS 40	盛土 RP80	盛土層RP80,盛土層RP152,盛土層RP211	011001	土師器	坏	□[木に類似]	体部	墨書	乙A	-	14.3	6.15	7.1	RP152・211と接合
109	16	LQ 41	盛土	盛土層,LR41盛土層,LQ41盛土層RP11,LR41盛土層RP601,LQ42盛土層	011030	土師器	坏	□□(丸丸カ)[2文字]	体部	墨書	乙A	-	12.8	5.5	5.05	127と接合
109	17	LR 41	盛土		011023	土師器	坏	□(休カ体カ)	体部正位	墨書	乙A	-	-	-	-	
109	18	LR 41	盛土		011018	土師器	坏	□(几カ)	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
109	19	LR 40	盛土RP98		011016	土師器	坏	□(尤カ)	体部正位	墨書	乙A	-	-	-	-	
109	20	LS 41	皿下		011115	土師器	坏	□	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
110	1	LR 40	盛土		011016	土師器	坏	□	体部	墨書	乙A	-	(13.5)	(5.1)	5.55	
110	2	LR 41	盛土RP599	盛土層RP599,LQ42盛土層,LR41盛土層	011022	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙A	-	(12.8)	(5.4)	4.1	
110	3	LS 40	盛土		011025	土師器	坏	□(正カ)	体部	墨書	乙A	-	-	(5.6)	(2.6)	
110	4	LS 40	盛土		011005	土師器	坏	□	体部横位	墨書	乙A	-	-	-	-	
110	5	LS 40	盛土		011002	土師器	坏	□□	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
110	6	LR 41	盛土		011016	土師器	坏	□	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
110	7	LR 41	盛土		011023	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
110	8	LR 40	盛土床直		011101	土師器	坏	□	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
110	9	LR 42	盛土		011018	土師器	坏	□	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	内墨,転用規
110	10	LR 42	盛土		011024	土師器	坏	□	体部	墨書	乙A	-	-	-	-	
110	11	LR 41	盛土 RP515	盛土層RP515,盛土層	011019	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙A	-	(13.8)	(5.8)	(4.8)	
110	12	LR 41	盛土		011017	須恵器	坏	□	体部	墨書	乙A	-	(12.8)	-	(3.8)	内墨
110	13	LR 41	盛土		011019	須恵器	坏	□	体部横位	墨書	乙A	-	(12.3)	-	(3.3)	
110	14	LS 40	RP153		011002	土師器	蓋	[模様]	外面	墨書	乙A	-	12.35	-	3.7	つまみ径1.5cm
110	15	LQ 42C	盛土		011031	土師器	坏	*	底部	刻書	乙A	-	-	(5.4)	(3.0)	
110	16	LQ 41	盛土RP6	盛土層RP6,盛土層RP7	011025	土師器	坏	□	体部	刻書	乙A	-	-	(6.7)	(3.8)	
110	17	LR 40	盛土	盛土層,LR41盛土層	011018	土師器	坏	×	体部	へら書	乙A	-	-	-	-	
110	18	LR 42	盛土		011024	土師器	坏	□(Xカ)	底部	刻書	乙A	-	-	(5.1)	(2.3)	
110	20	LR 41	盛土		011023	土師器	坏	×	体部	へら書	乙A	-	-	-	-	
110	21	LR 42	盛土		011024	土師器	坏	×	底部	刻書	乙A	-	-	-	-	
110	22	LS 40	盛土		011009	土師器	坏	×	体部	刻書	乙A	-	-	-	-	
111	1	LR 40	盛土 RP172		011019	土師器	杯	卍	底部	刻書	乙A	-	(13.0)	4.9	4.5	2点重なった灯明皿の上側
124	2	LR 41	盛土		011005	砥石	-	卍	端部	刻書	乙A	-	6.9	3.45	2.1	線刻砥石 51.6g
125	10	MC 37C	皿		011101	土師器	坏	□	体部	墨書	その他	-	-	-	-	
125	11	MD 38	皿		010629	土師器	坏	×	体部内面	へら書	乙B	-	-	(5.1)	(2.4)	遺構外へ(SI101)
125	12	LS 39	盛土 RP13	盛土層RP13,盛土層RP12,盛土層	011010	内黒土師器	坏	万	体部正位	墨書	乙B	-	12.8	5.2	5.25	
125	13	MD 38	皿		010629	土師器	坏	×	体部	刻書	乙B	-	-	-	-	遺構外へ(SI101)
125	14	MD 38	皿		010628	土師器	坏	×	体部内面	刻書	乙B	-	-	-	-	遺構外へ(SI101)
125	15	MA 39D	皿		011029	須恵器	坏	成	底部	墨書	乙B	-	(12.8)	-	3.7	
125	16	LT 40	盛土		010830	須恵器	坏	成	底部	墨書	乙B	-	-	-	-	
125	17	MB 38C	皿		011031	須恵器	坏	□(成カ)	底部	墨書	乙B	-	-	-	-	
125	18	LT 40D	皿		011029	須恵器	坏	成	底部	墨書	乙B	-	-	6.2	(1.5)	回転へら切り
125	19	LQ 43	盛土 RP2		011031	内黒土師器	坏	×	体部	刻書	乙B	-	(13.3)	7.7	3.9	胎土に金雲母,灯明皿
126	1	LT 39C	皿		011031	土師器	坏	□(有カ)	体部	刻書	乙B	-	-	-	-	
126	2	LS 39	盛土		011009	土師器	坏	井	体部	刻書	乙B	-	-	-	-	
126	3	LQ 43	盛土		011031	土師器	坏	*	底部	刻書	乙B	-	-	(5.2)	(1.3)	
127	6	MB 39	II		010628	内黒土師器	坏	井	体部	刻書	乙B	-	-	-	-	
129	1	MB 39	II		010702	須恵器	坏	□(成カ)	底部	墨書	乙B	-	-	-	-	回転へら切り
129	2	MA 39C	皿		011029	須恵器	坏	成	底部	墨書	乙B	-	-	(5.0)	(2.0)	
131	8	LT 46A	皿		011113	土師器	坏	□(ナカ)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
131	9	MD 45D	皿		011107	土師器	坏	有毛	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
131	10	MA 47C	皿		011114	土師器	坏	有毛	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
131	11	MD 43C	皿		011107	土師器	坏	○[星]	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
131	12	MD 45A	皿		011114	土師器	坏	○[星]	体部	墨書	SB	-	-	-	-	外底墨・内墨
131	13	MD 44	皿 RP17		011113	須恵器	蓋	[模様]	つまみ	墨書	SB	-	-	-	(1.95)	つまみ径2.9cm
131	14	MD 45D	皿		011107	須恵器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	SB	-	-	(5.4)	(2.4)	
131	15	MD 45C	皿		011113	須恵器	坏	□/□	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
131	16	MB 46B	皿		011107	土師器	坏	□[木に類似]	体部	墨書	SB	-	(12.2)	4.9	5.1	
131	17	MD 45A	皿		011115	土師器	坏	[筆ならし]	体部内面	墨書	SB	-	-	-	-	内墨
131	18	MC 47	皿 RP6		010730	土師器	坏	□	体部	墨書	SB	-	-	-	-	実測図で示す
131	19	MD 44C	皿		011113	内黒土師器	坏	□/□	体部/底部	墨書	SB	-	-	(4.7)	(2.8)	
131	20	MC 46	RP11		010806	土師器	坏	卍	底部	へら書	SB	-	-	(4.8)	(1.6)	
131	21	LT 42	II		010913	須恵器	坏	□	底部	墨書	SB	-	-	-	-	
131	22	MB 43C	皿		011108	土師器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	SB	-	-	-	-	
132	1	MC 45	皿 RP2		011112	内黒土師器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	6.0	(1.9)	
132	2	MB 44	皿 RP1	皿層RP1,MB44A皿層	011107	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	(12.9)	5.1	4.3	
132	3	MC 43	皿 RP6		011115	土師器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	(5.0)	(3.5)	
132	4	MC 46A	皿	皿層,MC45C皿層	011112	土師器	坏	成	底部	墨書	SB	-	12.4	5.2	5.2	188と接合
132	5	MA 45	皿	皿層,MA46皿層	011116	土師器	坏	成	底部	墨書	SB	-	(11.6)	5.3	4.5	237と接合
132	6	MA 42D	皿		011109	土師器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	(6.4)	-	
132	7	MD 46C	皿		011115	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	(13.3)	(6.2)	4.1	
132	8	MB 44B	皿		011113	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	(6.6)	(2.55)	
132	9	MC 45	皿 RP4		011119	土師器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	(5.7)	(2.1)	灯明皿
132	10	MD 45	皿 RP22		011113	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	6.9	(2.2)	回転へら切り
132	11	MD 44	皿		011109	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	5.0	(1.3)	
132	12	MB 44	皿 RP1		011113	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	(12.6)	5.7	3.7	遺構外へ(SK531)
132	13	MC 46	皿		011119	土師器	坏	成	底部	墨書	SB	-	-	-	-	
132	14	MD 45C	皿		011107	土師器	坏	□(成カ)	底部	墨書	SB	-	-	(4.6)	(2.8)	
132	15	MB 44A	皿		011109	土師器	坏	□(成カ)	底部	墨書	SB	-	-	-	-	
132	16	MD 44D	皿		011106	土師器	坏	□(成カ)	底部	墨書	SB	-	-	-	-	
132	17	MA 45B	皿	皿層,MC45C皿層,MA45皿層,RP4,MA45皿層,RP5	011115	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	12.55	(5.5)	2.3	
133	1	MD 44	皿 RP12		011112	須恵器	坏	成	体部正位	墨書	SB	-	(12.7)	5.0	2.8	
133	2	MC 46D	皿		011114	土師器	坏	成	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
133	3	MD 44	皿 RP2		011109	須恵器	坏	成	体部正位	墨書	SB	-	13.5	5.3	3.55	
133	4	MD 43	皿 RP1		011112	土師器	坏	成カ	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-	
133	5	MB 46C	皿		011112	土師器	坏	□(成カ)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
134	7	MD 45	II		010730	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	SB	-	-	-	-	
134	8	MB 44	II		010726	土師器	坏	×	体部内面	へら書	SB	-	-	-		

第4章 調査の記録

出土墨書土器一覽表(4)

単位 (cm)

挿図	No.	内	遺構 No.	層位	接合破片	日付	種類	器種	釈文	記銘部位	記銘方法	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考	
134	11		MC 47	II		010726	土師器	坏	☆カ	底部	刻書	SB	-	-	-	-		
134	12		MD 46	II		010731	土師器	坏	[模様]	体部	ヘラ書	SB	-	-	(4.9)	(2.4)		
134	13		LS 46	II		010803	土師器	坏	×カ	体部内面	ヘラ書	SB	-	-	-	-		
137	1		MD 45A	III	MD44 II層, MD45 II層	011114	須恵器	坏	成	底部	墨書	SB	-	(13.6)	(4.2)	4.2	255と接合	
137	2		MD 43	II		010913	須恵器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	SB	-	-	(6.0)	(1.5)	回転ヘラ切り	
137	3		MC 45	II		010912	須恵器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	SB	-	-	(6.1)	(2.7)		
138	2		MF 47	盛土		010717	須恵器	坏	成	底部	墨書	SL	-	-	(6.4)	(1.35)		
138	3		MC 43C	III		011107	土師器	坏	成	体部正位	墨書	SB	-	-	-	-		
138	4		ME 43B	III		011107	須恵器	坏	□(成カ)	底部	墨書	SL	-	-	-	-	回転ヘラ切り	
138	5		ME 43C	III		011107	土師器	坏	□(成カ)	体部正位	墨書	SL	-	-	-	-		
138	6		MF 46	III		010917	土師器	坏	□(成カ)	体部	墨書	SL	-	-	-	-		
138	7		ME 44	盛土		011010	土師器	坏	□(成カ)	体部倒位	墨書	SL	-	-	-	-		
138	8		ME 44C	III		011113	須恵器	坏	□(成カ)	底部	墨書	SL	-	-	-	-		
138	9		MF 46	III		010917	土師器	坏	成	底部	墨書	SL	-	-	-	-		
138	10		MF 46	盛土		010716	土師器	坏	成	体部正位	墨書	SL	-	-	-	-		
138	11		ME 43C	III		011109	内黒土師器	坏	卍	体部倒位	墨書	SL	-	(12.7)	5.0	5.5	漆紙	
138	12		ME 44C	III		011113	土師器	坏	卍	体部	墨書	SL	-	-	-	-		
138	13		MF 45	盛土		010110	土師器	坏	×	底部	ヘラ書	SL	-	-	4.0	-		
138	14		MF 44C	III		011112	土師器	坏	×	底部	ヘラ書	SL	-	-	-	-		
138	15		ME 45A	III		011121	土師器	坏	□	体部	墨書	SL	-	-	(5.6)	(2.85)		
138	19		MF 45	III		010711	土師器	坏	□(卍カ)	体部倒位	墨書	SL	-	-	(5.6)	(2.55)	遺構外へ(SK145)	
138	20	*	SL区 407	埋土中		010918	土師器	坏	□(成カ)	体部倒位	墨書	SL	-	-	-	-		
138	21		MF 43	III	(MF43)埋土中, II層	010913	土師器	坏	⊕	体部横位	墨書	SL	-	-	-	-	遺構外へ(SK145), MF 43	
138	22	*	SL区 407	ME45		010925	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	SL	-	-	-	-	ME45	
138	23		MF 45	III		010711	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	SL	-	-	-	-	遺構外へ(SK145)	
138	24		MF 47	II	II層, 盛土層	011106	須恵器	坏	□	底部	墨書	SL	-	-	5.4	(1.8)	盛土010717と接合	
138	25		ME 45	II		010907	土師器	坏	卍	底部	ヘラ書	SL	-	-	4.4	(3.6)		
140	6		MD 41	III RP2	RP2, MD40 III層, MD41 III層	010905	須恵器	坏	成	底部	墨書	その他	-	13.05	5.6	3.9		
140	7		第2区画 トレンチ内	III		010523	須恵器	坏	成/備器 ナ	底部/体部倒位	墨書	その他	-	12.4	3.1	3.25		
140	8		MC 40	III	MC40C III層	011029	須恵器	坏	成	体部正位	墨書	その他	-	12.4	(4.2)	3.4	内墨	
140	9		ME 42	III RP1		010717	須恵器	坏	成	底部	墨書	その他	-	-	(6.2)	(1.1)		
140	10		LN 42B	III深掘		011105	土師器	坏	□(成カ)	体部正位	墨書	その他	-	-	-	-		
140	11		MD 47	埋土中		010906	土師器	坏	成	体部倒位	墨書	その他	-	-	-	-	遺構外へ(SK264)	
140	12		ME 42	III RP2		011107	須恵器	坏	成	外面	墨書	その他	-	(15.6)	-	(3.0)	つまみ径(3.0)cm	
140	13		MB 41	III RP1		011106	須恵器	坏	成	体部倒位	墨書	その他	-	13.4	5.0	3.7		
141	1		ME 48	埋土中	埋土中, III層	011116	土師器	坏	成	体部	墨書	その他	-	(12.8)	(5.6)	(5.0)	遺構外へ(SK517)	
141	2		LK 42	III深掘RP4		011006	土師器	坏	寺	体部正位	墨書	その他	-	-	5.4	5.4		
141	3		MB 41	III	III層, MB42 III層	011106	須恵器	坏	王	底部	墨書	その他	-	(14.0)	(5.4)	3.9		
141	4		MC 50	III		011102	土師器	坏	宀	体部正位	墨書	その他	-	-	-	-		
141	5		ME 47A	III		011107	須恵器	坏	□(成カ)	底部	墨書	その他	-	-	-	-	内墨	
141	7		範確排土中	第2区画		010516	土師器	坏	□(大カ)	体部	墨書	その他	-	-	(5.4)	(2.2)		
141	8		LH 40	III		011105	土師器	坏	上	体部	墨書	その他	-	-	-	-	222と接合	
141	9		MA 48A	III		011108	土師器	坏	□	体部	墨書	その他	-	-	-	-		
141	10		MC 50	III	III層, 埋土中	011105	土師器	坏	宀	体部正位	墨書	その他	-	-	-	-	遺構外へ(SK501)	
141	11		範確C	第2区画, 溝中(南側)		010706	土師器	坏	□	体部	墨書	その他	-	-	-	-		
141	12		LT 48	III RP10		011114	土師器	坏	大	体部正位	墨書	その他	-	13.1	6.0	5.3		
141	13		LQ 48A	III深掘		011120	土師器	坏	犬	体部正位	墨書	その他	-	13.5	5.0	5.25		
141	14		MD 41	III		010905	須恵器	坏	□(弓カ)	体部	墨書	その他	-	(12.9)	(4.5)	(4.4)		
141	15		LL 42	III深掘		011117	須恵器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他	-	-	-	-	底墨	
141	16		MA 48A	III		011108	土師器	坏	[模様]	体部	墨書	その他	-	-	-	-		
141	17		MF 42	III		011022	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他	-	-	-	-	遺構外へ(SD275)	
141	18		MD 40	III		011029	須恵器	坏	□	底部	墨書	その他	-	-	(5.6)	(3.2)		
141	19		LJ 41	III深掘		011108	土師器	坏	*	底部	刻書	その他	-	(12.4)	6.3	5.1		
146	1		LF 53	II		010525	須恵器	坏	□(那カ)□ (七カ)	底部	墨書	その他	-	-	(5.4)	(1.7)	内墨	
144	4		LI 44	II		010828	土師器	坏	宀	体部正位	墨書	その他	-	-	-	-		
144	5		MC 49	II		010727	土師器	坏	□(成カ)	体部	墨書	その他	-	-	-	-	内墨	
144	6		LT 50	II		011009	土師器	坏	成	体部	墨書	その他	-	-	-	-		
144	7		LS 48	II		010726	土師器	坏	興	底部	墨書	その他	-	-	(6.2)	(1.4)		
144	8		MC 49	II		010917	土師器	坏	五万	体部倒位	墨書	その他	-	-	-	-		
144	9		MC 50	III		011105	土師器	坏	成	体部正位	墨書	その他	-	-	-	-	遺構外へ(SK501)	
144	9		LT 49	II		010714	内黒土師器	坏	×	体部内面	刻書	その他	-	-	-	-		
144	10		範確C北半	II		010709	土師器	坏	□	体部	墨書	その他	-	-	-	-		
144	11		範確C北半	II		010706	土師器	坏	□	体部	墨書	その他	-	-	-	-		
146	2		MC 48	II		010824	須恵器	坏	成	底部	墨書	その他	-	-	(5.4)	(1.7)		
146	3		MA 40	II		010914	須恵器	坏	成	底部	墨書	その他	-	-	-	-		
146	4		ME 42	II		010903	須恵器	坏	□	底部	墨書	その他	-	-	-	-		
148	6		MC 39B	III		011025	磁石	-	卍	磨面部	刻書	その他	-	14.6	3.8	1.8	線刻磁石 150.7g	
-	-	*	SK 157	埋土中		011002	内黒土師器	坏	□	体部	墨書	SB	-	-	-	-	-	不掲載
-	-	*	SK 157	埋土中		010928	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	-	不掲載
-	-	*	SK 157	埋土中		010927	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	-	不掲載
-	-	*	SK 157	RP134		011002	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	-	不掲載
-	-	*	SK 157A	埋土中		011012	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	-	不掲載、註記は57A
-	-	*	SK 157A	埋土中		011021	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	-	不掲載
-	-	*	SK 170	埋土中		011003	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SL	-	-	-	-	-	不掲載
-	-	*	SK 170	埋土中		011003	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SL	-	-	-	-	-	不掲載
-	-	*	SK 175	RP51		010831	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB	-	-	-	-	-	不掲載
-	-	*	SK 178	埋土中		010914	土師器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	SB	-	-	-	-	-	不掲載

出土墨書土器一覽表 (5)

単位 (cm)

補図	No	内	遺構 No.	層位	接合破片	日付	種類	器種	新文	記銘部位	記銘方法	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考
-	-	*	SK 179	埋土中		010903	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB					不掲載
-	-	*	SK 179	埋土中		010910	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB					不掲載
-	-	*	SK 181	埋土中		011001	土師器	坏	□	体部	墨書	SB					不掲載
-	-	*	SK 181	埋土中		010920	土師器	坏	□	体部	墨書	SB					不掲載
-	-	*	SK 181	埋土中		010926	土師器	坏	□	体部	墨書	SB					不掲載
-	-	*	SK 181	埋土中		010926	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB					不掲載
-	-	*	SK 240	埋土中		010824	土師器	坏	□	体部	墨書	乙B					不掲載
-	-	*	SK 263	埋土中		010905	土師器	坏	□	体部	墨書	その他					不掲載
-	-	*	SK 263	埋土中		010905	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他					不掲載
-	-	*	SK 263	埋土中		010905	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他					不掲載
-	-	*	SK 265B	埋土中		010907	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SB					不掲載
-	-	*	SKP 322	埋土中		010907	土師器	坏	□	底部	へら書	その他					不掲載
-	-	*	SKP 325	埋土中		010906	須恵器	坏	□	底部	墨書	その他					不掲載
-	-	*	SK 350	埋土中		010927	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他					不掲載
-	-	*	SK 359	埋土中		011012	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SL					不掲載
-	-	*	SKP 365	埋土中		011004	須恵器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他					不掲載
-	-	*	SL区 407	埋土中		010920	土師器	坏	□(威加)	体部	墨書	SL					不掲載
-	-	*	SL区 407	埋土中		010920	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SL					不掲載
-	-	*	SK 502	埋土中		011105	須恵器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SLⅢ					不掲載
-	-	*	SK 506	埋土中		011109	土師器	坏	□	体部	墨書	SBⅢ					不掲載、灯明皿
-	-	*	甲A区 532	埋土中		011114	須恵器	坏	□	底部	墨書	甲AⅢ					不掲載
-	-	*	甲A区 532	埋土中		011115	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	甲AⅢ					不掲載
-	-	*	甲A区 5327	埋土中		011119	土師器	坏	(墨痕あり)	体部横位	墨書	甲AⅢ					不掲載
-	-		LO 42	Ⅲ		011108	土師器	坏	□	体部	墨書	乙BⅢ					不掲載
-	-		LO 42	Ⅲ深掘		011109	土師器	坏	□	体部	墨書	乙BⅢ					不掲載、実測図で示す
-	-		LQ 41	盛土		011026	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LQ 42	盛土		011018	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LQ 42	盛土		011030	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LQ 49	Ⅱ		010724	須恵器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	その他Ⅱ					不掲載
-	-		LR 41	盛土		011017	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 41	盛土		011019	須恵器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 41	盛土		011019	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 41	盛土		011019	土師器	坏	□□	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 41	盛土RP309		011016	土師器	坏	[墨以外の痕跡]	底部内面	墨書	乙AⅢ					不掲載、墨書以外か(赤外で確認できず)
-	-		LR 41	盛土		011015	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 41	盛土		011015	土師器	坏	□	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 41	盛土		011023	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 41	盛土RP435		011018	土師器	坏	□	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 41	盛土		0110--	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 41	盛土RP266		011016	土師器	坏	┆	底部	へら書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 42	Ⅲ下To-a混		011115	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他Ⅲ					不掲載
-	-		LR 42	Ⅲ下To-a混		011115	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他Ⅲ					不掲載
-	-		LR 42	Ⅲ		011031	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LR 46	Ⅱ		010926	須恵器	坏	┆	体部	へら書	甲AⅡ					不掲載
-	-		LR 47B	Ⅲ		011116	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他Ⅲ					不掲載
-	-		LS 40	ⅢRP154		011002	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載、灯明皿
-	-		LS 41	盛土		011011	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LS 41	盛土		011018	土師器	坏	□	体部	墨書	乙AⅢ					不掲載
-	-		LT 40A	Ⅲ		011030	須恵器	坏	□	体部	墨書	乙BⅢ					不掲載
-	-		MA 43B	Ⅲ		011109	須恵器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	SBⅢ					不掲載
-	-		MA 47	Ⅱ		010726	須恵器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SBⅡ					不掲載
-	-		MB 41	Ⅲ		010831	須恵器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他Ⅲ					
-	-		MB 44A	Ⅲ		011109	土師器	坏	□	体部	墨書	SBⅢ					不掲載
-	-		MB 44D	Ⅲ		011113	須恵器	坏	[模様]	底部	墨書	SBⅢ					不掲載
-	-		MB 46	Ⅱ		010910	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SBⅡ					不掲載
-	-		MC 47	Ⅱ		010806	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SBⅡ					不掲載
-	-		MD 40D	Ⅲ		011031	須恵器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	その他Ⅲ					不掲載、内墨
-	-		MD 43D	Ⅲ		011108	土師器	坏	□	底部	墨書	SBⅢ					不掲載
-	-		MD 44C	Ⅲ		011115	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SBⅢ					不掲載
-	-		MD 44D	Ⅲ		011106	土師器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	SBⅢ					不掲載
-	-		MD 45	Ⅱ		010827	土師器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	SBⅡ					不掲載、割れ
-	-		ME 42D	Ⅲ		011105	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他Ⅲ					不掲載
-	-		ME 42D	Ⅲ		011105	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他Ⅲ					不掲載
-	-		ME 43B	Ⅲ		011115	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SLⅢ					不掲載
-	-		MF 43A	Ⅲ		011105	土師器	坏	(墨痕あり)	底部	墨書	SLⅢ					不掲載
-	-		MF 44	Ⅲ		010919	土師器	坏	□	体部	墨書	SLⅢ					不掲載
-	-		MF 45	Ⅲ		010716	土師器	坏	□	体部	墨書	SLⅢ					不掲載、遺構外へ(SK145)
-	-		MF 46	Ⅲ		010917	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	SLⅢ					不掲載
-	-		範囲C	北辺第1区画		010706	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他					不掲載

出土墨書土器一覧表(6)

単位 (cm)

種図 No.	内	遺構 No.	層位	接合破片	目付	種類	器種	釈文	記録部位	記録方法	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考
-	-	範雑排土中	第3区画		010607	土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	その他					不掲載
-	-	不明				土師器	坏	(墨痕あり)	体部	墨書	不明					不掲載、37・38と接合

第四号木簡 (172)×17×10 甲A地区 (S K 532) 出土

- ・「伊福部
- ・「弓継

題籤軸木簡。人名「伊福部弓継」の作成した文書で貼りついたものにとりつけられた題籤軸と思われる。下端欠損。

詳細については巻末に収載した山形大学三上喜孝助教授による論考を参照されたい。

第五号木簡 500×50×10 乙A地区出土

「歿王鬼急々如律令」

呪符木簡。秋田大学教育文化学部熊田亮介教授に釈読頂いた。

上端は左右両隅を山形に切り落としており、下端を尖らせている。「律」の位置に刀子による切り傷があり、そこから折り曲げられた状態で2片が旧河道中に突き刺さっていた。一連の祭祀行為の最終段階での送りと考えられるが、本遺跡で出土した斎串でも同様に、刀子で切り傷をつけたうえで折る例が複数確認されている。このような例は、木製祭祀具の中でも「依り代」となり得るものについて、祭祀行為の最終段階での特殊な送りの在り方なのかもしれない。

第六号木簡 (66)×(21)×5 乙B地区 (S D 447) 出土

- ・「□□□□
- ・「□□□□

表裏面に墨書されているが、焼損のため半存しかせず、釈文不明。上端は圭頭状、下端は欠損しているが題籤軸と思われる。

また第121図2の斎串には墨痕があり、木簡を転用したものと考えられる。

⑤灯明皿

灯明皿は遺構外から1,107点出土した。ほとんどは土師器坏を使用しているが、他の器種や須恵器坏を使用したもの、また墨書土器などを転用したものも若干量存在する。

附図6に灯明皿の出土遺物分布を示した。これによると、遺構外から出土したのも灯明皿が出土した遺構のごく周囲のみに分布し、内黒土師器や須恵器坏の分布と比べ、明確な空白域が存在する。これは内黒土師器や須恵器の場合、出土した遺構周辺への遺物散布のほかに、明らかに遺構外遺物が集中する箇所が存在したため、遺構以外にも特定の場所を対象とした祭祀に関係した可能性が想定できた。これに対し灯明皿の分布は出土した遺構のごく周囲にのみ限定でき、遺構(位置)における祭祀行為に関係する遺物であることを表しているのかもしれない。つまり氾濫原内の祭祀土坑で祭祀を執り行う際に灯明皿が用いられたと考えられる。遺構外乙A地区湧水点に集中箇所が存在するが、他の祭祀関連遺物の出土状況を見ても、この湧水点は単独で祭祀の対象となっている様相を示している。つまりこの湧水点が、区画柵列より南側の祭祀域における「祭壇」的な使われ方が想定できる。これは10世紀以降に掘立柱建物・柵列が滅失した後に、微高地全体が単一の祭祀域として使用される段階に至っても同様である。また出土遺構と遺構外出土遺物の分布が重ならない部分については、遺構外

に撒いたものではなく、むしろ検出困難なごく浅い自然凹地を使用した祭祀土坑に伴っていた可能性が想定できる。

第111図1（L R 40盛土層 R P 172）は2点の土師器坏を重ねたまま灯明皿として使用したもので、同時に重ねた状態のまま口縁部の打ち欠きも行われている。また上側の土器は底部に九字（ドーマン）が刻書されていた。本来的には土器埋設遺構であった可能性が高い。

（2）施釉陶器

灰釉陶器および緑釉陶器は合計13点出土しており、これについては、愛知県陶磁資料館の井上喜久男氏から鑑定頂いた。

灰釉陶器は遺構内2点・遺構外1点の、合計3点出土した。遺構内出土の2点は東濃産の大原2窯式で、遺構外出土の1点は猿投窯のK-90窯式のものであり、器種はすべて碗である。

緑釉陶器は遺構内3点・遺構外7点の、合計10点出土した。器種は碗が1点、稜皿が2点、皿が7点で、碗1点と皿2点が遺構内出土である。碗・稜皿・皿ともに洛西産の9世紀後半のものである。このうち乙A地区湧水点出土の稜皿1点は、素地が土師質で特異であるとの指摘を受けたが、土師質素地のものは長門産のみが確認されており、当該資料を長門産とするためには類品の確認をするなどの調査が必要であるとの教示を受けている。

（3）瓦

瓦は乙B地区の旧河道から2点出土した。2点とも須恵質で凸面には正格子が施文され、凹面には布目痕が残る。払田柵跡から出土する正格子文瓦と同一である。

（4）石器

墨書土器の項に記した刻書を有する砥石のほかに、遺構外から5点の砥石が出土した。

（5）木製品

木製品は、前掲した木簡類のほか、斎串・人形・形代（鳥形・馬形・刀形・刀子形など）・陽物・櫛・竪杵・横杵・棍棒状木製品・箸状木製品・串・串状木製品・棒状木製品・扇・漆篋・付け木・火鑽杵・火鑽臼・鉄鏃茎矯め具・漆器・木製容器・曲物・糸巻・下駄などが出土した。

①木製祭祀具

斎串・人形・形代（鳥形・馬形・刀形・刀子形など）・陽物・櫛・竪横杵・棍棒状木製品・箸状木製品・刺串・串状木製品・棒状木製品などが出土した。

斎串は短冊状の板を素材とし、主として頭部を圭頭、先端部を剣先状に尖らせた木製祭祀具である。榎目板を素材としたものでは正面から、板目板を用いたものでは側面から圭頭部に切り込みを入れたものが多く、御幣などを挟んだ可能性を指摘されたこともある。本遺跡では曲物を転用したものが多く出土しており、木簡を転用したものもある（前掲、第121図2）。第121図1の呪符木簡同様、刀子で切り傷をつけた後に折られた例が複数あり、祭祀行為の最終段階における特殊な送りの在り方を想定させる。

斎串は遺構内70点・遺構外67点の、合計127点出土し、遺構内および旧河道では立った状態で出土した例を複数確認した。S B地区の遺構から比較的多く出土し、遺構外では甲A・乙A地区の両湧水点周辺に集中出土する箇所がある。遺構内外を併せた出土分布を見ると、S B地区で30点・乙地区で49点・甲地区で14点の出土となる。灯明皿も同様に氾濫原内の凹地や湧水点に出土する傾向が高く、

また祭祀を執り行う際に「依り代」的な機能を持たせていた可能性が高い。

山形県八幡町依田遺跡では、掘立柱建物跡などが分布する中に、祭祀域として数m四方のところに、複数の斎串を巡らせ、清浄な空間つまり結界を作り出して律令祭祀を執り行った「場」が検出されていた。本遺跡の場合、湧水および流水により囲まれた微高地が選地され、水により囲い込まれた清浄な空間（結界）に祭祀域が成立しているといえることができる。このことから、凹地を場としてさまざまな祭祀が執り行われた本遺跡の場合には、斎串の使用法も多様だったのではないだろうか。

人形（第130図1）が1点、乙Bの旧河道で出土した。頭部を削りだしたほかには足を削りだしているのみで、腕は表されておらず、退化した形状を呈する。

形代は、鳥形が遺構内から4点出土し、馬形が遺構外から1点出土した。刀形は遺構内1点・遺構外1点の、合計2点出土した。刀子形は遺構内1点・遺構外2点の、合計3点出土した。これらも祭祀に供する祭器である。

陽物は遺構内1点・遺構外1点の、合計2点出土した。またSK154土坑でも床面に突き刺さった状態で検出された小さい杭状の材があり、陽物として使用された可能性が想定できる。

櫛は遺構内1点・遺構外5点の、合計6点出土した。遺構出土の1点と遺構外出土の1点は漆塗櫛である。これも祭祀に使用したものと考えられる。

箸の形態をした木製品が多数出土した。これらは箸と呼んで良い形態を有しているが、本遺跡には生活に関する遺構がまったくなく、食膳具として使用された可能性がないため、便宜上「箸状木製品」と呼称する。これらは斎串と同様に遺構や旧河道湧水点から出土する例が多く、斎串同様に「依り代」として使用された可能性が高い。また串状木製品は箸状木製品より大型のものを指しているが、性格は同様である。上端に切り込みがある個体が若干あり、秋田城跡で出土する「刺串」と呼ばれる一群と同様の機能を有すると考えられる。つまり本遺跡においては、箸状木製品と串状木製品はほぼ同等の機能を持つと考えられ、いずれも祭祀具として使用されたものと考えられる。12世紀代の寺院関連遺跡ではあるが、平鹿郡大森町観音寺廃寺跡に類例を求めることができる。

②鉄鏃茎矯め具

第100図10は鉄鏃の茎（矢柄に差込み固定する部分）を矯正する道具（矯め具）と考えられ、同様のものが平城京6ABE区SD3715で出土した「切欠きのある鯉節形木器」として『木器集成図録 近畿古代篇』PL.69 No.6901に記載されている（奈良国立文化財研究所 史料第27冊『木器集成図録 近畿古代篇』1985（昭和60）年）。この木製品については平成元年に秋田城跡で出土した「矢矯め具」に類似するため、同様の工具と考えていたが、平成14年秋に五城目町の永澤弓具店を訪ね、秋田城跡出土「矢矯め具」を鑑定した伊達藩御矢師の永澤則明氏（故人）に実見して頂いたところ、次のような教示を頂いた。

- A 矢矯め具としては切欠きが6mmほどしかなく、細すぎる。
- B 切欠き部を用いて作業した際の挟りが大きく入っており、竹などよりも硬い金属製品を矯正するために使用されたのではないか。
- C 矢師のような工人在工房で使用するものとしては簡単すぎる。工房で使用する工具であればもっと柄を長く取るはず。
- D 両端部が湾曲したつくりになっているのは、帯などに挟んで携帯するためではないか。

これらの観察から、矢柄を矯正するための「矢矯め具」ではないとの結論に至った。しかし、

E 切欠き部が抉れた部分は直線状に抜けていることから、むしろ鉄鏃の茎の部分の曲がりを矯正する道具として使われた可能性が高い。

F 工房で使う道具であれば火入れして軟らかくして使用するために必ず焦げるものだが、これにはその形跡がない。おそらく野外にて臨時的に使用したものではないか。

G 野外での戦では矢柄の竹はすぐに破損・消耗し、現地調達することが多かったと思われるが、その際に鏃の茎（矢柄に差し込む根元）部分が曲がっていると「矢」として再生できない。そのため茎の曲がりを矯正するために兵士が現地に携帯した工具（道具）ではないか。

との教示を頂いた。つまり「実戦において踏みつけられて曲がった鉄鏃を現地調達できる矢柄（竹）に装着するために兵士が用いた携帯用の道具」として使用された可能性が高い。

③付け木

付け木は祭祀土坑およびその周辺から多数出土した。火鑽杵・火鑽臼の出土、および灯明皿の出土分布により明らかなように、現地で火を起こしたうえで付け木を用い、灯火していたと考えられる。灯明皿の出土点数とあわせて、本遺跡において「火」を用いることへの指向性を示唆する遺物である。

④漆器

漆器は挽物の杯・椀・皿・盤が出土した。有台のものはベタ高台である。ロクロの爪あとを残すものが何点かあり、横置きロクロを用いたと思われる。漆塗りではない木器挽物で、第122図6のように金属器の写しと考えられる挽物皿が出土した。

⑤曲物

曲物は大型の容器と小型の柄杓が出土した。第6章に掲げた祭祀遺物組成表にあるように、曲物も祭祀関連遺物として、一定の組成関係を持って出土することを確認した。

⑥その他

第100図9は寄木造による木像などの一部となる可能性があるが、部分であり詳細は不明である。

（6）漆紙

漆紙は遺構内11点・遺構外31点の、合計42点が出土し、内39点は土師器坏の内面に貼りついたままの状態が出土した。赤外線カメラで墨書の有無を観察したが、文字は見当たらず、墨痕の可能性もあるものも皆無である。また径10数cmの円形を呈するものがあることから、土師器坏を漆容器として使用し、白紙を漆蓋として使用した可能性が高い。これは文字を書き入れた紙を避け、未使用の白紙もしくは文書の余白部分を用いたと考えられ、「文字」の持つ（呪的）機能を避けたものと考えられる。

遺構内外を併せて出土分布を見ると、S B地区で14点・乙地区で10点の出土である。須恵器坏などと同様に、払田柵で漆容器・蓋紙として使用されていたものが持ち込まれ、掘立柱建物跡で執り行われた祭祀に従ってその周辺部に撒かれた可能性が高い。「凧」漆書漆器椀（前掲、第101図1）など、漆器が祭器（範型）として使用されたと考えられることから、漆器あるいは様々な木製品に漆を塗布すること自体が祭祀性を帯びた行為であった可能性も想定できる。

(7) 金属製品

旧河道を中心として鉄または銅製品が若干量出土したが、詳細は不明である。

(8) 骨角器

ト骨と思われる骨角加工品（第124図3）が1点出土した。

(9) その他の遺物

フイゴの羽口および鉄滓が出土した（第124図4）。羽口は推定直径が5cm強と比較的小さく、鍛冶炉に使用されたものと考えられる。しかし極めて低湿な本遺跡周辺で鍛冶関連の作業をすることは考えられず、これらの遺物も、祭祀に供するために払田柵で使用されたものが持ち込まれたものと考えられる。

3 中世以降の遺物

(1) 陶磁器（第129図7）

18世紀代のいわゆる「くらわんか皿」が出土した。その他近世陶磁器の破片が少量出土したが、江戸時代以降の農耕に由来するものであろう。

(2) 木製品

木簡（第149図5）が出土したが、積文は不明である。近世以降の水田区画に関係する遺構の周辺で、表土直下から出土したため、当該期の遺物と思われる。

(3) 金属製品

中世渡来銭が出土した。近世遺物では寛永通寶およびキセル等が出土した。

遺構外出土遺物(1)

単位 (cm)

挿入No.	遺構No.	註記	接合破片	種類・器種	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考	
94	1	甲A区 532	Ⅲ層RP136	土師器坏	甲A	-	(12.6)	5.4	(4.4)		
94	2	甲A区 532	Ⅲ層RP57	土師器坏	甲A	-	12.5	5.2	5.1		
94	3	甲A区 532	埋土中	土師器坏	甲A	-	(12.1)	4.8	4.4		
94	4	甲A区 532	Ⅲ層RP106	土師器坏	甲A	-	(12.95)	5.3	5.0		
94	5	甲A区 532	埋土中	土師器坏	甲A	-	(15.2)	5.9	5.9		
94	6	甲A区 532	Ⅲ層RP113	Ⅲ層RP113, 埋土中	土師器坏	甲A	-	13.5	6.7	5.1	
94	7	甲A区 532	Ⅲ層RP114	土師器坏	甲A	-	12.2	4.7	5.4	植物遺体有	
94	8	甲A区 532	Ⅲ層RP140	土師器坏	甲A	-	(13.4)	7.45	4.8		
94	9	甲A区 532	Ⅲ層RP56	土師器坏	甲A	-	(13.9)	6.1	5.0		
94	10	甲A区 532	Ⅲ層RP152	土師器坏	甲A	-	(12.9)	6.7	5.8		
94	11	甲A区 532	Ⅲ層RP130	Ⅲ層RP130, Ⅲ層埋土中	土師器坏	甲A	-	12.35	5.3	5.1	
94	12	甲A区 532	Ⅲ層RP151	土師器坏	甲A	-	(12.8)	5.0	4.6		
94	13	甲A区 532	Ⅲ層RP116	Ⅲ層RP116, 埋土中	土師器坏	甲A	-	13.6	5.8	5.08	
95	1	甲A区 532	埋土中	土師器坏, △	甲A	-	-	4.8	-		
95	2	甲A区 532	Ⅲ層124	土師器坏	甲A	-	13.1	4.7	5.3		
95	3	甲B区 445	埋土中 (LR45)	埋土中 (LR45), LR46	土師器坏	甲A	-	13.6	5.7	5.05	
95	4	甲A区 532	Ⅲ層RP117	土師器坏	甲A	-	12.4	5.1	5.0		
95	5	甲A区 532	Ⅲ層RP61	土師器坏	甲A	-	-	5.5	-		
95	6	甲A区 532	Ⅲ層RP92	Ⅲ層RP92, Ⅲ層RP93	土師器坏	甲A	-	15.5	6.3	5.9	
95	7	甲A区 532	Ⅲ層RP19	土師器坏	甲A	-	(15.4)	6.5	6.2		
95	8	甲A区 532	Ⅲ層RP120	土師器坏	甲A	-	12.9	5.5	3.6		
95	9	甲A区 532	Ⅲ層RP112	土師器皿	甲A	-	13.8	5.65	2.9		
95	10	甲A区 532	RP107	RP107, 埋土中	土師器皿	甲A	-	12.6	4.7	3.0	
95	11	甲B区 445	LR41盛土層	SD445 (LR46), LR41盛土層	黒色土器高台付坏 内漆紙	甲A	-	-	(6.1)	-	
95	12	甲A区 532	Ⅲ層RP105	土師器甕内漆	甲A	-	-	6.0	(3.8)		
95	13	甲A区 532	埋土中	土師器坏内漆	甲A	-	-	-	4.85		
96	1	甲A区 532	Ⅲ層RP47	Ⅲ層RP47, SD445 (LR46) 埋土中, LR45RP8, LR45CⅢ層	土師器坏灯明皿内漆	甲A	-	18.5	6.5	7.5	
96	2	LQ 45	Ⅲ層RP7	土師器甕内漆	甲B	-	-	5.5	(2.8)		
96	3	甲A区 532	埋土中	土師器坏内漆紙	甲A	-	-	-	-		
96	4	LQ 45	Ⅲ層RP58	墨書土師器坏灯明皿	甲B	-	12.7	5.0	5.0		
96	5	甲A区 532	Ⅲ層RP111	墨書土師器坏	甲A	-	(13.4)	(5.4)	6.5		
96	6	甲A区 532	埋土中	墨書土師器坏	甲A	-	-	-	-		
96	7	甲B区 445	LR46	墨書土師器坏	甲A	-	-	-	-		
96	8	甲B区 445	LR46	墨書土師器坏	甲A	-	-	-	-		
96	9	LR 45D	Ⅲ層	墨書土師器坏	甲A	-	-	-	-		
96	10	甲A区 532	埋土中	へら書土師器坏	甲A	-	-	(5.2)	(2.0)		
96	11	LR 45C	Ⅲ層	墨書土師器坏	甲A	-	-	(4.6)	(1.5)		
96	12	LQ 44	Ⅲ層	墨書土師器坏	甲B	-	-	-	-		
96	13	LQ 45B	Ⅲ層	墨書土師器坏	甲A	-	-	-	-		
96	14	甲A区 532	埋土中	墨書土師器坏	甲A	-	-	-	-		
96	15	甲B区 445	埋土中	埋土中, LR45	刻書砾石	甲A	-	(2.7)	(4.4)	(1.4)	10.6g
96	16	LR 45	Ⅱ層	Ⅱ層, Ⅲ層	へら書土師器坏	甲A	-	-	(1.9)	(1.5)	
96	17	甲A区 532	Ⅲ層RP72	土師器坏灯明皿	甲A	-	(13.2)	6.1	5.1		
97	1	甲A区 532	Ⅲ層RP108	Ⅲ層埋土中, 埋土中	土師器坏灯明皿	甲A	-	(15.9)	(6.0)	6.2	
97	2	甲B区 445	LR45埋土中	LR45埋土中, LR46埋土中	土師器坏灯明皿	甲A	-	(13.3)	6.1	6.3	
97	3	甲A区 532	Ⅲ層RP60	Ⅲ層RP60, 埋土中	土師器甕	甲A	(14.75)	(14.5)	7.3	11.8	
97	4	甲A区 532	Ⅲ層RP67	土師器甕非口ク口	甲A	-	-	8.5	-	木葉痕	
97	5	甲A区 532	LR45DⅢ層	埋土中, LR45DⅢ層	土師器鍋	甲A	-	(36.8)	-		
98	1	甲A区 532	Ⅲ層RP115	RP115Ⅲ層, 埋土中	須惠器坏	甲A	-	13.4	5.4	4.3	
98	2	甲A区 532	Ⅲ層RP69	Ⅲ層RP69, LQ44Ⅲ層, LQ44BⅢ層, LQ44DⅢ層, LQ43Ⅲ層, 範碓排土第3区画	須惠器蓋, ☆	甲A	-	15.1	-	(5.2)	
98	3	甲A区 532	Ⅲ層RP144		須惠器壺, ◎	甲A	-	-	7.5	(2.5)	底部墨付着, 転用硯
98	4	甲A区 532	Ⅱ層RP52	Ⅱ層RP52, MA47Ⅱ層	須惠器壺甕, ☆	甲A	-	-	-	転用硯(テロ子口)	
98	5	LR 44	RP1		須惠器壺甕, ●	甲B	-	-	-	転用硯	
98	6	LR 46	LR42盛土層	LR42盛土層, LR42Ⅱ層, LT46AⅢ層, LS41Ⅱ層, LT39Ⅱ層, 範碓 (C) 溝中, 第2区画	須惠器横瓶, ☆	甲A	-	-	-		
98	7	LR 45	Ⅱ層		灰釉陶器碗	甲A	-	-	-	猿投, K-90	
99	1	甲B区 445	(LR45) 埋土中		須惠器壺甕, ●	甲A	-	-	-	断面にも墨	
99	2	甲B区 445	LQ45埋土中	LQ45埋土中, SD445 (LR46・44・45), LS42Ⅲ層, LR44Ⅱ層, LR45Ⅱ層, LQ45BⅢ層, LR41盛土層, LR44CⅢ層, LR39盛土層, LR42盛土層RP38, LQ45Ⅱ層, LQ44Ⅱ層	須惠器壺	甲A	-	-	-		
99	3	甲B区 445	埋土中	埋土中, MA38Ⅲ層, MA48Ⅱ層, MH41Ⅱ層, LK51Ⅱ層, LR42盛土層, LR45CⅢ層, LR46DⅢ層, LT40Ⅱ層	須惠器壺	甲A	-	-	-	(12.3)	
99	4	甲B区 445	埋土中RP59	埋土中RP59, LS41RP53, LS41RP56, LS41RP63, LS41RP111, LS41RP112, LS41Ⅲ層, LS54Ⅲ層, LS41盛土層, 範碓排土第3区画, LS41Ⅲ層T0-3コン, LP44Ⅱ層, LT41, ME44Ⅱ層, LR41盛土層, LS39Ⅱ層, LP44Ⅱ層	須惠器壺, ☆	甲A	22.7	(14.8)	-	(31.0)	内面墨付着
100	1	甲A区 532	Ⅱ層RW45		木筒	甲A	-	(32.3)	(2.3)	0.7	長・幅・厚
100	2	甲A区 532	Ⅲ層RW141		呪符木筒	甲A	-	(14.3)	2.3	0.3	長・幅・厚
100	3	LR 45	Ⅲ層RW18		木筒	甲A	-	(9.9)	1.6	0.7	長・幅・厚
100	4	甲A区 532	RW151		題籤軸木筒	甲A	-	(17.2)	1.7	1.0	長・幅・厚
100	5	甲A区 532	Ⅲ層RW1		刀子形	甲A	-	20.2	2.2	0.6	長・幅・厚
100	6	甲A区 532	Ⅲ層RW43		斎串	甲A	-	18.9	2.1	0.7	長・幅・厚
100	7	LR 45	Ⅲ層RW36		扇	甲A	-	13.0	2.3	0.5	長・幅・厚
100	8	甲A区 532	Ⅲ層RW123		扇	甲A	-	29.2	1.8	0.3	長・幅・厚
100	9	甲A区 532	Ⅲ層RW64		木像の一部?	甲A	-	20.3	8.8	6.2	奇木造か, 長・幅・厚
100	10	LQ 45	Ⅲ層RW10		矯め具	甲B	-	11.9	3.0	1.9	鉄鍍筆矯め具
101	1	甲A区 532	Ⅲ層RW98		漆書漆器椀	甲A	-	14.3	7.8	4.9	漆書「凡」
101	2	甲A区 532	Ⅲ層RW78		漆器椀	甲A	-	12.9	7.4	3.65	
101	3	甲A区 532	Ⅲ層RW147		漆器盤	甲A	-	15.8	12.6	1.9	
101	4	甲A区 532	Ⅲ層RW55		漆器盤	甲A	-	15.5	11.0	2.0	
101	5	甲A区 532	Ⅲ層RW4		曲物	甲A	-	16.0	16.0	6.3	
101	6	LR 46	Ⅲ層RW19		菰植	甲A	-	15.7	5.0	5.0	長・幅・厚
101	7	甲A区 532	Ⅲ層		鉄滓	甲A	-	-	-	-	

遺構外出土遺物(2)

単位 (cm)

挿図No.	遺構No.	注記	接合破片	種類・器種	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考
101	8	甲A区 532	Ⅲ層	鉄滓	甲A	-	-	-	-	
102	1	LS 40	RP234 盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	(12.3)	(4.0)	5.7	
102	2	LS 40	盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	(13.1)	(5.0)	5.3	
102	3	LQ 41	盛土層RP31, 盛土層RP32, RP31, 32 盛土層RP31, 盛土層RP32, LQ41盛土層, LR 41盛土層, LS40盛土層, LQ40盛土層	黒色土師器坏	乙A	-	(14.8)	6.8	4.8	
102	4	LR 41	盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	(14.4)	-	(6.2)	
102	5	LQ 41	Ⅲ層	内黒土師器坏	乙A	-	(14.1)	6.0	5.7	
102	6	LS 40	盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	12.6	4.4	5.3	
102	7	LS 40	盛土層RP401, 盛土層RP358, 盛土層RP402	内黒土師器坏	乙A	-	12.8	5.4	5.5	
102	8	LR 41	盛土層RP400 盛土層RP400, 盛土層RP401, 盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	-	4.6	(6.7)	
102	9	LR 41	盛土層	黒色土師器坏	乙A	-	(13.05)	(5.2)	(5.1)	
102	10	LR 40	盛土層RP133 盛土層RP133, LR41盛土層RP442, LR40盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	13.0	5.7	4.6	
102	11	LS 40	盛土層RP371 盛土層RP371, 盛土層RP378	内黒土師器坏	乙A	-	13.8	5.2	5.4	
103	1	LQ 42	盛土層RP21 盛土層RP21, LR42盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	(13.0)	5.4	4.5	
103	2	LS 40	盛土層 盛土層, LS37盛土層, LS39盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	(12.4)	5.0	5.2	
103	3	LR 40	盛土層 盛土層, 盛土層RP151, LR41盛土層, LS40 盛土層, LS39盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	(14.6)	5.1	5.1	
103	4	LR 41	盛土層RP302 盛土層RP302, 盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	-	5.4	-	
103	5	LS 40	盛土層 盛土層, LR40盛土層, LQ41盛土層	内黒土師器高台付 坏	乙A	-	13.4	5.7	5.3	
103	6	LR 41	盛土層 盛土層, LR40盛土層, LS40盛土層	内黒土師器坏	乙A	-	(13.3)	5.3	5.6	
103	7	LR 41	盛土層 盛土層, 盛土層RP222	内黒土師器坏	乙A	-	-	5.4	-	
103	8	LS 40	RP114 盛土層 RP114, RP394, RP396, 盛土層	内黒土師器鉢	乙A	-	(20.5)	(8.8)	14.8	
103	9	LR 41	盛土層 盛土層, 盛土層RP646	土師器皿	乙A	-	14.5	6.0	3.7	
103	10	LR 41	盛土層 盛土層, 盛土層RP603, 盛土層RP682, LS41 盛土層	土師器皿	乙A	-	13.7	5.2	3.4	
103	11	LR 41	盛土層RP362 盛土層RP362, 盛土層RP363, 盛土層RP368	土師器皿	乙A	-	12.6	6.8	2.6	
103	12	LS 40	RP99 盛土層	土師器皿	乙A	-	(12.4)	(5.6)	3.2	
103	13	LQ 41	盛土層 盛土層, LQ42盛土層	土師器皿	乙A	-	(12.4)	(5.3)	2.65	
103	14	LR 41	盛土層 盛土層, LQ41盛土層	土師器皿	乙A	-	12.7	-	(2.4)	
103	15	LR 42	盛土層	土師器皿灯明皿	乙A	-	(12.0)	4.5	3.1	
103	16	LR 41	RP55 盛土層 RP55, RP56, RP57, LS41盛土層	土師器皿	乙A	-	13.3	5.8	3.5	
104	1	LR 40	盛土層 盛土層RP139, LS41(下) Ⅲ層, LS40盛土 層, LR41盛土層	土師器坏	乙A	-	15.7	6.6	5.2	
104	2	LR 41	盛土層	土師器坏	乙A	-	(12.7)	5.8	4.5	底部穿孔
104	3	LR 40	盛土層RP77	土師器坏	乙A	-	12.05	4.3	5.1	
104	4	LR 40	盛土層RP24	土師器坏	乙A	-	(11.9)	5.4	5.4	
104	5	LR 40	盛土層 盛土層RP123, 盛土層RP80, LS40盛土層, 盛土層RP388	土師器坏	乙A	-	13.8	5.8	5.95	
104	6	LR 41	盛土層 盛土層, 盛土層RP523	土師器坏	乙A	-	15.6	6.6	5.8	
104	7	LR 41	盛土層RP484	土師器坏	乙A	-	12.7	5.1	5.2	
104	8	LR 40	盛土層 盛土層, LR41盛土層RP331, LR41盛土層RP333	土師器坏	乙A	-	13.2	5.1	5.1	
104	9	LR 41	盛土層RP588 盛土層RP588, 盛土層	土師器坏	乙A	-	(15.8)	7.5	6.8	
104	10	LR 41	盛土層RP327 盛土層RP327, 盛土層RP38, 盛土層	土師器坏	乙A	-	14.6	5.6	6.5	
104	11	LR 41	盛土層RP421	土師器坏	乙A	-	12.5	5.4	5.8	
104	12	LR 41	盛土層RP427	土師器坏	乙A	-	13.0	5.2	5.2	
104	13	LS 40	盛土層RP392	土師器坏	乙A	-	13.5	6.3	5.3	
105	1	LR 41	盛土層 盛土層, 盛土層RP488	土師器坏	乙A	-	13.1	5.5	5.3	
105	2	LQ 42	盛土層RP1	土師器坏	乙A	-	12.4	5.0	4.7	
105	3	LR 41	盛土層RP469 盛土層RP469, 盛土層RP477, 盛土層	土師器坏	乙A	-	12.5	4.5	4.6	
105	4	LS 40	盛土層	土師器坏	乙A	-	(14.2)	6.0	5.3	
105	5	LR 41	盛土層RP486 盛土層RP486, 盛土層RP489	土師器坏	乙A	-	12.8	5.6	5.7	
105	6	LR 40	盛土層RP1 盛土層RP1, LR41盛土層	土師器坏	乙A	-	(13.25)	6.5	4.9	
105	7	LS 40	RP156 盛土層 RP156, Ⅲ層	土師器坏	乙A	-	12.4	5.8	5.4	
105	8	LS 40	盛土層	土師器高台付坏	乙A	-	-	(11.5)	(5.1)	
105	9	LS 40	盛土層	土師器坏内漆	乙A	-	-	5.1	3.35	
105	10	LS 40	盛土層	土師器坏内漆	乙A	-	-	5.4	(2.2)	
105	11	LR 40	盛土層RP11	土師器坏内漆	乙A	-	(12.8)	5.1	5.5	
105	12	LQ 42	盛土層 盛土層, LQ43盛土層	土師器坏漆口縁	乙A	-	-	-	-	
105	13	LR 42	RW9, Ⅲ層, 盛土層	漆紙	乙A	-	-	-	-	
105	14	LQ 41	Ⅲ層	土師器坏内漆紙	乙A	-	-	-	-	
106	1	LR 41	盛土層 LR40盛土層, 盛土層RP140, 盛土層RP157, 盛土層RP156	墨書土師器坏灯明 皿	乙A	-	13.2	5.4	4.9	
106	2	LR 41	盛土層 RP456	墨書土師器坏灯明 皿	乙A	-	(13.0)	5.6	5.5	
106	3	LR 41	盛土層RP366 盛土層RP366, 盛土層RP512, 盛土層RP514	墨書土師器坏	乙A	-	13.5	5.85	4.8	
106	4	LR 41	盛土層 盛土層, 盛土層RP446	墨書土師器坏	乙A	-	12.75	(5.4)	5.1	
106	5	LR 41	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	12.4	5.2	5.6	
106	6	LR 41	盛土層RP645 盛土層RP645, 盛土層, LS41盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	12.8	5.6	5.1	
106	7	LS 40	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	(13.0)	-	(3.6)	
106	8	LR 41	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	(13.8)	-	(3.9)	
106	9	LR 41	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	-	-	-	
106	10	LR 41	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	13.5	5.9	5.3	
107	1	LR 41	盛土層 盛土層RP141, 盛土層RP367, 盛土 層RP409, 盛土層RP335	墨書土師器坏	乙A	-	13.0	5.0	4.95	
107	2	LR 40	盛土層RP160 盛土層RP160, LR41盛土層RP156	墨書土師器坏	乙A	-	12.6	5.4	4.6	
107	3	LR 41	盛土層RP651 盛土層RP651, 盛土層RP652	墨書土師器坏	乙A	-	12.45	5.1	4.9	
107	4	LR 41	RP116	墨書土師器坏	乙A	-	-	-	-	
107	5	LS 41	Ⅲ(下)層	墨書土師器坏	乙A	-	13.3	(5.9)	4.7	
107	6	LR 41	盛土層RP495 盛土層RP495, 盛土層RP497, 盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	13.0	5.2	5.7	
107	7	LR 41	盛土層 盛土層, LR42Ⅲ層下to-aまざり	墨書土師器坏	乙A	-	-	-	-	
107	8	LR 41	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	-	-	-	
107	9	LR 41	盛土層RP510 盛土層RP510, 盛土層RP513, 盛土層RP517	墨書土師器坏	乙A	-	13.3	5.7	4.7	
107	10	LR 41	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	12.85	5.9	5.55	
107	11	LR 41	盛土層 盛土層, RP478	墨書土師器坏	乙A	-	13.1	5.8	4.9	
107	12	LR 41	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	(12.4)	-	(3.6)	
108	1	LQ 41	盛土層RP33 盛土層RP33, 盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	-	(5.4)	3.05	
108	2	LS 40	盛土層RP335 盛土層RP335, 盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	12.6	4.7	5.2	
108	3	LS 40	盛土層 盛土層RP201, RP372	墨書土師器坏	乙A	-	12.5	5.8	4.65	
108	4	LR 41	盛土層 盛土層, LQ44Ⅲ層	墨書土師器坏	乙A	-	-	(5.8)	(2.3)	
108	5	LR 41	盛土層 盛土層, LQ44Ⅲ層	墨書土師器坏	乙A	-	-	-	-	
108	6	LS 40	盛土層	墨書内黒土師器坏	乙A	-	-	-	-	
108	7	LS 40	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	-	-	-	
108	8	LR 40	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	-	-	-	
108	9	LR 41	盛土層	墨書土師器坏	乙A	-	-	-	-	

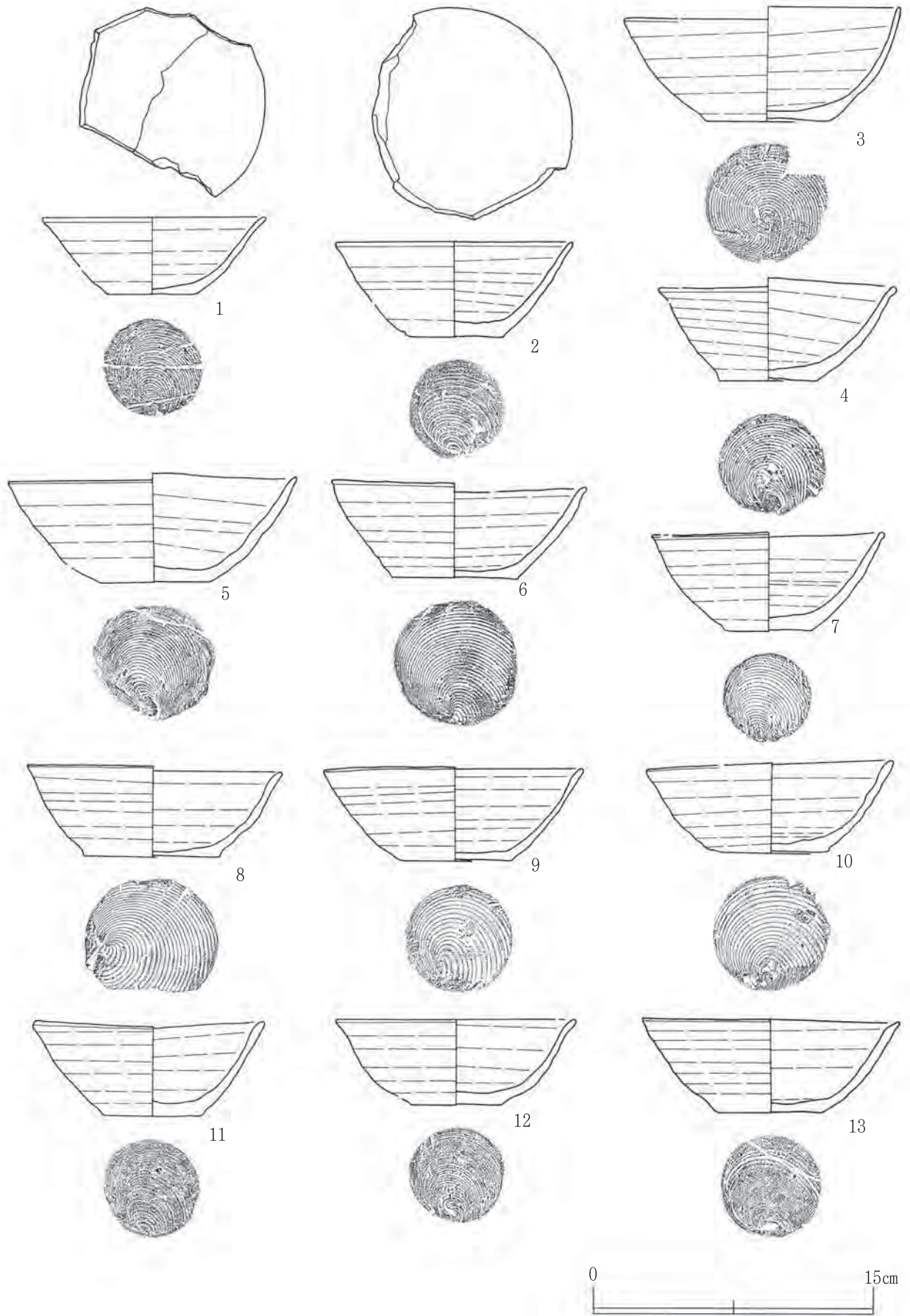
遺構外出土遺物(8)

単位 (cm)

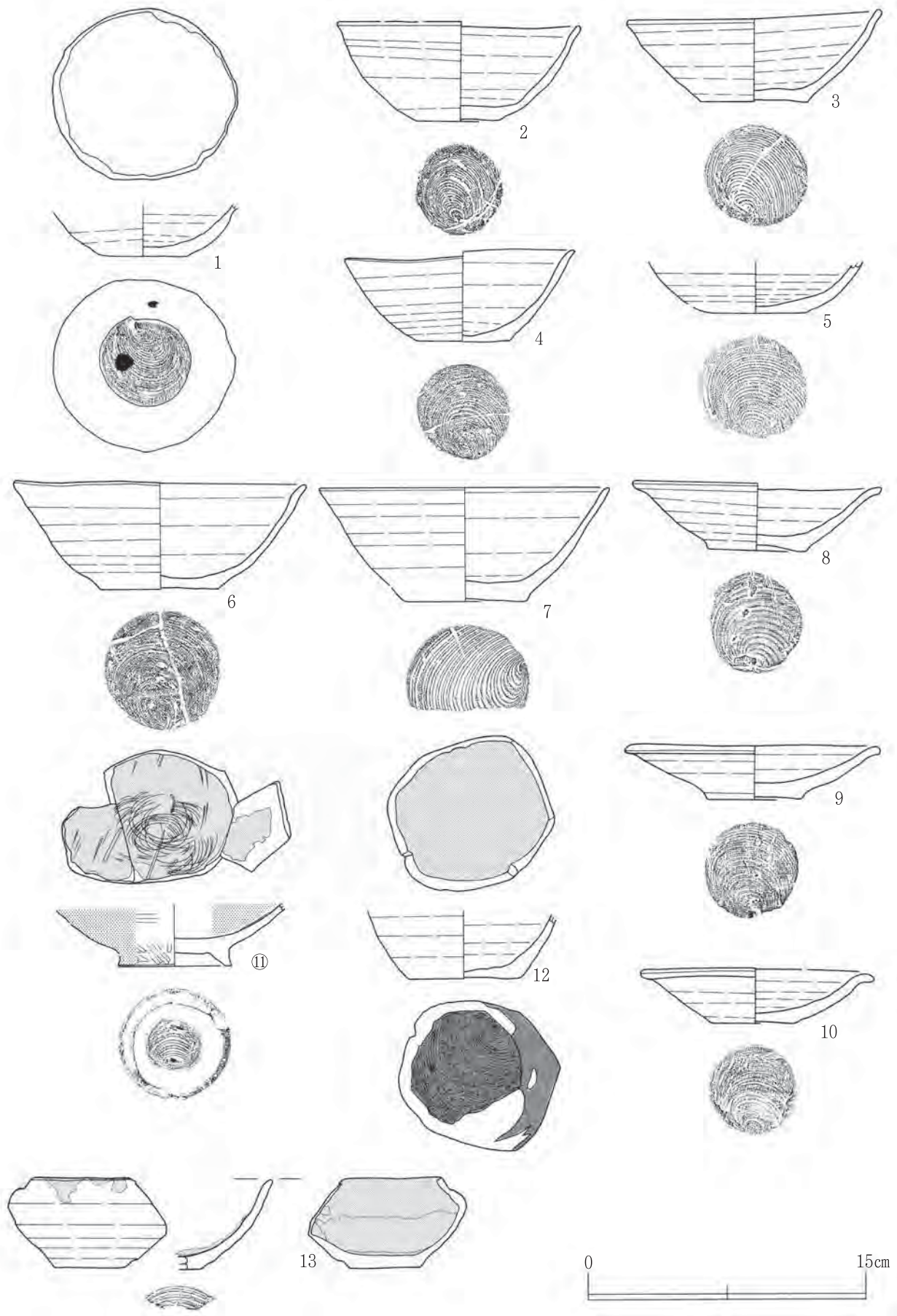
挿図No.	遺構No.	註記	接合破片	種類・器種	出土地	最大径	口径	底径	器高	備考
144	13	LH 47	II層	土師器甕	その他	(20.6)	(19.3)	-	(10.5)	
145	1	MC 50	III層	須恵器坏	その他	-	-	5.4	2.4	
145	2	LQ 49	III層	須恵器壺甕, ●	その他	-	-	-	-	
145	3	範確C	第2溝中(南側)	須恵器壺甕, ◎	その他	-	-	-	-	
145	4	LQ 48A	III層	須恵器壺甕, ●	その他	-	-	(13.0)	(5.8)	底部タール割れ口火を受けている
145	5	LJ 42B	III層深堀	須恵器小壺, △	その他	-	-	4.7	-	
145	6	MA 40	III層	須恵器坏	その他	-	-	-	-	ギザギザ
146	1	LF 53	II層	墨書須恵器坏, ◎	その他	-	-	(5.4)	(1.7)	
146	2	MC 48	II層	墨書須恵器坏	その他	-	-	(5.4)	(1.7)	
146	3	MA 40	II層	墨書須恵器坏	その他	-	-	-	-	
146	4	ME 42	II層	墨書須恵器坏	その他	-	-	-	-	
146	5	LH 39	II層	須恵器台付皿	その他	-	-	(6.6)	(2.1)	
146	6	MG 40	II層	須恵器坏	その他	-	-	-	-	ギザギザ
146	7	MC 39	II層	須恵器坏, ◎	その他	-	-	-	-	
146	8	LJ 47	II層	須恵器壺甕, ◎	その他	-	-	-	-	
146	9	MC 39	II層	緑釉陶器皿	その他	-	-	-	-	洛西, c9後
146	10	LN 41	II層	砥石	その他	-	6.6	4.4	1.4	52.5g
146	11	LR 51	II層	砥石	その他	-	8.95	2.8	2.15	61.8g
146	12	LN 50	II層	砥石	その他	-	9.9	6.7	2.6	25.13g
146	13	範確	第7区画II層	銭貨	その他	-	-	-	-	寛永通寶
146	14	MA 40	II層	銭貨	その他	-	-	-	-	寛永通寶
146	15	範確	第5区画排土中	銭貨	その他	-	-	-	-	寛永通寶
147	1	LL 40	IV層深堀RW2	斎串	その他	-	28.6	1.7	0.5	長・幅・厚
147	2	LK 42	RW1	斎串	その他	-	32.8	2.1	0.4	長・幅・厚
147	3	LJ 41	III層深堀RW14	斎串	その他	-	30.0	1.8	0.4	長・幅・厚
147	4	LD 40	III層RW2	斎串	その他	-	32.6	2.0	0.4	長・幅・厚
147	5	LC 40	III層深堀RW1	斎串	その他	-	25.6	1.5	0.5	長・幅・厚
147	6	LM 41	III層深堀RW1	斎串	その他	-	(25.6)	1.7	0.4	長・幅・厚
147	7	LF 40	III層深堀	斎串	その他	-	26.7	2.2	1.1	長・幅・厚
147	8	LQ 48A	III層深堀トレンテ	陽物	その他	-	(25.0)	2.8	1.8	長・幅・厚
147	9	LC 40	III層深堀RW3	斎串	その他	-	23.5	2.0	0.5	長・幅・厚
147	10	LQ 48A	III層深堀トレンテ	斎串	その他	-	15.7	1.8	0.3	長・幅・厚
147	11	LQ 48A	III層深堀トレンテ	斎串	その他	-	15.0	1.85	0.5	切り込み正面・側面にあり 長・幅・厚
147	12	LQ 48A	III層深堀トレンテ	斎串	その他	-	13.2	2.0	0.7	長・幅・厚
147	13	LF 39	III層深堀RW1	斎串	その他	-	17.2	2.1	0.3	長・幅・厚
147	14	MF 42	II層	漆塗櫛	その他	-	(3.0)	(2.3)	0.7	長・幅・厚
147	15	LQ 48A	III層	形代	その他	-	(17.9)	7.3	1.2	長・幅・厚
147	16	LP 43	III層	題籤軸	その他	-	(9.1)	2.15	0.75	長・幅・厚
147	17	LF 40	RW1	棒状木製品	その他	-	61.7	2.15	1.7	長・幅・厚
148	1	LK 42	III層	漆器盤	その他	-	(16.3)	(10.8)	2.2	
148	2	LE 40	III層深堀	木器椀	その他	-	(13.8)	(8.2)	4.7	
148	3	LJ 40	III層深堀	木器杯	その他	-	-	(7.6)	(2.6)	
148	4	LH 39	III層深堀RW1	曲物	その他	-	14.9	14.6	2.2	
148	5	LP 43	III層RW6	機織具?	その他	-	19.9	5.7	1.9	長・幅・厚
148	6	MC 39B	III層	刻書砥石	その他	-	14.6	3.8	1.8	150.7g
148	7	LN 45	MC47RQ21	砥石	その他	-	5.95	3.75	2.95	64.2g穿孔有り
149	1	LM 39	III層	縄文土器	その他	-	-	-	-	
149	2	LF 56	II層	縄文土器	その他	-	-	-	-	
149	3	LJ 56	II層(盛土層下)	縄文土器	その他	-	-	7.8	(2.7)	
149	4	LG 47	II層	円盤状石製品	その他	-	3.65	4.0	0.6	10.4g
149	5	LA 46	II層	木筒	その他	-	(8.85)	2.5	0.95	近世か、長・幅・厚

※「種類、器種」中、転用硯類の記号凡例。

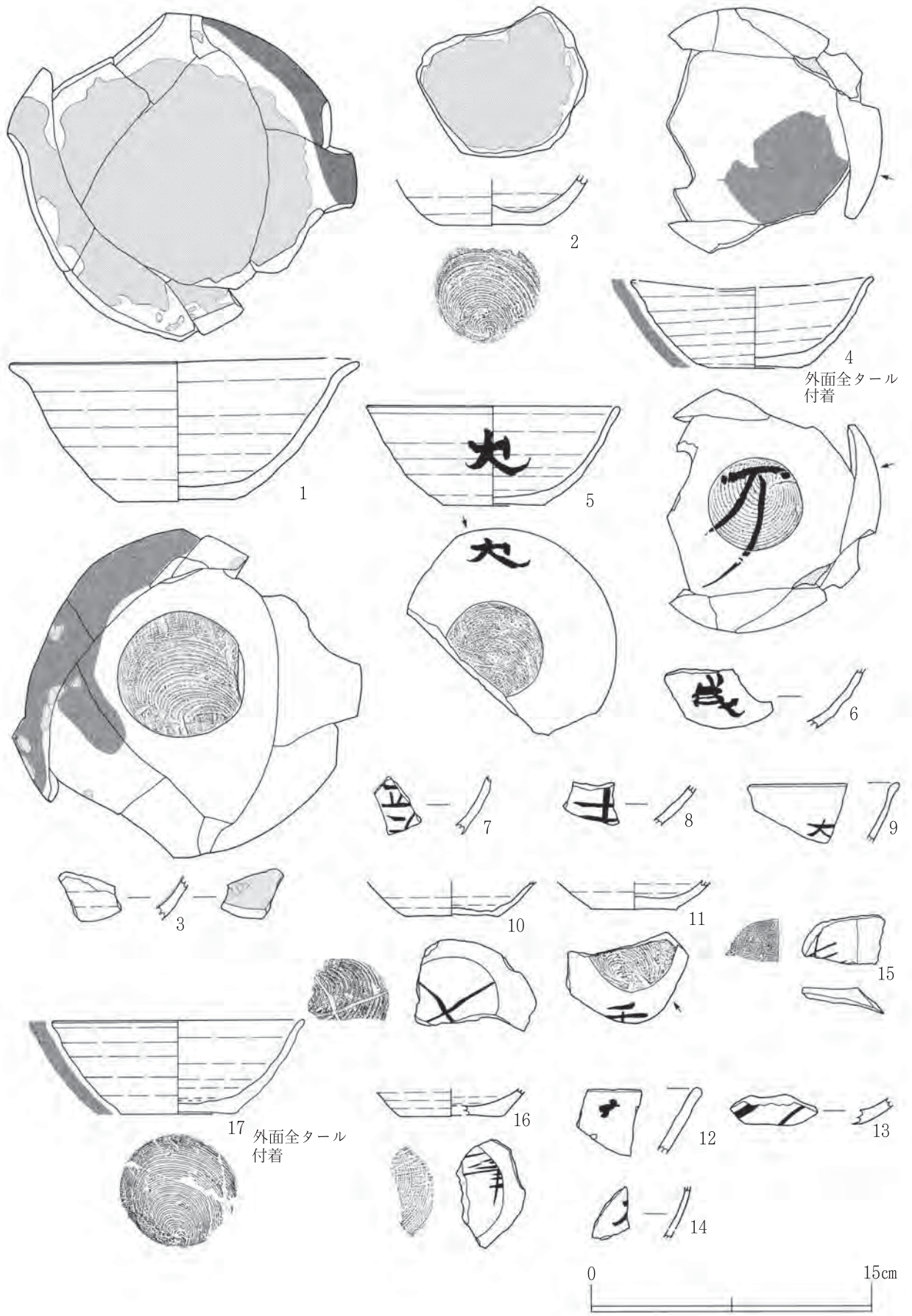
☆(祭祀関連)、●(内面に墨塗布)、◎(転用硯)、△(その他)



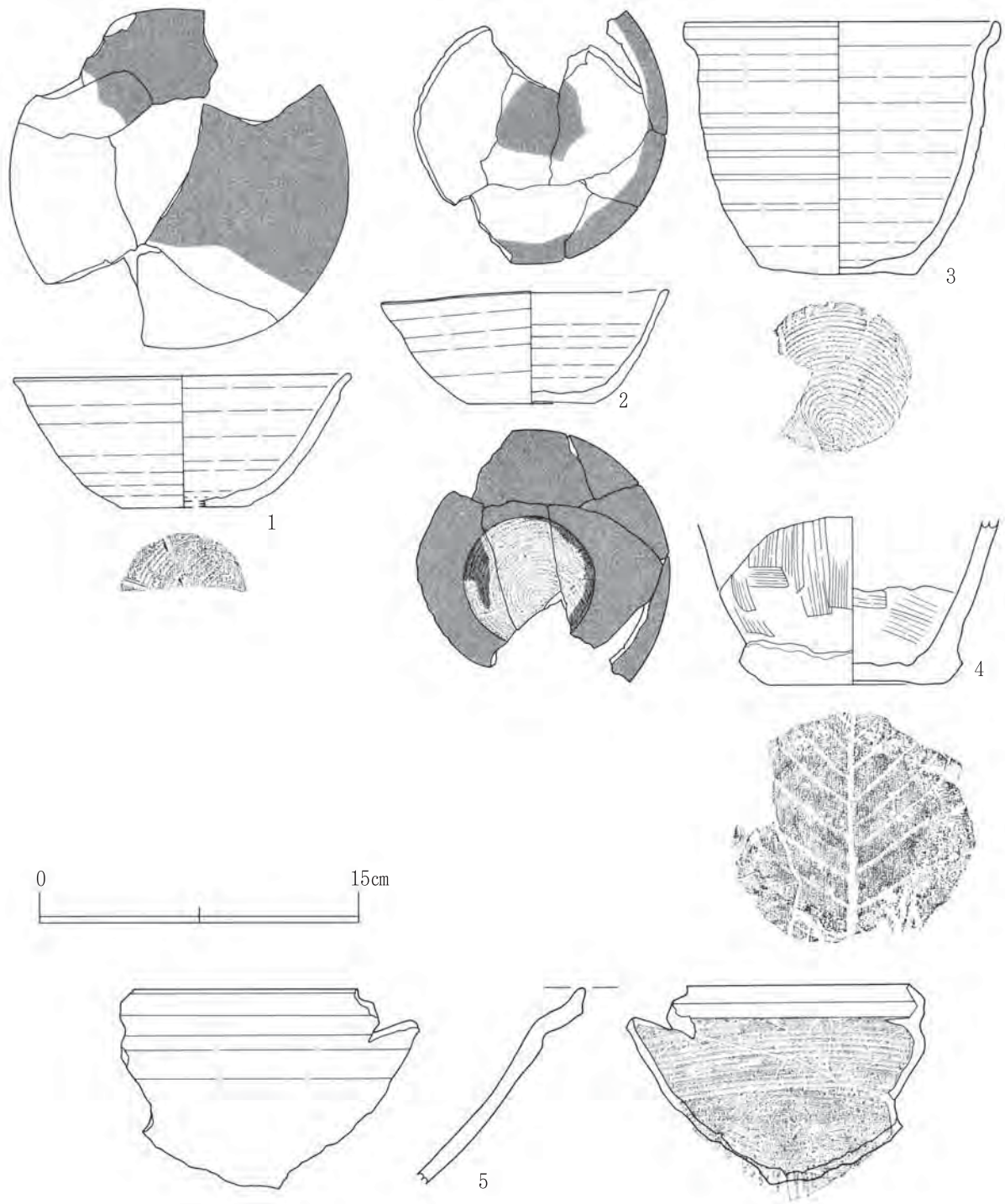
第94図 遺構外出土遺物 甲A・B地区(1)



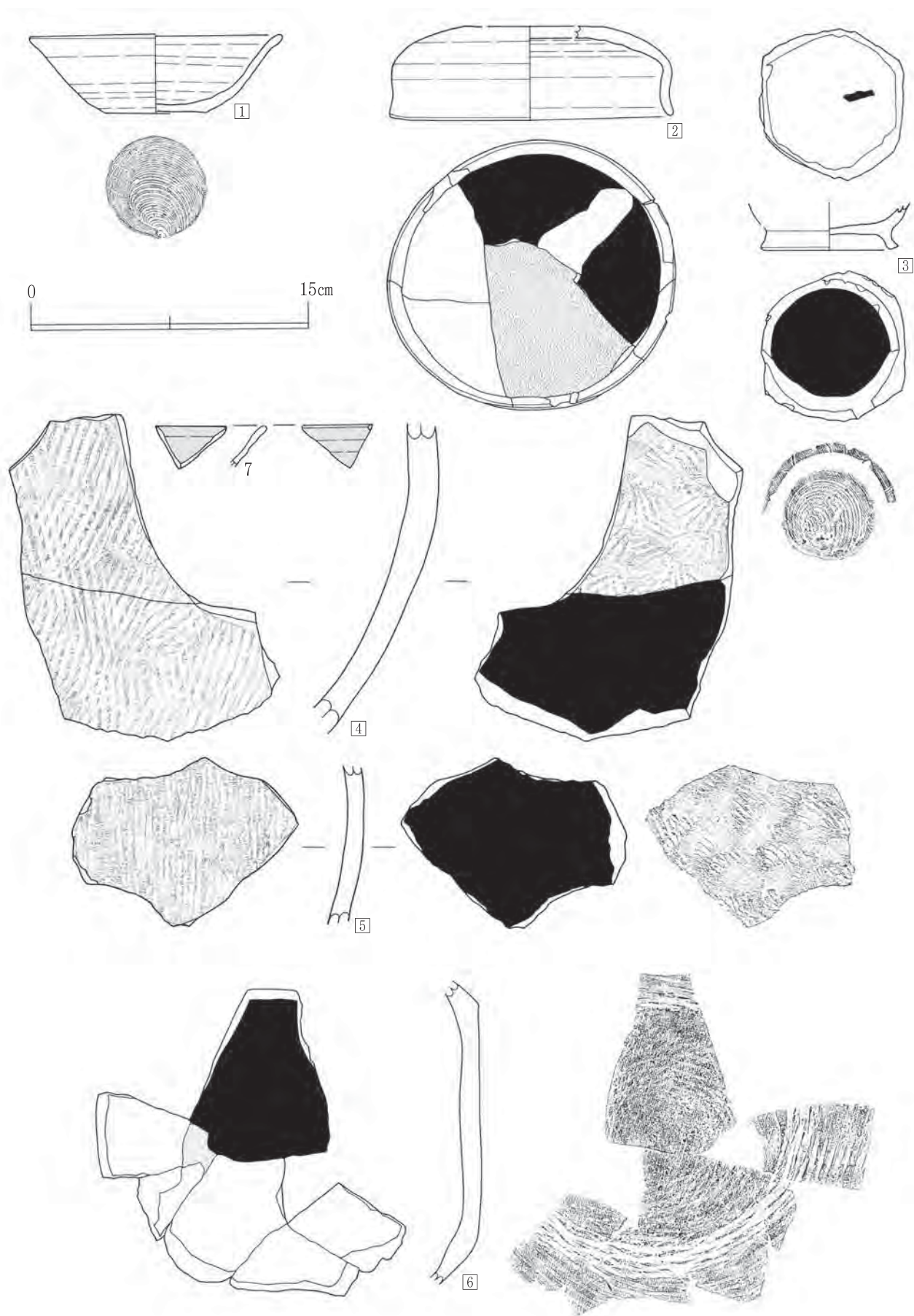
第95図 遺構外出土遺物 甲A・B地区(2)



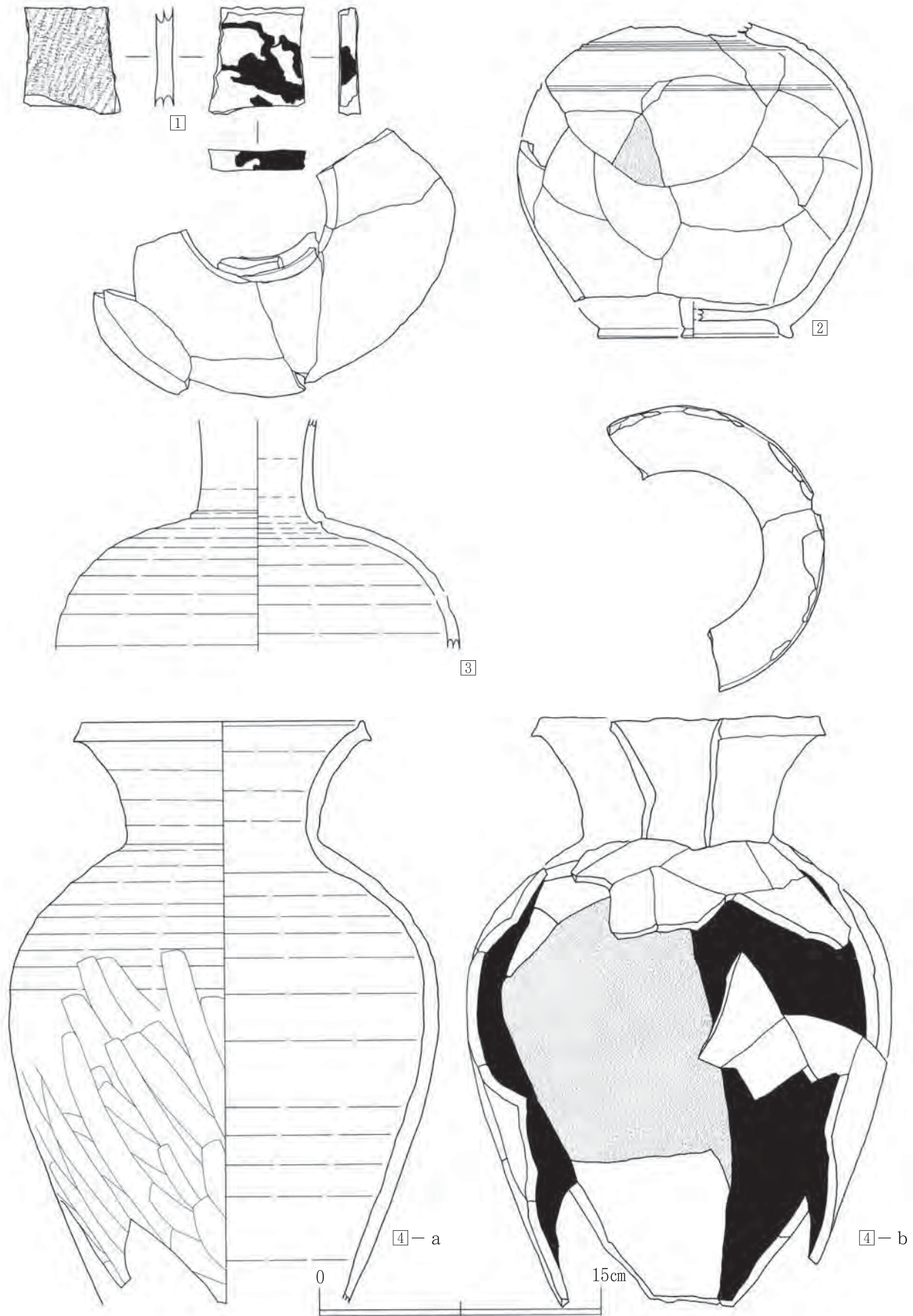
第96図 遺構外出土遺物 甲A・B地区 (3)



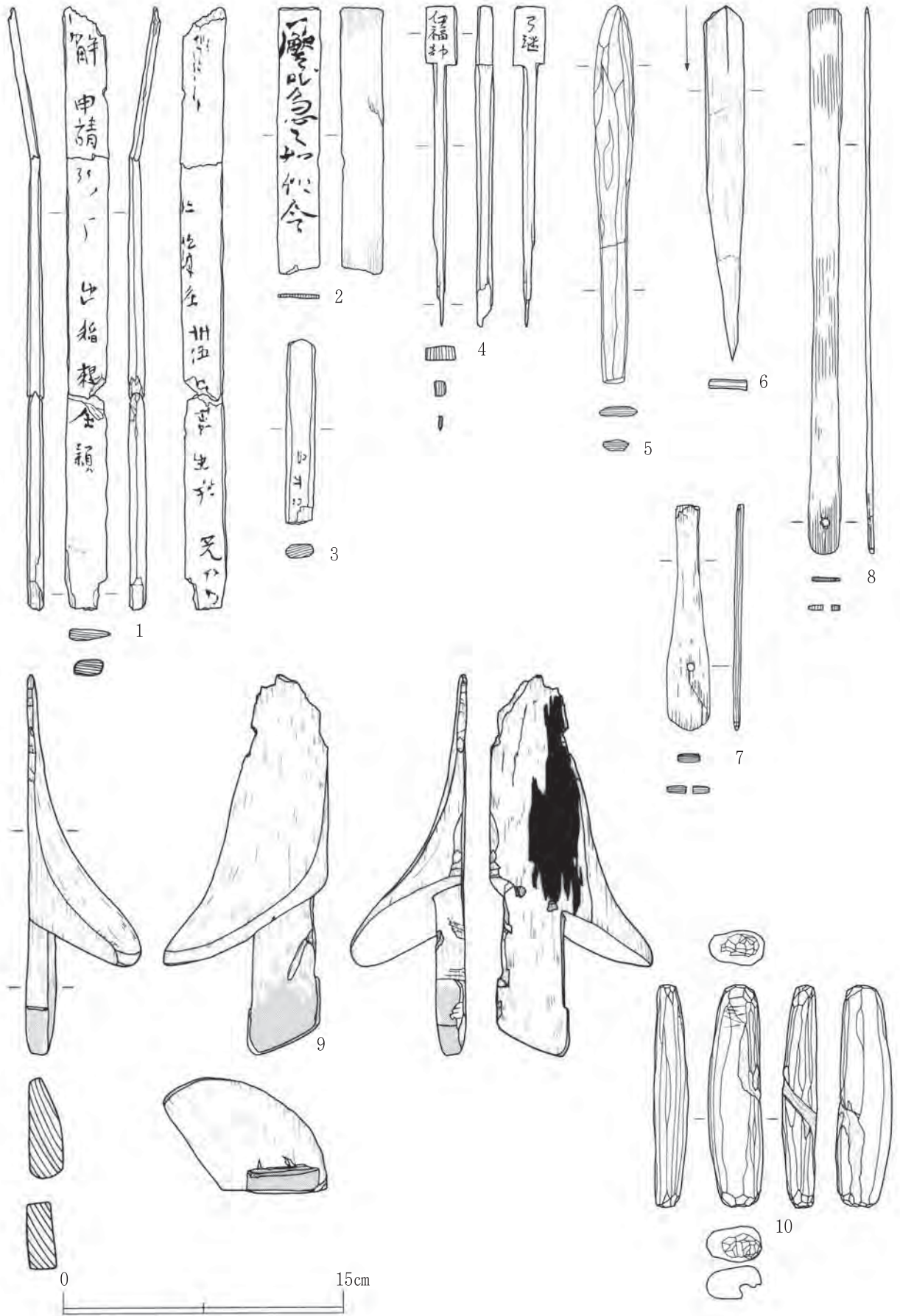
第97図 遺構外出土遺物 甲A・B地区(4)



第98図 遺構外出土遺物 甲A・B地区(5)



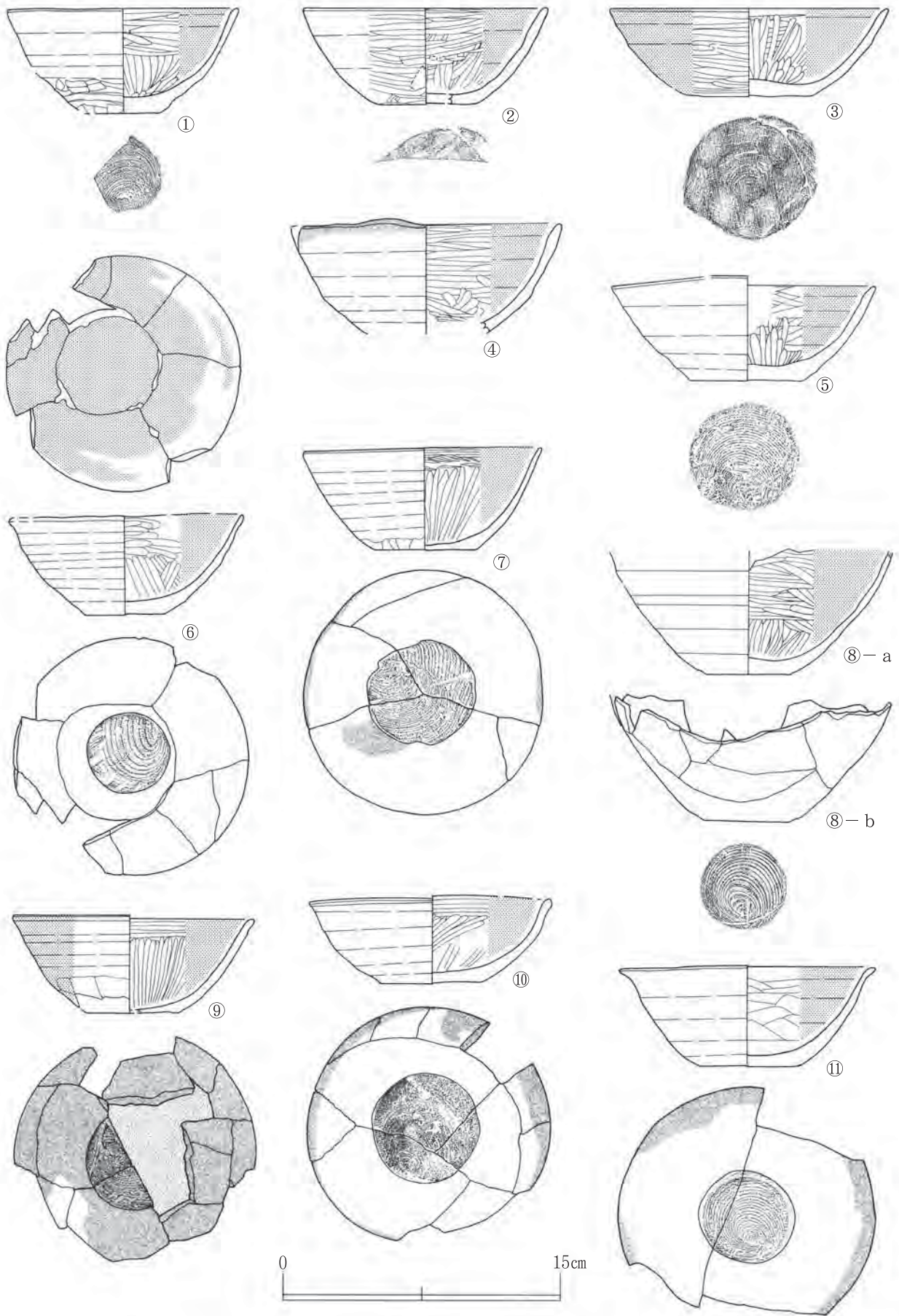
第99図 遺構外出土遺物 甲A・B地区(6)



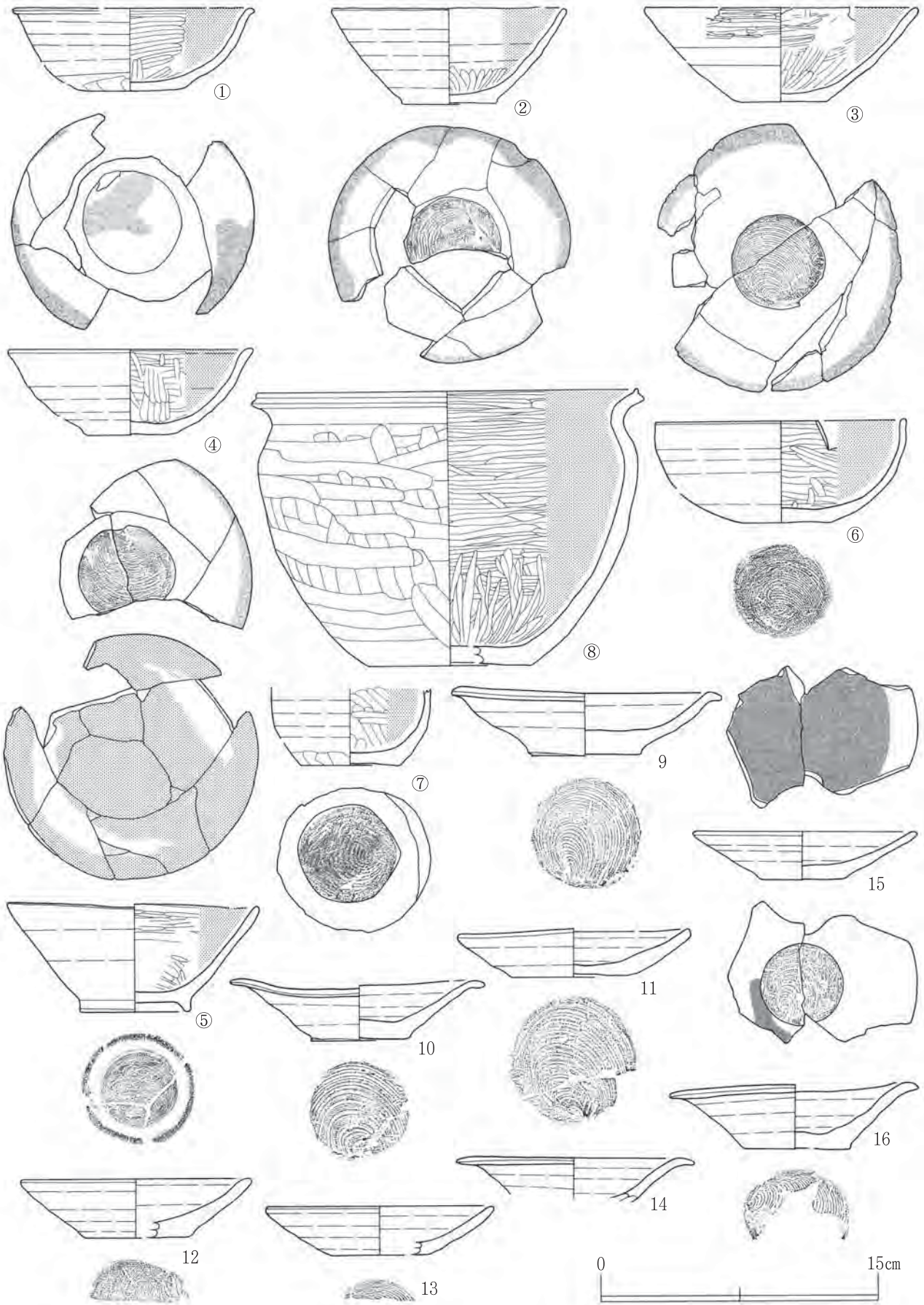
第100図 遺構外出土遺物 甲A・B地区(6)



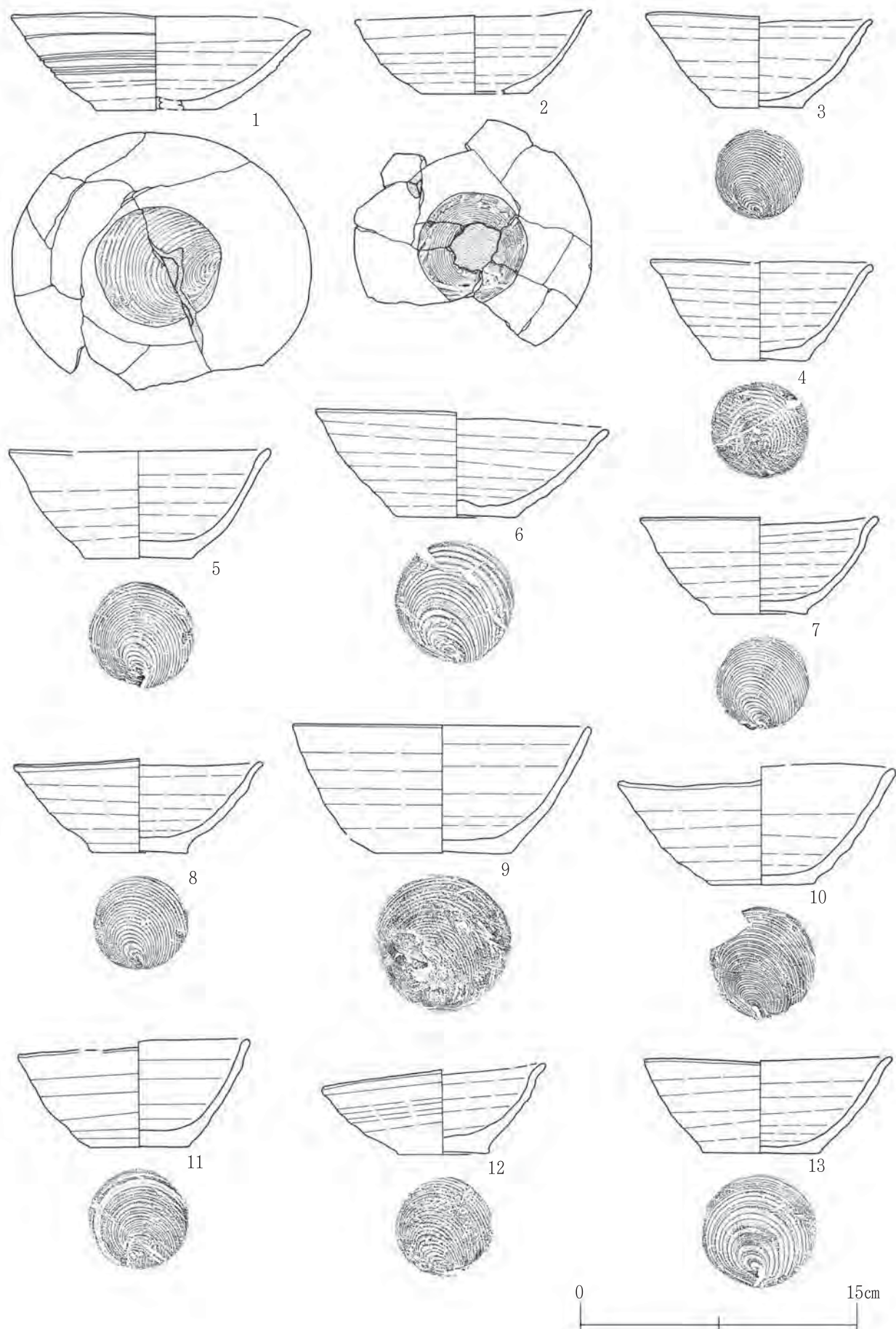
第101図 遺構外出土遺物 甲A・B地区(8)



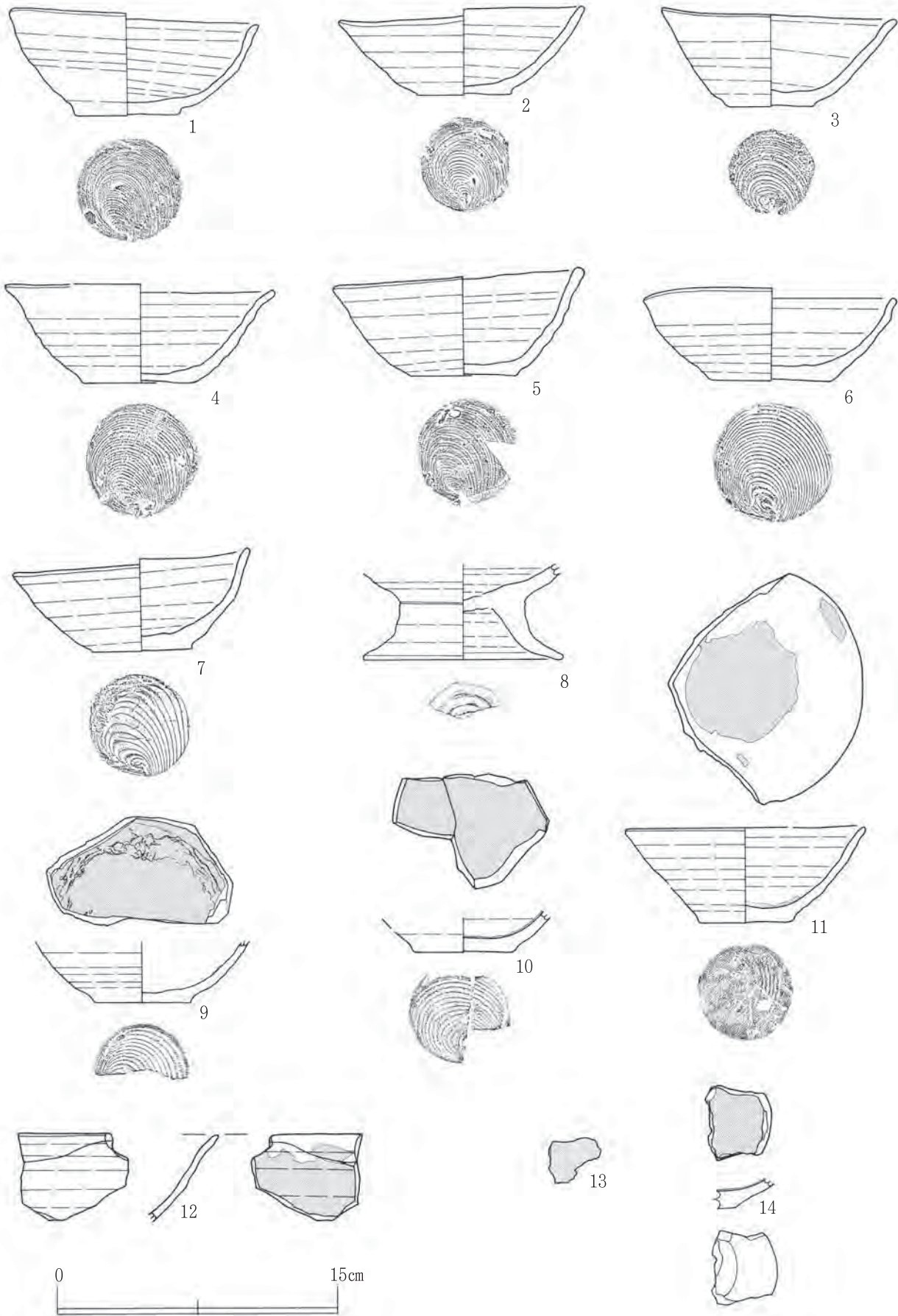
第102図 遺構外出土遺物 乙A地区 (1)



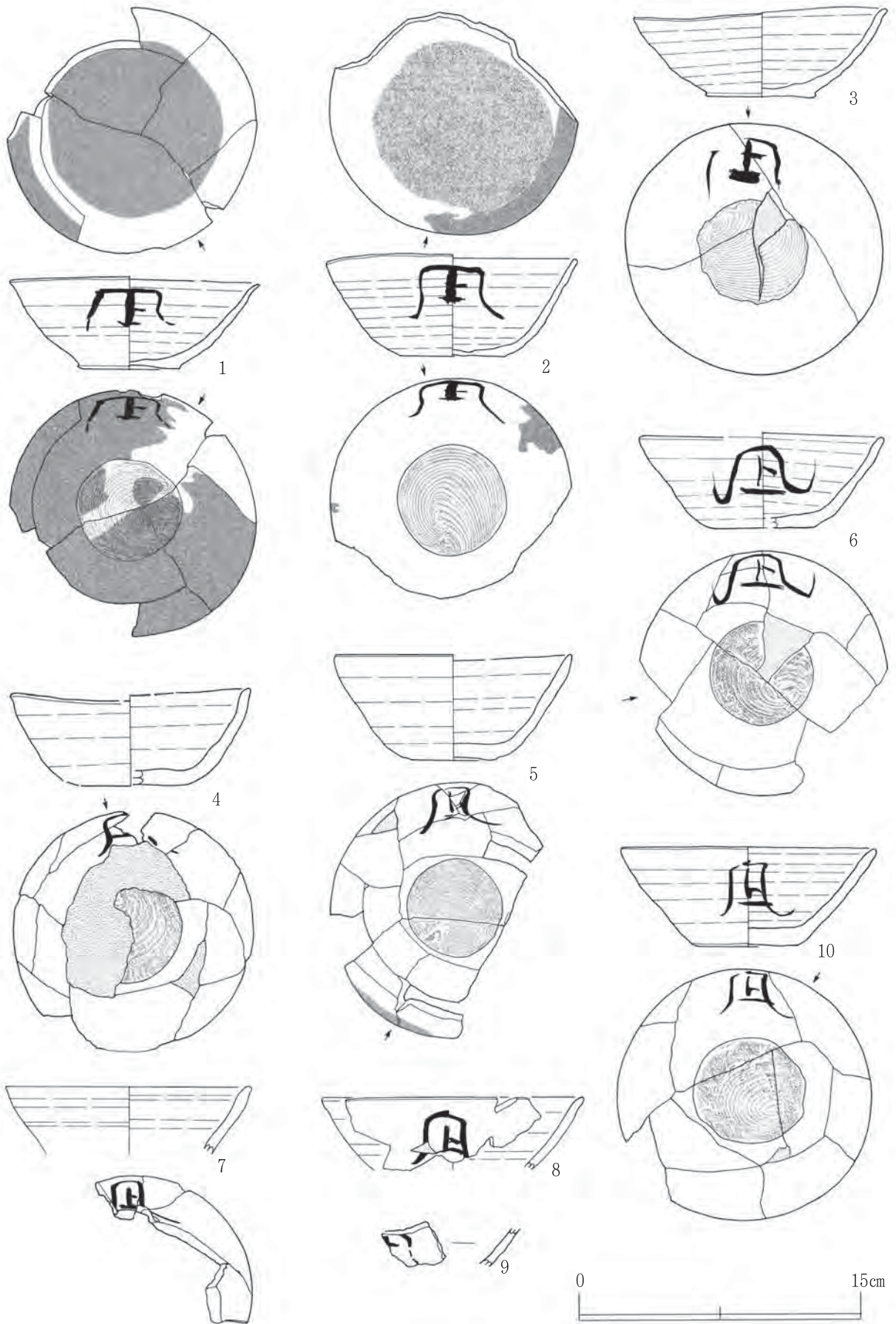
第103図 遺構外出土遺物 乙A地区 (2)



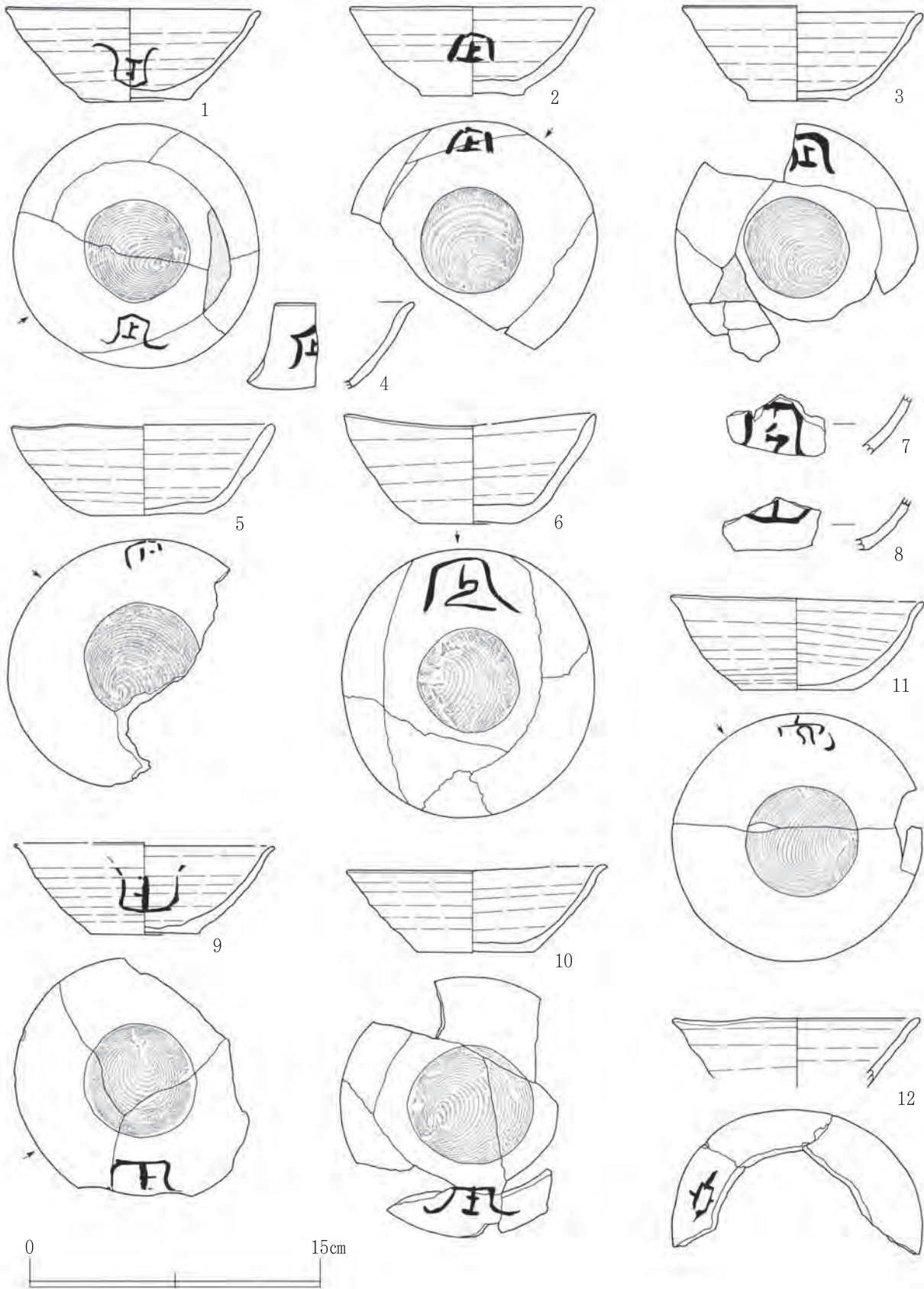
第104図 遺構外出土遺物 乙A地区(3)



第105図 遺構外出土遺物 乙A地区(4)



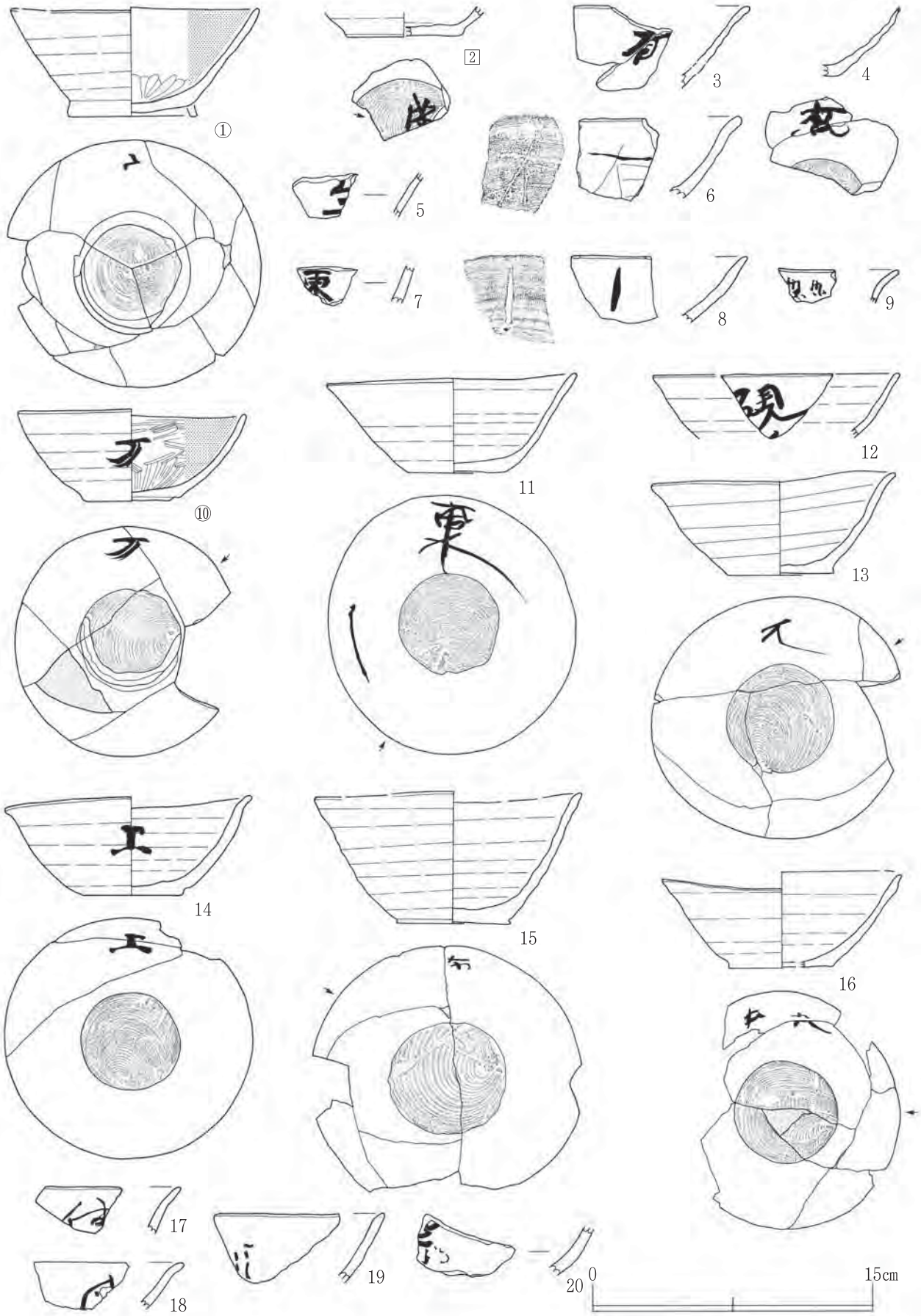
第106図 遺構外出土遺物 乙A地区(5)



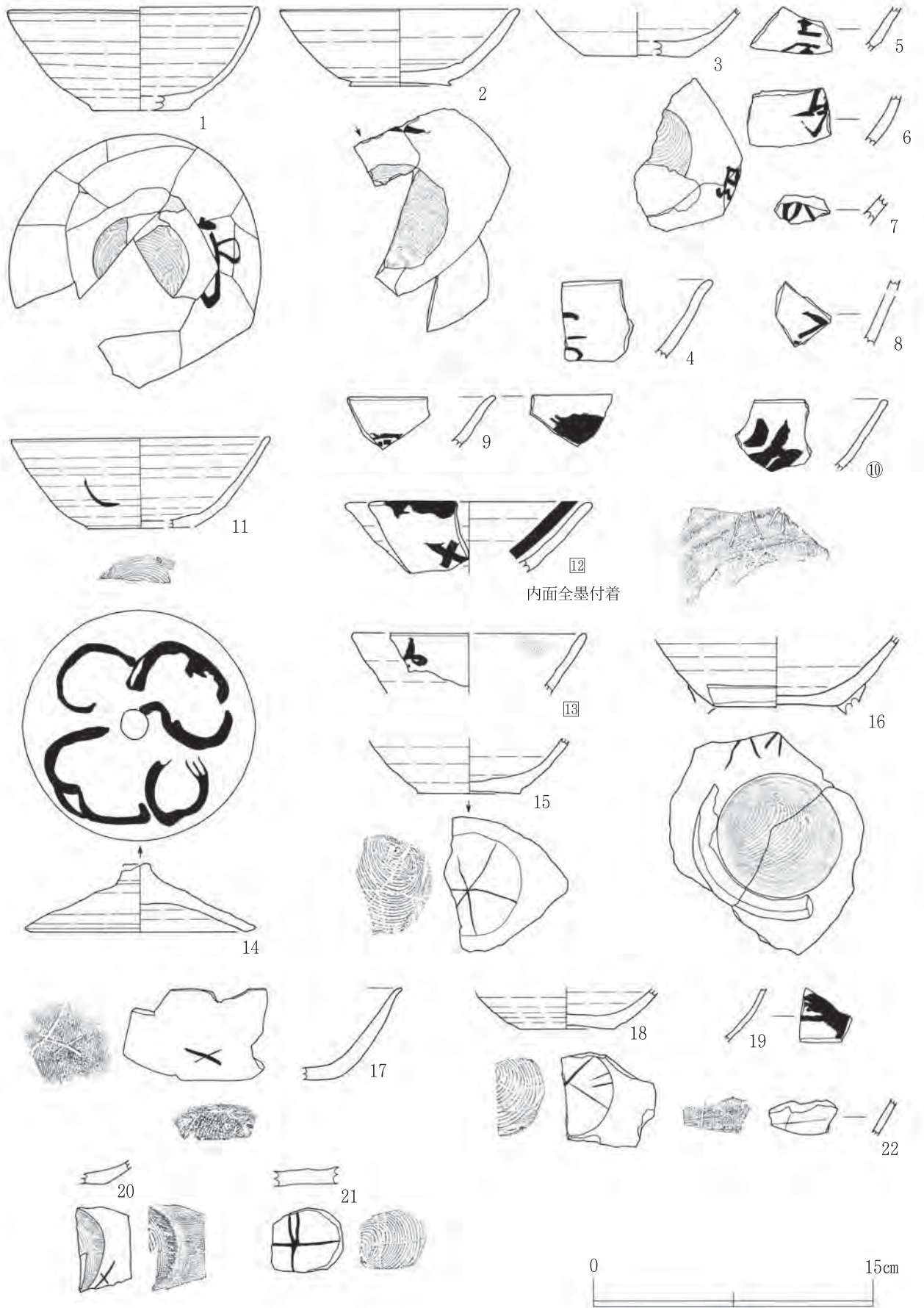
第107図 遺構外出土遺物 乙A地区(6)



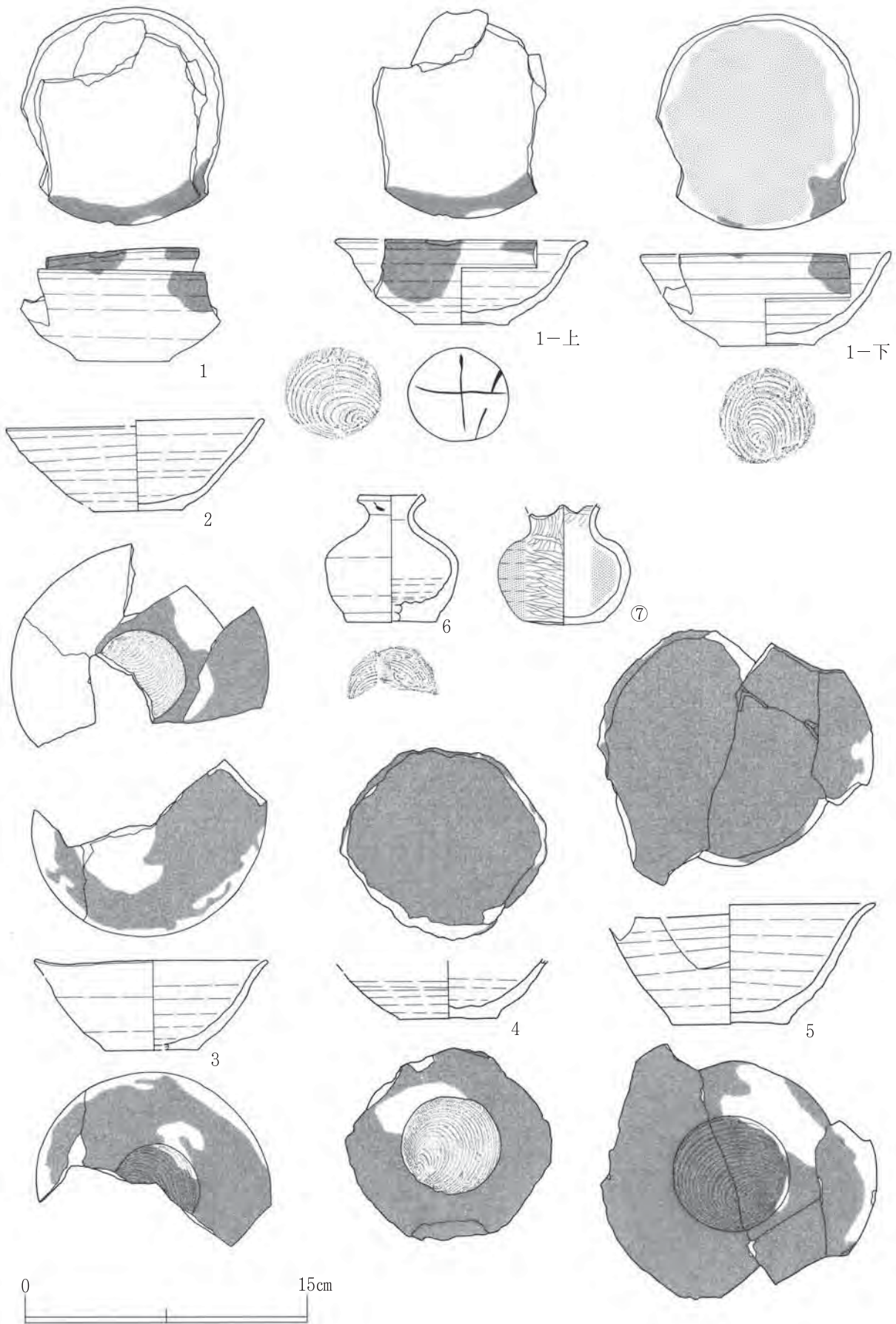
第108図 遺構外出土遺物 乙A地区(7)



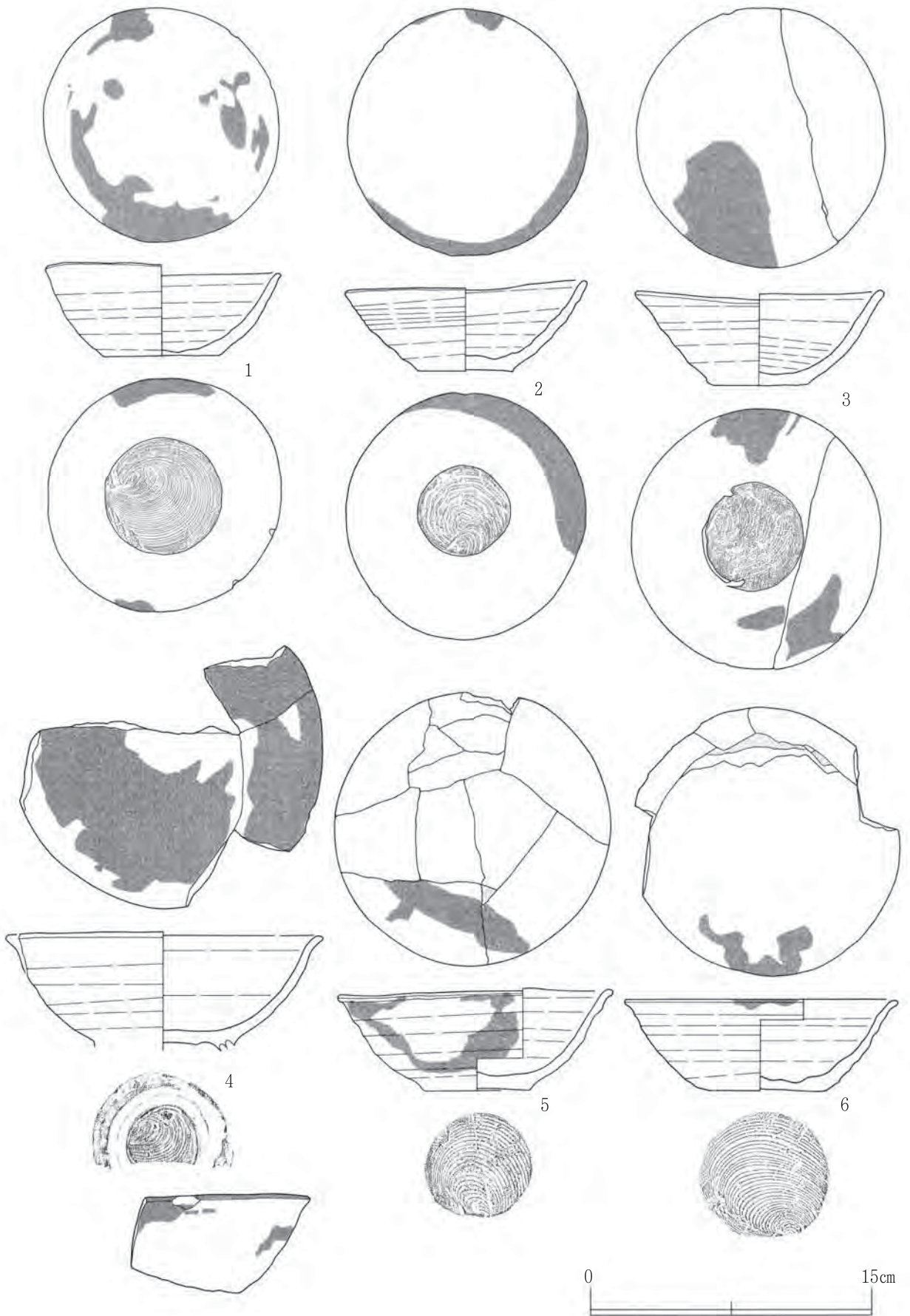
第109図 遺構外出土遺物 乙A地区(8)



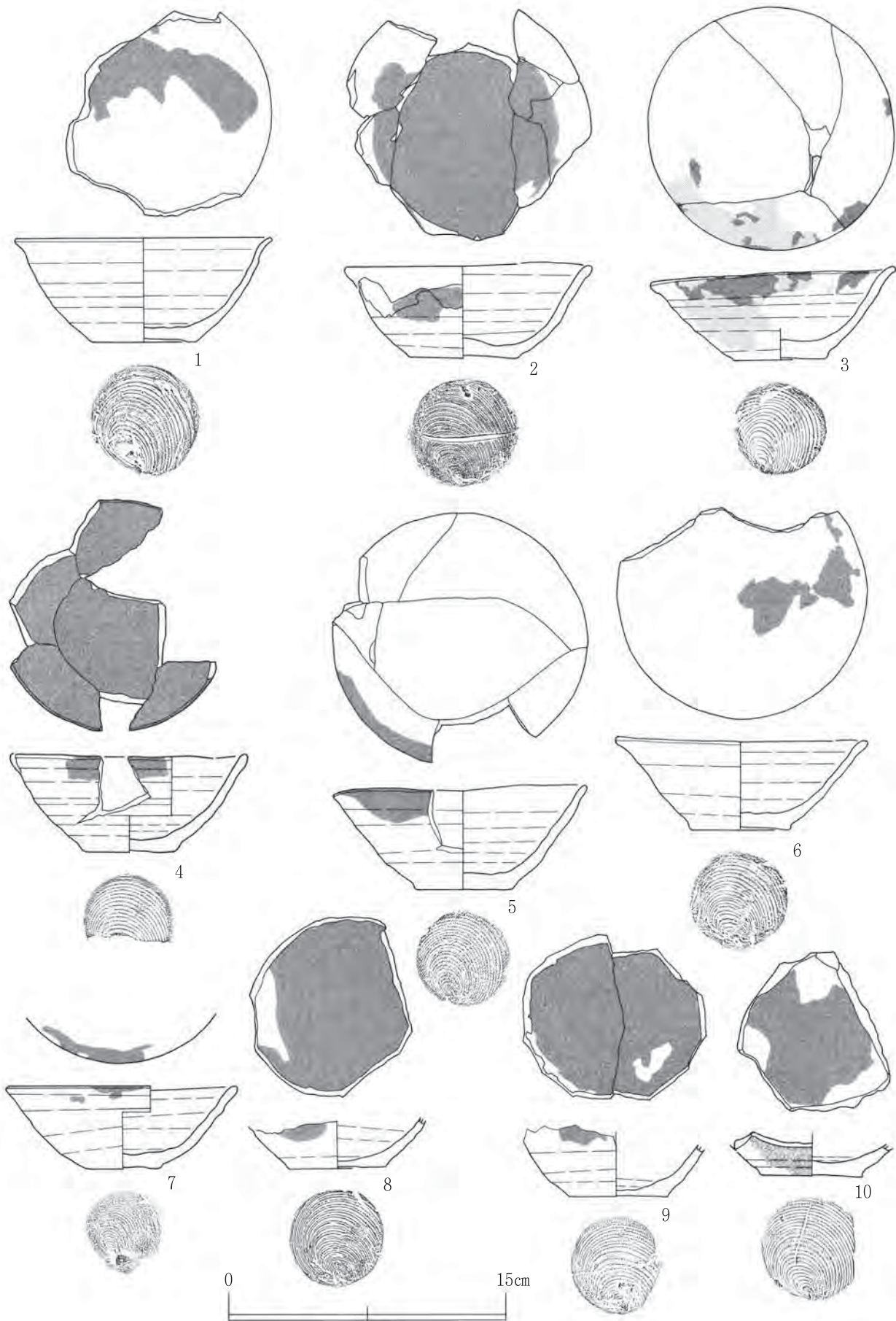
第110図 遺構外出土遺物 乙A地区(9)



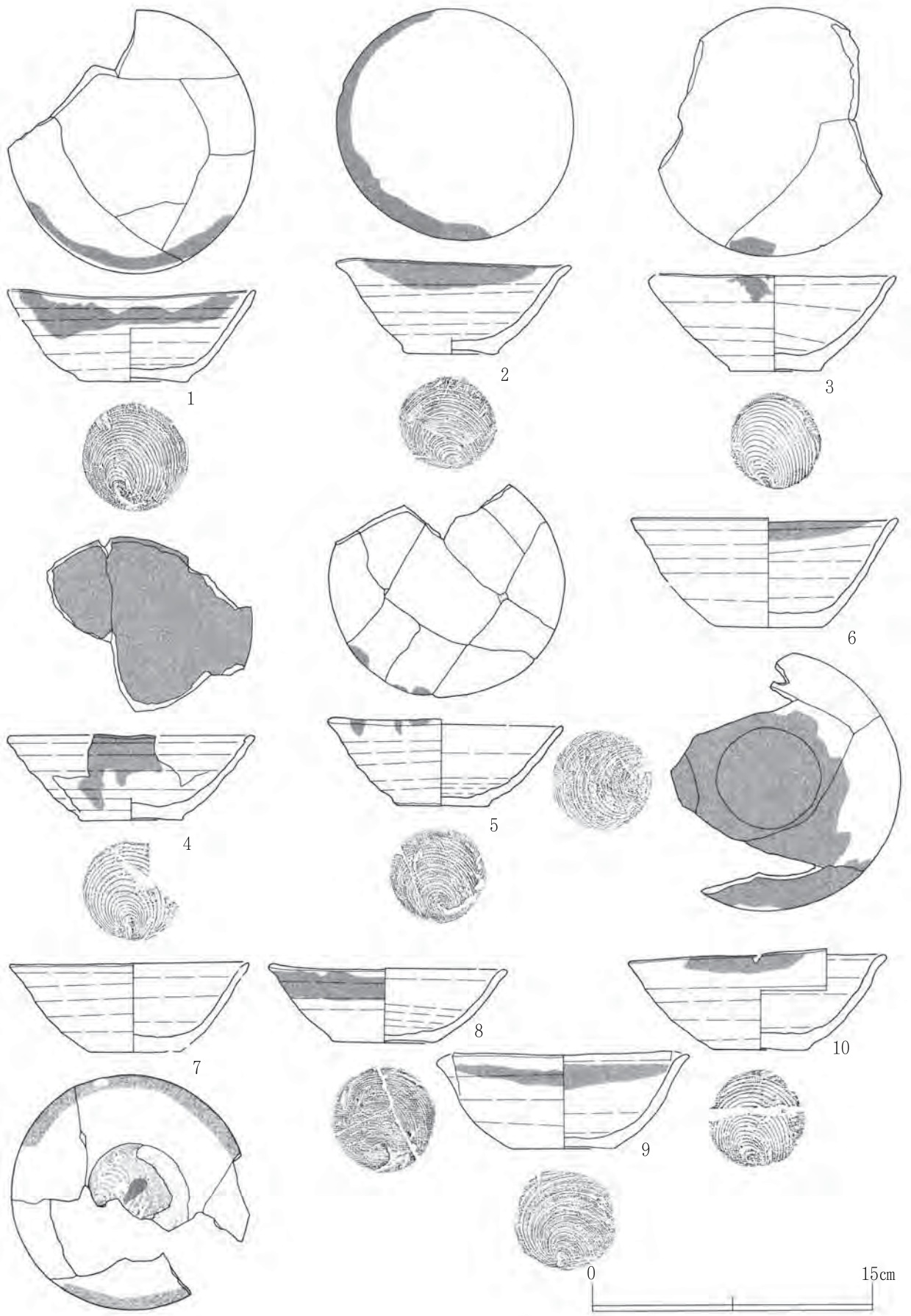
第111図 遺構外出土遺物 乙A地区 (10)



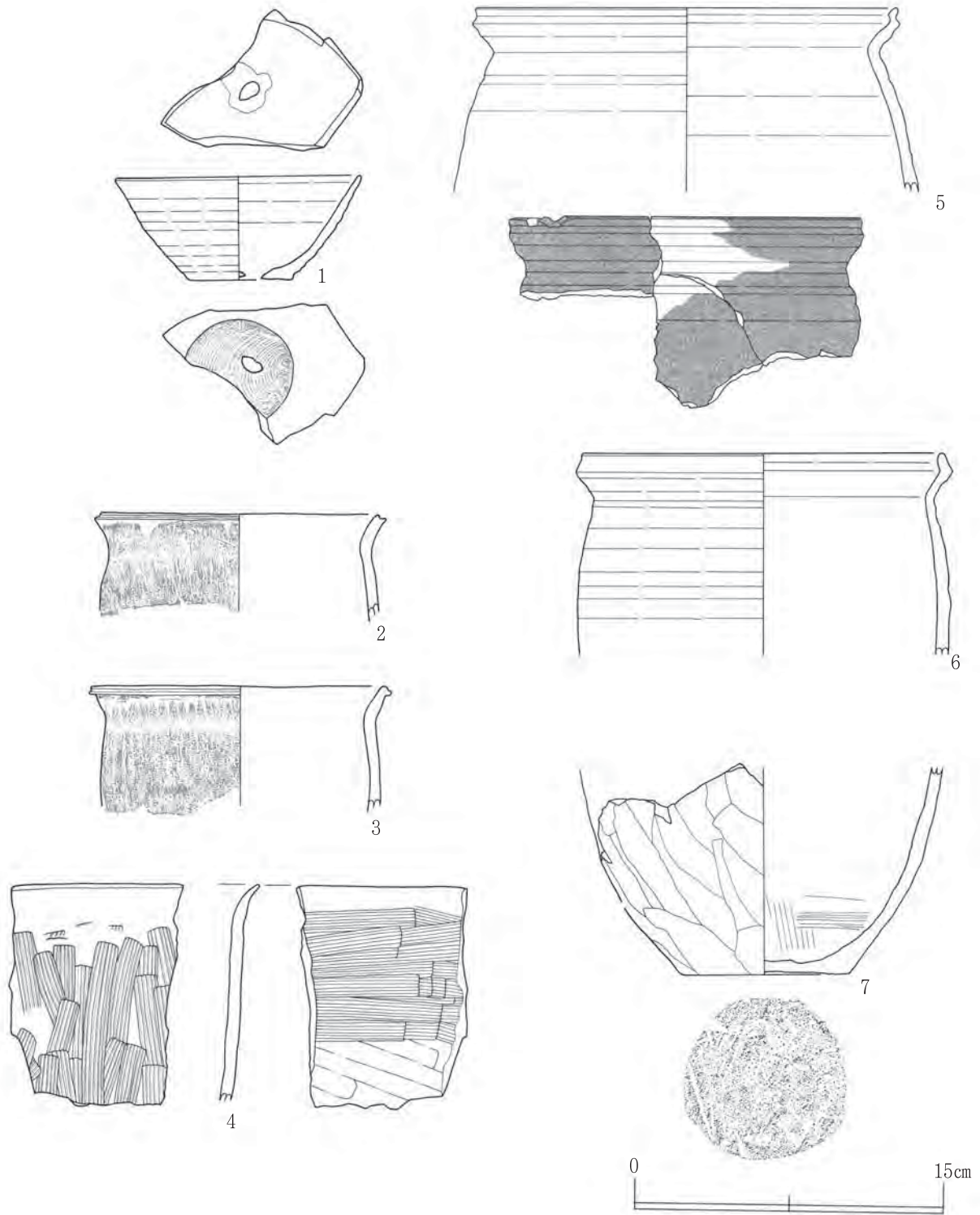
第112図 遺構外出土遺物 乙A地区 (11)



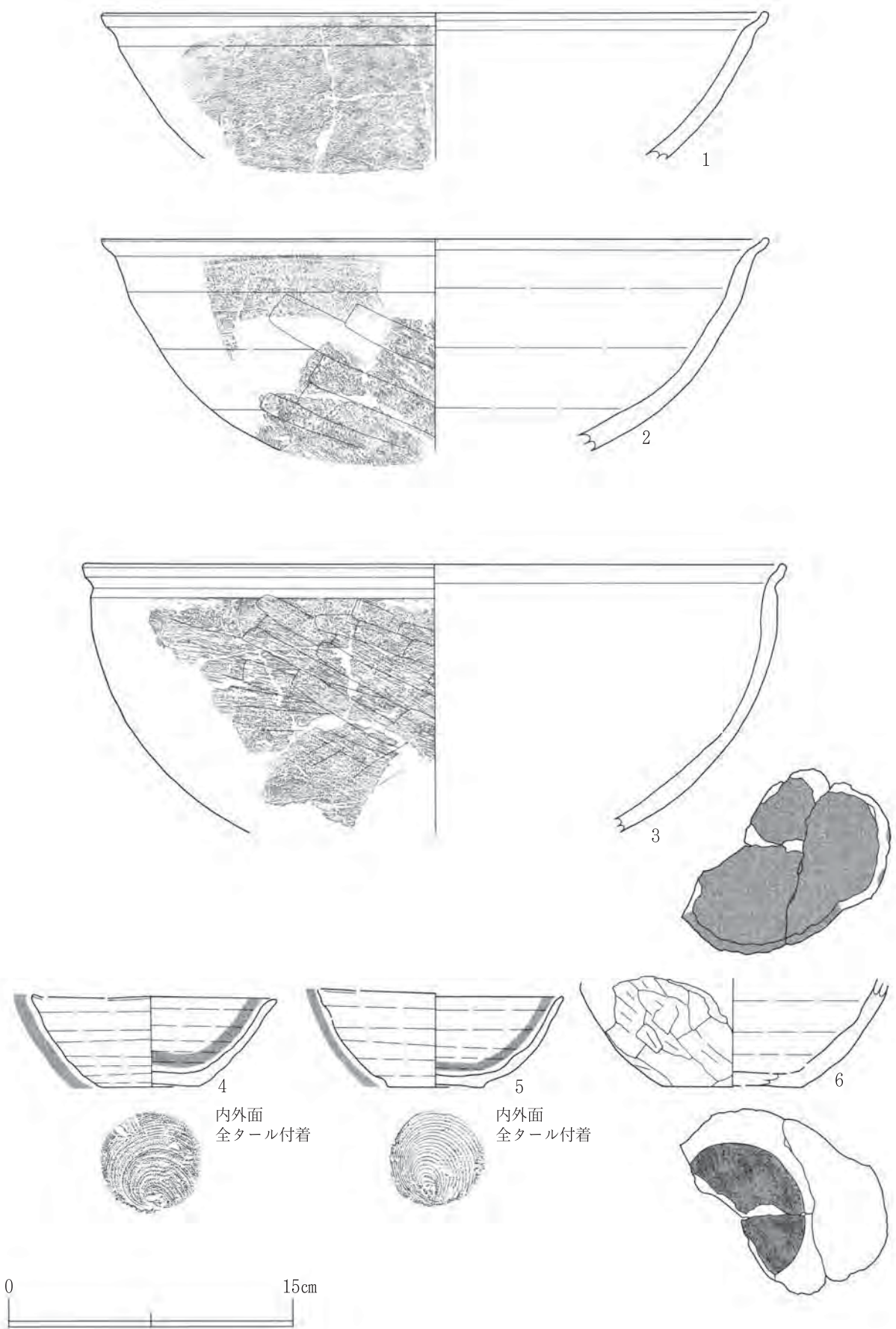
第113図 遺構外出土遺物 乙A地区 (12)



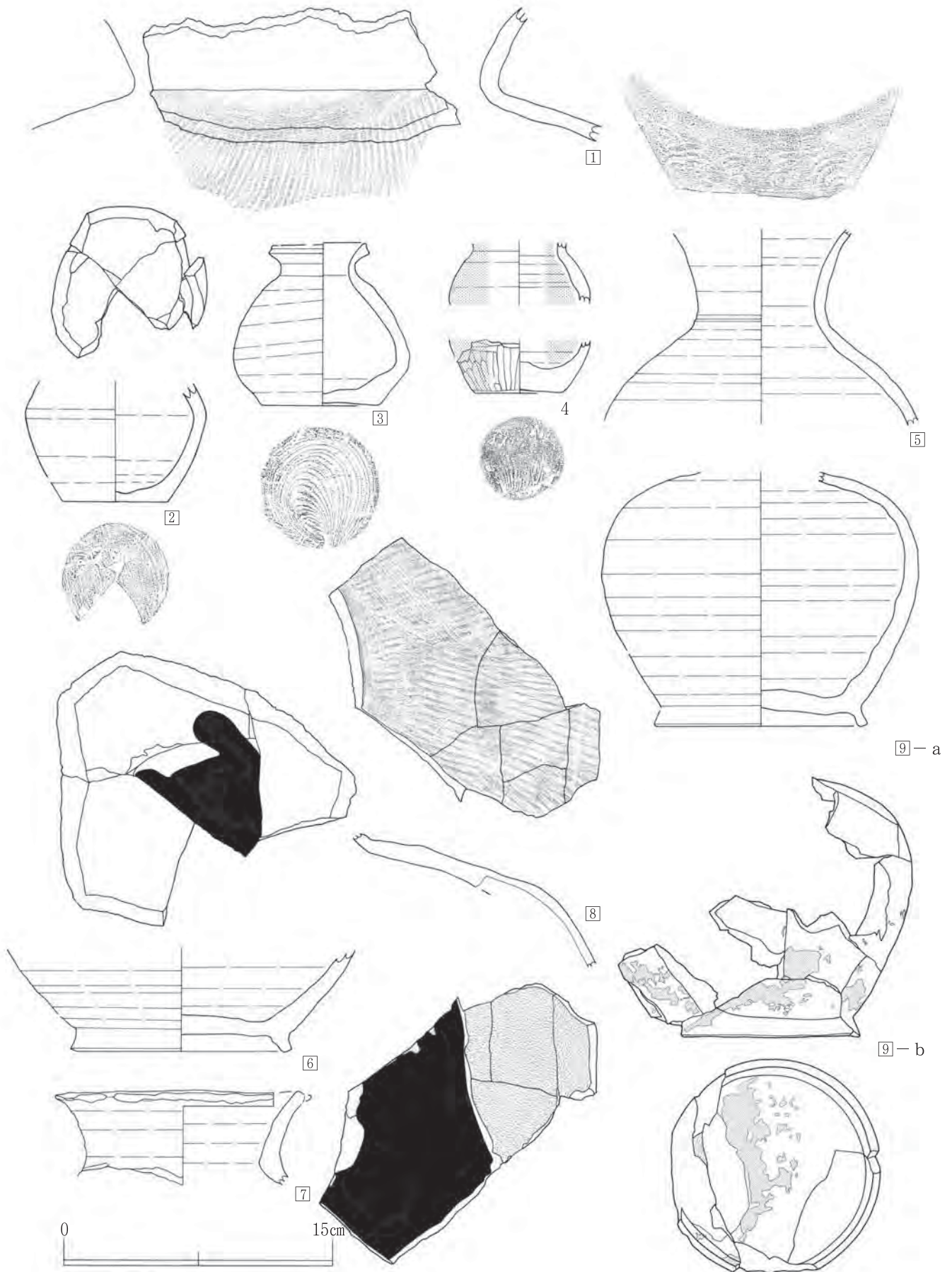
第114図 遺構外出土遺物 乙A地区 (13)



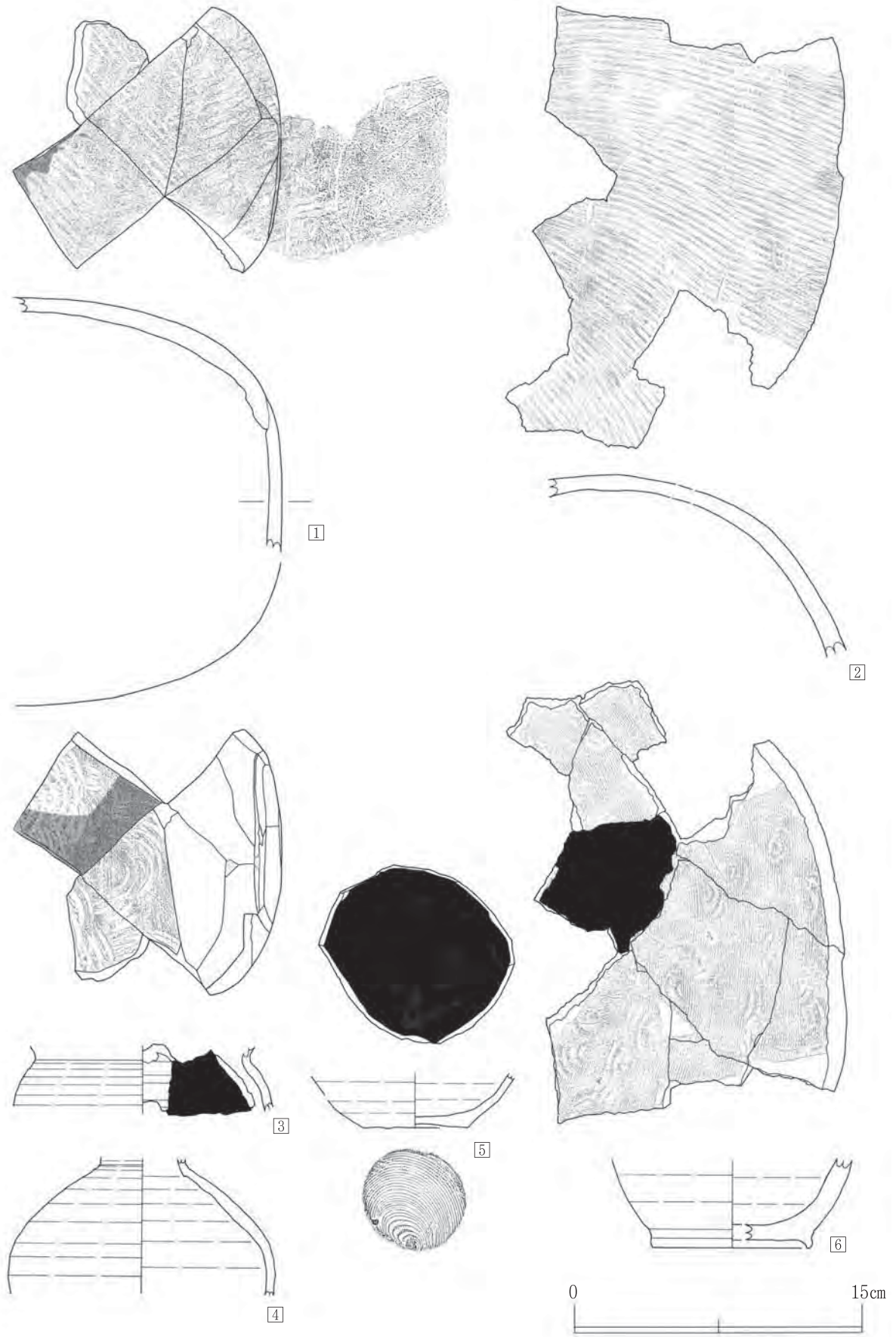
第115図 遺構外出土遺物 乙A地区 (14)



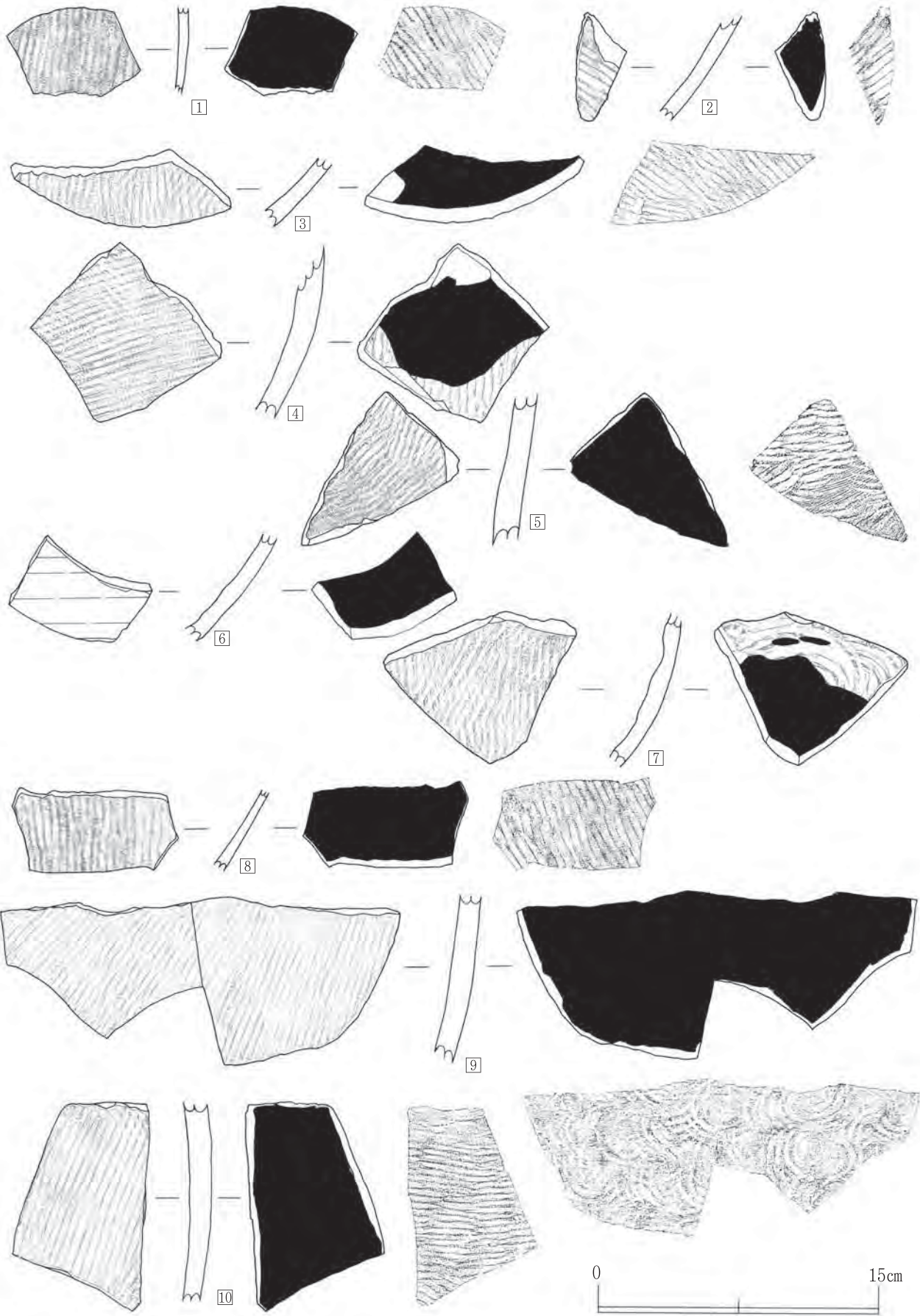
第116図 遺構外出土遺物 乙A地区 (15)



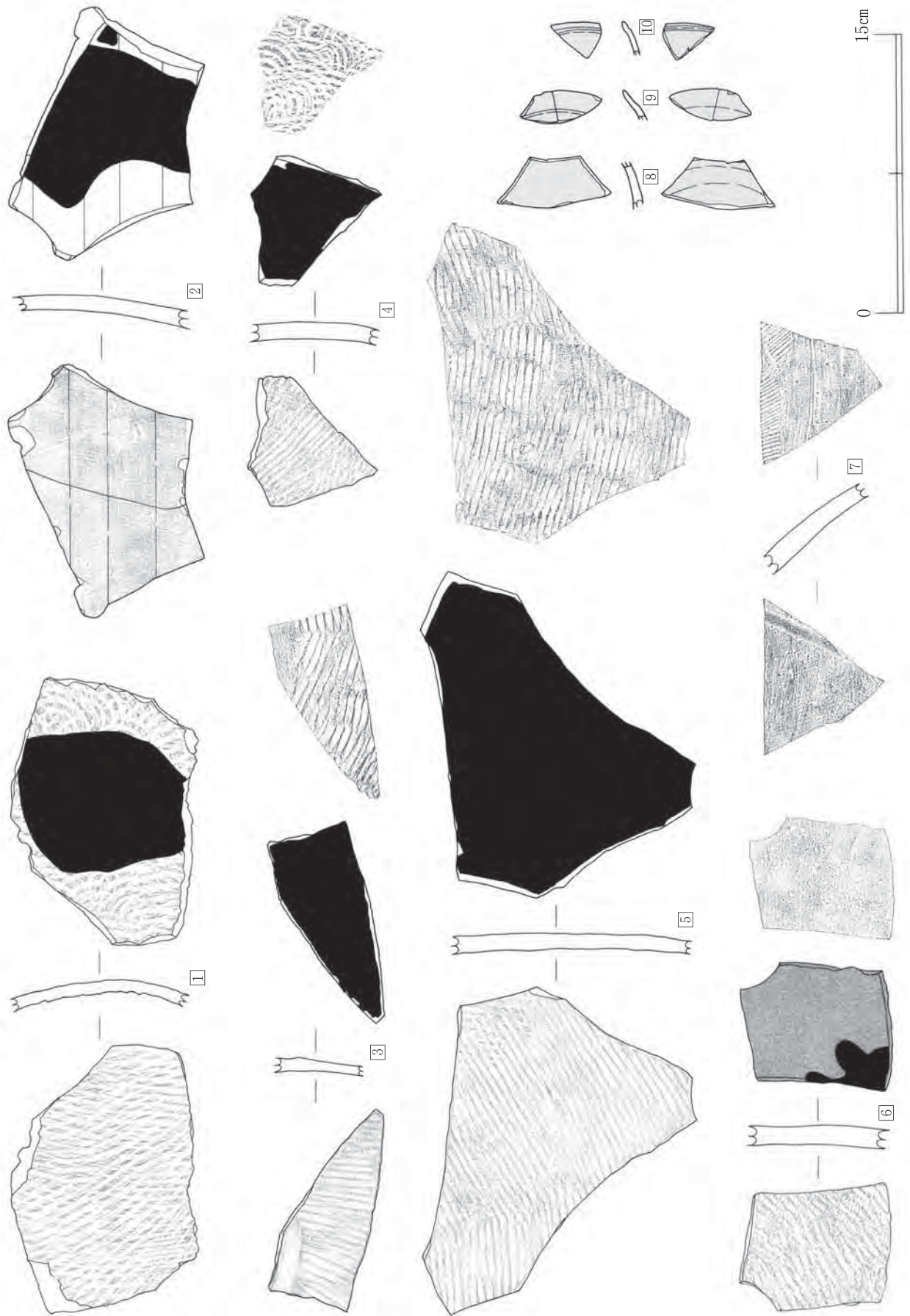
第117図 遺構外出土遺物 乙A地区 (16)



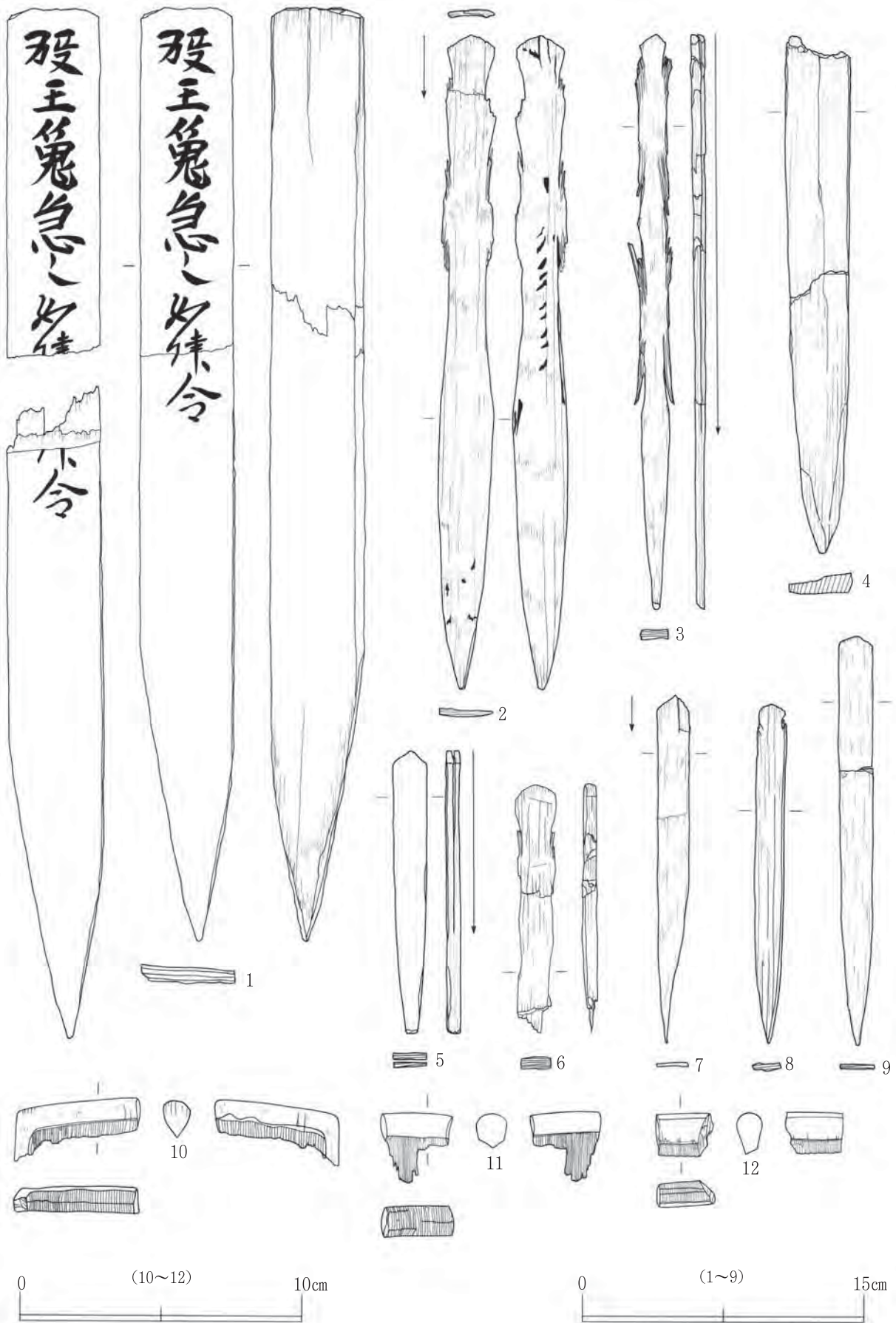
第118図 遺構外出土遺物 乙A地区 (17)



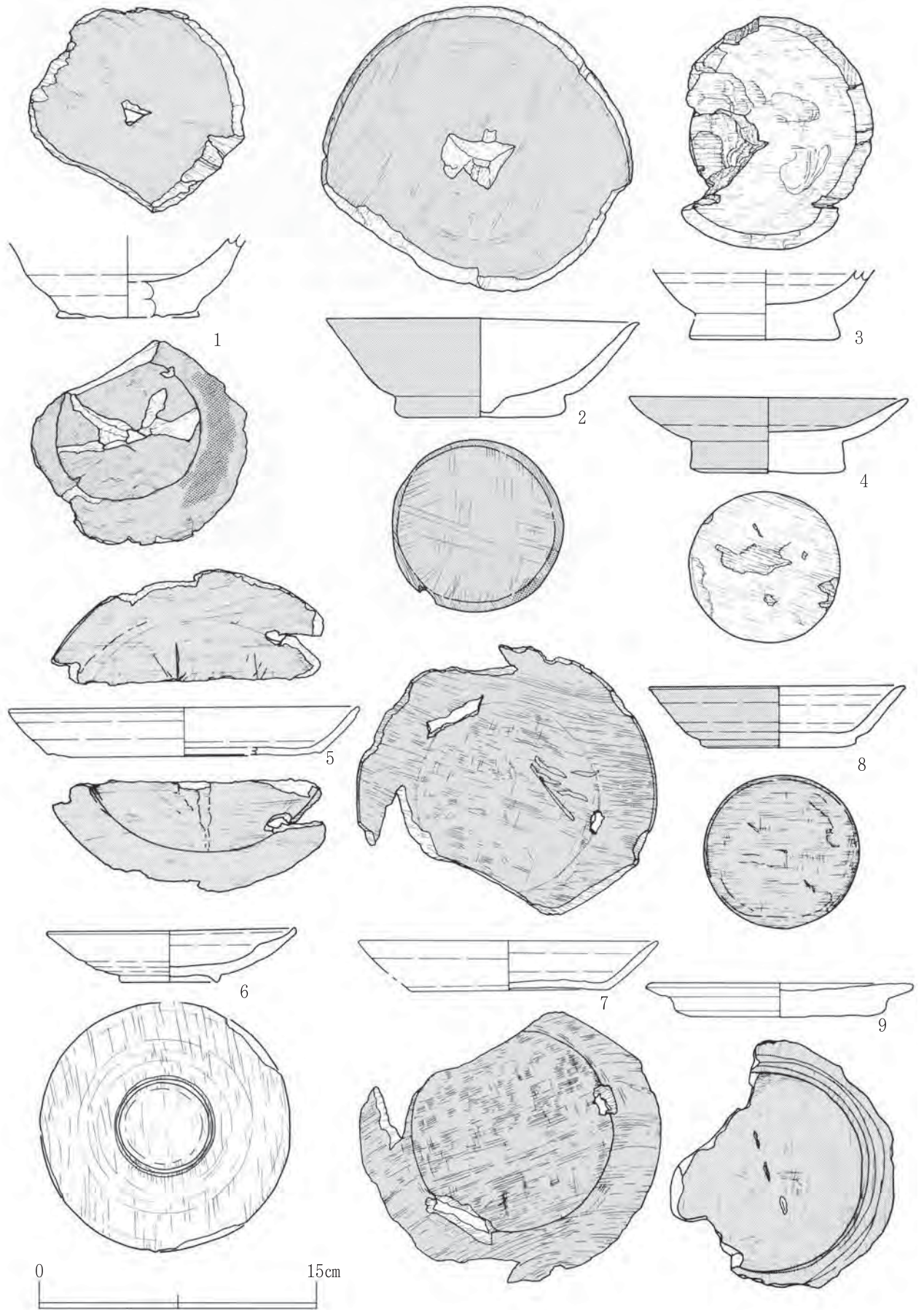
第119図 遺構外出土遺物 乙A地区 (18)



第120図 遺構外出土遺物 乙A地区 (19)



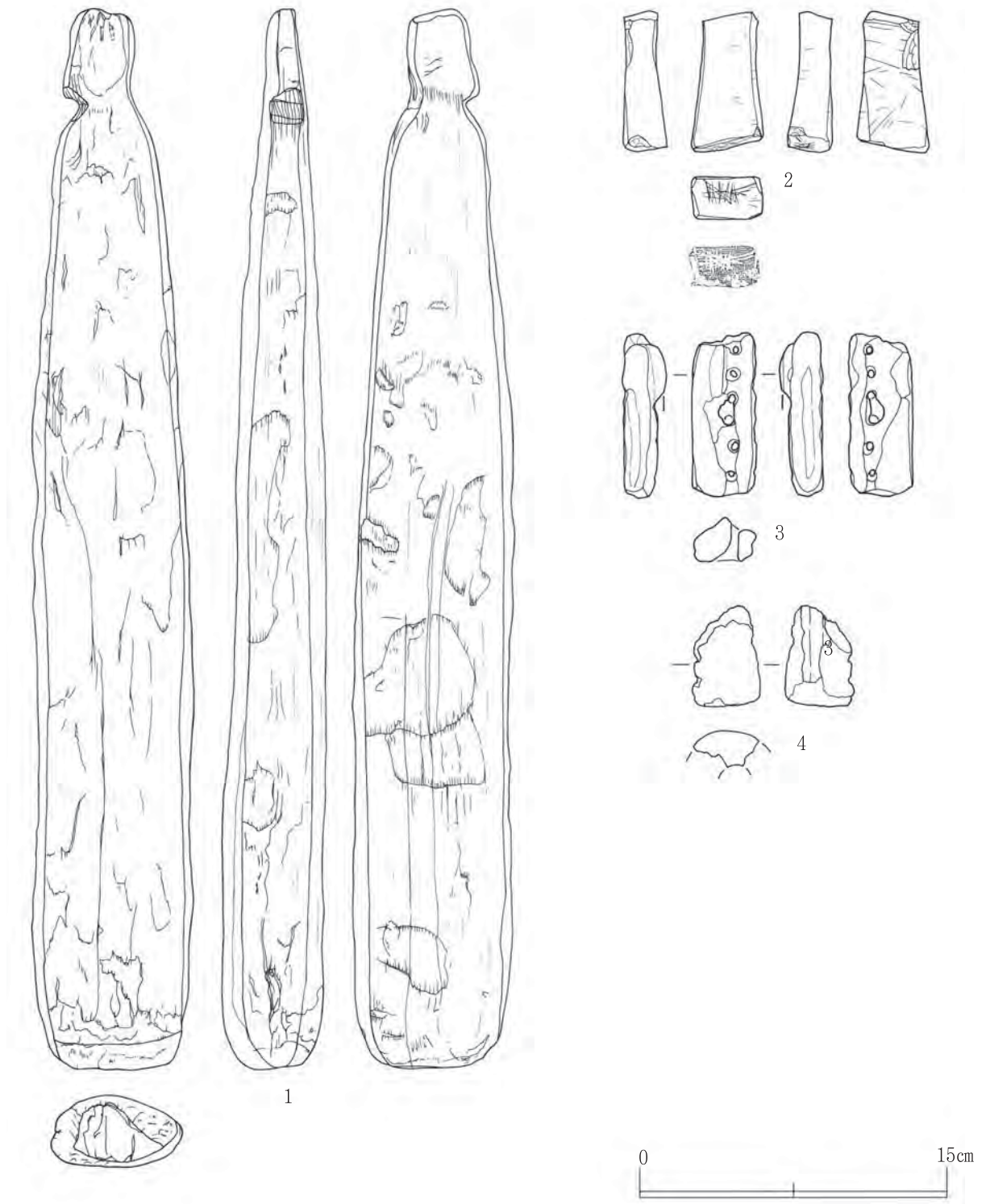
第121図 遺構外出土遺物 乙A地区 (20)



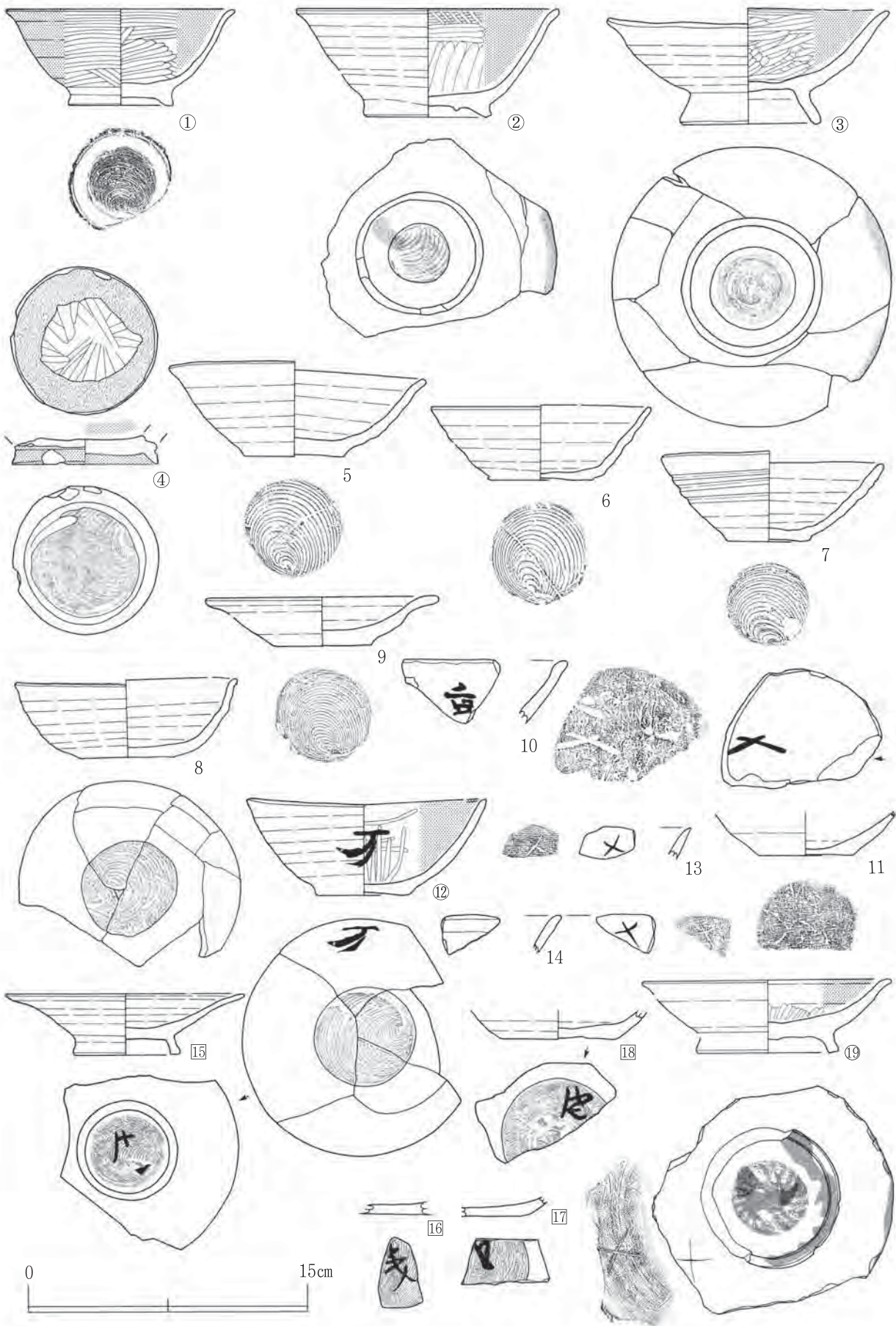
第122図 遺構外出土遺物 乙A地区 (21)



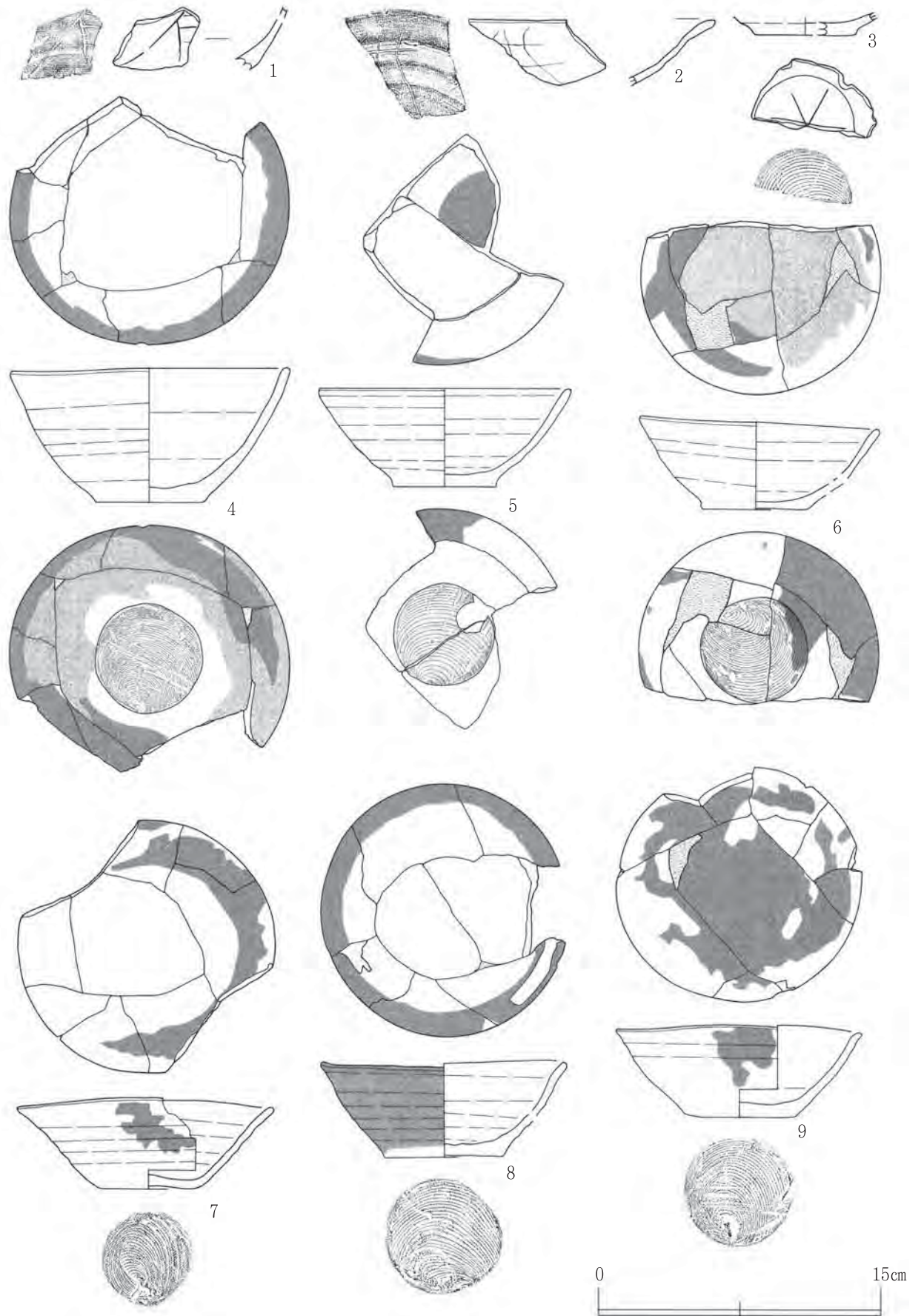
第123図 遺構外出土遺物 乙A地区 (22)



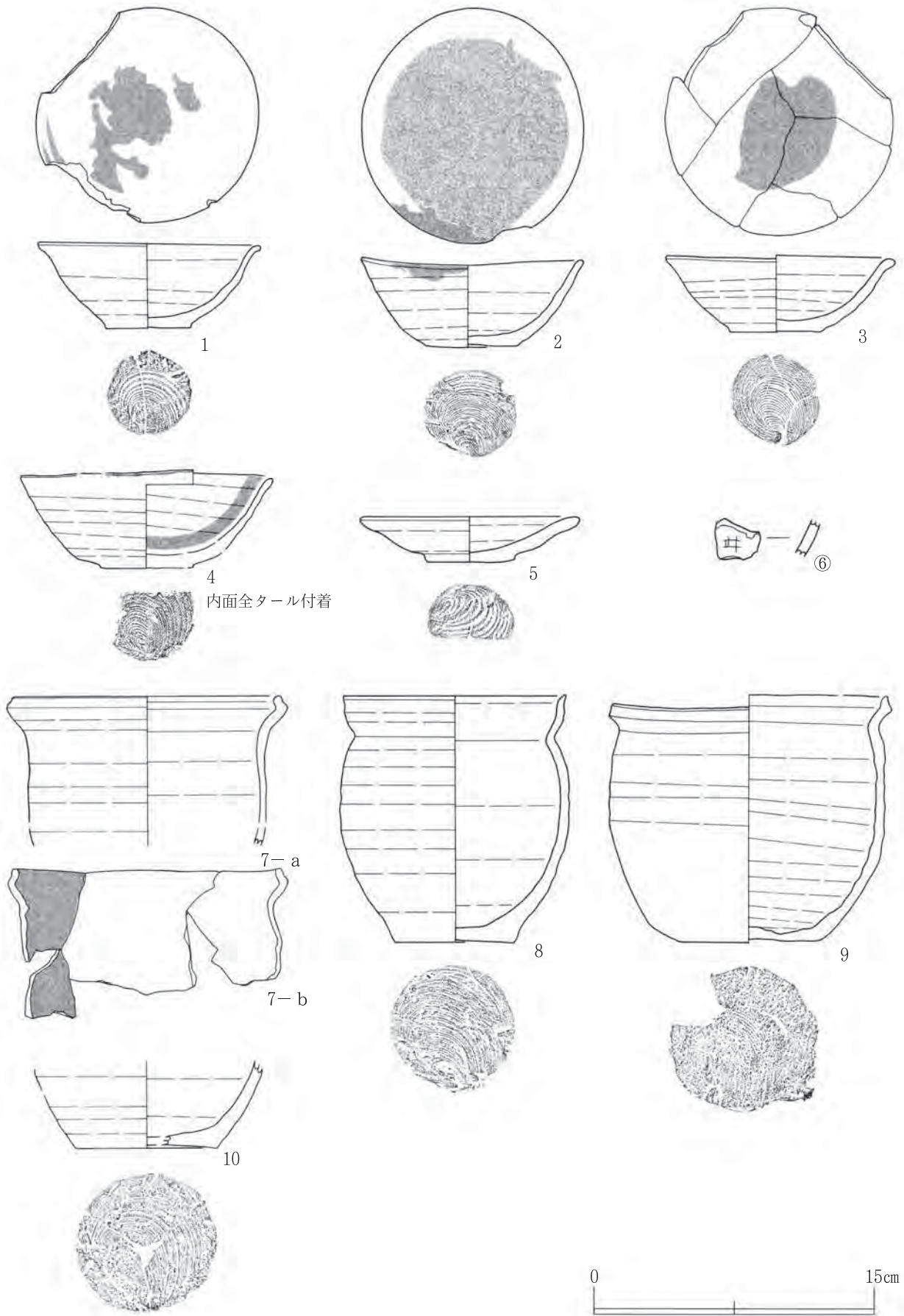
第124図 遺構外出土遺物 乙A地区 (23)



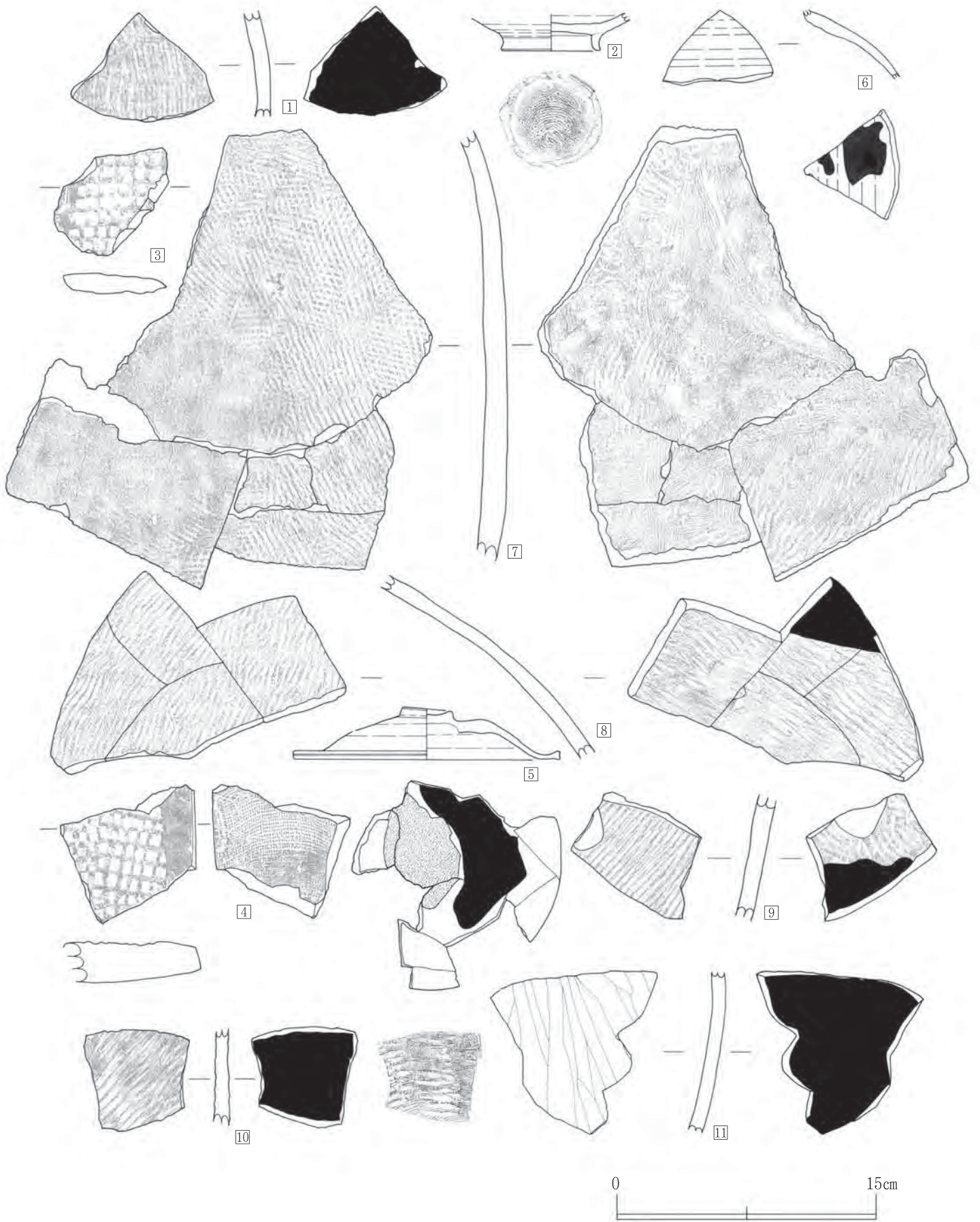
第125図 遺構外出土遺物 乙B地区(1)



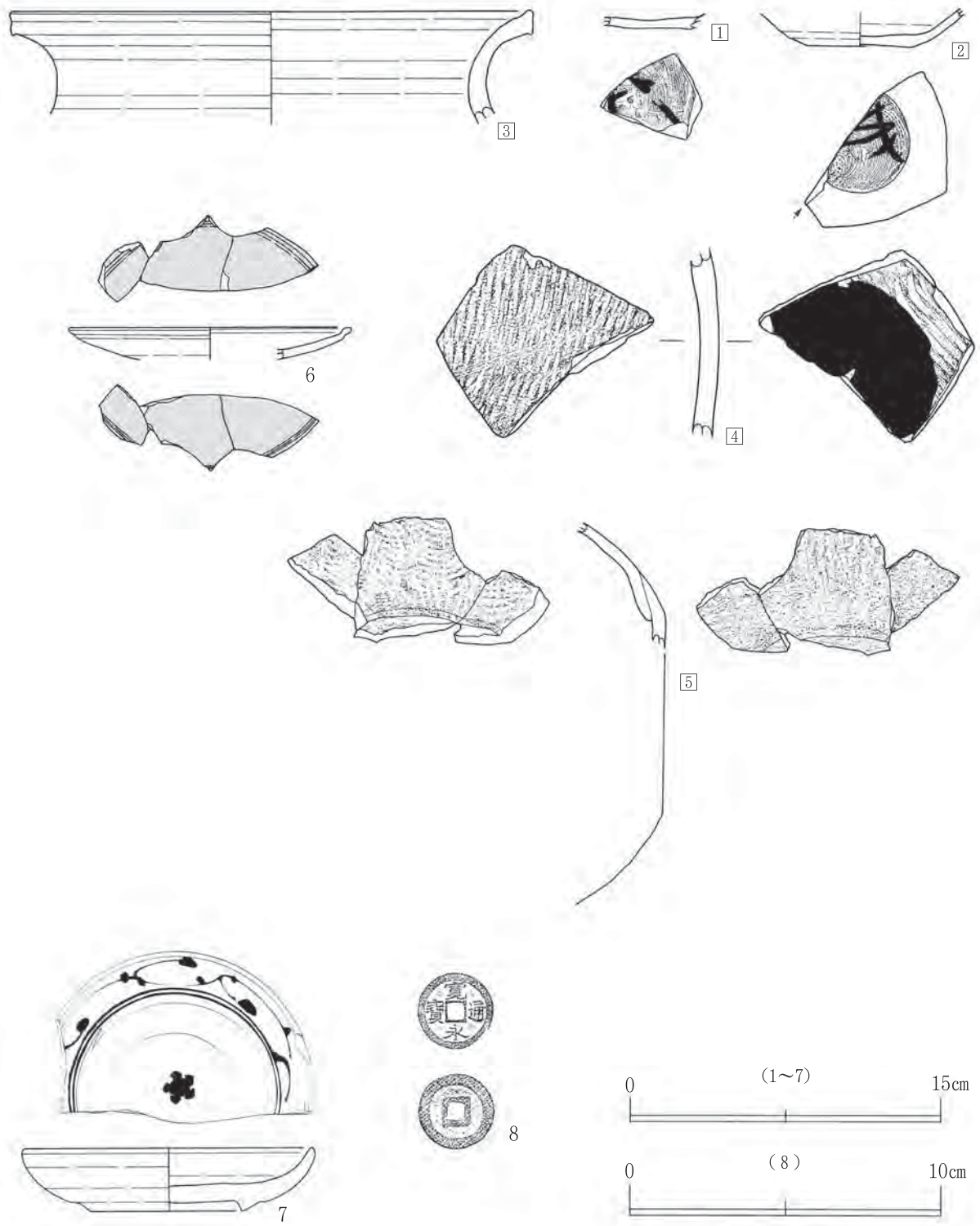
第126図 遺構外出土遺物 乙B地区(2)



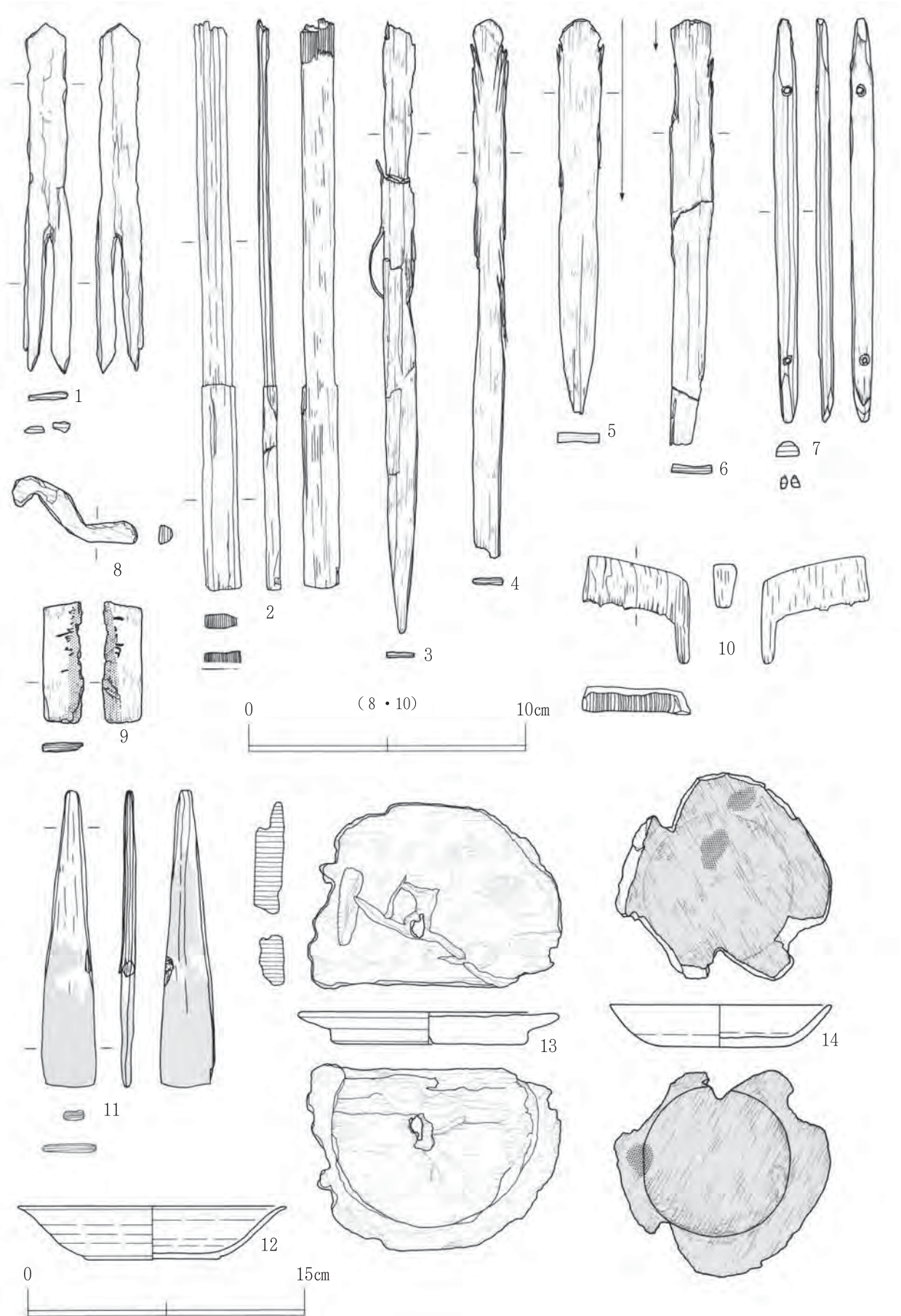
第127図 遺構外出土遺物 乙B地区 (3)



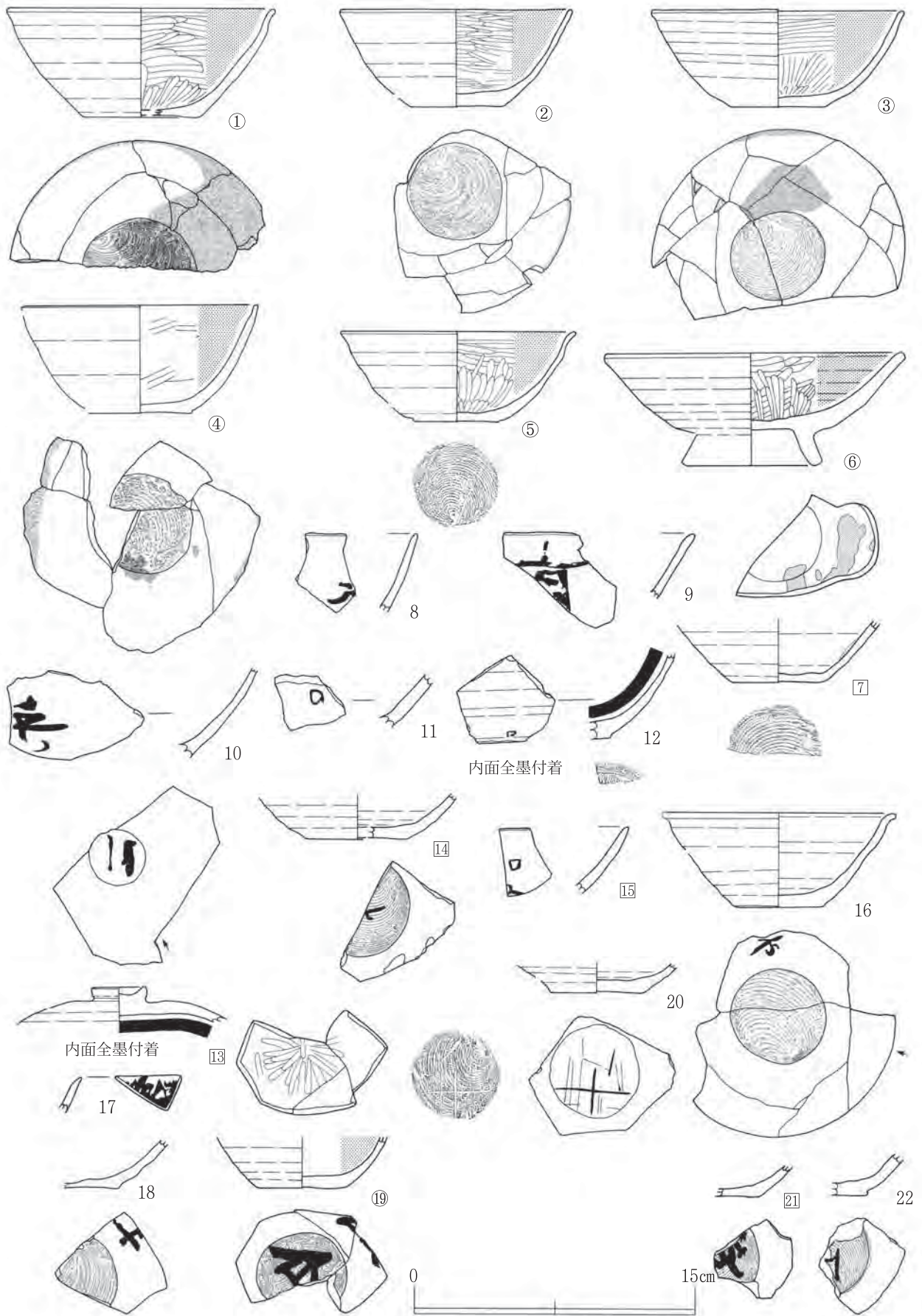
第128図 遺構外出土遺物 乙B地区(4)



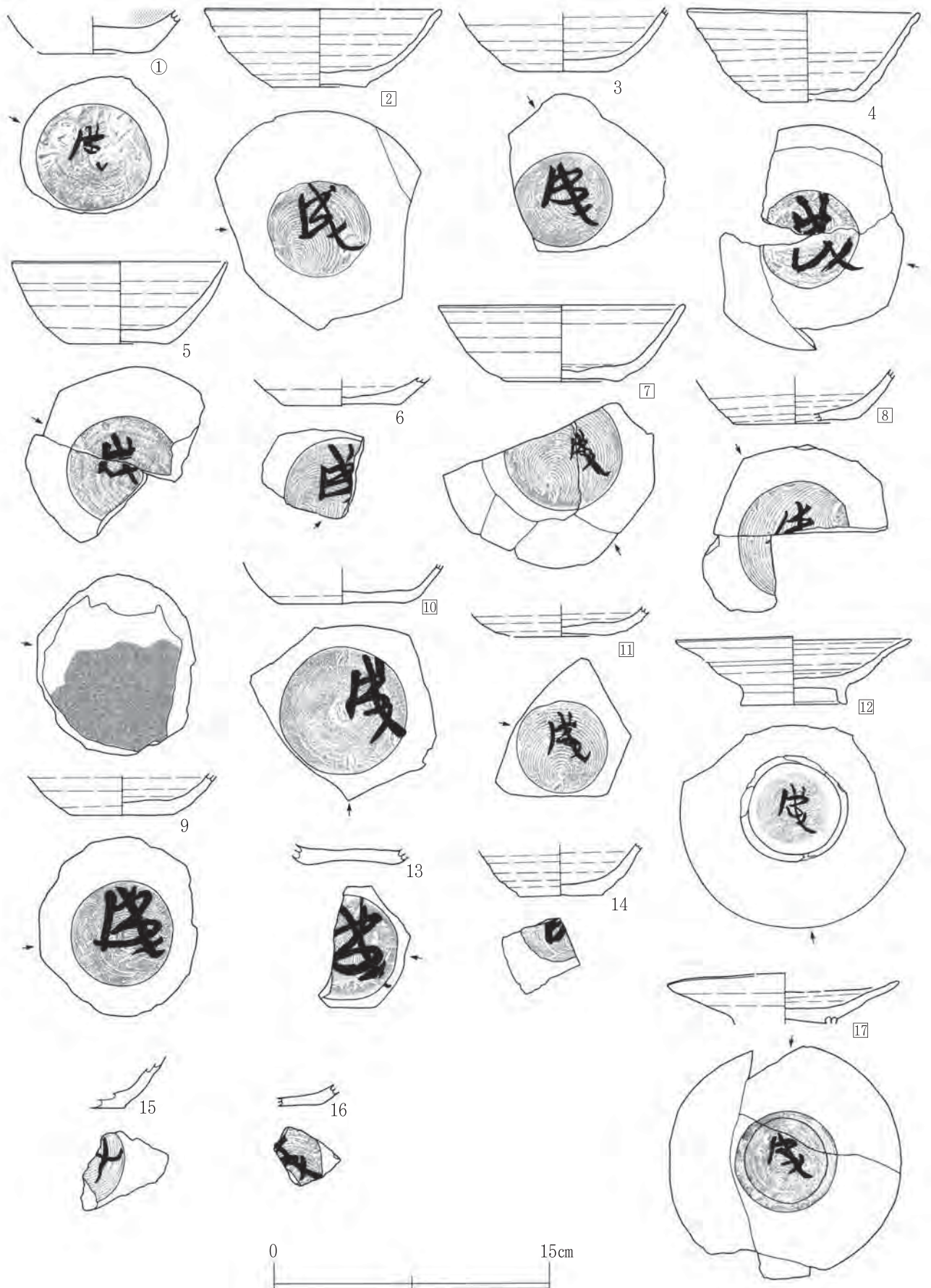
第129図 遺構外出土遺物 乙B地区(5)



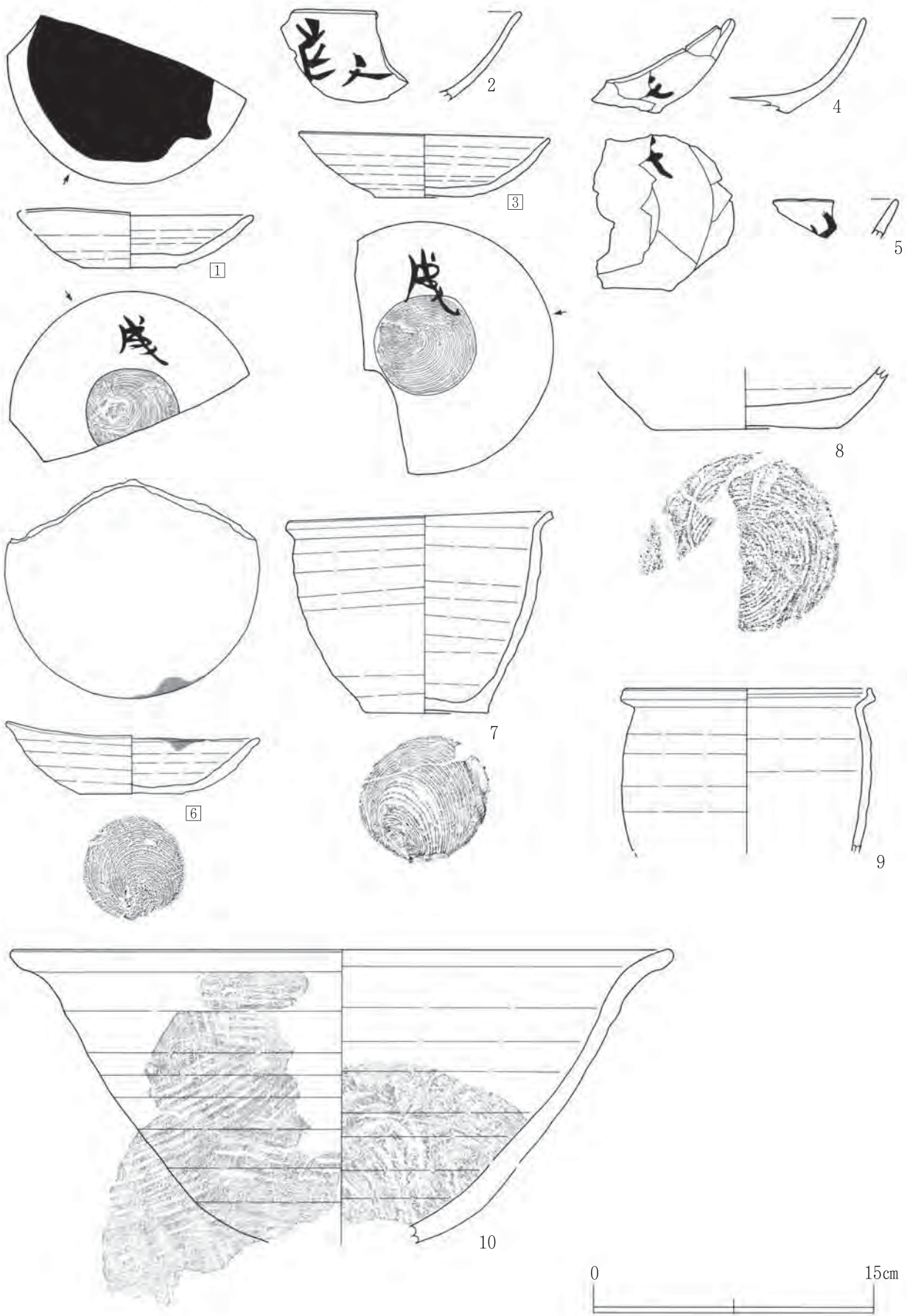
第130图 遺構外出土遺物 乙B地区(6)



第131図 遺構外出土遺物 SB地区(1)



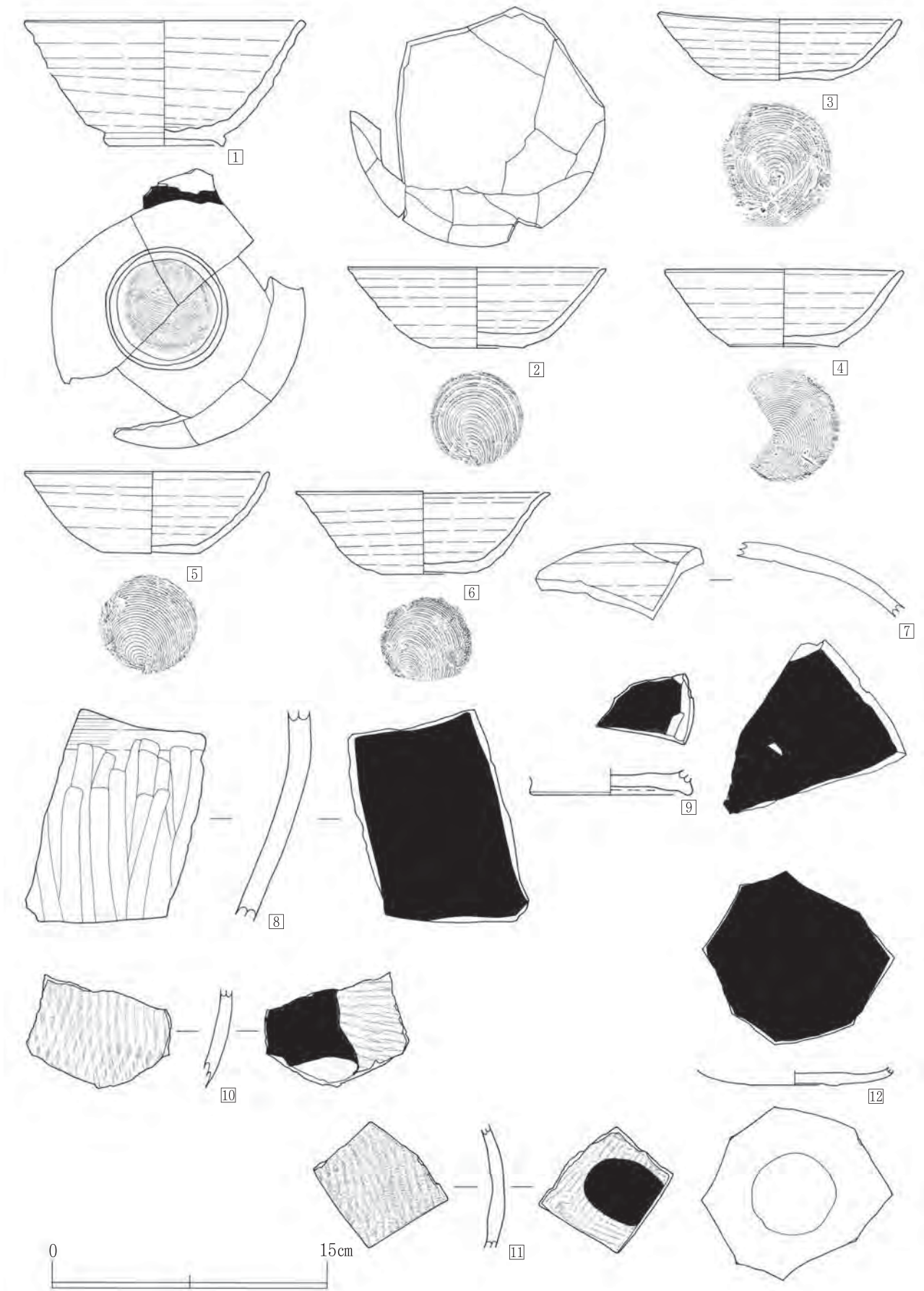
第132図 遺構外出土遺物 SB地区 (2)



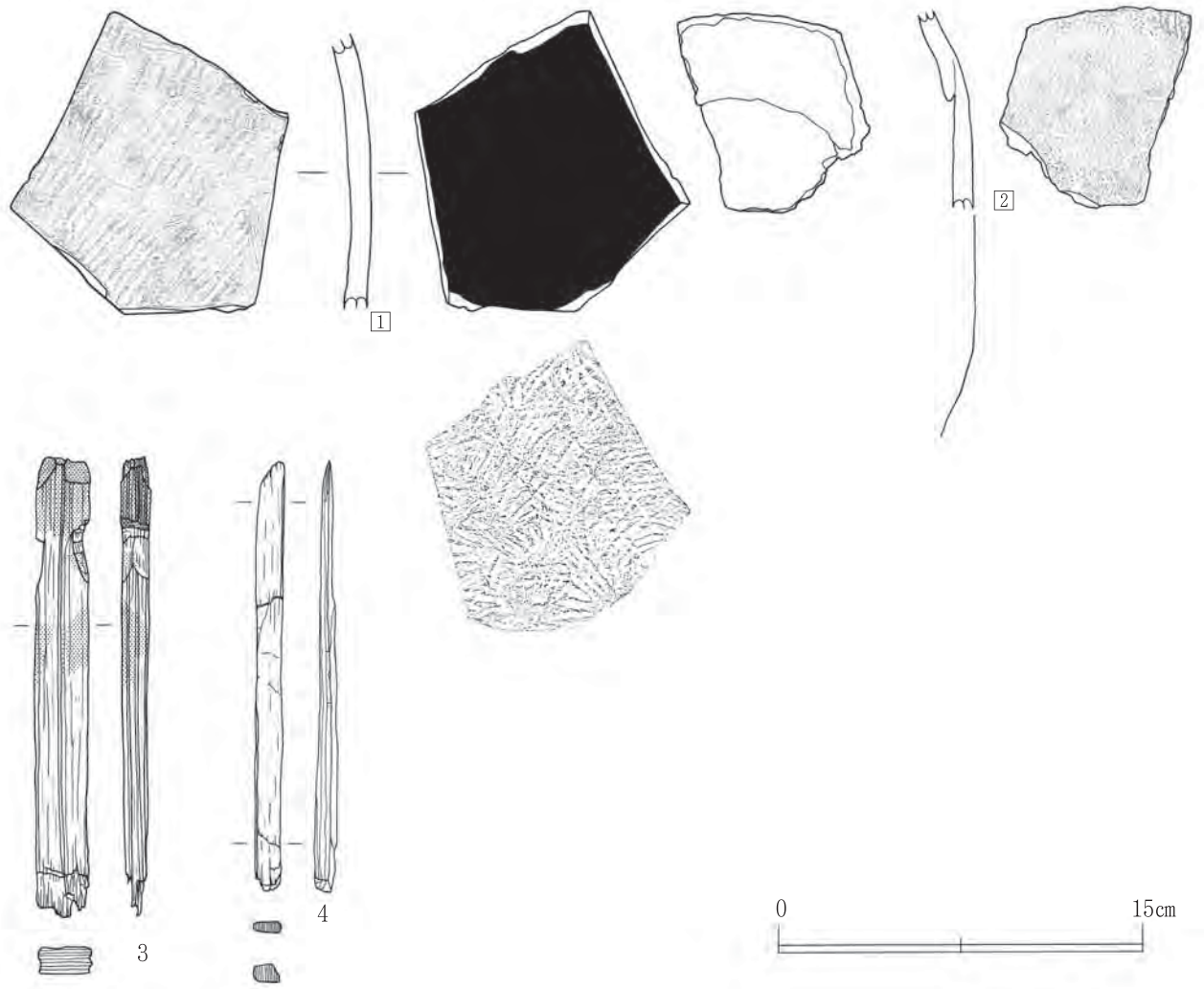
第133図 遺構外出土遺物 SB地区(3)



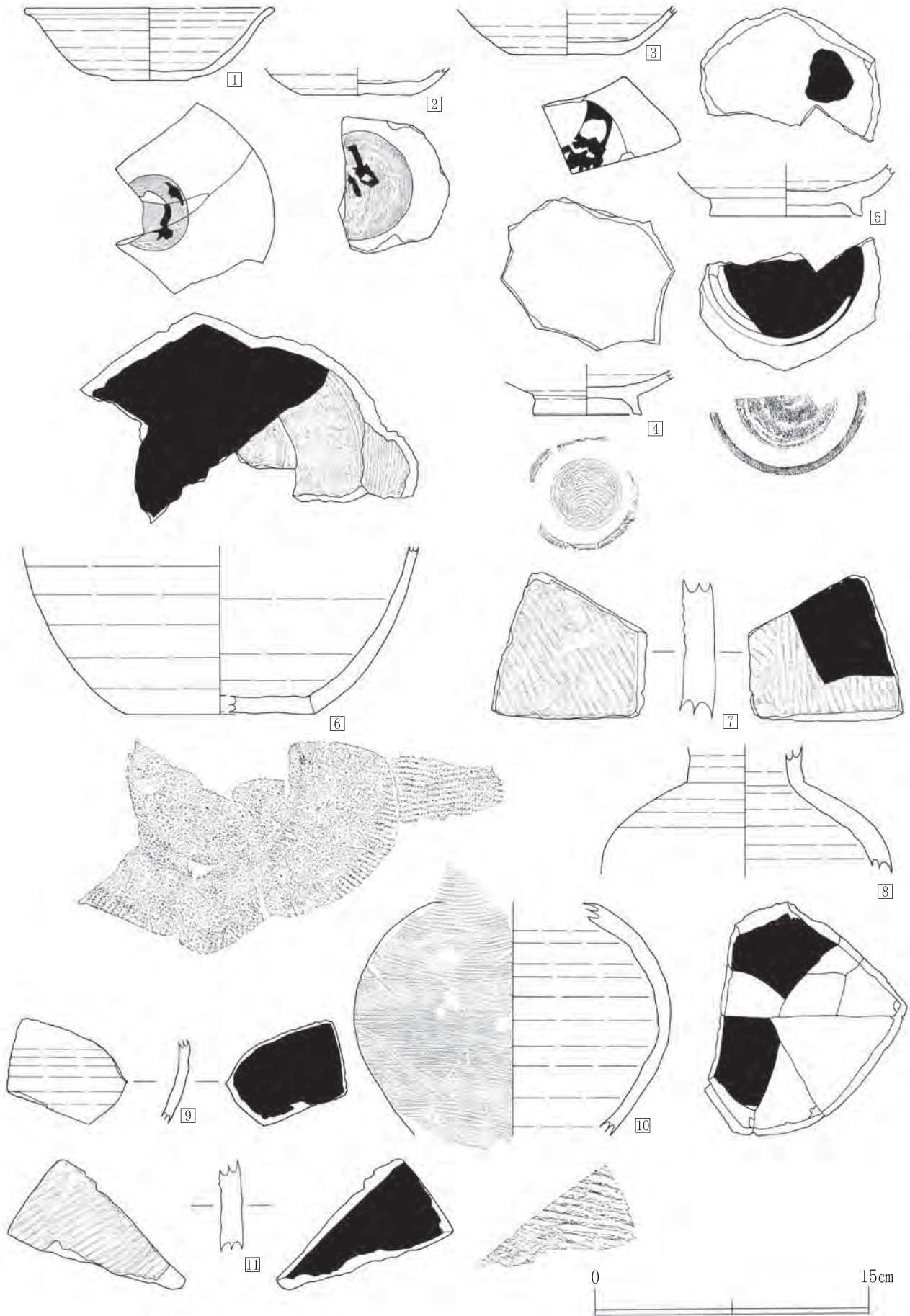
第134図 遺構外出土遺物 SB地区(4)



第135図 遺構外出土遺物 SB地区(5)



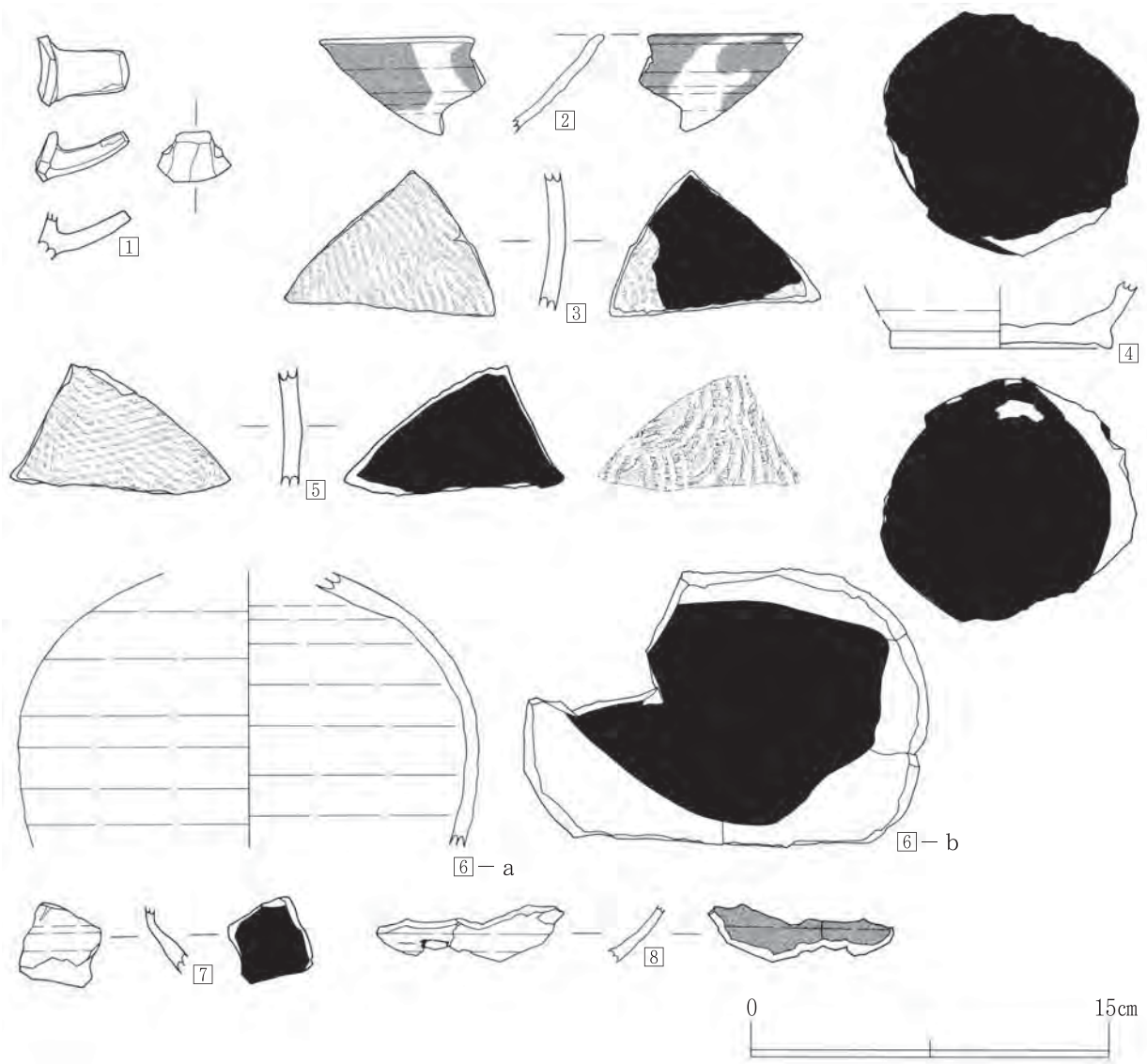
第136図 遺構外出土遺物 SB地区(6)



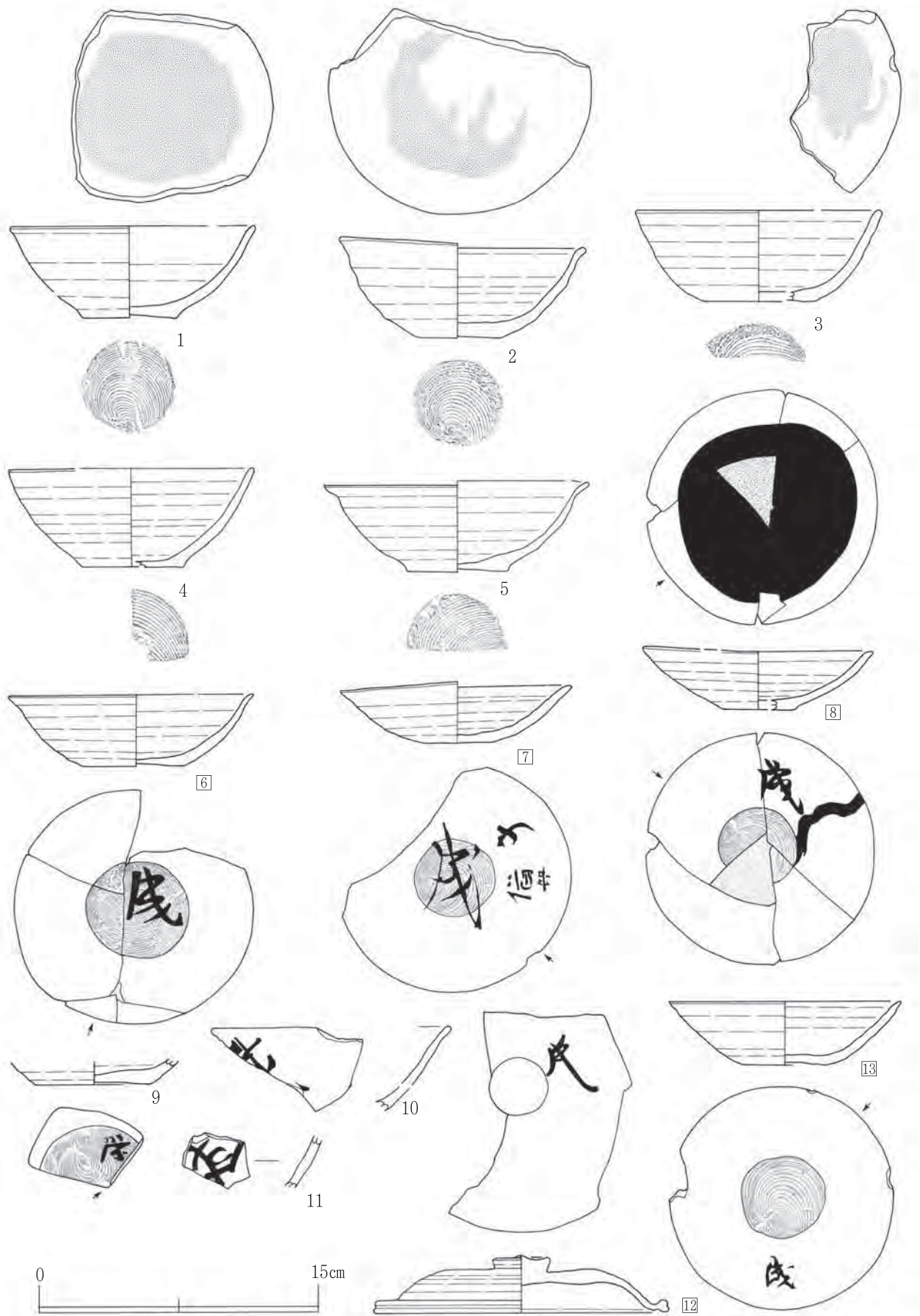
第137図 遺構外出土遺物 SB地区(7)



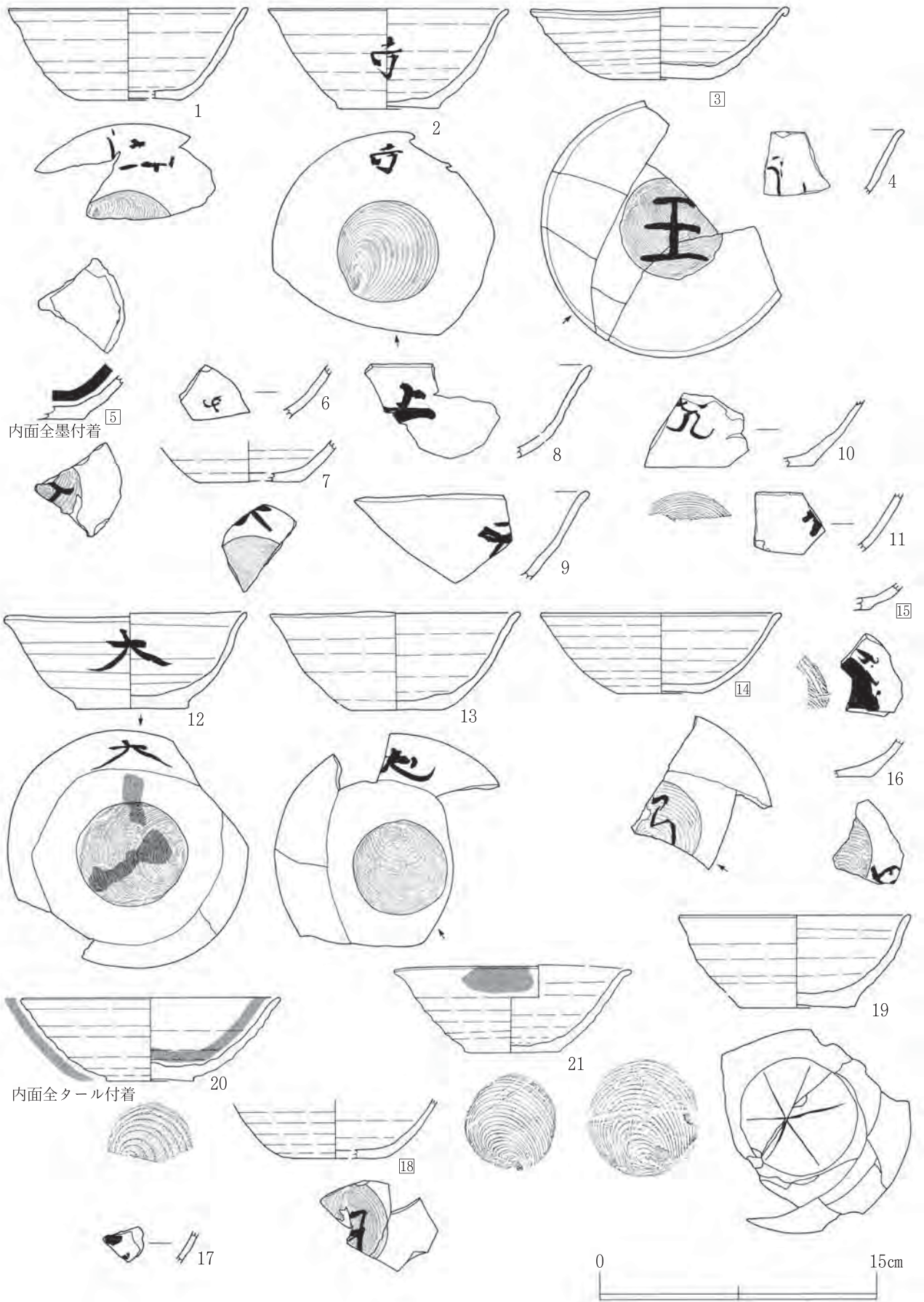
第138図 遺構外出土遺物 S L地区 (1)



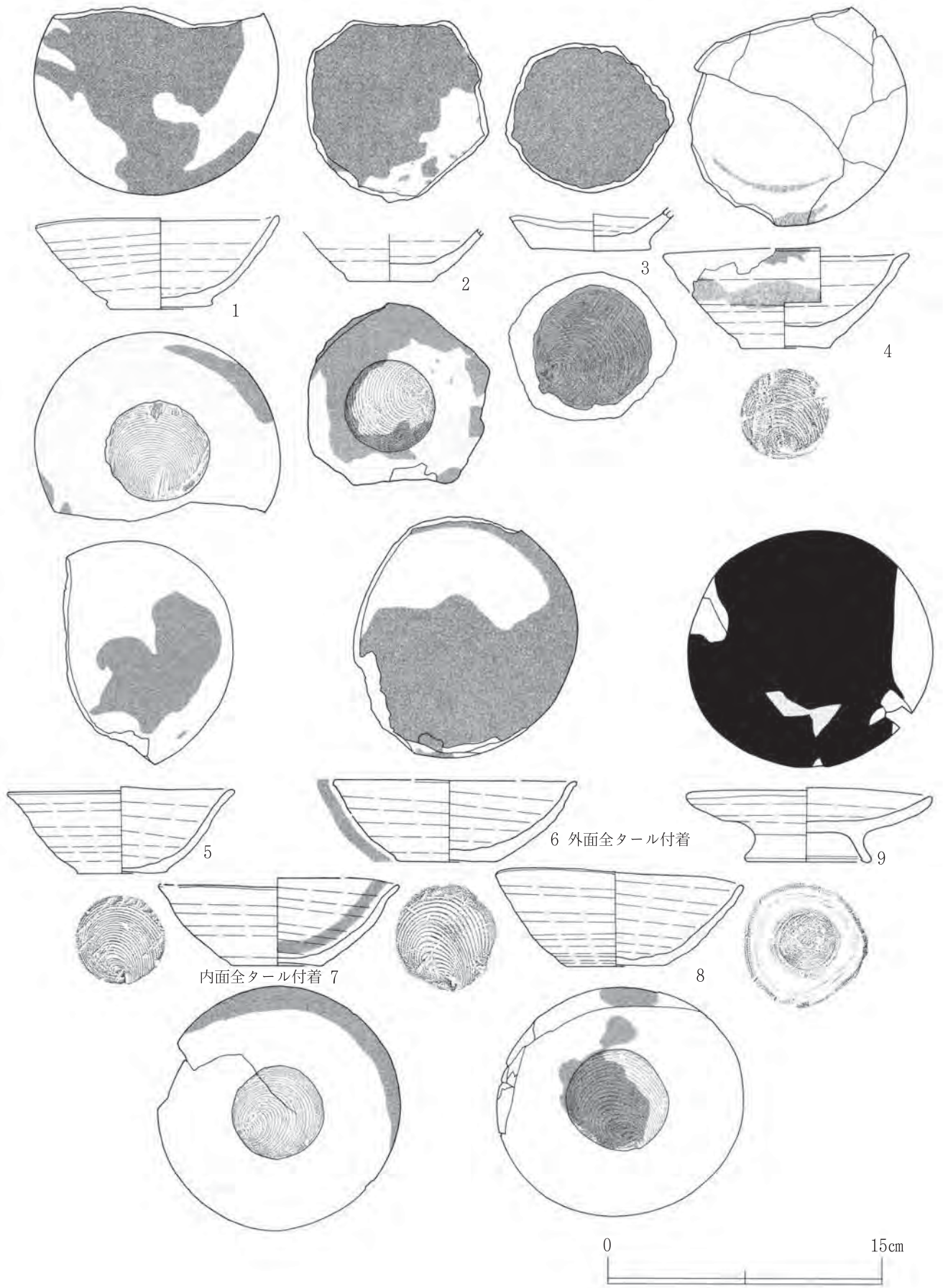
第139図 遺構外出土遺物 SL地区(2)



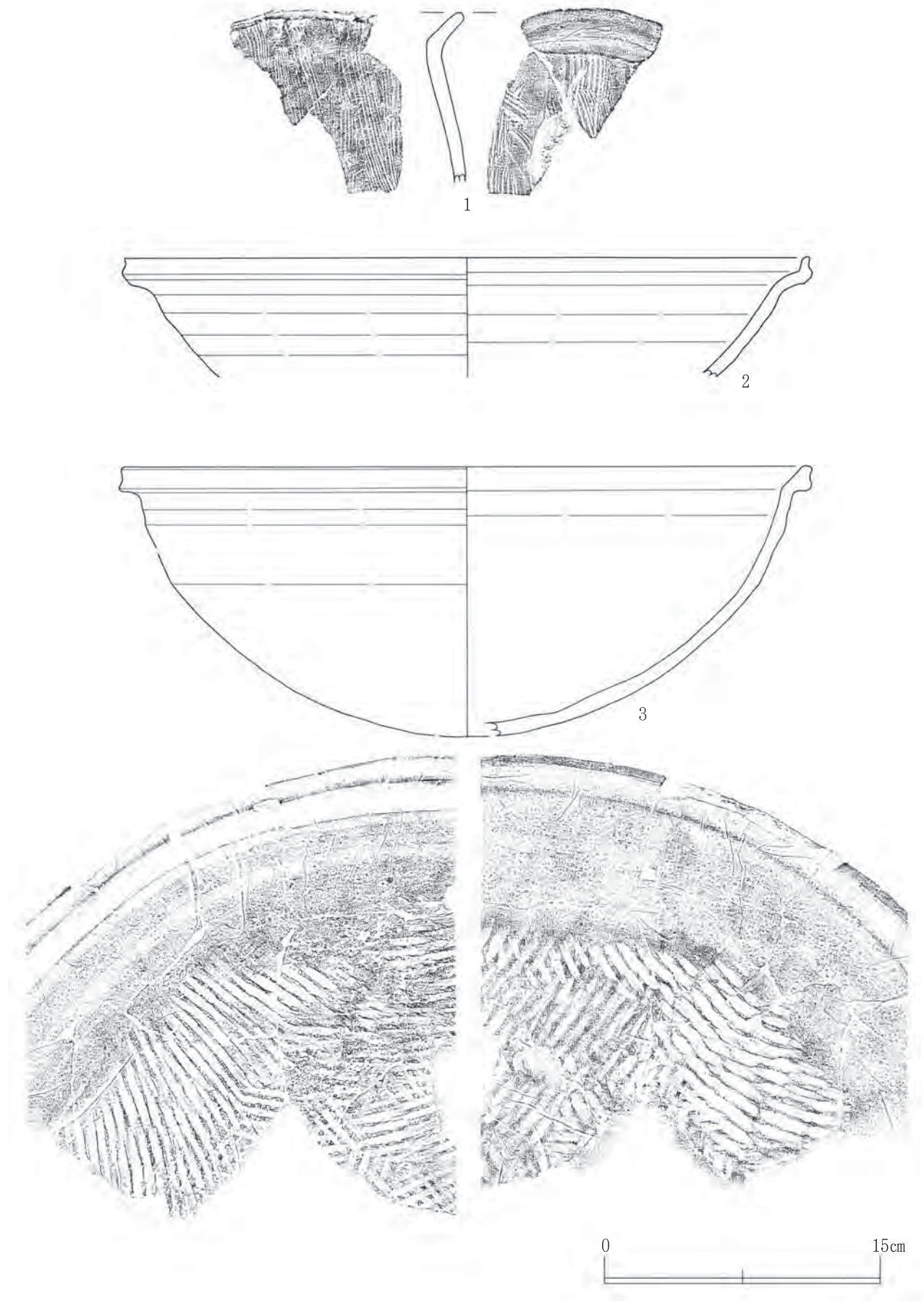
第140図 遺構外出土遺物 その他の地区（1）



第141図 遺構外出土遺物 その他の地区 (2)



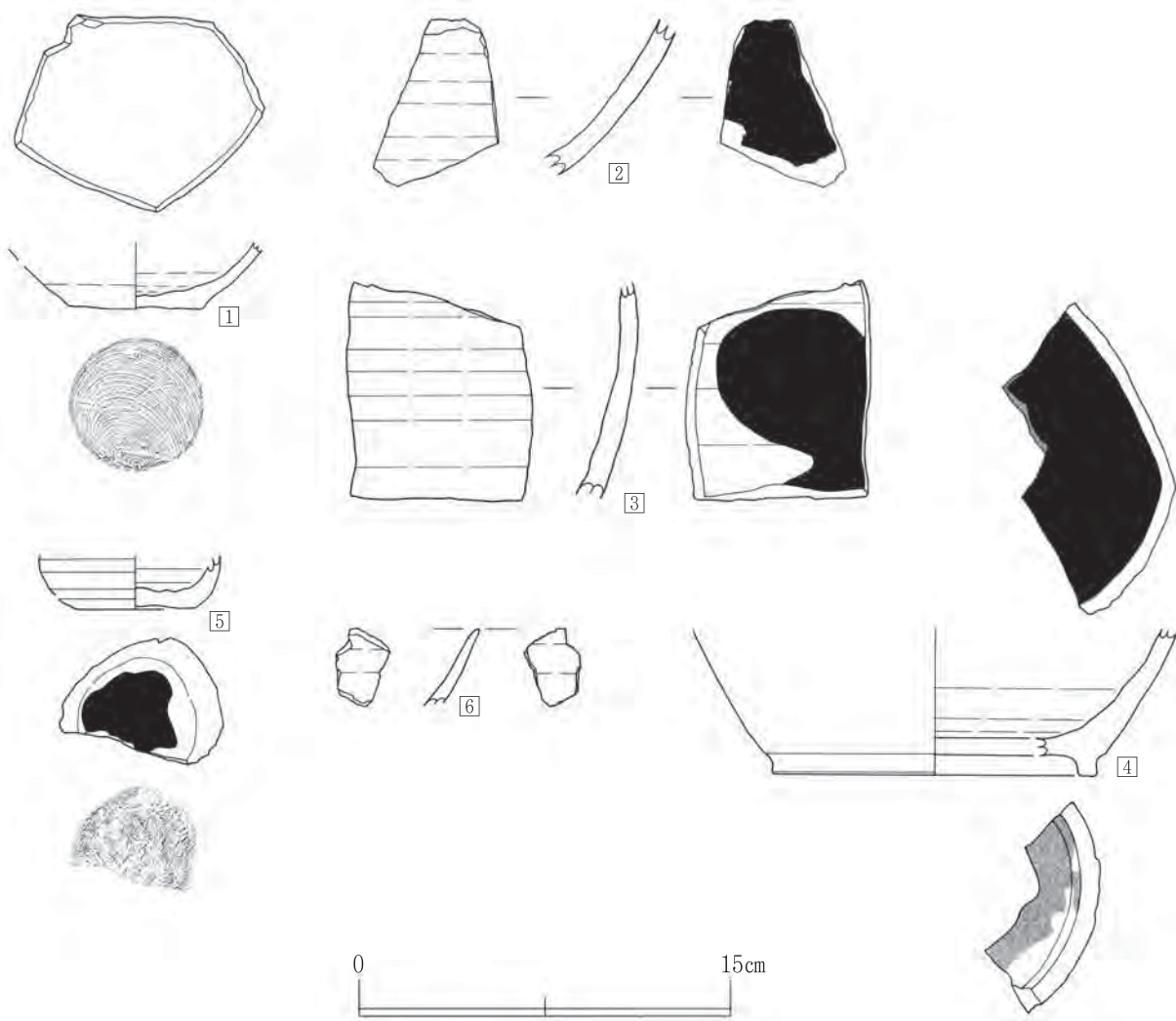
第142図 遺構外出土遺物 その他の地区 (3)



第143図 遺構外出土遺物 その他の地区（4）



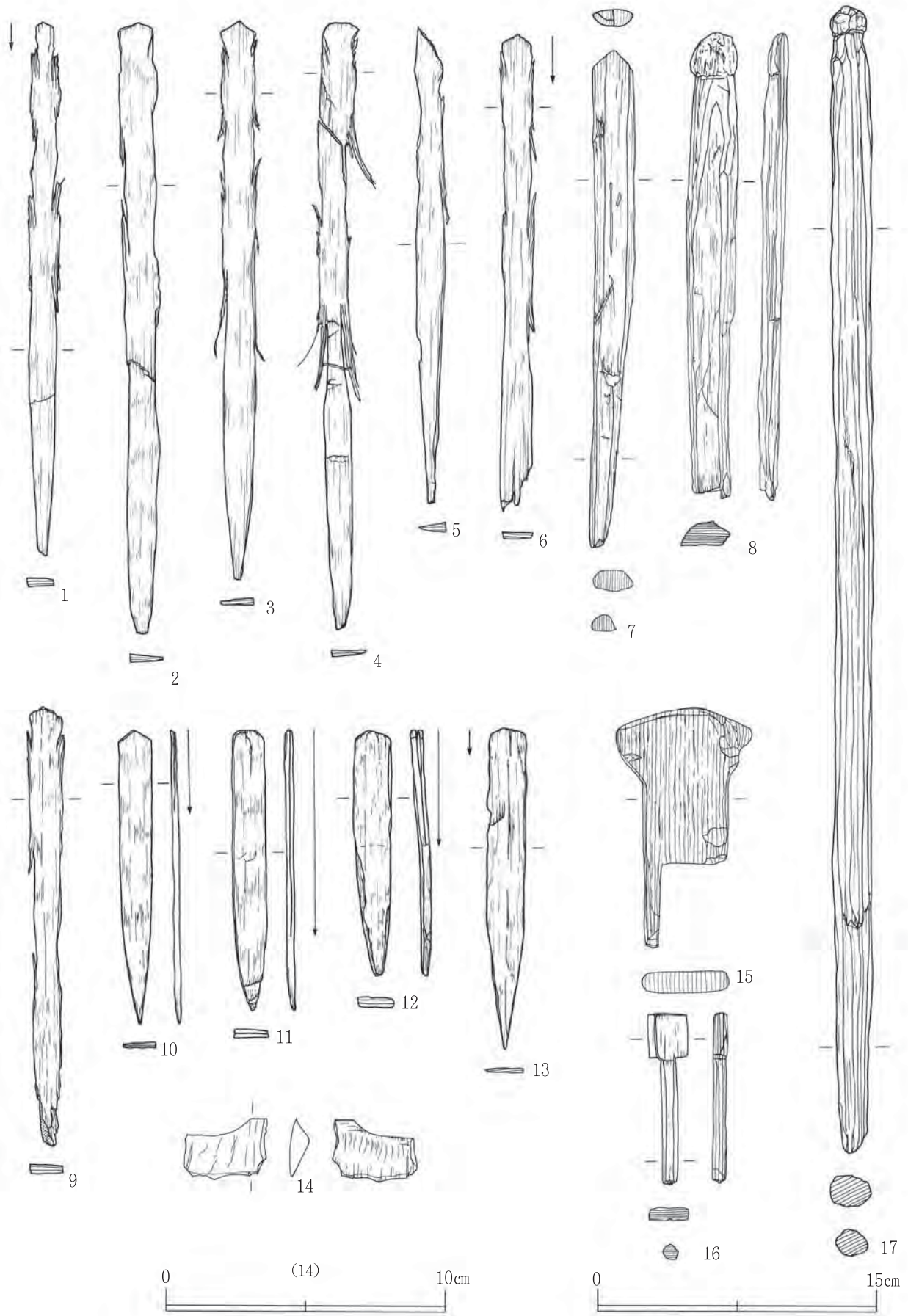
第144図 遺構外出土遺物 その他の地区 (5)



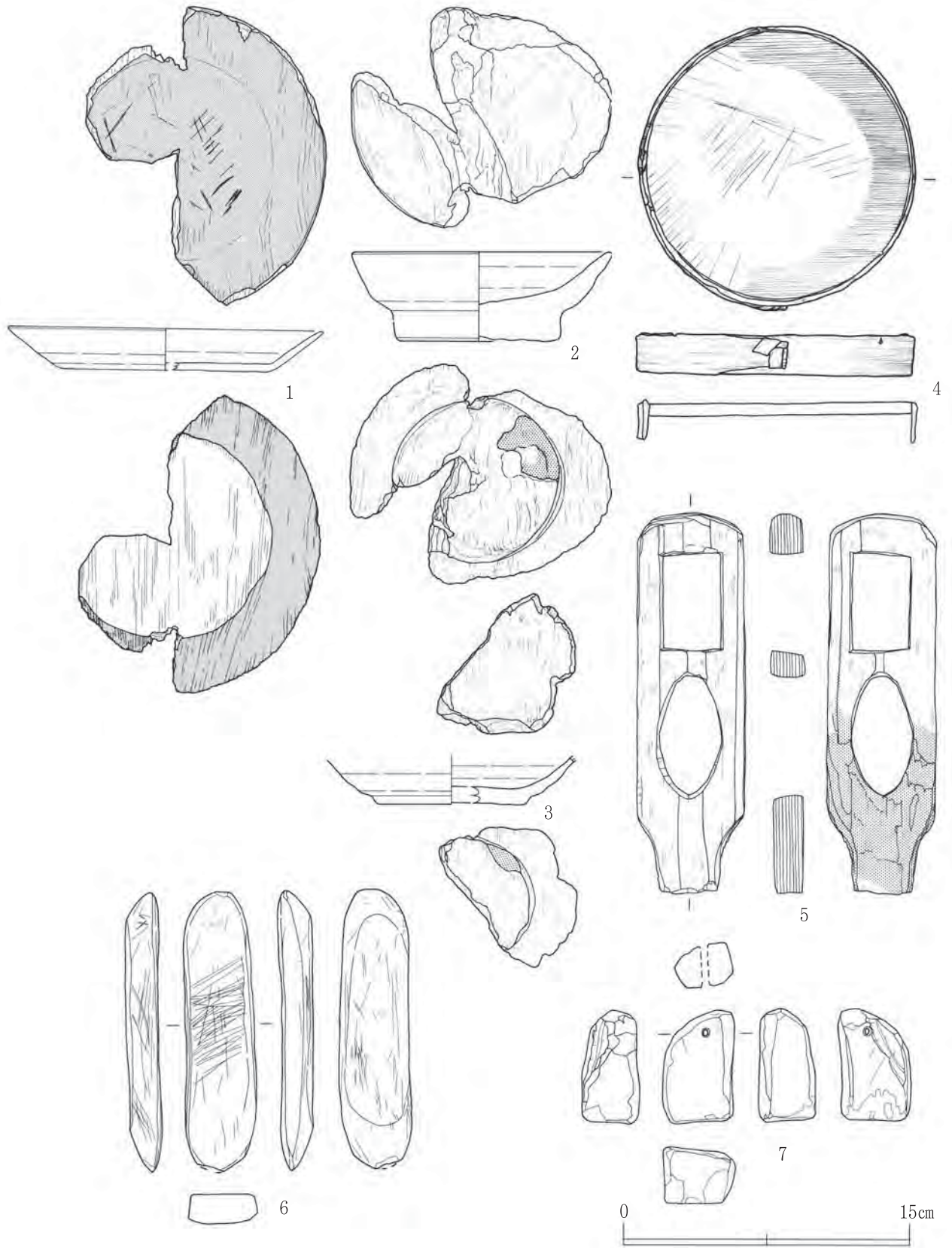
第145図 遺構外出土遺物 その他の地区（6）



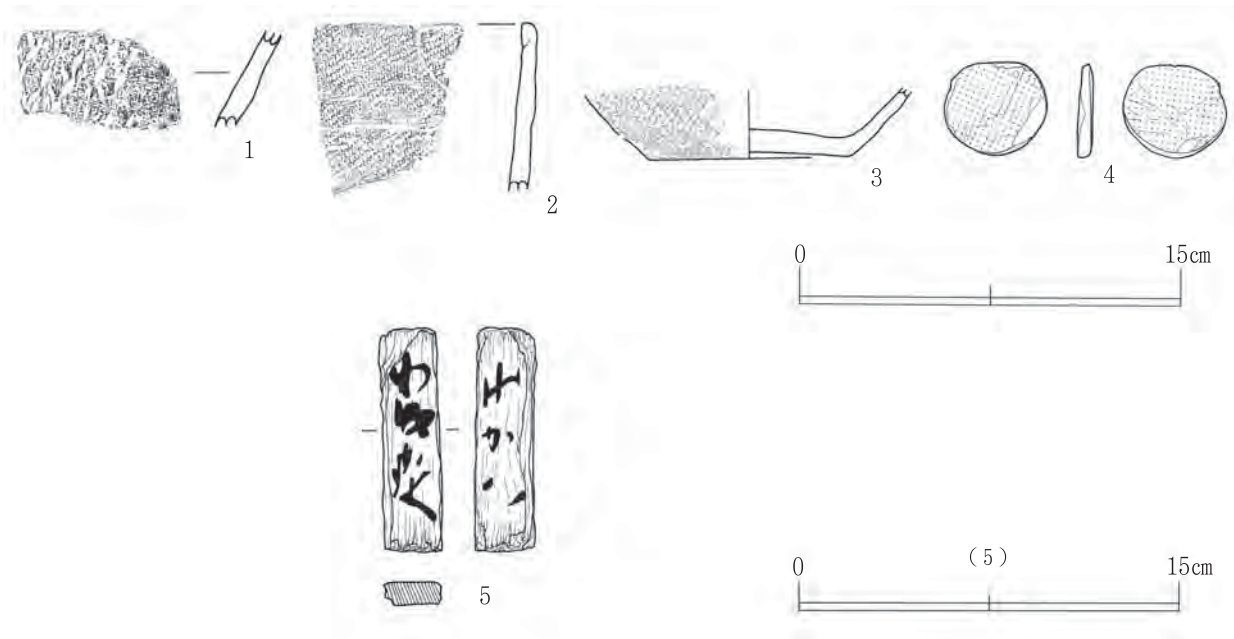
第146図 遺構外出土遺物 その他の地区(7)



第147図 遺構外出土遺物 その他の地区 (8)



第148図 遺構外出土遺物 その他の地区（9）



第149図 遺構外出土遺物 その他の地区 (10)

第5章 自然科学的分析

第1節 樹種同定

秋田県厨川谷地遺跡出土木製品の樹種調査結果（1）

(株) 吉田生物研究所 汐見 真
京都造形芸術大学 岡田 文男

1. 試料

試料は秋田県厨川谷地遺跡から出土した服飾具1点、容器6点、文房具4点、祭祀具2点の合計13点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹2種、広葉樹2種）表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) スギ科スギ属スギ(*Cryptomeria japonica* D.Don)、(遺物No.1,5,13)、(写真No.1,5,13)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1~3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

2) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujaopsis* sp.)、(遺物No.2~4)、(写真No.2~4)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

3) ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)、(遺物No.6~11)、(写真No.6~11)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（ $\sim 270\mu\text{m}$ ）が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシャル柔組織）。放射組織は1~数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1~3列のものと大部分を占める6~7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

4) モクレン科モクレン属 (*Magnolia* sp.)、(遺物No.12)、(写真No.12)

散孔材である。木口ではやや小さい道管(～110 μ m)が単独ないし2～4個複合して多数分布する。軸方向柔組織は1～2層の幅で年輪界に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性と平伏と直立細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は階段状である。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～700 μ mとなっている。モクレン属は、モクレン、ホオノキ、コブシなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

- 島地 謙・伊東隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版(1988)
 島地 謙・伊東隆夫 「図説木材組織」 地球社(1982)
 伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」 京都大学木質科学研究所(1999)
 北村二郎・村田 源 「原色日本植物図鑑木本編 I・II」 保育社(1979)

◆使用顕微鏡◆

Nikon MICROFLEX UFX-DX Type 115

秋田県厨川谷地遺跡出土木製品樹種同定表

No.	品名	樹種
1	木簡	スギ科スギ属スギ
2	木簡	ヒノキ科アスナロ属
3	木簡	ヒノキ科アスナロ属
4	木簡	ヒノキ科アスナロ属
5	陽物	スギ科スギ属スギ
6	漆器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
7	漆器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
8	漆器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
9	漆器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
10	漆器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
11	漆器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
12	下駄	モクレン科モクレン属
13	斎串	スギ科スギ属スギ

秋田県厨川谷地遺跡出土木製品の樹種調査結果（2）

（株）吉田生物研究所 汐見 真

1. 試料

試料は秋田県厨川谷地遺跡から出土した祭祀具4点、服飾具3点、容器1点、文房具2点の合計10点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹1種、広葉樹2種）の顕微鏡写真と表を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) スギ科スギ属スギ(*Cryptomeria japonica* D.Don)、(遺物No.1~3,7~9)、(写真No.1~3,7~9)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1~3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

2) ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)、(遺物No.4,10)、(写真No.4,10)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（ $\sim 270\mu\text{m}$ ）が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシャル柔組織）。放射組織は1~数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1~3列のものと大部分を占める6~7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下の端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

3) マンサク科イスノキ属イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.)、(遺物No.5,6)、(写真No.5,6)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 50\mu\text{m}$ ）がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は1~2列のものが多数走っているのが見られる。柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物（チロース）がある。軸方向には黒いすじの柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1~2細胞列、高さ $\sim 1\text{mm}$ で多数分布している。イスノキは本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。

◆ 参考文献 ◆

- 島地 謙・伊東隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版（1988）
 島地 謙・伊東隆夫 「図説木材組織」 地球社（1982）
 伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」 京都大学木質科学研究所（1999）
 北村四郎・村田 源 「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」 保育社（1979）
 深澤和三 「樹体の解剖」 海青社（1997）

◆ 使用顕微鏡 ◆

Nikon MICROFLEX UFX-DX Type 115

秋田県厨川谷地遺跡出土木製品同定表

No.	品名	樹種
1	木簡	スギ科スギ属スギ
2	木簡	スギ科スギ属スギ
3	斎串	スギ科スギ属スギ
4	容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
5	櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
6	櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
7	形代	スギ科スギ属スギ
8	形代	スギ科スギ属スギ
9	形代	スギ科スギ属スギ
10	下駄	ニレ科ケヤキ属ケヤキ

秋田県厨川谷地遺跡出土木製品の樹種調査結果（3）

（株）吉田生物研究所

1. 試料

試料は秋田県厨川谷地遺跡から出土した工具2点、農具3点、紡織具1点、漁撈具1点、武器1点、服飾具6点、容器23点、文房具5点、祭祀具35点、雑具3点、用途不明品4点の合計84点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹3種、広葉樹7種、果皮1種、非植物1種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) マツ科マツ属[二葉松類] (*Pinus* sp.)、(遺物No.23(もえかす),42a,43)、(写真No.23(もえかす),42a,43)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が、細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で1~15細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属[二葉松類]はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

2) スギ科スギ属スギ(*Cryptomeria japonica* D.Don)、(遺物No.20,22,23(本体),24~27,29~32,40,41,42b,45~51,53~71,73~77,81)、(写真No.20,22,23(本体),24~27,29~32,40,41,42b,45~51,53~71,73~77,81)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1~3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

3) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujaopsis* sp.)、(遺物No.21,28,33,34,39,52,78,80)、(写真No.21,28,33,34,39,52,78,80)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

4) カバノキ科アサダ属アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.)、(遺物No.35)、(写真No.35)

散孔材である。木口ではやや大きい道管（~200 μ m）が単独ないし数個放射方向に複合して分布している。軸方向柔細胞は年輪界と接線状が顕著である。柾目では道管は単穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏細胞からなる同性と直立、平伏細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は中型である。板目では放射組織は1~3細胞列、高さ~750 μ mであった。アサダは北海道、本州、四国、

九州に分布する。

- 5) ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect *Prinus* sp.)、(遺物No.72,83)、(写真No.72,83)

環孔材である。木口では大道管 ($\sim 380 \mu\text{m}$) が年輪界にそって1~3列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは2~3個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

- 6) ニレ科ニレ属 (*Ulmus* sp.)、(遺物No.9(破片),84)、(写真No.9(破片),84)

環孔材である。木口では大道管 ($\sim 300 \mu\text{m}$) が2~3列で孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が多数接合して複合管孔を形成し、花束状、斜線状、接線状に比較的規則的に配列する。軸方向柔細胞は周囲状が顕著である。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を持つ。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は柵状の壁孔が存在する。板目では放射組織は1~6細胞列、高さ $\sim 740 \mu\text{m}$ である。ニレ属はハルニレ、アキニレ、オヒョウがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

- 7) ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)、(遺物No.1~9(本体),10~13(本体),14~19)、(写真No.1~9(本体),10~13(本体),14~19)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管 ($\sim 270 \mu\text{m}$) が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している(イニシアル柔組織)。放射組織は1~数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1~3列のものと同部分を占める6~7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

- 8) マンサク科イスノキ属イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.)、(遺物No.36,38)、(写真No.36,38)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 ($\sim 50 \mu\text{m}$) がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は1~2列のものが多数走っているのが見られる。柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物(チロース)がある。軸方向には黒いすじの柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1~2細胞列、高さ $\sim 1\text{mm}$ で多数分布している。イスノキは本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布する。

- 9) カエデ科カエデ属 (*Acer* sp.)、(遺物No.44,79,82)、(写真No.44,79,82)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 ($\sim 100 \mu\text{m}$) が単独ないし数個複合して分布する。軸方

向柔細胞は年輪界で顕著である。木繊維の壁に厚薄があり木口面で濃淡模様が出る。柾目では道管は単穿孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ～1mmからなる。カエデ属はウリカエデ、イタヤカエデ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

10) ウリ科ユウガオ属(*Lagenaria leucantha* sp.)の果皮、(遺物No.13(破片))、(写真No.13(破片))

横断面では外側から厚壁細胞の厚壁組織、その内側の薄壁細胞の柔組織がみられる。縦断面では多面体の柔細胞がみられる。ユウガオ属のユウガオとヒョウタンの果実はともに熟成すると果皮が堅くなるので、容器をつくる材料として用いられている。

11) 広葉樹の樹皮、(遺物No.22(破片))、(写真No.22(破片))

木口面は採取出来なかった。柾目面では師管及び軸方向要素と不定形の柔細胞の層が交互に見られる。板目面では師管及び軸方向要素と不定形の柔細胞は複雑に重なり合って見られる。

12) 非木製品、(遺物No.37)、(写真No.37)

試料切片には細胞が確認出来ない為、木材ではないと思われる。

◆参考文献◆

島地 謙・伊東隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版 (1988)

島地 謙・伊東隆夫 「図説木材組織」 地球社 (1982)

伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」 京都大学木質科学研究所 (1999)

北村四郎・村田 源 「原色日本植物図鑑木本編 I・II」 保育社 (1979)

深澤和三 「樹体の解剖」 海青社 (1997)

◆使用顕微鏡◆

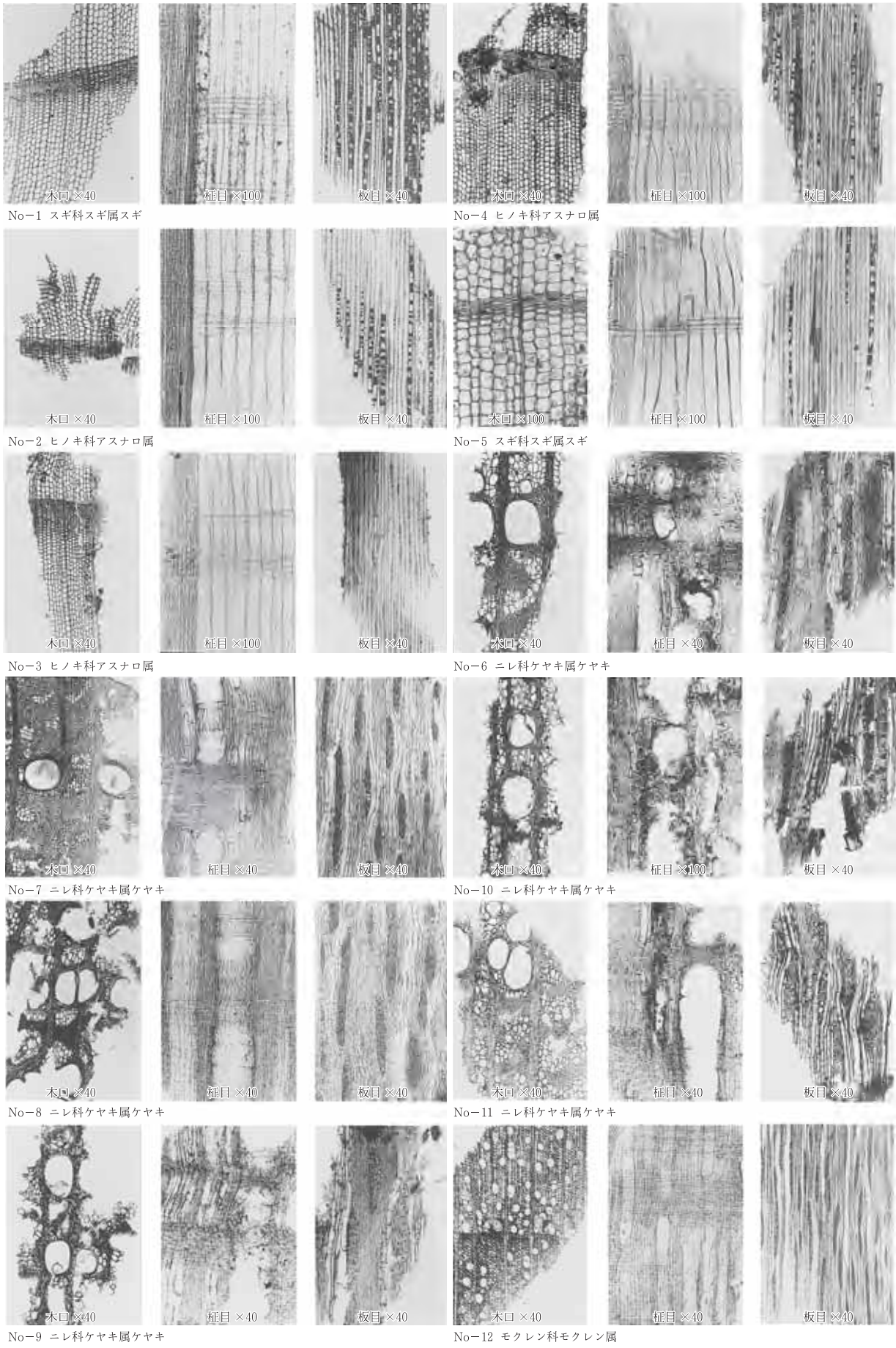
Nikon MICROFLEX UFX-DX Type 115

秋田県厨川谷地遺跡出土木製品同定表

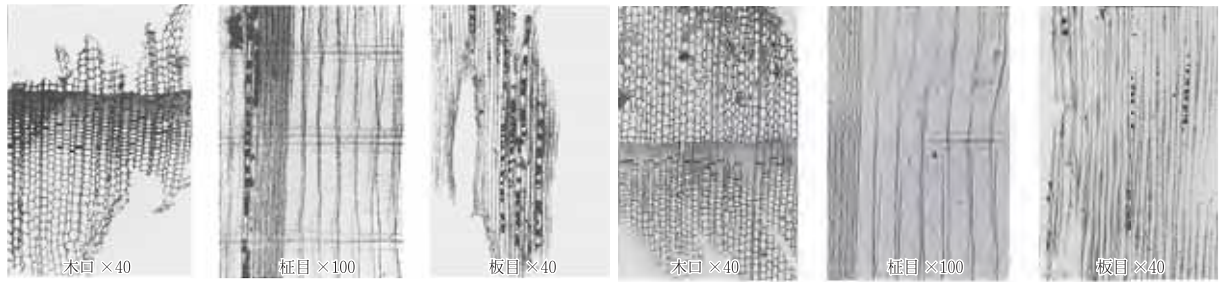
No.	品名	樹種
1	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
2	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
3	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
4	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
5	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
6	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
7	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
8	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
9	木製容器(本体) (破片)	ニレ科ケヤキ属ケヤキ ニレ科ニレ属
10	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ

11	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
12	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
13	木製容器(本体) (破片)	ニレ科ケヤキ属ケヤキ ウリ科ユウガオ属の果皮
14	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
15	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
16	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
17	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
18	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
19	木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
20	曲物	スギ科スギ属スギ
21	曲物	ヒノキ科アスナロ属
22	曲物(本体) (破片)	スギ科スギ属スギ 広葉樹の樹皮
23	曲物(本体) (もえかす)	スギ科スギ属スギ マツ科マツ属〔二葉松類〕
24	木簡	スギ科スギ属スギ
25	木簡	スギ科スギ属スギ
26	木簡(軸)	スギ科スギ属スギ
27	木簡	スギ科スギ属スギ
28	木簡	ヒノキ科アスナロ属
29	斎串	スギ科スギ属スギ
30	斎串	スギ科スギ属スギ
31		スギ科スギ属スギ
32		スギ科スギ属スギ
33	題箋軸	ヒノキ科アスナロ属
34	題箋軸	ヒノキ科アスナロ属
35	櫛	カバノキ科アサダ属アサダ
36	櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
37	櫛	非木製品
38	櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
39	漆篋	ヒノキ科アスナロ属
40	形代	スギ科スギ属スギ
41	形代	スギ科スギ属スギ
42	つけ木a(16.5×6.0cm) b(16.5×6.5cm)	マツ科マツ属〔二葉松類〕 スギ科スギ属スギ
43	矢矯め具	マツ科マツ属〔二葉松類〕
44	くつ形	カエデ科カエデ属
45	棒	スギ科スギ属スギ
46	斎串	スギ科スギ属スギ
47	斎串	スギ科スギ属スギ
48	斎串	スギ科スギ属スギ
49	斎串	スギ科スギ属スギ
50	斎串	スギ科スギ属スギ

51	齋串	スギ科スギ属スギ
52	齋串	ヒノキ科アスナロ属
53	齋串	スギ科スギ属スギ
54	齋串	スギ科スギ属スギ
55	齋串	スギ科スギ属スギ
56	齋串	スギ科スギ属スギ
57	齋串	スギ科スギ属スギ
58	齋串	スギ科スギ属スギ
59	齋串	スギ科スギ属スギ
60	齋串	スギ科スギ属スギ
61	齋串	スギ科スギ属スギ
62	齋串	スギ科スギ属スギ
63	齋串	スギ科スギ属スギ
64	齋串	スギ科スギ属スギ
65	齋串	スギ科スギ属スギ
66	齋串	スギ科スギ属スギ
67	齋串	スギ科スギ属スギ
68	齋串	スギ科スギ属スギ
69	形代	スギ科スギ属スギ
70	形代	スギ科スギ属スギ
71	形代	スギ科スギ属スギ
72	形代	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
73	形代	スギ科スギ属スギ
74	形代	スギ科スギ属スギ
75	扇	スギ科スギ属スギ
76	扇	スギ科スギ属スギ
77	糸巻	スギ科スギ属スギ
78	漆籠	ヒノキ科アスナロ属
79	こもつち	カエデ科カエデ属
80	串	ヒノキ科アスナロ属
81	棒	スギ科スギ属スギ
82	櫓	カエデ科カエデ属
83	こもつち	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
84	杵	ニレ科ニレ属

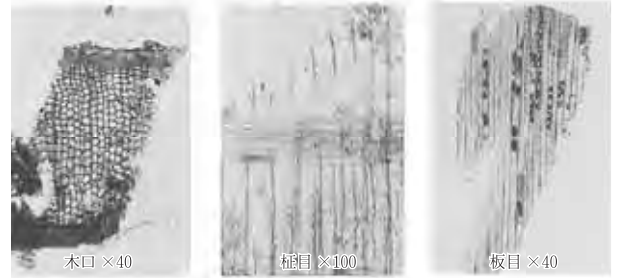


分析図版1 (1) 写真1~12

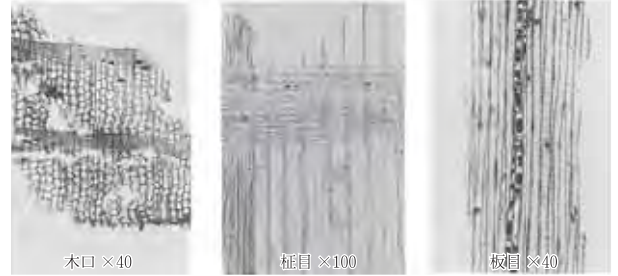


No-13 スギ科スギ属スギ

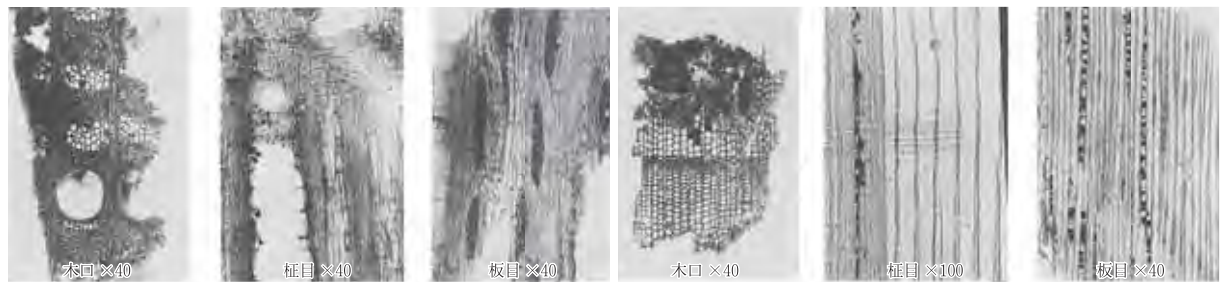
No-1 スギ科スギ属スギ



No-2 スギ科スギ属スギ

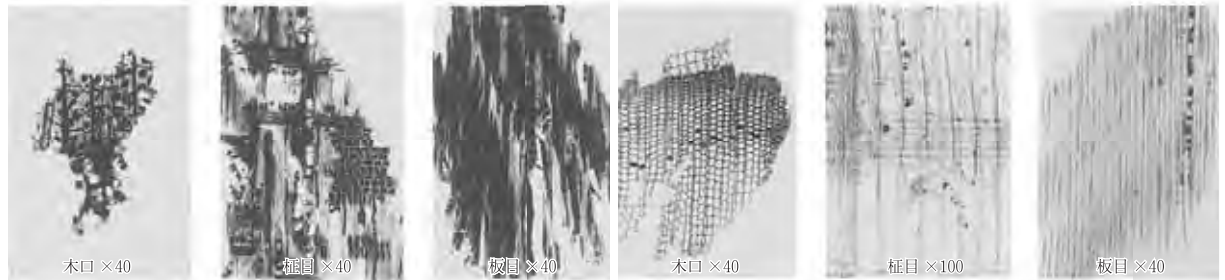


No-3 スギ科スギ属スギ



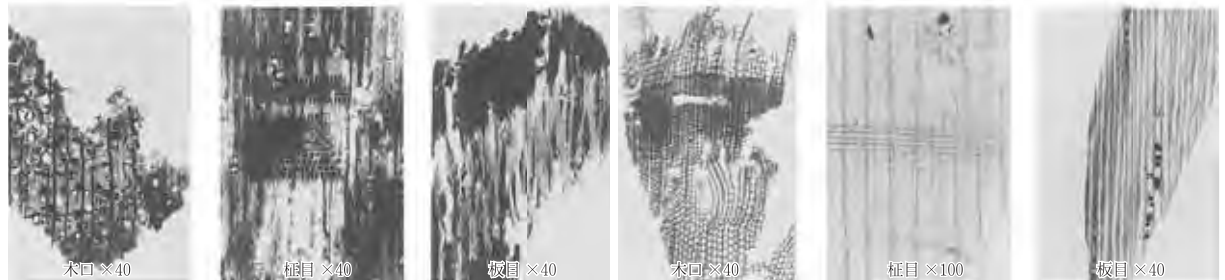
No-4 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

No-7 スギ科スギ属スギ



No-5 マンサク科イスノキ属イスノキ

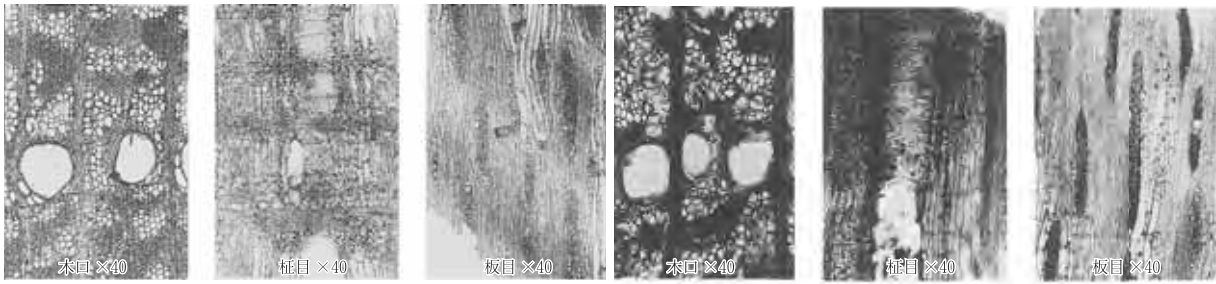
No-8 スギ科スギ属スギ



No-6 マンサク科イスノキ属イスノキ

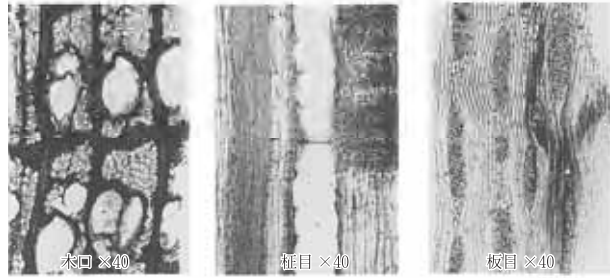
No-9 スギ科スギ属スギ

分析図版2 (1) 写真13, (2) 写真1~9

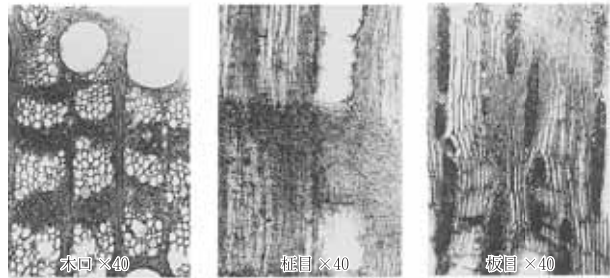


No-10 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

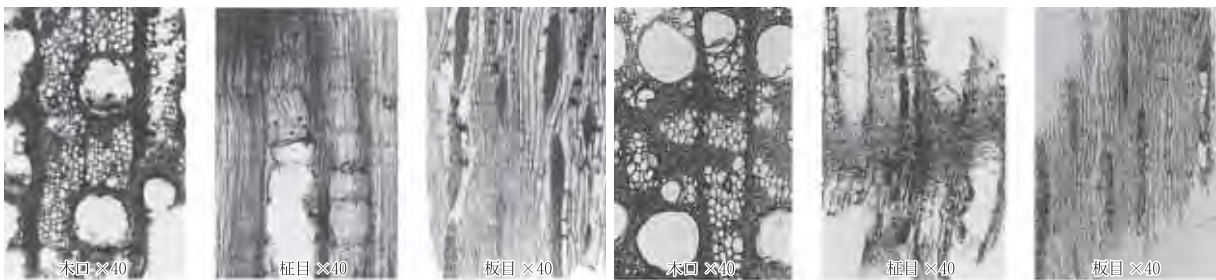
No-1 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



No-2 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

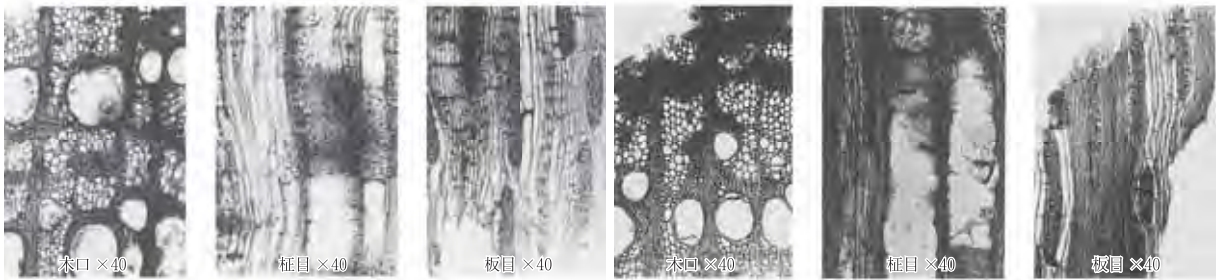


No-3 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



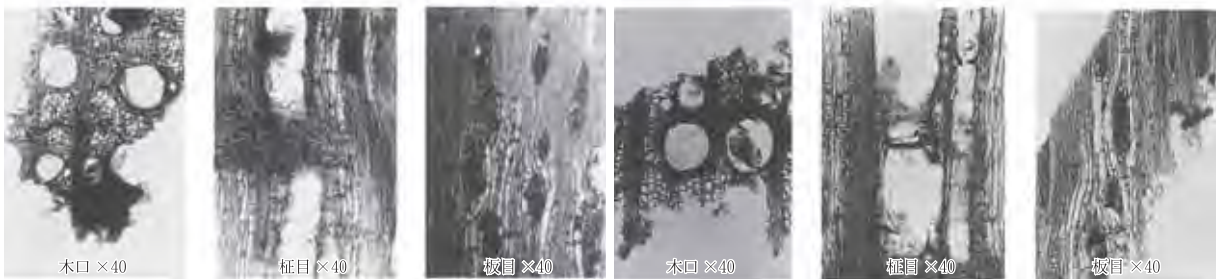
No-4 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

No-7 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



No-5 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

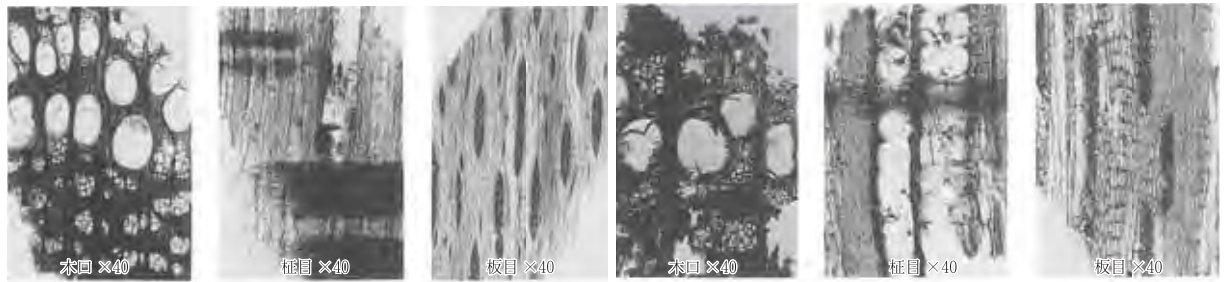
No-8 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



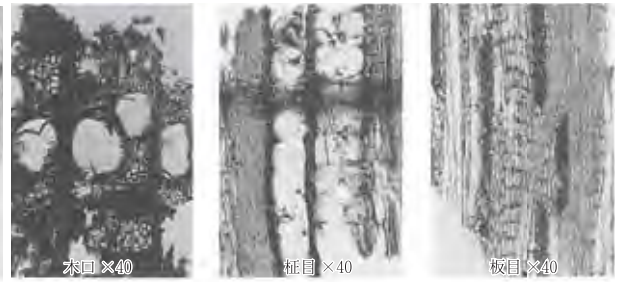
No-6 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

No-9 (本体) ニレ科ケヤキ属ケヤキ

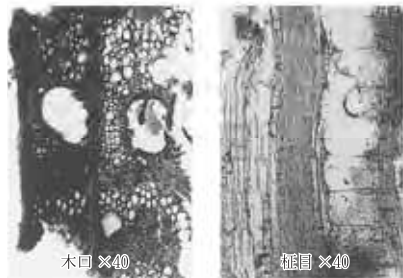
分析図版3 (2) 写真10, (3) 写真1~9



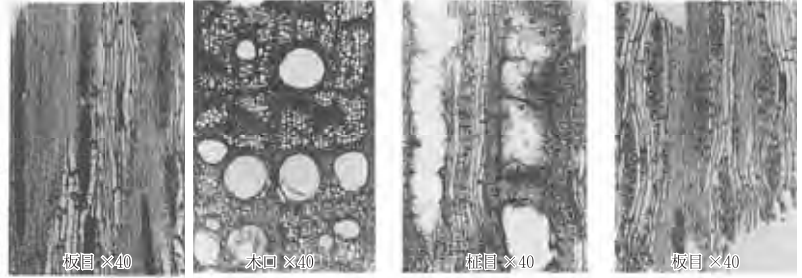
No-9 (破片) ニレ科ニレ属



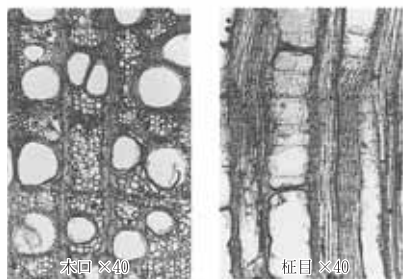
No-12 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



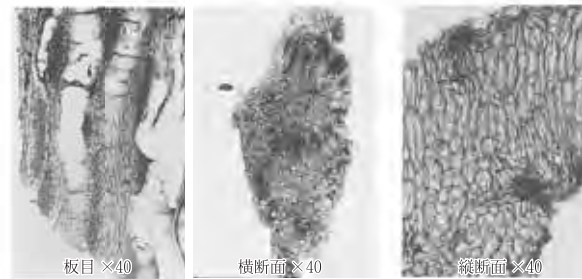
No-10 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



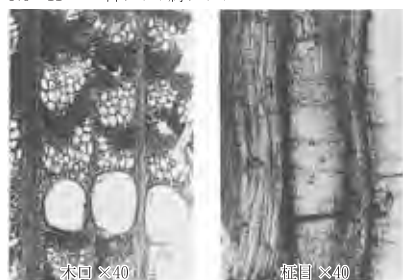
No-13 (本体) ニレ科ケヤキ属ケヤキ



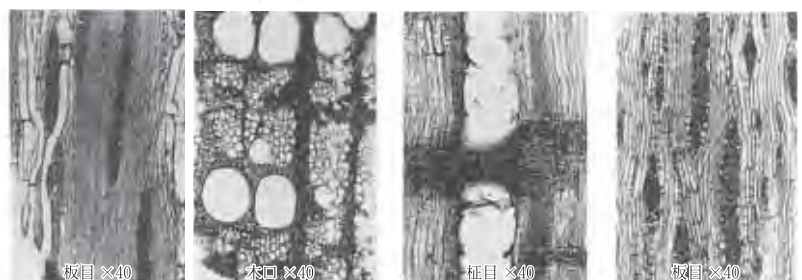
No-11 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



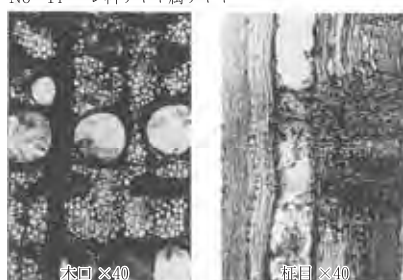
No-13 (破片) ウリ科ユウガオ属の果皮



No-14 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



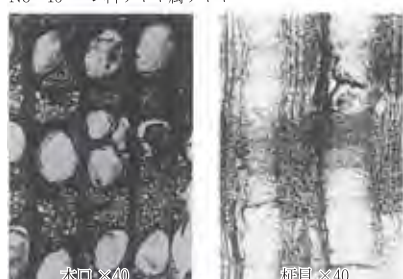
No-17 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



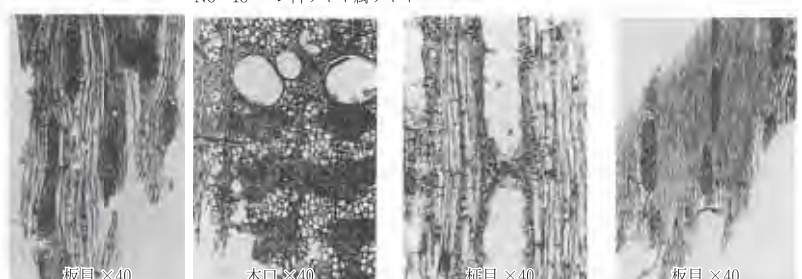
No-15 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



No-18 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

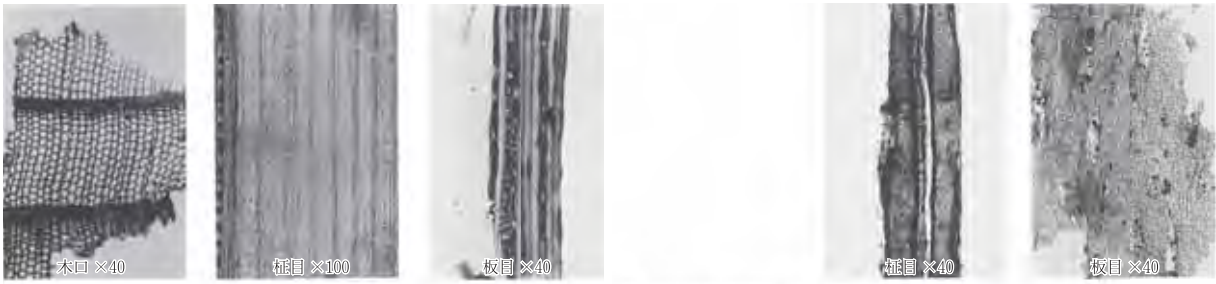


No-16 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

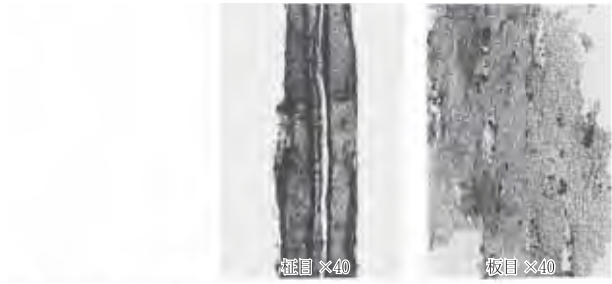


No-19 ニレ科ケヤキ属ケヤキ

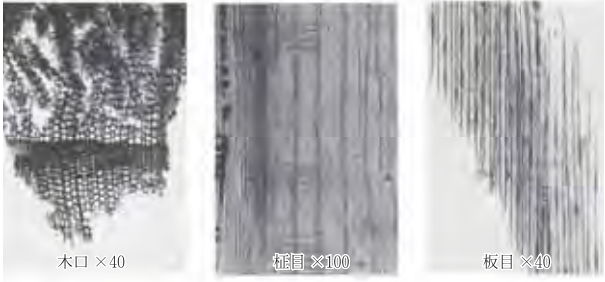
分析図版 4 (3) 写真 9 ~ 19



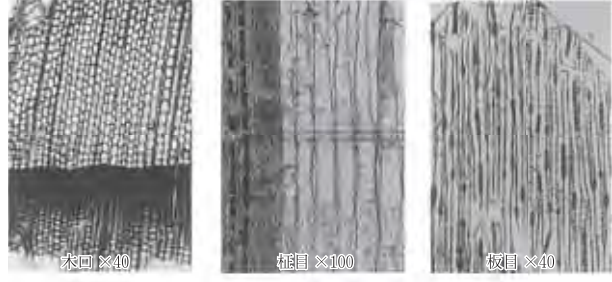
No-20 杉科スギ属スギ



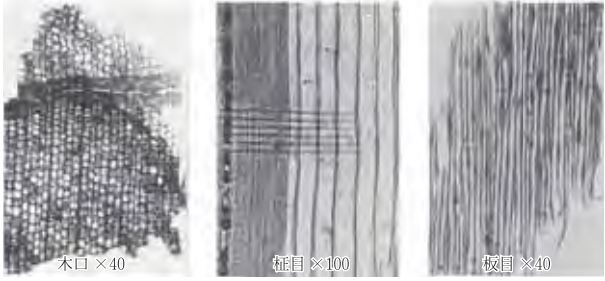
No-22 (破片) 広葉樹の樹皮



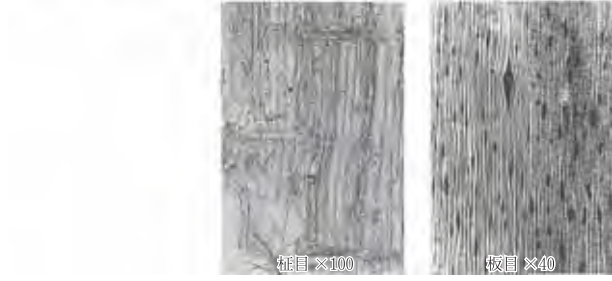
No-21 ヒノキ科アスナロ属



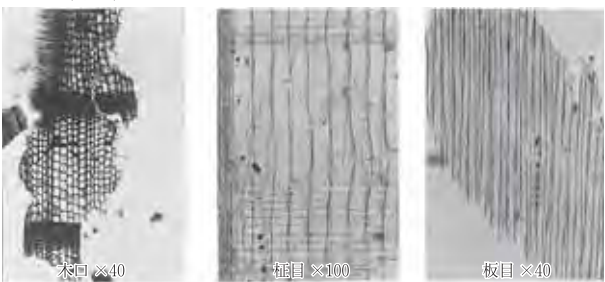
No-23 (本体) スギ科スギ属スギ



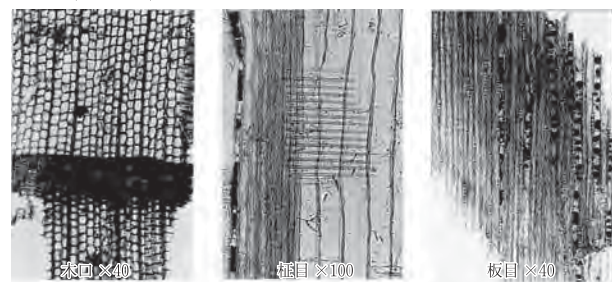
No-22 (本体) スギ科スギ属スギ



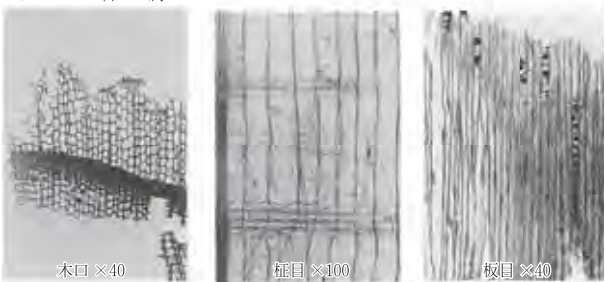
No-23 (もえかす) マツ科マツ属 (二葉松類)



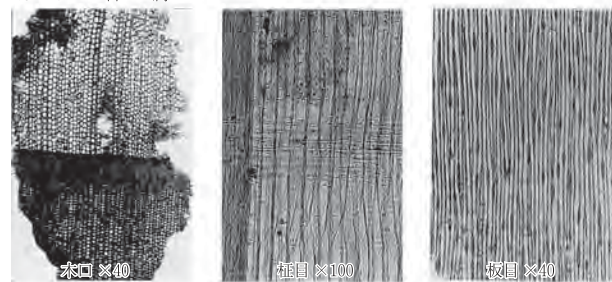
No-24 スギ科スギ属スギ



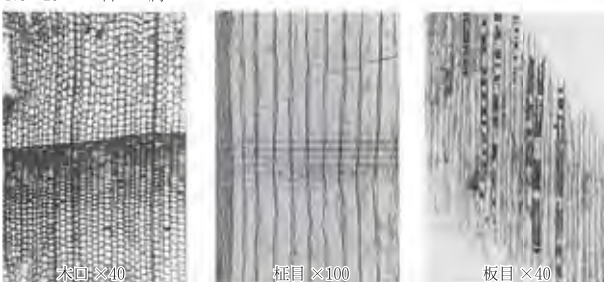
No-27 スギ科スギ属スギ



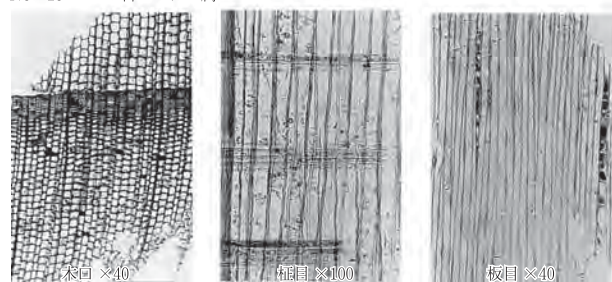
No-25 スギ科スギ属スギ



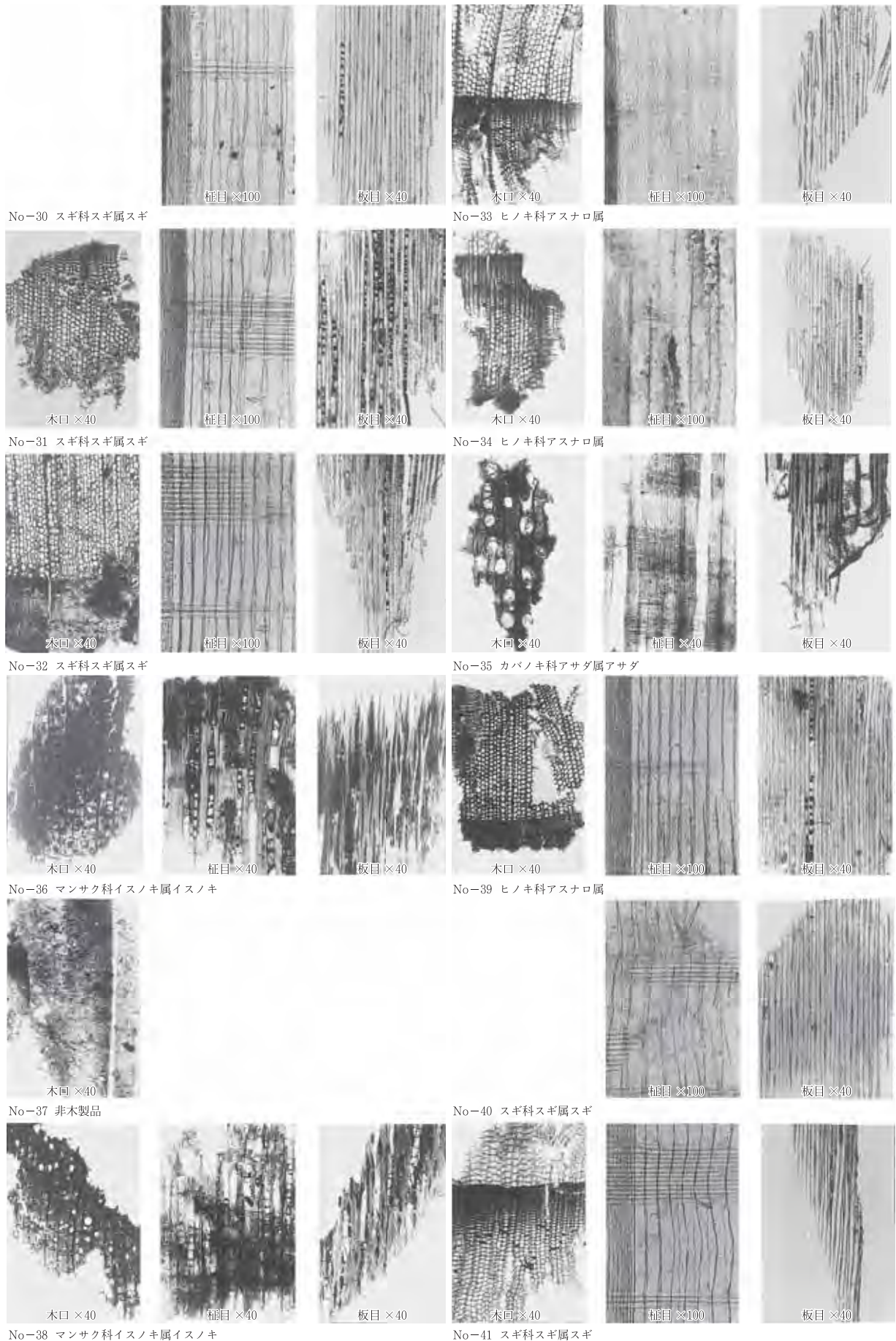
No-28 ヒノキ科アスナロ属



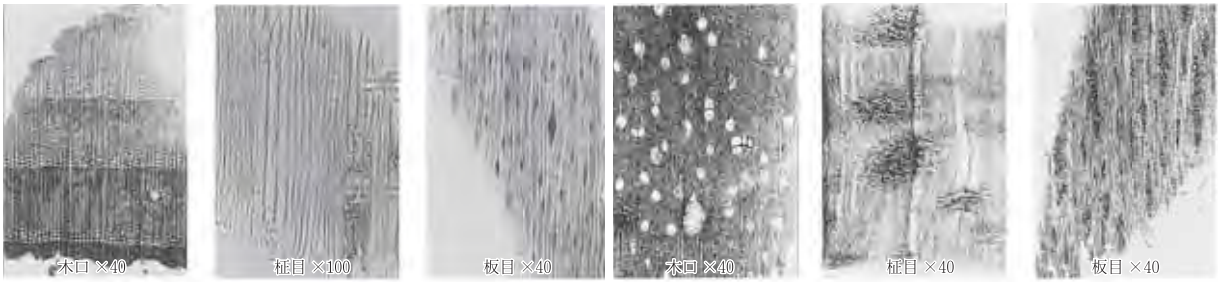
No-26 スギ科スギ属スギ



No-29 スギ科スギ属スギ

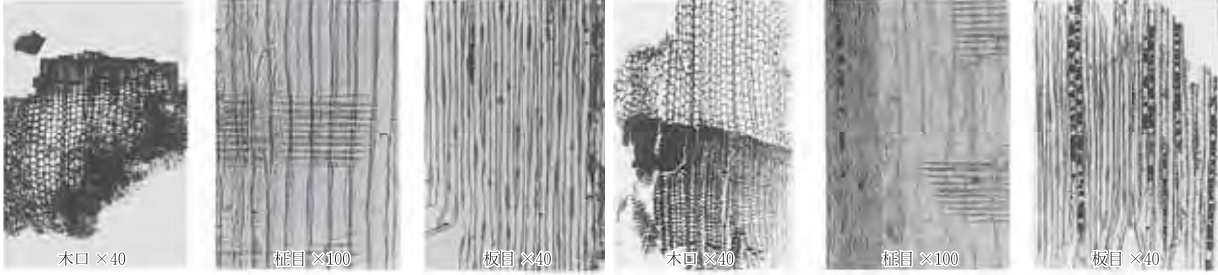


分析図版 6 (3) 写真30~41



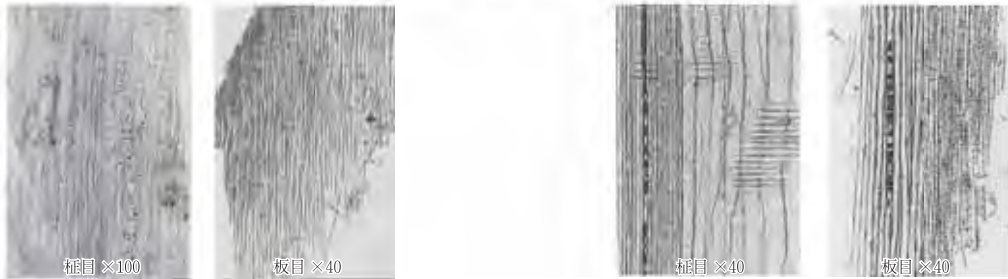
No-42a マツ科マツ属 (二葉松類)

No-44 カエデ科カエデ属



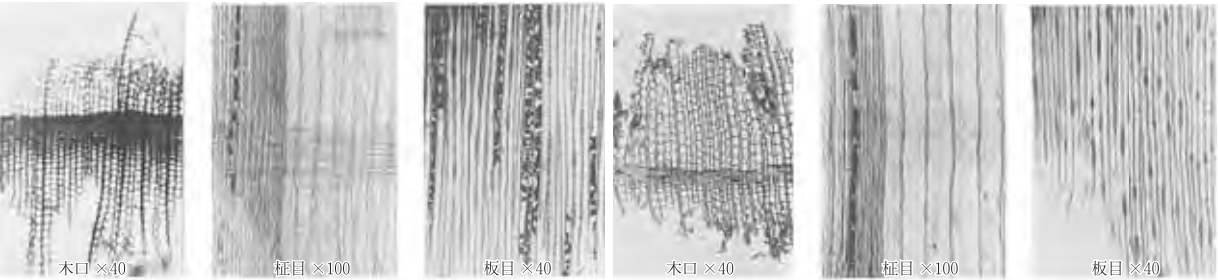
No-42b スギ科スギ属スギ

No-45 スギ科スギ属スギ



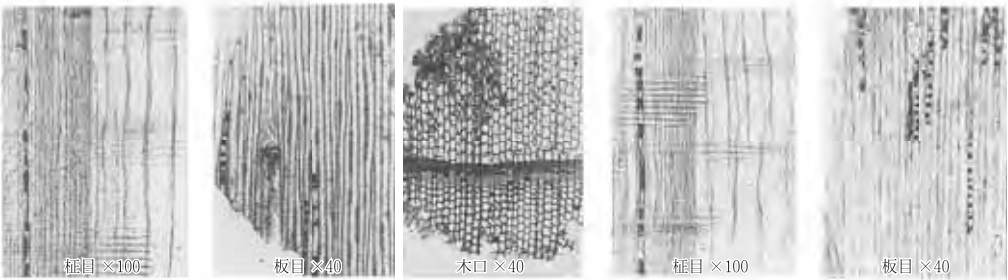
No-43 マツ科マツ属 (二葉松類)

No-46 スギ科スギ属スギ



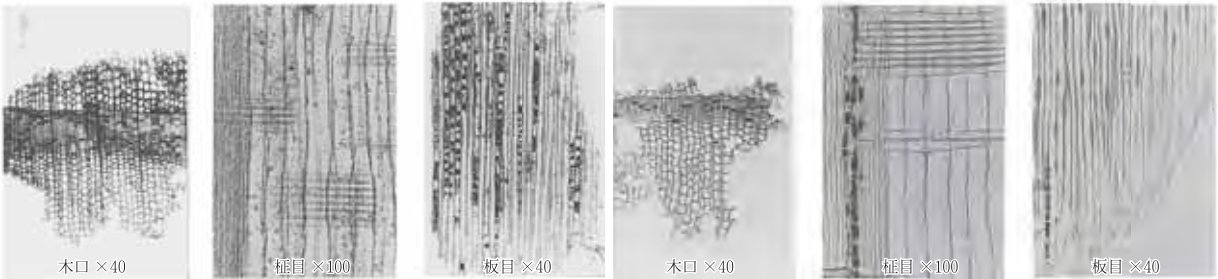
No-47 スギ科スギ属スギ

No-50 スギ科スギ属スギ



No-48 スギ科スギ属スギ

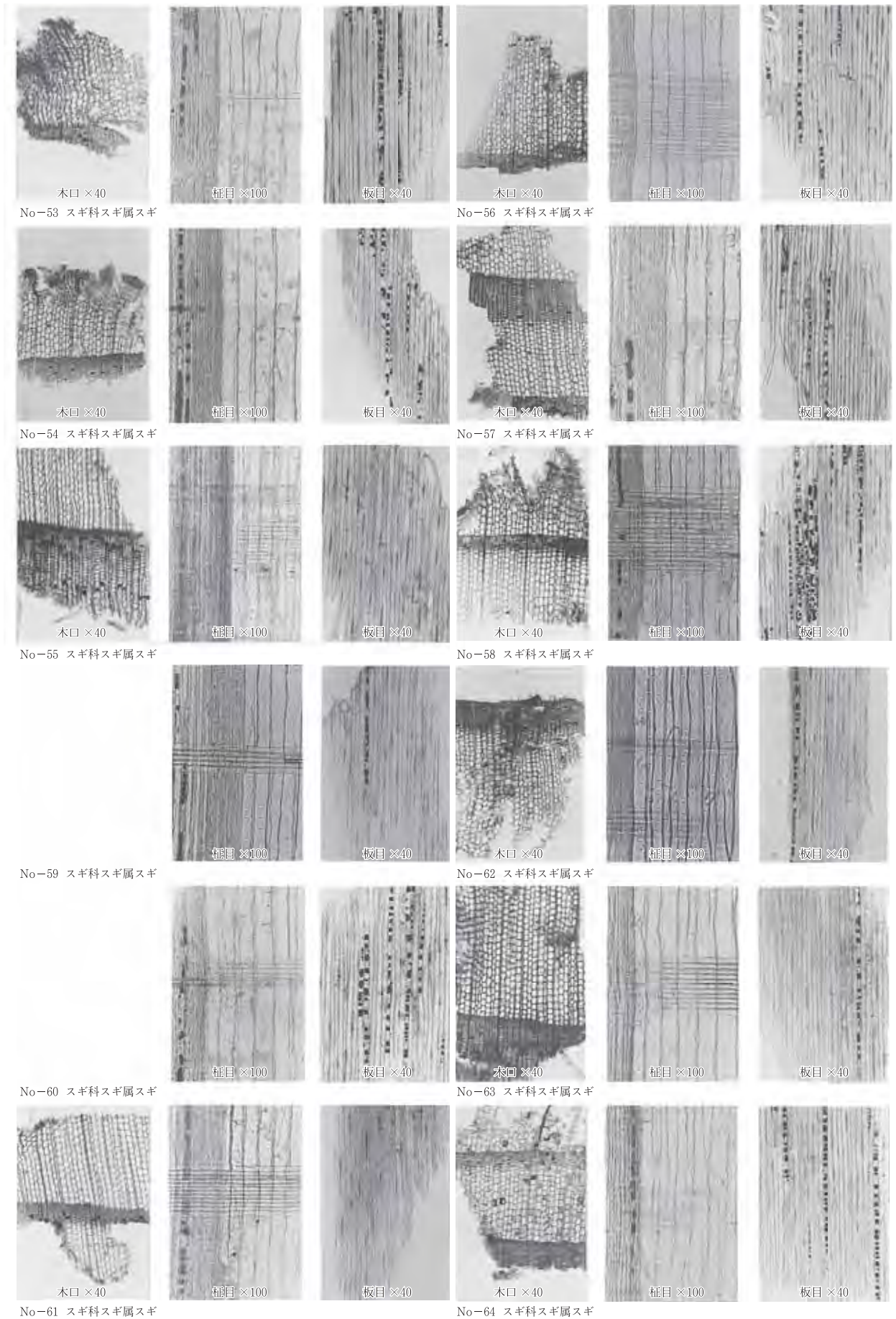
No-51 スギ科スギ属スギ



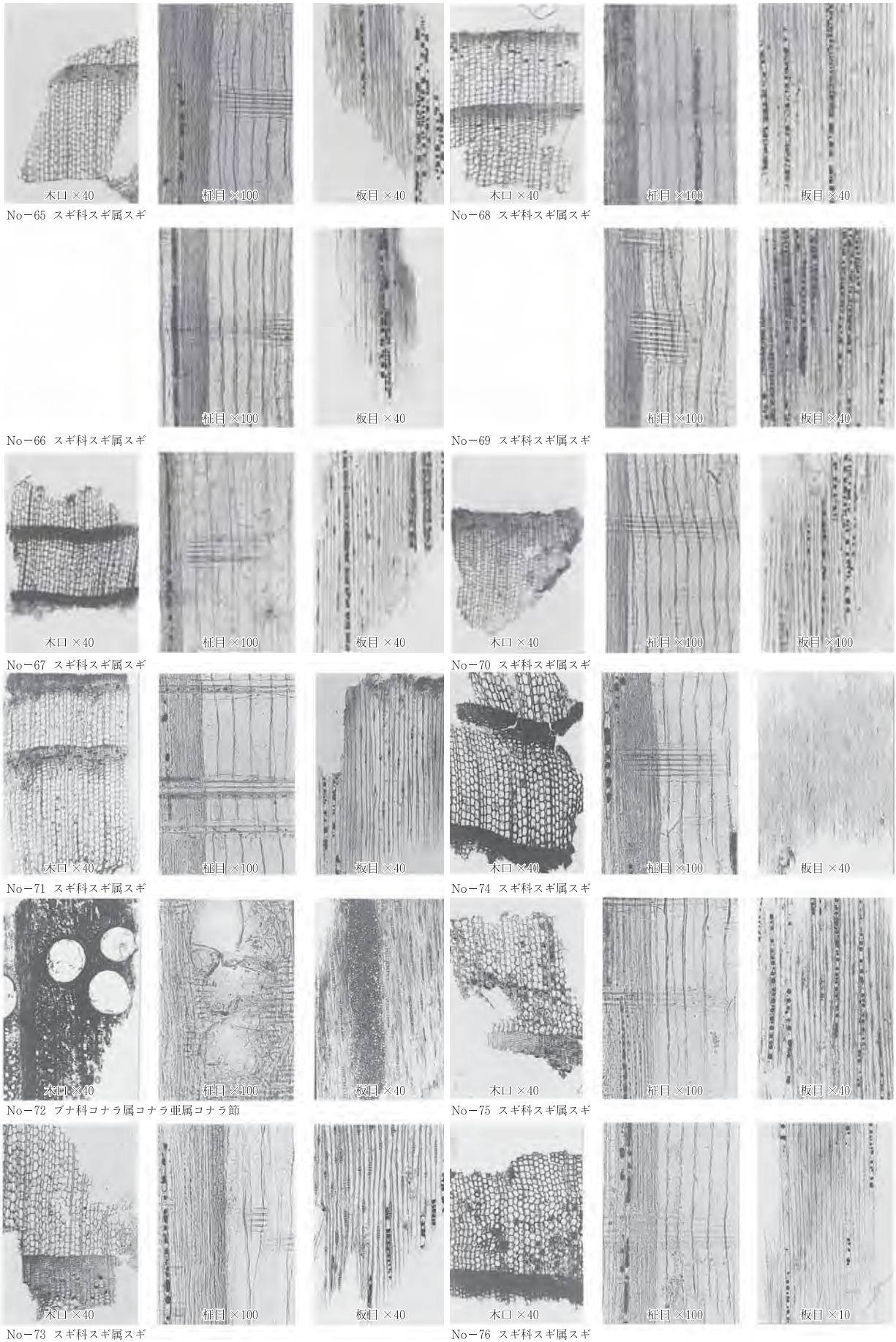
No-49 スギ科スギ属スギ

No-52 ヒノキ科アスナロ属

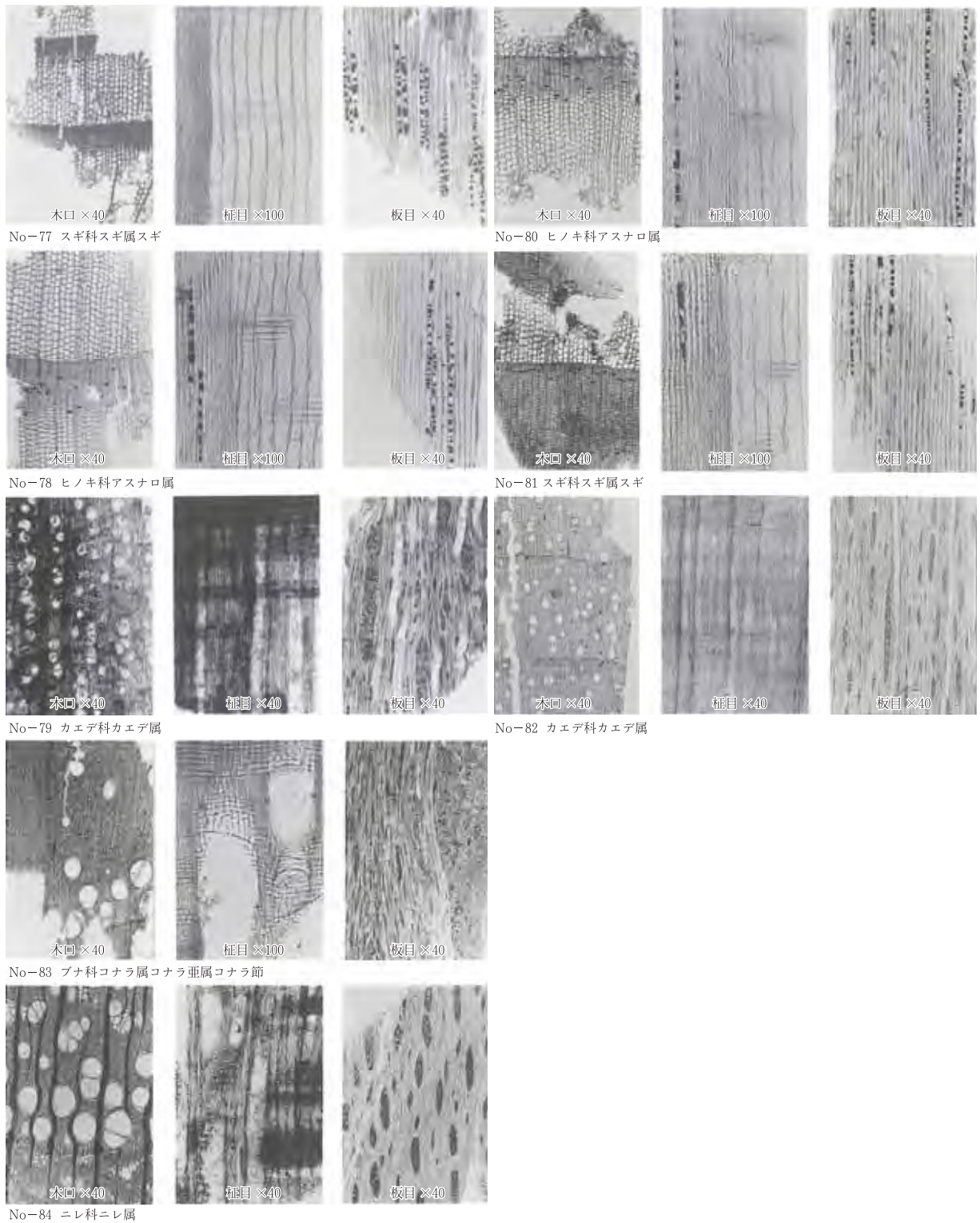
分析図版7 (3) 写真42~52



分析図版 8 (3) 写真53~64



分析図版9 (3) 写真65~76



分析図版10 (3) 写真77~84